都市計画データ製品仕様書　案

WD 3

※　11/30 意見照会結果を反映したドラフト第 2 版。

※　その他留意事項を赤字で記載。

目次

1　概覧 1
1.1　製品仕様の作成情報 1
1.2　目的 1
1.3　製品の範囲 2
1.3.1　空間範囲 2
1.3.1　時間範囲 2
1.4　引用規格等 2
1.5　用語と定義 3
1.6　略語 4
2　適用範囲 4
3　データ製品識別 5
3.1　データ製品の名称 5
3.2　データ製品の日付 5
3.3　データ製品の問合せ先 5
3.4　データ製品の地理記述 5
4　データの内容及び構造 6
4.1　はじめに 6
4.1.1　都市計画データ応用スキーマ 6
4.1.2　都市計画データ応用スキーマが対象とする LOD 6
4.1.3　応用スキーマクラス図の記法 7
4.1.4　応用スキーマ文書の読み方 10
4.1.5　都市計画データ応用スキーマパッケージ図 11
4.1.6　基本的なデータ型 12
4.1.7　データ集合 15
4.2　都市計画基本図パッケージ 17
4.2.1　都市計画基本図の地物とクラスとの対応 17
4.2.2　応用スキーマクラス図 22
4.2.3　応用スキーマ文書 36
4.3　都市計画基礎調査パッケージ 65
4.3.1　都市計画基礎調査のデータ項目とクラスの対応 65
4.3.2　応用スキーマクラス図 69
4.3.3　応用スキーマ文書 110
4.4　都市計画決定情報パッケージ 182
4.4.1　都市計画の区域とクラスとの対応 182
4.4.2　応用スキーマクラス図 185

4.4.3 応用スキーマ文書 201
4.5 空間スキーマプロファイル 370
4.5.1 応用スキーマクラス図 370
4.5.2 応用スキーマ文書 371
4.6 コードリスト及び列挙型（Enumeration） 374
4.6.1 都市計画基本図で使用するコードリスト及び列挙型 374
4.6.2 都市計画基礎調査で使用するコードリスト及び列挙型 379
4.6.3 都市計画決定情報で使用するコードリスト 397

5 参照系 413
5.1 空間参照系 413
5.2 時間参照系 413

6 データ品質 414
6.1 標準製品仕様の品質要求 414
6.2 品質評価手順に関する共通事項 414
6.3 品質要求及び品質評価手順 415
6.3.1 都市計画基本図データに対する品質要求及び評価手順 415
6.3.2 都市計画基礎調査データに対する品質要求及び評価手順 422
6.3.3 都市計画決定データに対する品質要求及び評価手順 425

7 データ製品配布 427
7.1 配布書式情報 427
7.1.1 書式名称 427
7.1.2 GML による符号化仕様 427
7.1.3 CSV による符号化仕様 429
7.1.4 文字集合 431
7.1.5 言語 431
7.1.6 CSV 形式テンプレート 431
7.2 配布媒体情報 432
7.2.1 ファイル単位 432
7.2.2 境界線上の地物の取り扱い 432
7.2.3 ファイル名称 432
7.2.4 フォルダ構成とフォルダ名称 435
7.2.5 媒体名 436
7.2.6 オープンデータのための配布媒体情報 436

8 メタデータ 437
8.1 メタデータの形式 437
8.2 メタデータの記載項目 437

8.3 メタデータの作成単位 438
8.4 メタデータのファイル名称 439
8.5 原典資料リストの仕様 439
9 その他 440
9.1 製品仕様のプロファイル 440
9.1.1 拡張規則 440
9.1.2 制限規則 441
9.2 データ取得 441
Annex A 都市計画データのための 拡張製品仕様書テンプレート 442
Annex B 都市計画基礎調査調書及び集計表のための CSV 形式テンプレート 443
Annex C 原典資料一覧 CSV 形式テンプレート 445

解説書

1　概覧

1.1 製品仕様の作成情報

製品仕様の題名	都市計画データ標準製品仕様書　0.7 版
日付	2023/01/24
作成者	国土交通省都市局
言語	日本語
分野	都市
文書書式	PDF/WORD

1.2 目的

「都市計画データ」とは、都市計画情報（都市計画行政に必要となる都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画図書に含まれる情報）の 2 次元のデジタルデータである。

「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）は、都市計画データを作成する際の要求事項をまとめた製品仕様書である。また、各都市において整備・利用される都市計画データの製品仕様を適切に決定でき、かつ、各都市の製品仕様に従って整備された都市計画データが国際標準に準拠したものになることを目的として提供する標準文書である。

都市計画データを標準化することにより、同一都市での経年変化の把握、近隣都市の都市計画データを統合した広域でのデータ分析、また、規模等の類似する都市間での比較等が容易となる。また、都市計画データの一体的な管理が可能になり、異なるシステム間でのデータ連携も容易となる。さらに、標準化した都市計画データをオープンデータ化することにより、他の行政分野だけではなく、民間事業分野等での幅広い活用が可能となる。

都市の環境や規模により、都市計画データに含むべき情報が異なる場合がある。そこで、標準製品仕様書では、都市ごとに都市計画データに含めたい地物や属性を抽出したり、追加したりするための規則を定めている。この規則に従い製品仕様を決定し、都市ごとの都市計画データ製品仕様書（「拡張製品仕様書」と呼ぶ）を作成することで、作成した都市計画データも国際標準に準拠した製品となる。

1.3 製品の範囲

1.3.1　空間範囲

標準製品仕様書に基づくデータ製品の空間範囲は日本国内全域を含む範囲とする。

拡張製品仕様書では、都市ごとにその空間範囲を決定する必要があり、その範囲は行政区域となる。

なお、行政区域外の範囲も含める場合は、その範囲も記載すること。

1.3.1　時間範囲

標準製品仕様書に基づくデータ製品の時間範囲は任意であり、特に定めない。

拡張製品仕様書では、都市ごとにその時間範囲を決定する必要があり、その範囲はデータ製品に含まれる最も古い時点から新しい時点までの期間となる。

1.4 引用規格等

文書名	URL
3D 都市モデル標準製品仕様書　第 3.0 版	
Data Encoding Specification of i-Urban Revitalization -Urban Planning ADE-ver.2.1　（内閣府地方創生推進事務局）	https://www.chisou.go.jp/tiiki/toshisaisei/itoshisaisei/iur/index.html
OpenGIS® OGC City Geography Markup Language (CityGML) Encoding Standard, Version 2.0, OGC document 12-019（Open Geospatial Consortium）	https://www.ogc.org/standards/citygml
OpenGIS® GML 3.1.1 simple dictionary profile, Version 1.0.0, OGC document 05-099r2（Open Geospatial Consortium）	https://www.ogc.org/standards/gml
地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014　（国土交通省国土地理院）	https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html
JMP2.0 仕様書（国土交通省国土地理院）	https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html
品質の要求，評価及び報告のための規則（国土交通省国土地理院）	https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html
都市計画基礎調査実施要領（第 4 版）	https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/kisotyousa001.html

引用規格等のうち、版の記載があるものは、その版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。

版の記載がないものは、その最新版（追補を含む。）を適用する。

※　版の記載が赤字の技術文書は、今年度中の改定が予定されており、改定後の版を採用する予定である。

1.5 用語と定義

標準製品仕様書で使用する用語を示す。以下に記載のない用語とその定義については、JPGIS 2014 付属書 5（規定）定義に従う。

Levels Of Detail (LOD)

詳細さの度合い（詳細度）であり、CityGML において定義されている、一つのオブジェクトの幾何をその利用や可視化の目的に応じて、複数の段階に抽象化することを可能とする、マルチスケールなモデリングの仕組みである。

[参考　OpenGIS® OGC CityGML Encoding Standard]

インスタンス

クラスを実現するオブジェクト。

［出典　JPGIS］

応用スキーマ

一つ又は複数の応用システムによって要求されるデータのための概念スキーマ。

［出典　JPGIS］

クラス

同じ属性、演算、メソッド、関係及び意味を共有するオブジェクトの集合の記述。

［出典　JPGIS］

地物

現実世界の現象の抽象概念。

地物は型又はインスタンスとして存在できる。地物型又は地物インスタンスはいずれか一方を意味する場合に用いるべきである。

［出典　JPGIS］

地物属性

地物の特性。

[出典　JPGIS］

地物関連

地物間の関係。

[出典　JPGIS］

関連役割とは、関連において相手の地物に対する自分の役割を指す。

[参考　地理情報標準プロファイル（JPGIS） Ver. 1.0　解説書]

都市計画情報

都市計画行政に必要となる都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画図書に含まれる情報。

都市計画データ

都市計画情報の 2 次元のデジタルデータ。

ただし、都市計画情報のうち、都市計画図書の対象は、計画図及び計画書（総括図は含まない）とする。

＃都市計画情報及び都市計画データの用語の定義は、ガイダンスと整合させる。

1.6 略語

CityGML	City Geography Markup Language
GML	Geography Markup Language
i-UR	Data Encoding Specification of i-Urban Revitalization -Urban Planning ADE-
JPGIS	Japan Profile of Geographic Information Standards
LOD	Level Of Detail
UML	Unified Modeling Language

なお、都市計画データ標準製品仕様書で使用する以下の略語について、特段の記載がない場合は、それぞれ下表に示す版を指す。

略語	使用する版	備考
CityGML	CityGML 2.0	
GML	GML 3.1.1	ISO19136 に対応する GML の版は GML 3.2.1 であるが、CityGML 2.0 が参照する GML の版は、GML 3.1.1 である。そのため、GML 3.2.1 と矛盾のない範囲で GML 3.1.1 を使用する。
i-UR	i-UR 2.1	

2　適用範囲

都市計画データ標準製品仕様書が適用される範囲の名称は「都市計画データ標準製品仕様書　適用範囲」とし、適用される範囲は「データ集合系列」とする。

各都市において作成される拡張製品仕様書においても、適用範囲の名称をつける。また、適用される範囲は「データ集合」とする。

3　データ製品識別

データ製品の識別は、次の通りとする。

3.1 データ製品の名称

データ製品の名称は、「都市計画データ_XXXXX_YYYY」とする。

XXXXX には、3.4 に示す都市計画データの対象範囲となる地理記述に対応するコード（都道府県の場合は、JIS X0401 に示される 2 桁の都道府県コード、市区町村の場合は都道府県コードに JIS X0402 に示される市区町村コードを加えた 5 桁）を記述する。

YYYY には、データ製品が整備された年度（4 桁の西暦）を記述する。

3.2 データ製品の日付

データ製品の日付は、都市計画データの整備にかかる業務の際の仕様書等により指定する。

3.3 データ製品の問合せ先

データ製品についての問合せ先として、都市計画データの整備主体となる都道府県又は市区町村の問合せ先を記載する。

3.4 データ製品の地理記述

都市計画データに含まれる都道府県又は市区町村の名前を記述する。

4　データの内容及び構造

4.1 はじめに

本項では、都市計画データに含まれるデータの内容及び構造に共通する事項を示す。

4.1.1　都市計画データ応用スキーマ

都市計画データ応用スキーマは、都市計画データとして必要な地物の内容と構造を記述したものである。応用スキーマは、応用スキーマクラス図と応用スキーマ文書で構成する。応用スキーマクラス図では、地物や地物の属性、地物間の関係の概念的な構造を示し、応用スキーマ文書では、それらの定義や定義域等、応用スキーマクラス図では表現できない詳細な内容を示す。

都市計画データ応用スキーマの応用スキーマクラス図は、CityGML 及び i-UR から、都市計画データに必要な地物、地物属性及び地物関連（以下、「地物等」という）を抽出したプロファイルとして構成する。

4.1.2　都市計画データ応用スキーマが対象とする LOD

LOD（Level Of Detail）とは、詳細さの度合い（詳細度）であり、CityGML 及び i-UR に定義された地物は、LOD0 から LOD4 までの詳細度の異なる複数の幾何形状をもつことができる。

LOD0 は、地物を 2 次元平面に投影した形状であり、点、線又は面として表現する。

LOD1 は、LOD0 の形状を加工した形状であり、立体又は面として表現する。LOD0 で点又は線として表現された地物は、LOD1 では面又は立体として表現される。また、LOD0 で面として表現された地物は、LOD1 では高さをもつ面又は立体として表現される。LOD1 で立体として表現される地物は、建築物や橋梁、樹木のように 3 次元の広がりをもつ地物であり、LOD1 で面として表現される地物や道路や水面あるいは土地利用や都市計画区域のように、2 次元的な広がりをもつ地物である。

都市計画データでは、都市計画基本図（数値地形図）のデータが LOD0 に該当する。都市計画データのうち、都市計画基礎調査の位置図で表現される土地利用などの面や都市計画決定情報の計画図に示される都市計画区域などの区域は、LOD0 の道路縁や区域界、行政界等を加工し作成された面であることから、LOD1 となる（表 4-1）。

表 4-1　都市計画データ応用スキーマが対象とする LOD

	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4
都市計画基本図	○				
都市計画基礎調査	○	○※1			
都市計画決定情報		○※2			

※1　都市計画基礎調査の土地利用現況で使用する土地利用（面）は、LOD1 となる。

※2　都市計画決定情報の区域は、道路縁や行政界などの線を加工し、面として表現するため、LOD1 となる。

4.1.3　応用スキーマクラス図の記法

応用スキーマクラス図は、UML クラス図（ISO/IEC 19505-2:2012, Information technology — Object Management Group Unified Modeling Language (OMG UML) — Part 2:Superstructure）により記述する。

都市計画データ応用スキーマの応用スキーマクラス図は、CityGML 及び i-UR からの引用により構成するが、それぞれの出典を明らかにするため、表 4-2 に示す記法を用いる。

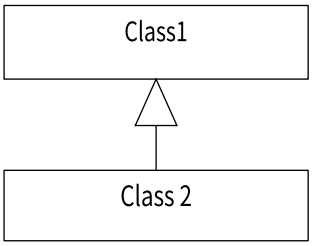
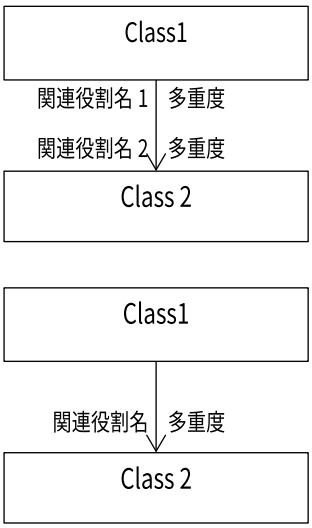
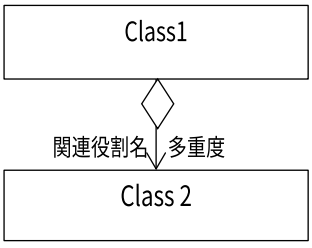
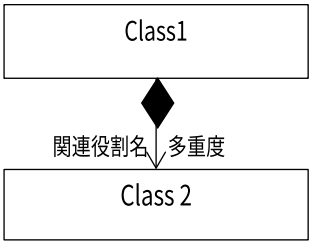
表 4-2　応用スキーマクラス図における出典の明示

出典	地物
GML	接頭辞：gml 色：緑　rgb (204, 255,204)
CityGML	接頭辞：core, bldg, luse, tran, frn, veg, wtr, dem 色：黄　rgb (255, 255,204)
i-UR	接頭辞：uro, urf 色：赤　rgb (255, 204, 255)
今後 i-UR に追加予定	接頭辞：なし 色：白　rgb(255, 255, 255)

都市計画データ応用スキーマで使用する UML クラス図の記法を表 4-3 に示す。

表 4-3　応用スキーマクラス図の表記

表記	意味
	クラス。 クラスは 3 段の箱により記述する。 1 段目の箱には、ステレオタイプ（クラスの種類）とクラスの名前を記述する。クラスの名前には、表 4-2 に示す接頭辞を付ける。 2 段目の箱には、クラスの属性を記述する。 3 段目の箱は使用しない。 クラスの属性は、属性の名前、属性の型、属性の多重度から構成する。 属性の型は、属性が取る値の種類を指定する。xs::string（文字列型）のような基本的な型や gml::MultiSurface のような幾何形状を示すクラス、あるいは、応用スキーマで定義した別のクラスを指定できる。 基本的な型は、4.1.6 に定義を示す。 属性の多重度は、その属性が繰り返し出現可能な回数を指定する。 [a..b]のように指定し、a 及び b は、a<=j<=b となる任意の整数 j を意味する。[a..a]は、[a]と同じとみなす。以下のような記載方法がある。 [0..1]：0 又は 1 [0..*]：0 以上 [1..*]：1 以上 [m]　：m [m..n]：m 以上 n [m,n]：m 又は n なお、属性の多重度を省略することもできる。省略された場合は、1 となる。

表記	意味
	継承。 元となるクラス（上位クラス）の特性を受け継ぐ新しいクラス（下位クラス）との関係を意味する。継承を実装する場合、下位クラスのインスタンスは，自分自身に定義された属性や関連役割だけではなく、上位クラスに定義された属性や関連役割もつ。 △が付く側（Class1）が元となるクラスである。
	関連。 二つのクラス間に関係性があることを意味する。 関連役割名は、この関連における役割を示す。また、関連には多重度を指定できる。 多重度は、相手のクラス 1 に対して関連する自分の数を記載する。 多重度の記法は、属性の多重度と同じである。また、多重度が省略された場合は 1 となる。 関連を実装する場合、関連役割名をつけた属性として、他方のクラスのインスタンスへの参照をもたせる。 関連には向きをつけることができる。向きは矢印により記述する。関連に向きが付けられた場合、参照は片方向となる。すなわち、例図の場合には Class1 のインスタンスが Class2 のインスタンスへの参照ともつが、Class2 のインスタンスは Class1 のインスタンスへの参照をもたない。
	集成。 二つのクラス間に全体と部分という関係がある関連である。全体となるクラス側に白いひし形を記述する。 関連役割名は、この関連における役割を示す。また、関連には多重度を指定できる。 多重度は、相手のクラス 1 に対して関連する自分の数を記載する。 多重度の記法は、属性の多重度と同じである。また、多重度が省略された場合は 1 となる。また、向きをつけることができる。 集成を実装する場合、関連役割名をつけた属性として、他方のクラスのインスタンスへの参照をもたせる、または、部品となるクラスのインスタンスを、全体となるクラスのインスタンスの内部に記述する。 なお、都市計画データ標準製品仕様書では、集成の実装は、部品となるクラスのインスタンスを、全体となるクラスのインスタンスの内部に記述することを原則とする。 部品となるクラスのインスタンスは、参照により、他のクラスのインスタンスの部品となることもできる。
	合成。 二つのクラス間に全体と部分という関係がさらに強固な関連である。全体となるクラス側に黒いひし形を記述する。合成は、全体となるクラスが無くなった場合に、部分となるクラスも無くなる関係に用いる。 関連役割名や多重度の表記は、集成と同様でである。 合成を実装する場合、部品となるクラスのインスタンスを、全体となるクラスのインスタンスの内部に記述する。合成では、部品となるクラスのインスタンスは、他のクラスのインスタンスの部品になることはできない。

また、各クラスのステレオタイプを表 4-4 に示す。

表 4-4　応用スキーマクラス図で使用するステレオタイプ

ステレオタイプ	説明
<<FeatureType>>	地物に適用するステレオタイプ。このステレオタイプをもつクラスは、応用スキーマのパッケージ内で定義される。[出典　JPGIS]
<<DataType>>	個々の出現ごとに区別する必要がなく、副作用のある操作（既にある値を変更する操作）はもたない、値の集合の記述子に適用するステレオタイプ。個々の出現ごとに区別する必要がないため、識別子をもたず、他から参照されることはない。データ型には、あらかじめ定義する型と使用者が定義できる型とがある。あらかじめ定義する型として、基本データ型がある。［出典　JPGIS］ 標準製品仕様書では、地物属性のまとまりに<<DataType>>を使用する。<<DataType>>で定義された型は地物の属性の型もしくは地物の部品として使用される。
<<Type>>	インスタンス（オブジェクト）の定義域（取りうる範囲）を、そのオブジェクトに適用できる操作と共に規定するために使用するステレオタイプ。タイプ型は、識別子をもち、他から参照することができる。また属性及び関連をもってもよい。［出典　JPGIS］ 標準製品仕様書では、GML や CityGML で定義された地物以外の型のうち、識別子をもつ型に<<Type>>を使用する。 識別子をもつ地物以外の型として、gml::MultiSurface のような幾何形状を定義するクラスがある。
<<BasicType>>	値を表現するための基本的な型。［出典　JPGIS］ 標準製品仕様書では、GML や CityGML において、文字列型や整数型等の基本的な型から使用可能な値の範囲を狭めるために定義した型に<<BasicType>>を使用する。
<<Enumeration>>	そのインスタンスが、名前付けしたリテラルの一覧を形成するデータ型に適用するステレオタイプ。通常は列挙名及びリテラルの両方を宣言する。列挙（Enumeration）は、そのクラスの値として許される、十分合意が得られた値の一覧を意味する。[出典　JPGIS] 標準製品仕様書では、地物属性の定義域が固定となる場合に、定義域に含まれる値を列挙した型に<<Enumeration>>を使用する。 <<Enumeration>>は定義域が固定されるため、拡張製品仕様書において定義域が拡張される可能性のある場合には、コードリスト（gml::CodeType）を使用する。
<<Union>>	指定したいくつかの型のうちの一つだけが選択される共用体に適用するステレオタイプ。［出典　JPGIS］ 標準製品仕様書では、複数の属性のうち、いずれか一つを選択して値を記述したい場合に、複数の属性を列挙した型に<<Union>>を使用する。

4.1.4 応用スキーマ文書の読み方

応用スキーマ文書は、JIS X7109（ISO 19109）に示される一般地物モデルの構造に従い、応用スキーマクラス図に示す各クラスについて、クラスの定義及びクラスがもつ属性及び関連役割の定義を表形式で示す。

表に記載する属性名、属性の型及び多重度、また、関連役割、関連役割の型（関連の相手クラス）及び多重度は、クラス図と一致する。

属性及び関連役割のうち、属性名又は関連役割名に括弧が付され着色されているものは、標準製品仕様書では対象外としている属性及び関連役割である。ユースケースにより必要な場合には、拡張製品仕様書において使用できる。

なお、地物定義では、具象型（インスタンスを作成できる型）のみを示す。抽象型（インスタンスを作成できない型）の定義は省略するが、抽象型から継承する属性や関連役割は、継承する属性又は継承する関連役割として示す。

表 4-5　定義文書の構成

クラスの定義	クラスの定義を記載。	
上位の型	クラスが他のクラスを継承している場合、上位のクラスの名称を記載する。	
ステレオタイプ	クラスのステレオタイプを記載する。	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
継承によりもつ属性の名称	属性の型と多重度 多重度は以下のように記載する。 [1]　必ず 1　[0..1]　0 又は 1 [0..*] 0 以上　[1..*] 1 以上	継承する属性の定義
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
自身に定義された属性の名称	属性の型と多重度	自身に定義された属性の定義
(使用しない属性の名称)		定義済みの属性のうち、標準製品仕様書で使用しない属性は、属性名称に括弧を付け、着色している。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
継承によりもつ関連役割の名称	関連の相手クラスと多重度	関連役割の定義
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
自分自身に定義された関連役割の名称	関連の相手クラスと多重度	関連役割の定義

また、クラス、属性及び関連役割には、それらが定義されたパッケージの接頭辞を付す。

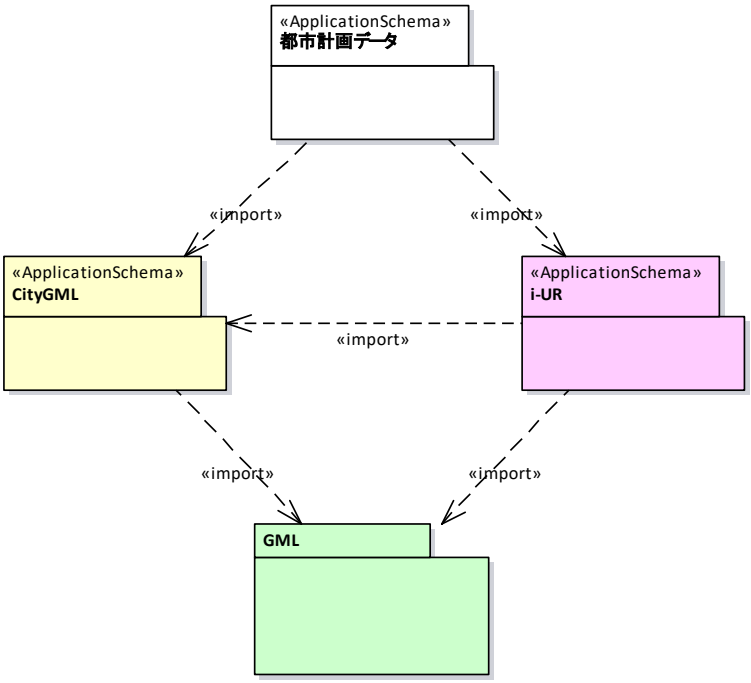
4.1.5 都市計画データ応用スキーマパッケージ図

応用スキーマクラス図はパッケージの中に記述しなければならない。パッケージとは関係するクラスの集合であり、パッケージに含まれるクラスは他のパッケージに含まれてはならない。UML クラス図ではクラス間の関係を記述するが、パッケージ図により、パッケージ間の参照関係を記述することで、作成すべき地理空間データの全体像が明確になる。

(1) 都市計画データ応用スキーマと CityGML 及び i-UR との関係

都市計画データ応用スキーマは、CityGML 及び i-UR を引用する。

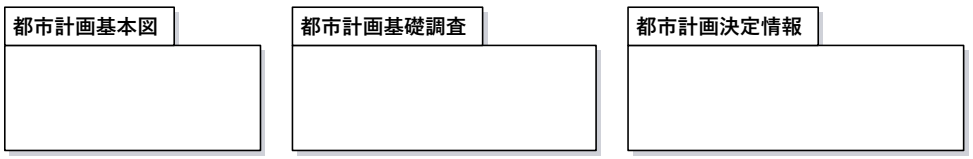
CityGML はさらに GML を引用し、i-UR は CityGML 及び GML を引用する。



(2) 都市計画データ応用スキーマ

都市計画データ応用スキーマは、都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画決定情報のそれぞれに必要な地物等を格納した 3 つのパッケージから構成する。

それぞれのパッケージは、都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画決定情報のそれぞれに必要な地物等を、CityGML 及び i-UR から引用している。



(from 3D都市モデル)

このうち、都市計画決定情報パッケージは、3D 都市モデル応用スキーマ（3D 都市モデル製品仕様書において定義される、3D 都市モデルに必要な地物の概念構造を記述した応用スキーマ）をそのまま使用している。

都市計画データ応用スキーマの各パッケージと、CityGML 及び i-UR に定義されたパッケージとの関係を表 4-6 に示す。

表 4-6　都市計画データが引用する CityGML 及び i-UR のパッケージ

	GML	CityGML													i-UR		
		Core	Appearance	Bridge	Building	CityFurniture	CityObjectGroup	Generic	LandUse	Relief	Transportation	Tunnel	Vegetation	WaterBody	Urban Object	Urban Function	Statistical Grid
都市計画基本図	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
都市計画基礎調査	✓	✓			✓		✓	✓	✓						✓	✓	✓
都市計画決定情報	✓	✓					✓	✓								✓	

また、都市計画基本図の図式分類、都市計画基礎調査のデータ項目及び都市計画の各区域と CityGML 及び i-UR に定義された地物等との対応を、それぞれ 4.2.1、4.3.1 及び 4.4.1 に示す。

4.1.6　基本的なデータ型

本項では、地物属性の型（値の種類）として使用される基本的なデータ型の定義を示す。パッケージごとに示す、各地物定義において特段記載のない場合には、本項に示す定義及び定義域（属性の値が取りうる範囲）を適用する。

(1)　文字列型（xs::string）

漢字、平仮名、カタカナ、数字、アルファベット、記号により構成される任意の文字列に使用する。

漢字、平仮名、カタカナは全角、数字、アルファベットは半角を基本とする。

ただし、原典資料において半角のカタカナ、全角の数字・アルファベットが使用されており、これとの一致が必要となる場合には、この限りではない。

(2)　コード型（gml::CodeType）

語句、キーワード又は名前に使用する。*codeSpace* 属性により、コードリストを参照する場合には、取りうる値は、参照するコードリストに定義されたコードのいずれかに一致しなければならない。*codeSpace* 属性によるコードリストの参照が行われていない場合、文字列型として扱われる。

なお、コード型として都道府県コードが指定されている場合、JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字となる。

また、コード型として市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字となる。

(3)　真偽値（xs::boolean）

真（true）の場合に”1”、偽（false）の場合に”0”とする。

(4) 日付型（xs::date）

JIS X0301 により定義された暦日付により、拡張形式による完全表記（YYYY-MM-DD）を用いて記述する。

ここで、YYYY は暦年、MM は暦月、DD は暦日を示す。暦年は 4 桁、暦月は 2 桁、暦日は 2 桁の半角数字で記述する（1 桁日や 1 桁月は、01、02 のように 0 を付ける）。

年が分かるが月日が分からない場合は、YYYY-01-01 とする。また、年月が分かるが日が分からない場合は、YYYY-MM-01 とする。

(5) グレゴリオ年型（xs::gYear）

グレゴリオ暦による年を 4 桁の半角数字で記述する。不明な場合は 0001 とする。

(6) グレゴリオ年月型（xs::gYearMonth）

グレゴリオ暦による年及び月を YYYY-MM により記述する。ここで、YYYY は暦年、MM は暦月を示す。暦年は 4 桁、暦月は 2 桁の半角数字で記述する（1 桁月は、01、02 のように 0 を付ける）。年が不明な場合は 0001 とする。月が不明な場合は 01 とする。

(7) 整数型（xs::integer）、非負整数型（xs::nonNegativeInteger）

整数の値を記述する。非負整数型の場合は、正の整数のみを可とする。

(8) 実数型（xs::double）

計測により新規に取得する場合には、小数点 1 桁とする（小数点 2 桁目を四捨五入）。原典資料から取得する場合には、原典資料の記載に一致させる。

原典資料との一致が必要な属性は、拡張製品仕様書の応用スキーマ文書において、属性の定義に記載すること。

(9) 単位付き計測値型（gml::MeasureType, gml::LengthType）

uom 属性を用いて、数値の単位を記載する。

原則として、長さの単位は m、面積の単位は m2、時間の単位は hour（時間）とする。

計測により新規に取得する場合には、小数点 1 桁とする（小数点 2 桁目を四捨五入）。ただし、原典資料において小数点 2 桁目以降の記載があり、これとの一致が必要となる場合には、この限りではない。

原典資料との一致が必要な属性は、拡張製品仕様書の応用スキーマ文書において、属性の定義に記載すること。

(10) 単位付き数値又は Null 値リスト型（gml::MeasureOrNullListType）

単位付き数値又は Null 値のいずれかのリストにより値を構成する。

uom 属性を用いて、数値の単位を記載すること。使用する単位は(8)と同じとする。

Null 値をとる場合は、以下の定義域より選択する。

Null 値の定義域	説明
inapplicable	データ無
missing	欠測
template	追って提供

unknown	不明
withheld	保留

(11) 識別子型（xs::anyURI）

任意の URI（Universal Resource Identifier）。https による指定を原則とする。

(12) 名前リスト型（gml::NameList）

文字列により記述された名称（xs::Name）のリスト。なお、名称に空白を含んではならない。

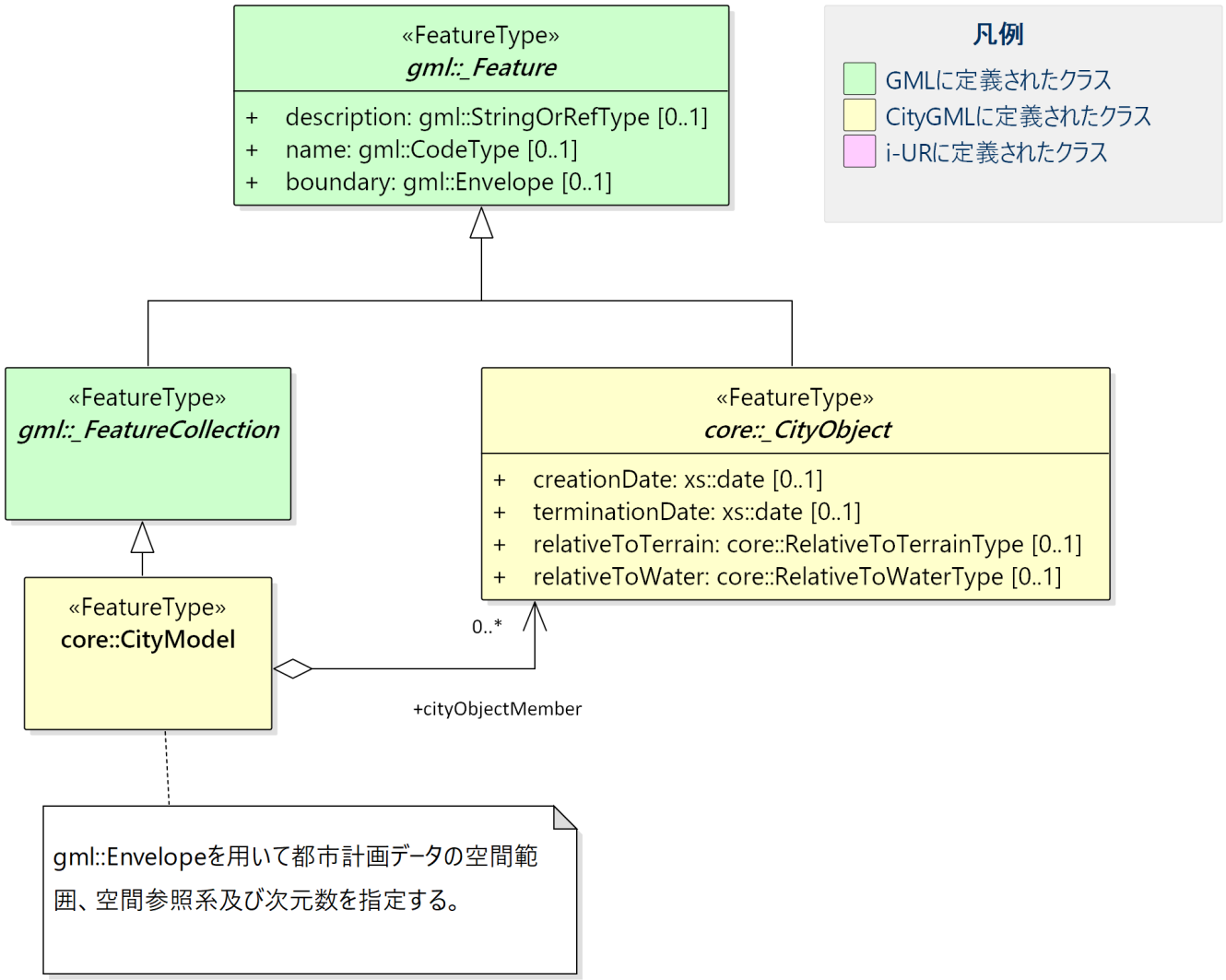
4.1.7　データ集合

core::CityModel は、都市計画データのデータ集合として使用するクラスであり、都市計画基本図パッケージ、都市計画基礎調査パッケージ、都市計画決定情報パッケージにそれぞれ定義されたクラスを束ねる役割をもつ。

core::CityModel の応用スキーマクラス図及び応用スキーマ文書を以下に示す。

CityGML 及び i-UR で定義される全ての地物を示すクラス（ステレオタイプが FeatureType）は、CityGML が定義する地物型の最上位クラスである *core::_CityObject* を継承する。

core::CityModel は *core::_CityObject* を包含する（関連役割 cityObjectMember）。そのため、CityGML 及び i-UR で定義される全ての地物型のインスタンスのデータ集合になることができる。



(1) core::_CityModel

クラスの定義	都市計画データのための地物集合。core::_CityObject を継承する都市オブジェクト及びその幾何形状等はこの地物型の中に含める。	
上位の型	gml::_FeatureCollection	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画データの概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画データを識別する名前。 「都市計画データ_XXXXX_YYYY」とする。 XXXXX には、3.4 に示す都市計画データの対象範囲となる地理記述に対応するコード（都道府県の場合は、JIS X0401 に示される 2 桁の都道府県コード、市区町村の場合は都道府県コードに JIS X0402 に示される市区町村コードを加えた 5 桁）を記述する。YYYY には、データ製品が整備された年度（4 桁の西暦）を記述する。
gml::boundedBy	gml::Envelope [0..1]	都市計画データが含まれる空間範囲、都市計画データに適用される空間参照系及び都市計画データの次元数を記述する。 都市計画データに適用すべき空間参照系は、5.1 において指定する。 次元数は 2 となる。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
core::cityObjectMember	core::_CityObject [0..*]	都市計画データに含まれる都市オブジェクトへの参照。

4.2 都市計画基本図パッケージ

都市計画基本図パッケージは、都市計画基本図（地図情報レベル 2500 の数値地形図データ）に図示する地物（例：建築物、道路）を CityGML 及び i-UR に定義されたクラスに対応付けている。

4.2.1 都市計画基本図の地物とクラスとの対応

都市計画基本図の地物として「公共測量標準図式 数値地形図データ取得分類基準表」に区分されたの各地物を CityGML 及び i-UR に定義された地物に対応付けている。CityGML には都市を構成する物理的な施設や地形がクラスとして定義されているため、都市計画基本図の各地物は CityGML のクラスに対応づく。ただし、行政界のような目に見えない地物は、i-UR のクラスと対応づく。
各都市において独自に分類コードを定義している場合は、拡張製品仕様書において追加できる。

(1) 境界等

分類コード	名称	対応するクラス
1101	都道府県界	urf::Boundary
1102	北海道の支庁界	urf::Boundary
1103	郡市・東京都の区界	urf::Boundary
1104	町村・指定都市の区界	urf::Boundary
1106	大字・町・丁目界	urf::Boundary
1110	所属界	urf::Boundary
1111	行政区の代表点	urf::Administration

(2) 交通施設

分類コード	名称	対応するクラス
2101	道路縁（街区線）	tran::Road
2103	徒歩道	tran::Track
2106	庭園路等	tran::Track
2109	建設中の道路	tran::Road
2203	道路橋（高架部）	brid::Bridge
2205	徒橋	brid::Bridge
2211	横断歩道橋	brid::Bridge
2213	歩道	tran::TrafficArea
2214	石段	frn::CityFurniture
2215	地下街・地下鉄の出入口	frn::CityFurniture
2219	道路のトンネル	tun::Tunnel
2226	分離帯	tran::AuxiliaryTrafficArea
2228	道路の雪覆い等	tun::Tunnel
2238	並木	veg::SolitaryVegetationObject
2301	普通鉄道	tran::Railway
2303	路面鉄道	tran::Railway
2305	特殊鉄道	tran::Railway
2306	索道	tran::Railway
2309	建設中の鉄道	tran::Railway
2401	鉄道橋（高架部）	brid::Bridge
2411	跨線橋	brid::Bridge

2419	鉄道のトンネル	tun::Tunnel
2421	停留所	frn::CityFurniture
2424	プラットホーム	bldg::Building
2428	鉄道の雪覆い等	tun::Tunnel

(3) 建物等

分類コード	名称	対応するクラス
3000	分類しない建物	bldg::Building
3001	普通建物	bldg::Building
3002	堅ろう建物	bldg::Building
3003	普通無壁舎	bldg::Building
3004	堅ろう無壁舎	bldg::Building
3401	門	frn::CityFurniture
3402	屋門	bldg::BuildingInstallation
3503	官公署	uro::DmGeometryAttribute
3504	裁判所	uro::DmGeometryAttribute
3505	検察庁	uro::DmGeometryAttribute
3507	税務署	uro::DmGeometryAttribute
3509	郵便局	uro::DmGeometryAttribute
3510	森林管理署	uro::DmGeometryAttribute
3515	交番	uro::DmGeometryAttribute
3516	消防署	uro::DmGeometryAttribute
3517	職業安定所	uro::DmGeometryAttribute
3519	役場支所及び出張所	uro::DmGeometryAttribute
3521	神社	uro::DmGeometryAttribute
3522	寺院	uro::DmGeometryAttribute
3523	キリスト教会	uro::DmGeometryAttribute
3524	学校	uro::DmGeometryAttribute
3525	幼稚園・保育園	uro::DmGeometryAttribute
3526	公会堂・公民館	uro::DmGeometryAttribute
3530	老人ホーム	uro::DmGeometryAttribute
3531	保健所	uro::DmGeometryAttribute
3532	病院	uro::DmGeometryAttribute
3534	銀行	uro::DmGeometryAttribute
3536	協同組合	uro::DmGeometryAttribute
3545	倉庫	uro::DmGeometryAttribute
3546	火薬庫	uro::DmGeometryAttribute
3548	工場	uro::DmGeometryAttribute
3550	変電所	uro::DmGeometryAttribute
3556	揚・排水機場	uro::DmGeometryAttribute
3560	ガソリンスタンド	uro::DmGeometryAttribute

(4) 小物体

分類コード	名称	対応するクラス
4201	墓碑	frn::CityFurniture
4202	記念碑	frn::CityFurniture
4203	立像	frn::CityFurniture

4204	路傍祠	frn::CityFurniture
4205	灯ろう	frn::CityFurniture
4207	鳥居	frn::CityFurniture
4208	自然災害伝承碑	frn::CityFurniture
4219	坑口	frn::CityFurniture
4221	独立樹（広葉樹）	veg::SolitaryVegetationObject
4222	独立樹（針葉樹）	veg::SolitaryVegetationObject
4225	油井・ガス井	frn::CityFurniture
4228	起重機	frn::CityFurniture
4231	タンク	frn::CityFurniture
4234	煙突	frn::CityFurniture
4235	高塔	frn::CityFurniture
4236	電波塔	frn::CityFurniture
4239	風車	frn::CityFurniture
4241	灯台	frn::CityFurniture
4243	灯標	frn::CityFurniture
4251	水位観測所	frn::CityFurniture
4261	輸送管（地上）	frn::CityFurniture
4262	輸送管（空中）	frn::CityFurniture
4265	送電線	frn::CityFurniture

(5) 水部等

分類コード	名称	対応するクラス
5101	水涯線	wtr::WaterBody
5102	一条河川	wtr::WaterBody
5103	かれ川	wtr::WaterBody
5105	湖池	wtr::WaterBody
5202	桟橋（鉄、コンクリート）	brid::Bridge
5203	桟橋（木製、浮桟橋）	brid::Bridge
5211	防波堤	uro::OtherConstruction
5221	渡船発着所	frn::CityFurniture
―	ダム	被覆及び人工斜面（dmCode=6110 及び 6101 として取得する。）
5226	滝	wtr::WaterBody
5227	せき	uro::OtherConstruction
5228	水門	uro::OtherConstruction
5231	不透過水制	frn::CityFurniture
5232	透過水制	frn::CityFurniture
5239	敷石斜板	uro::OtherConstruction
5241	流水方向	uro::DmGeometryAttribute

(6) 土地利用等

分類コード	名称	対応するクラス
6101	人工斜面	uro::OtherConstruction
6102	土堤	uro::OtherConstruction
6110	被覆	uro::OtherConstruction
6130	かき	frn::CityFurniture

6140	へい	frn::CityFurniture
6201	区域界	urf::Boundary
6212	駐車場	luse::LandUse
6214	園庭	luse::LandUse
6215	墓地	luse::LandUse
6216	材料置場	luse::LandUse
6217	太陽光発電設備	luse::LandUse
6221	噴火口・噴気口	luse::LandUse
6222	温泉・鉱泉	luse::LandUse
6301	植生界	veg::PlantCover
6302	耕地界	veg::PlantCover
6212	駐車場	luse::LandUse
6311	田	veg::PlantCover
6313	畑	veg::PlantCover
6314	さとうきび畑	veg::PlantCover
6315	パイナップル畑	veg::PlantCover
6317	桑畑	veg::PlantCover
6318	茶畑	veg::PlantCover
6319	果樹園	veg::PlantCover
6321	その他の樹木畑	veg::PlantCover
6323	芝地	veg::PlantCover
6331	広葉樹林	veg::PlantCover
6332	針葉樹林	veg::PlantCover
6333	竹林	veg::PlantCover
6334	荒地	veg::PlantCover
6335	はい松地	veg::PlantCover
6336	しの地（笹地）	veg::PlantCover
6337	やし科樹林	veg::PlantCover
6338	湿地	veg::PlantCover
6340	砂れき地	veg::PlantCover

(7) 地形等

分類コード	名称	対応するクラス
7101	等高線（計曲線）	dem::BreaklineRelief
7102	等高線（主曲線）	dem::BreaklineRelief
7103	等高線（補助曲線）	dem::BreaklineRelief
7105	凹地（計曲線）	dem::BreaklineRelief
7106	凹地（主曲線）	dem::BreaklineRelief
7107	凹地（補助曲線）	dem::BreaklineRelief
7199	凹地（矢印）	uro::DmGeometryAttribute
7201	土がけ（崩土）	dem::BreaklineRelief
7202	雨裂	dem::BreaklineRelief
7206	洞口	dem::BreaklineRelief
7211	岩がけ	dem::BreaklineRelief
7212	露岩	dem::BreaklineRelief
7213	散岩	dem::BreaklineRelief（線で取得する場合）
		dem::MassPointRelief（点で取得する場合）
7214	さんご礁	dem::BreaklineRelief

7301	三角点	frn::CityFurniture
7302	水準点	frn::CityFurniture
7303	多角点等	frn::CityFurniture
7304	公共基準点（三角点）	frn::CityFurniture
7304	公共基準点（水準点）	frn::CityFurniture
7305	公共基準点（多角点等）	frn::CityFurniture
7308	電子基準点	frn::CityFurniture
7311	標石を有しない標高点	dem::MassPointRelief
7212	図化機測定による標高点	dem::MassPointRelief

(8) 注記及び地図記号等

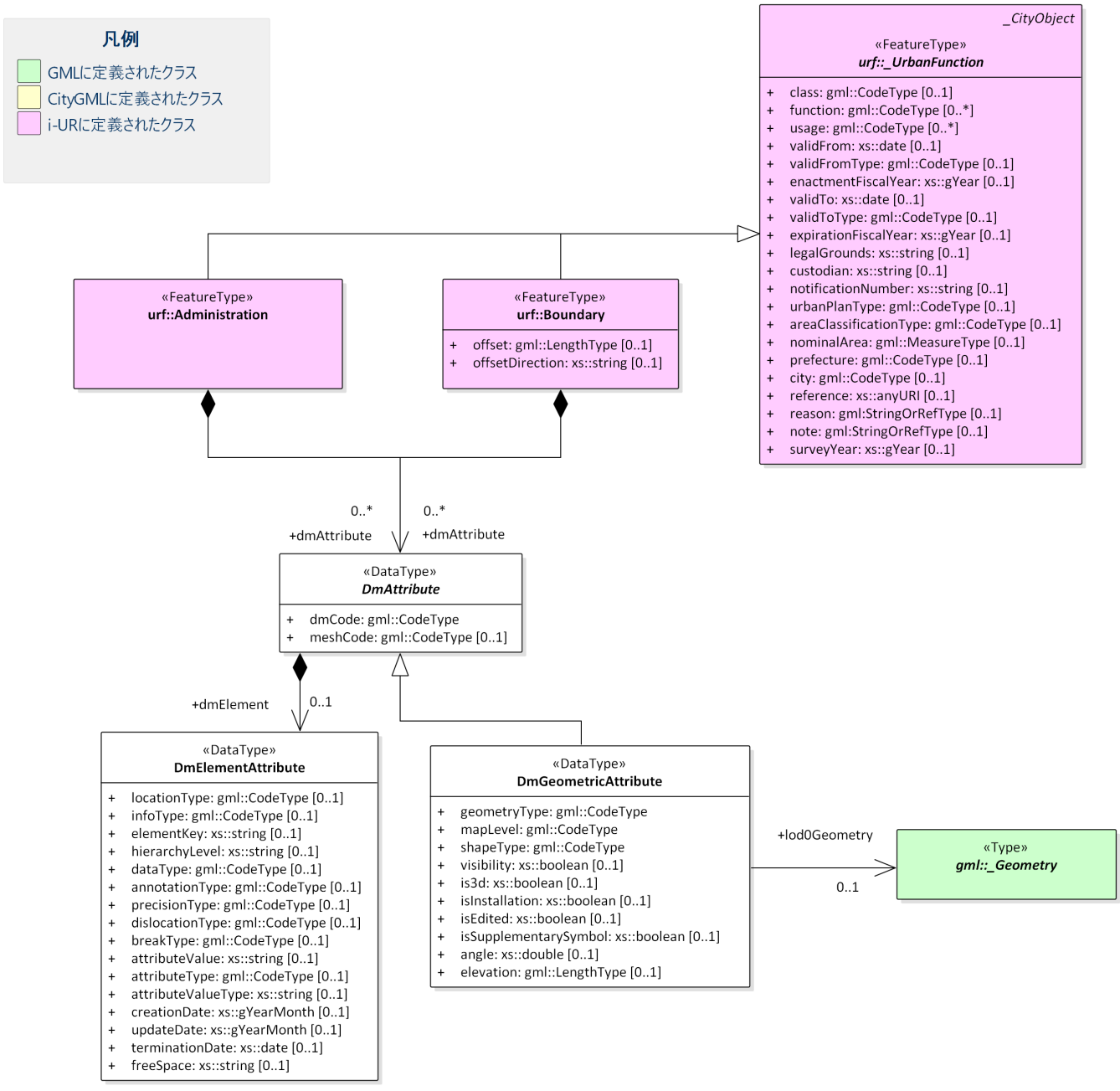
分類コード	名称	対応するクラス
8199	指示点	uro::DmIndicationMark
7101	等高線（計曲線）	uro::Annotation
7102	等高線（主曲線）	uro::Annotation
7103	等高線（補助曲線）	uro::Annotation
7105	凹地（計曲線）	uro::Annotation
7106	凹地（主曲線）	uro::Annotation
7107	凹地（補助曲線	uro::Annotation
7301	三角点	uro::Annotation
7302	水準点	uro::Annotation
7303	多角点	uro::Annotation
7304	公共基準点（三角点）	uro::Annotation
7305	公共基準点（水準点）	uro::Annotation
7308	電子基準点	uro::Annotation
7311	標石を有しない標高点	uro::Annotation
7312	図化標高点	uro::Annotation
8110	市・東京都の区	uro::Annotation
8111	町村・指定都市の区	uro::Annotation
8112	市町村の飛地	uro::Annotation
8113	大区域	uro::Annotation
8114	大字・町・丁目	uro::Annotation
8115	小字・丁目	uro::Annotation
8116	通り	uro::Annotation
8121	道路の路線名	uro::Annotation
8122	道路施設、坂、峠、インターチェンジ等	uro::Annotation
8123	鉄道の路線名	uro::Annotation
8124	鉄道施設、駅、停車場、信号所	uro::Annotation
8125	橋	uro::Annotation
8126	トンネル	uro::Annotation
8131	建物の名称	uro::Annotation
8142	その他の小物体	uro::Annotation
8151	河川、湖池、滝等の水部	uro::Annotation
8152	せき、水門、渡船発着所、堤防	uro::Annotation
8162	資材置場、温泉等	uro::Annotation
8163	植生	uro::Annotation
8171	山、丘、谷、沢等の山地	uro::Annotation
8181	説明注記（規定される以外の注記）	uro::Annotation

4.2.2 応用スキーマクラス図

都市計画基本図パッケージの応用スキーマクラス図を以下に示す。

(1) 境界等

境界及び所属界の記述には、*urf::Boundary* を使用する。また、行政区域の代表点の記述には、*urf::Administration* を使用する。

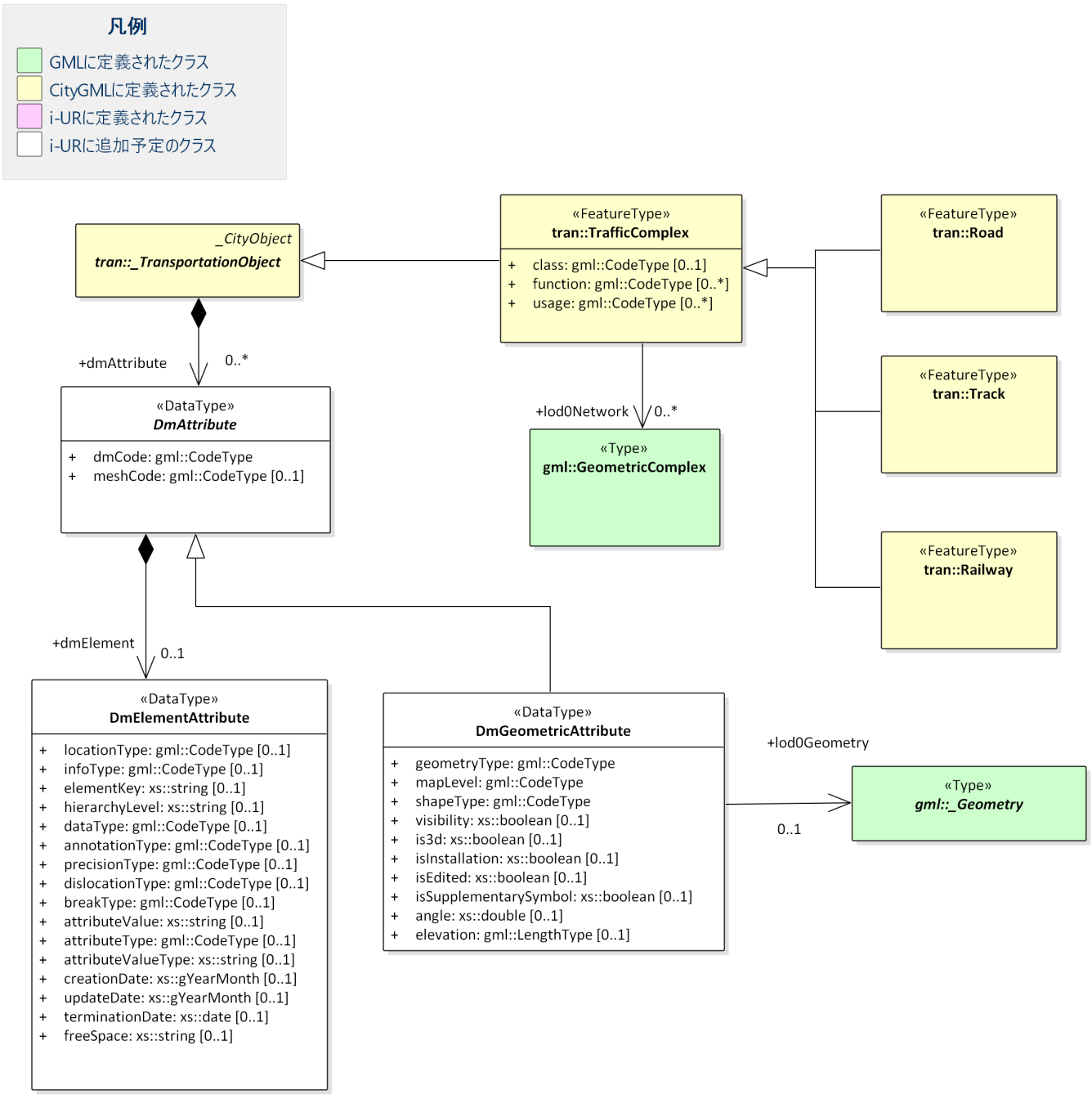


(2) 交通施設

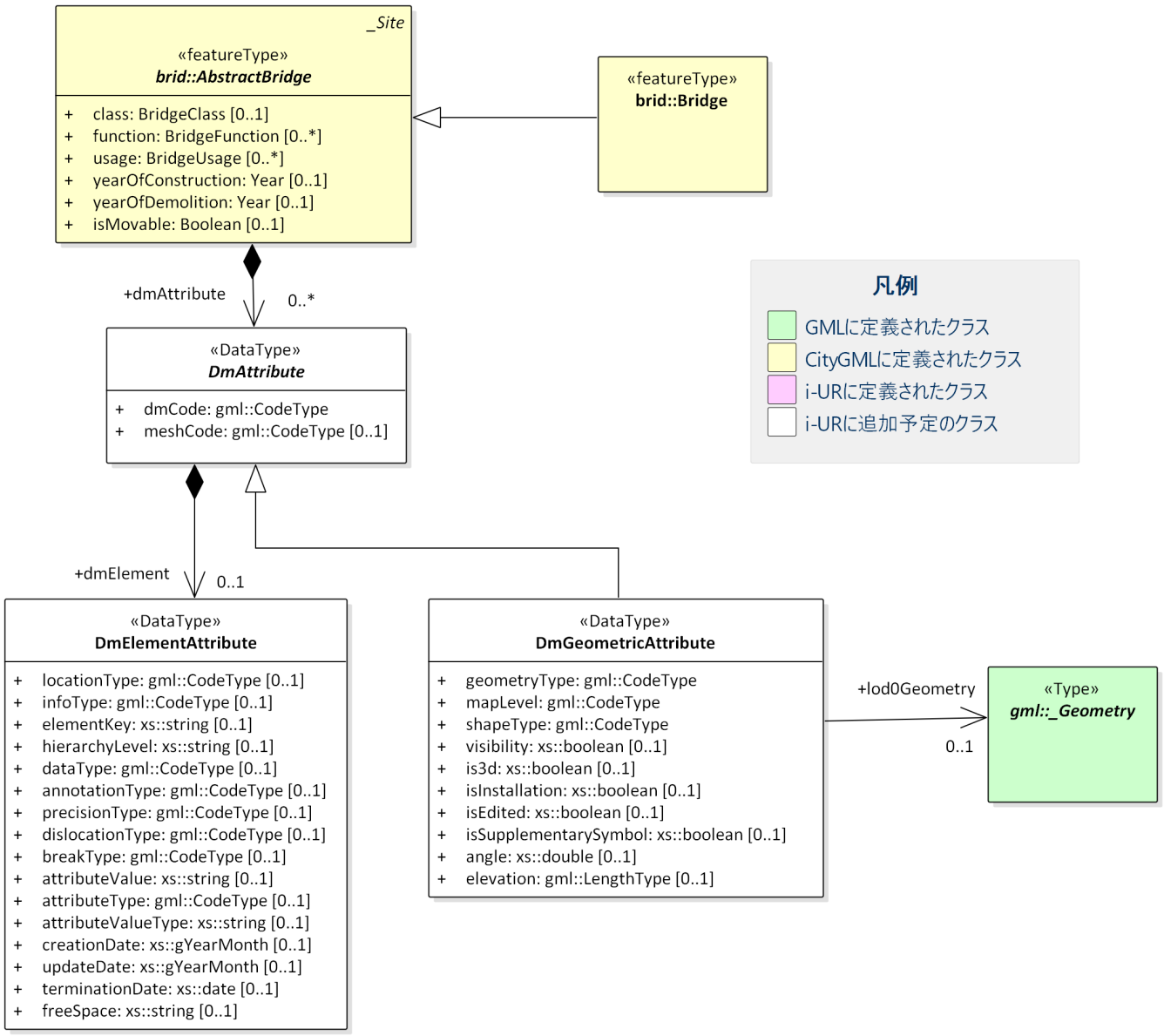
道路縁（街区線）、トンネル内の道路、建設中の道路の記述には、*tran::Road* を使用する。

徒歩道及び庭園路等の記述には、*tran::Track* を使用する。

普通鉄道、地下鉄地上部、路面鉄道、モノレール、特殊鉄道、索道、建設中の鉄道の記述には、*tran::Railway* を使用する。

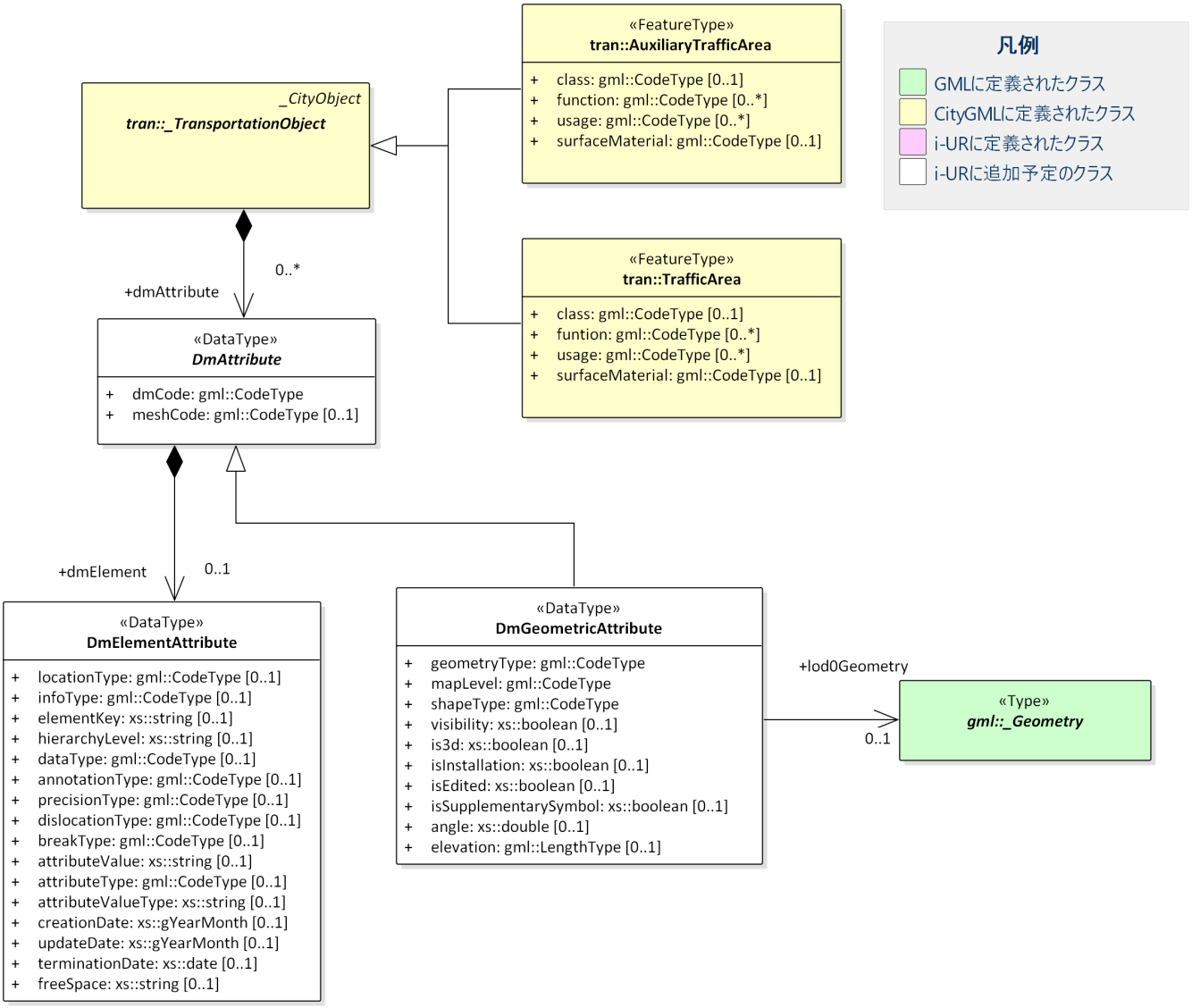


道路橋（高架部）、徒橋、横断歩道橋、鉄道橋（高架部）、跨線橋の記述には、*brid::Bridge*を使用する。



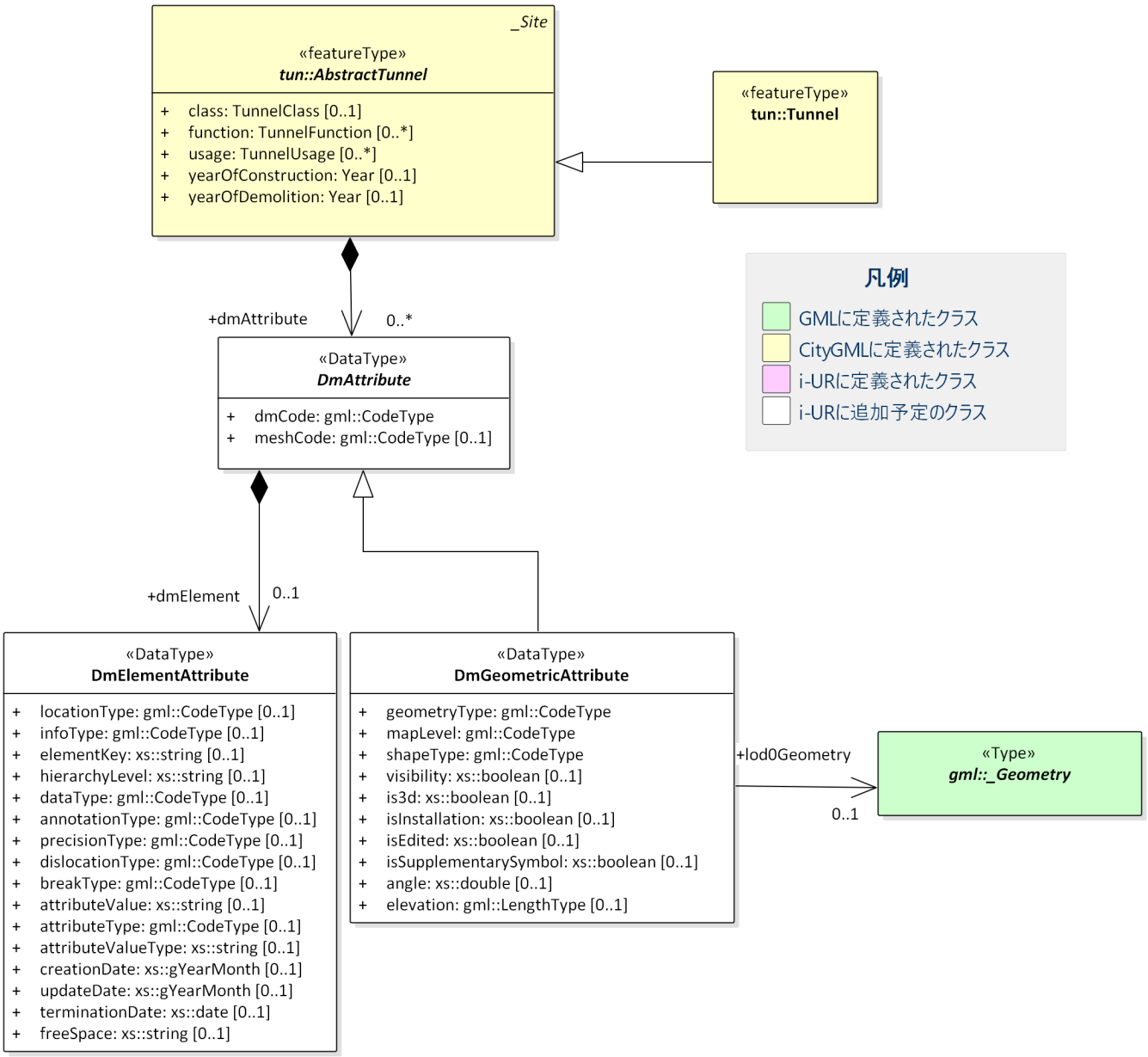
歩道の記述には、tran::TrafficArea を使用する。

分離帯の記述には、tran::AuxiliaryTrafficArea を使用する。

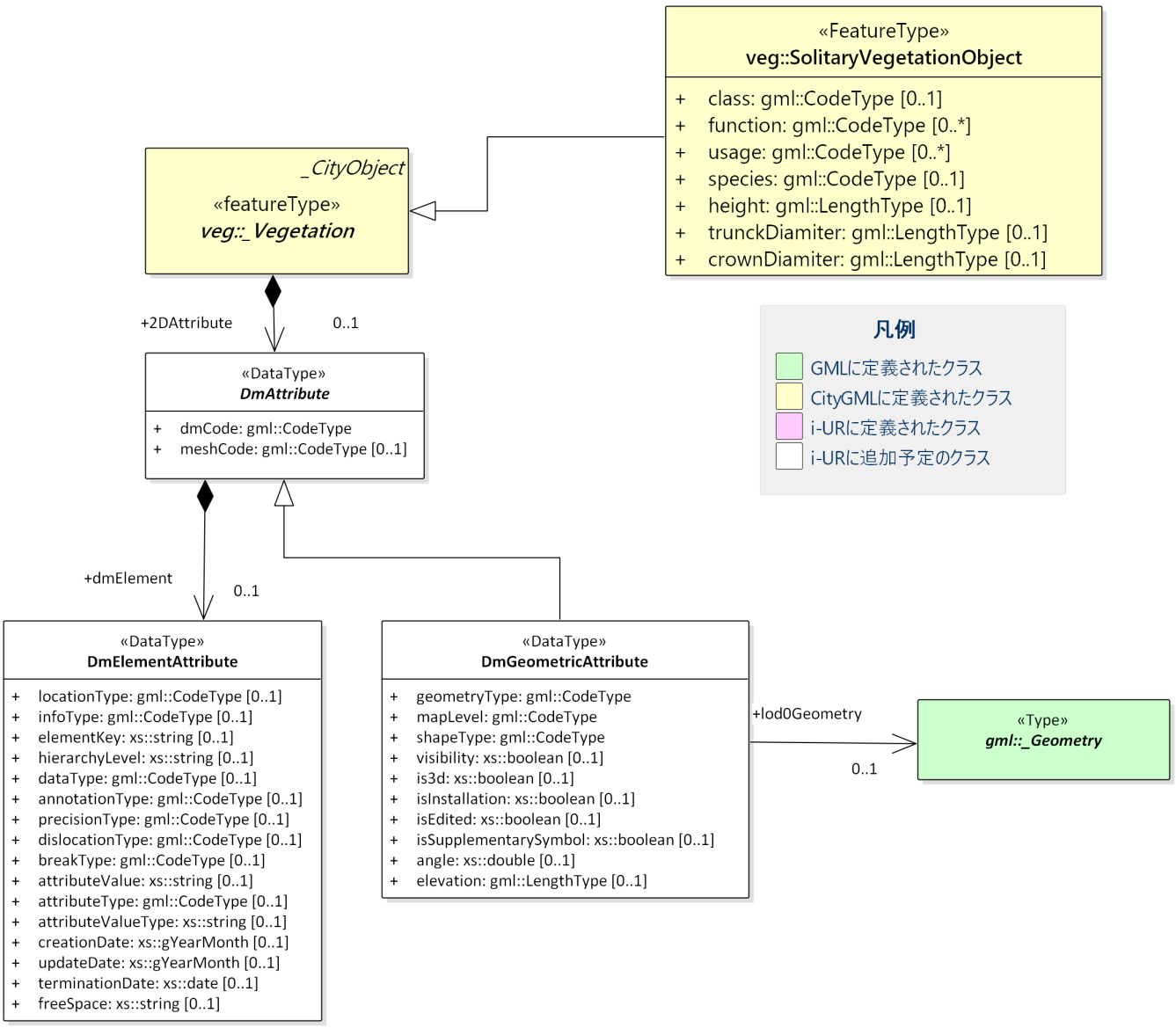


石段、地下街・地下鉄等出入口、停留所、プラットホームの記述には、*frn::CityFurniture* を使用する。*frn::CityFurniture* の応用スキーマクラス図は、小物体の応用スキーマクラス図を参照すること。

道路のトンネル、道路の雪覆い等、鉄道のトンネル、鉄道の雪覆い等の記述には、*tun::Tunnel* を使用する。



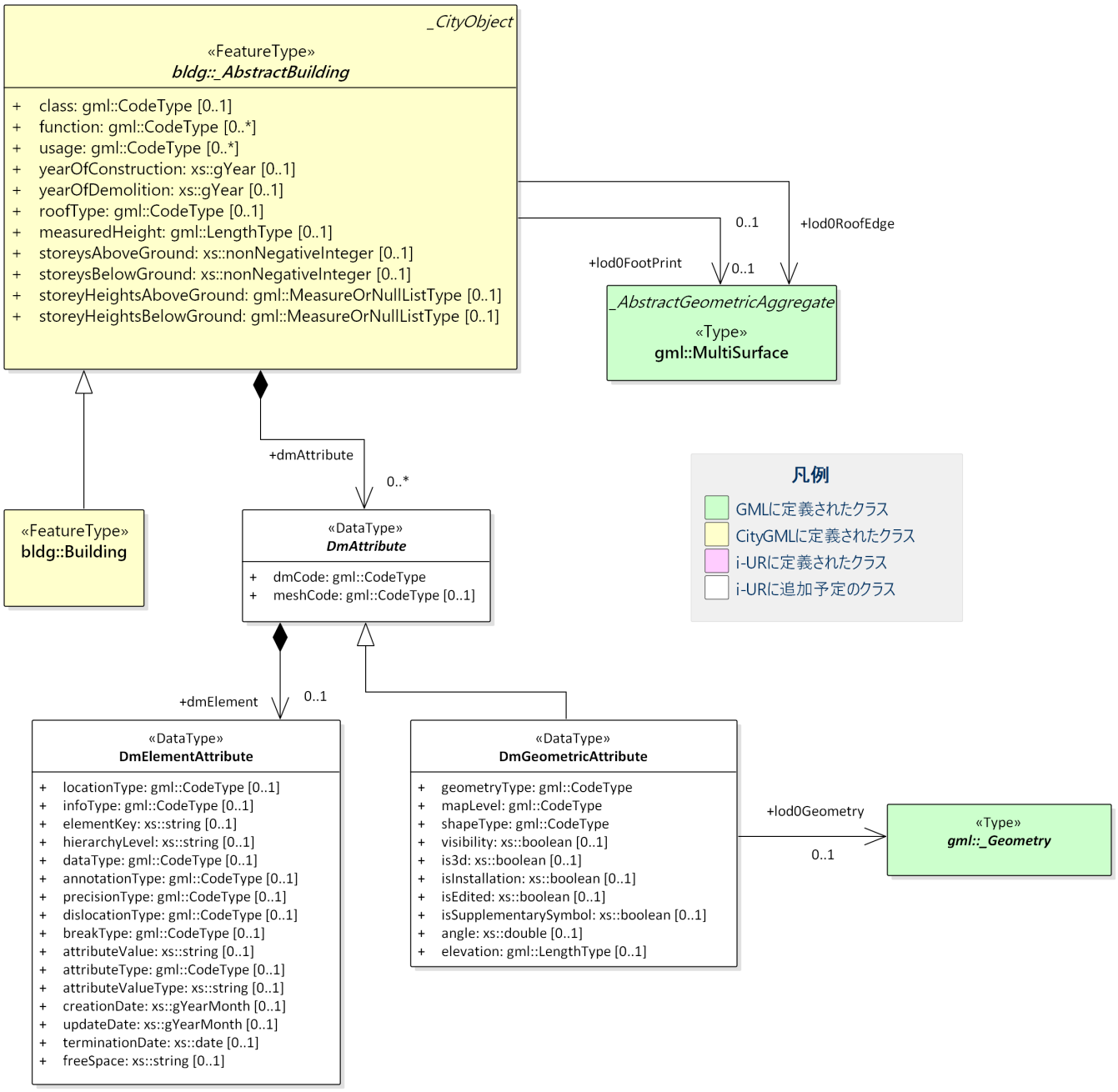
並木の記述には、*veg::SolitaryVegetationObject* を使用する。



(3) 建物等

建築物の記述には、*bldg::Building* を使用する。

建物記号の記述には、*uro::DmGeometricAttribute* を使用する。



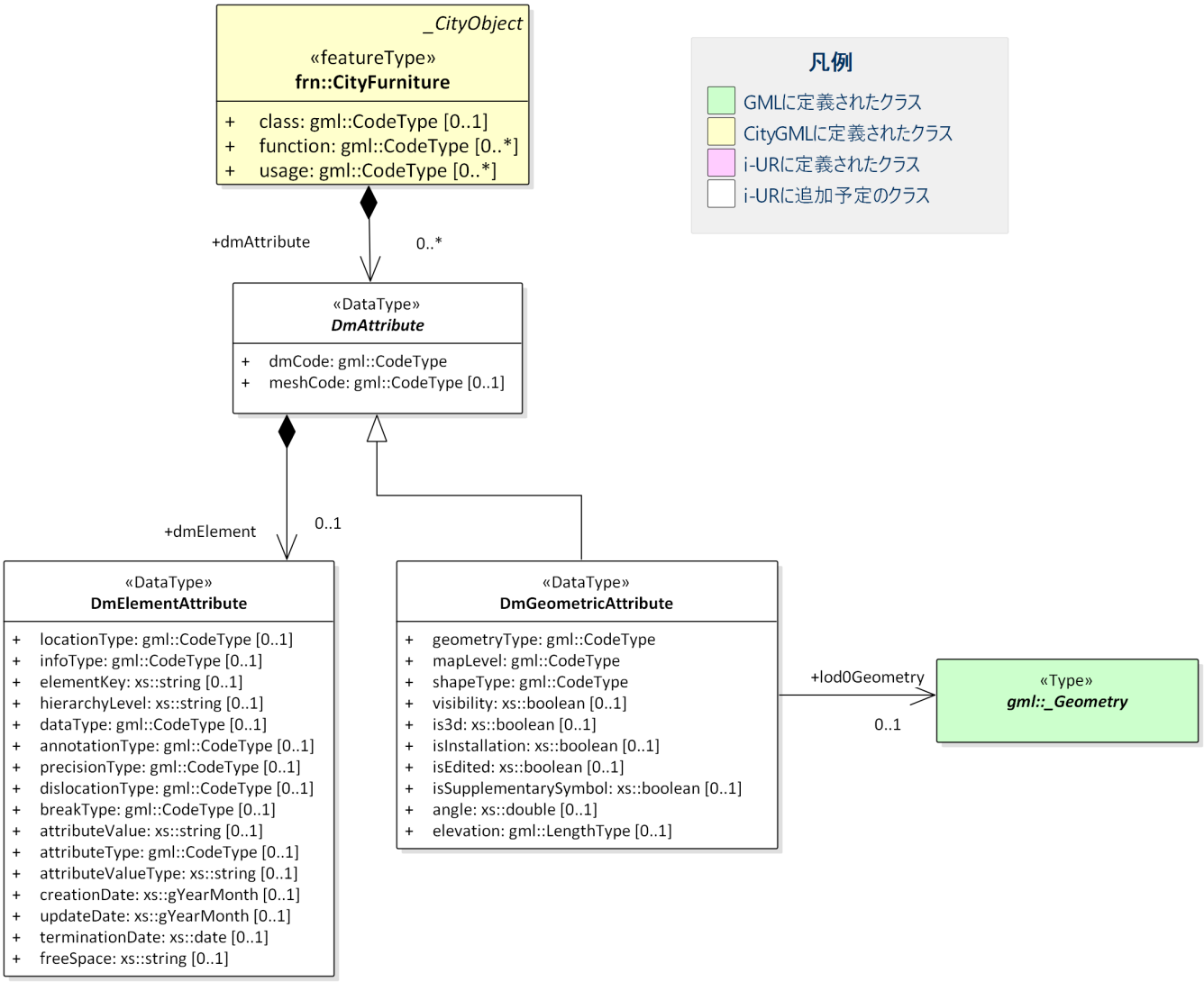
屋門の記述には、*bldg::BuildingInstallation* を使用する。

門の記述には、*frn::CityFurniture* を使用する。*frn::CityFurniture* の応用スキーマクラス図は、小物体の応用スキーマクラス図を参照すること。

(4) 小物体

小物体の記述には、*frn::CityFurniture* を使用することを基本とする。

ただし、坑口の記述には、*tun::Tunnel*、独立樹（広葉樹）及び独立樹（針葉樹）の記述には、*veg::SolitaryVegetationObject* を使用する。

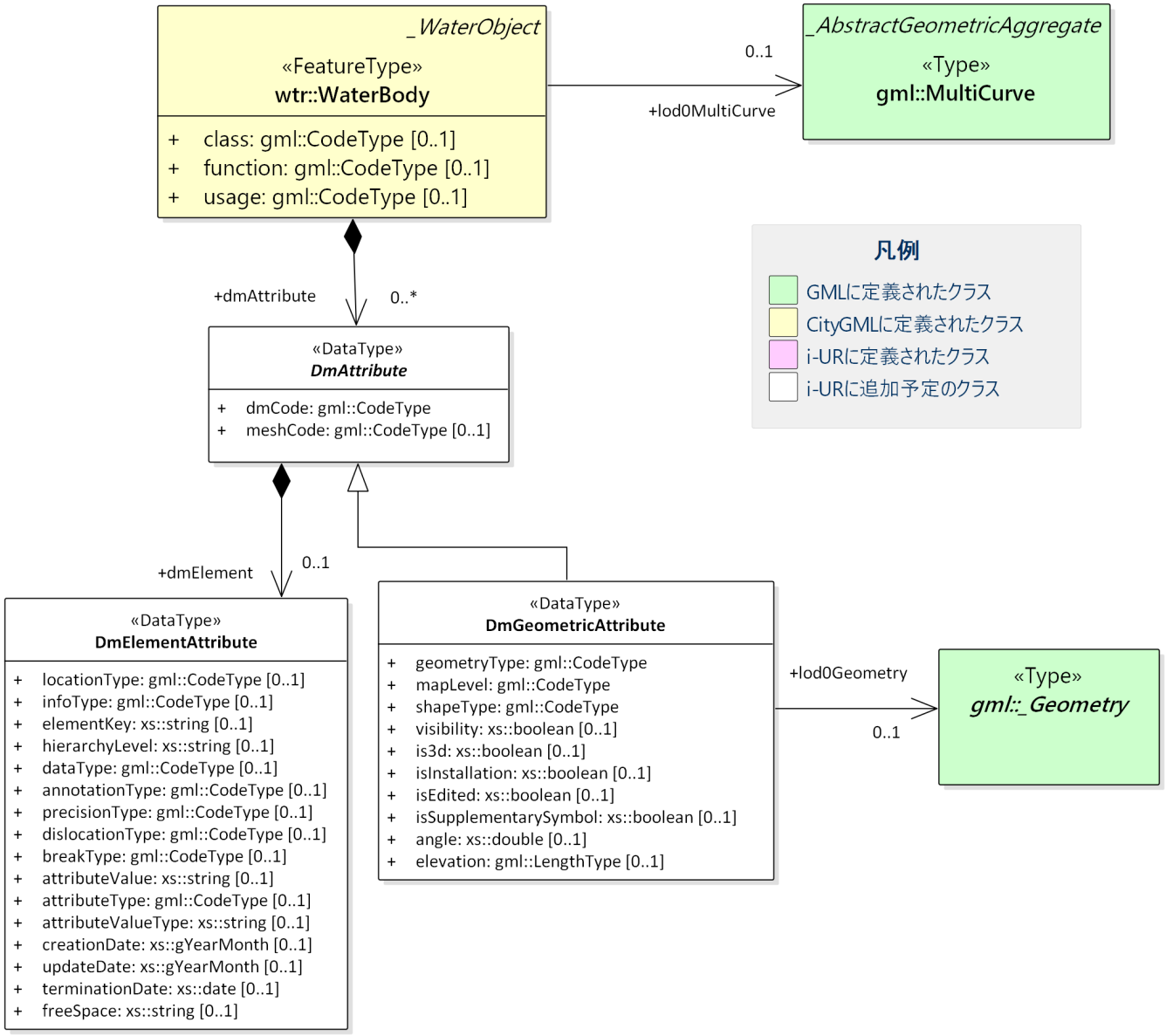


tun::Tunnel のクラス図は、道路のトンネル、道路の雪覆い等、鉄道のトンネル、鉄道の雪覆い等の応用スキーマクラス図を参照すること。

veg::SolitaryVegetationObject のクラス図は、並木の応用スキーマクラス図を参照すること。

(5) 水部等

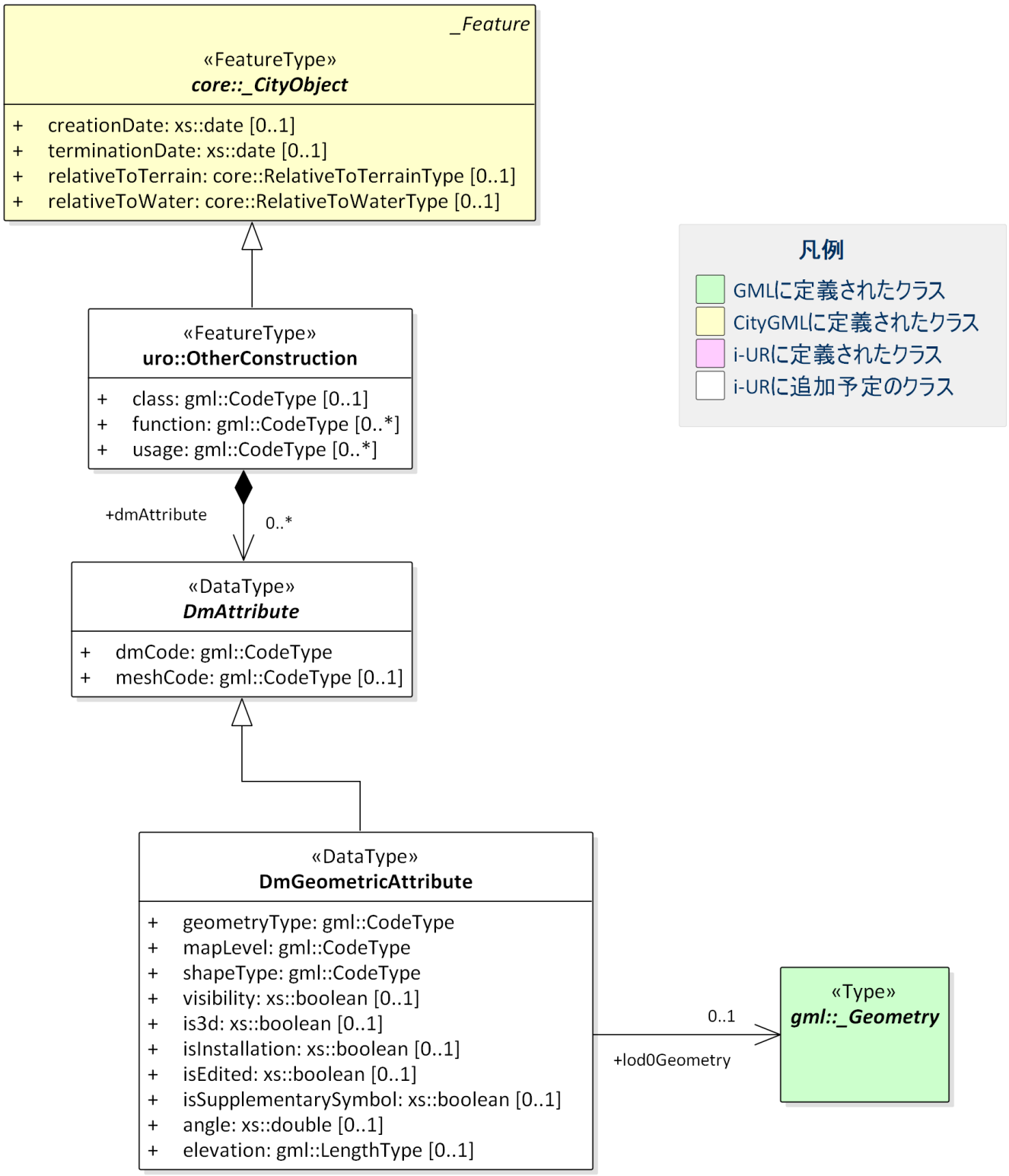
水部、滝の記述には、wtr::WaterBody を使用する。流水方向の記述には、uro::DmGeometricAttribute を使用する。



桟橋（木製・浮桟橋）、桟橋（鉄、コンクリート）の記述には、*brid::Bridge* を使用する。

brid::Bridge の応用スキーマクラス図は、道路橋（高架部）、徒橋、桟道橋、横断歩道橋、鉄道橋（高架部）、跨線橋の応用スキーマクラス図を参照すること。

防波堤、せき、水門、敷石斜板の記述には、*uro::OtherConstruction* を使用する。

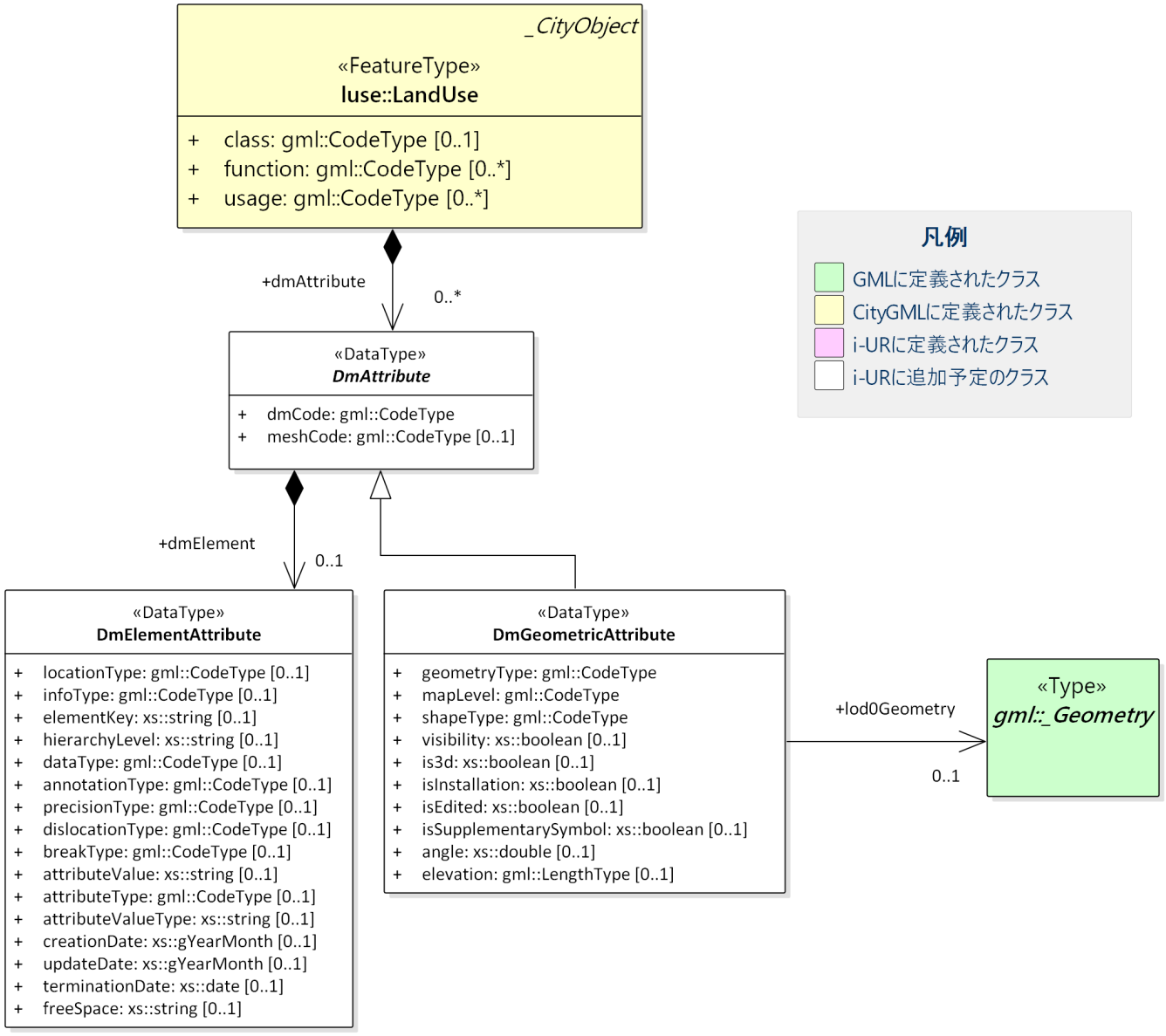


渡船発着所の記述には、*frn::CityFurniture* を使用する。

frn::CityFurniture の応用スキーマクラス図は、小物体の応用スキーマクラス図を参照すること。

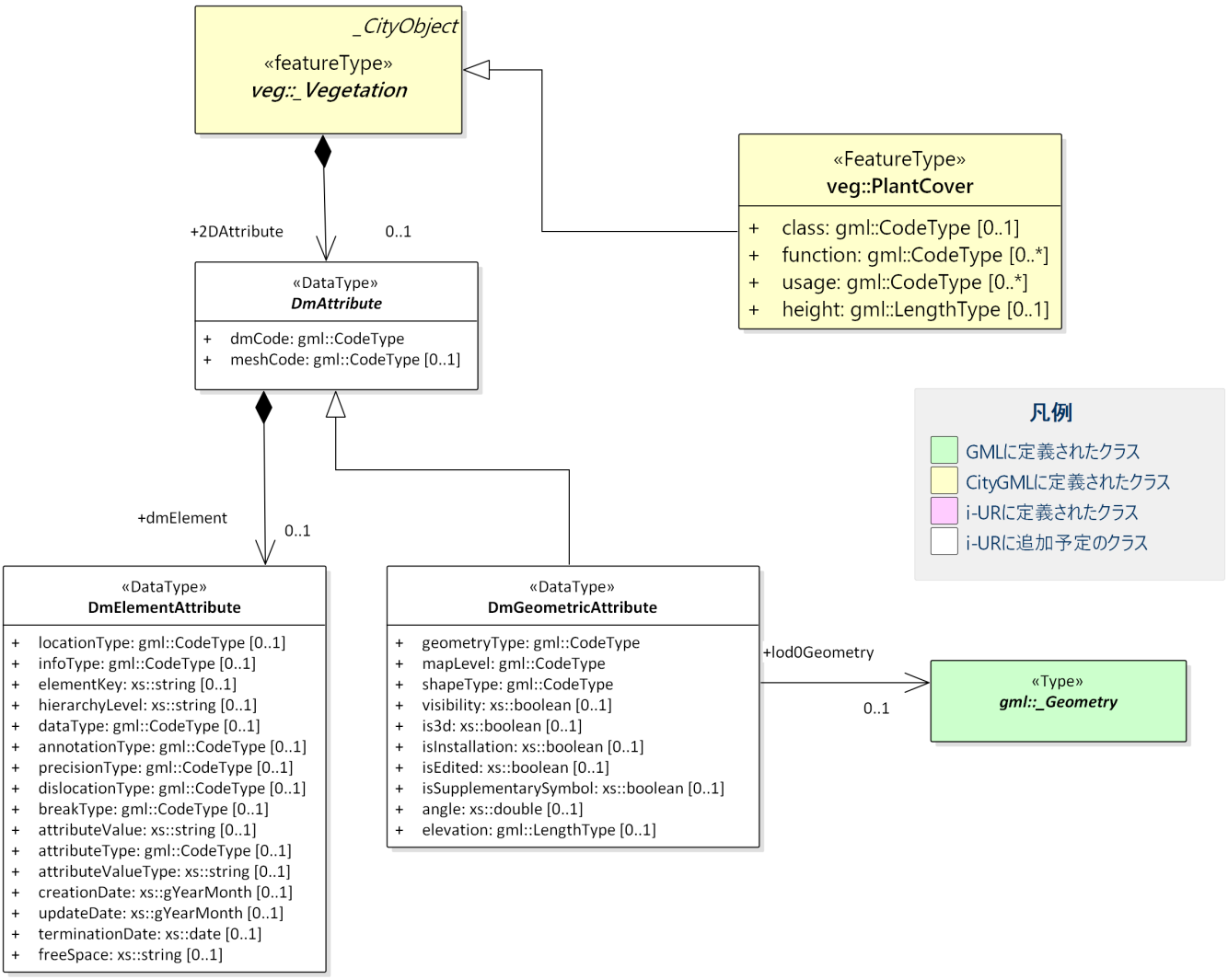
(6)　土地利用等

場地（ただし、区域界を除く）の記述には *luse::LandUse* を使用する。



法面の記述には、uro::OtherConstruction を使用する。uro::OtherConstruction の応用スキーマは、防波堤等の応用スキーマクラス図を参照すること。

植生の記述には、veg::PlantCover を使用する。



構囲の記述には、*frn::CityFurniture* を使用する。*frn::CityFurniture* の応用スキーマクラス図は、小物体の応用スキーマクラス図を参照すること。

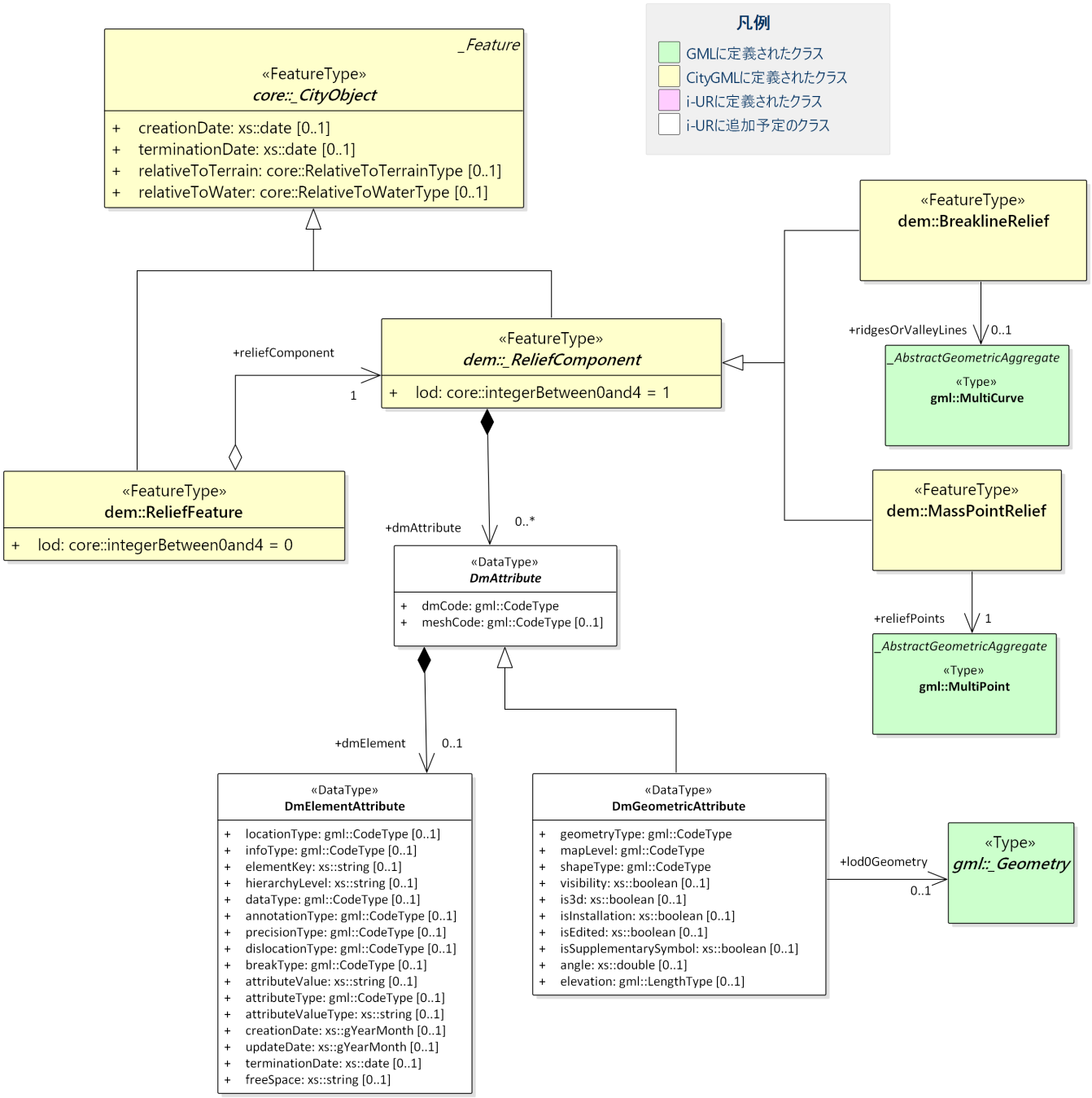
区域界の記述には、*urf::Boundary* を使用する。*urf::Boundary* の応用スキーマクラス図は、境界及び所属界の応用スキーマクラス図を参照すること。

(7) 地形等

等高線及び変形地の記述には、*dem::ReliefFeature* を使用し、*dem::reliefComponent* には *dem::BreaklineRelief* を使用することを基本とする。なお、変形地のうち洞口は *dem::MassPointRelief* を使用する。

また、凹地（矢印）、土がけ（崩土）の記号及び岩がけの記号は、*uro::DmGeometricAttribute* を使用する。

標高点の記述には、*dem::MassPointRelief* を使用する。



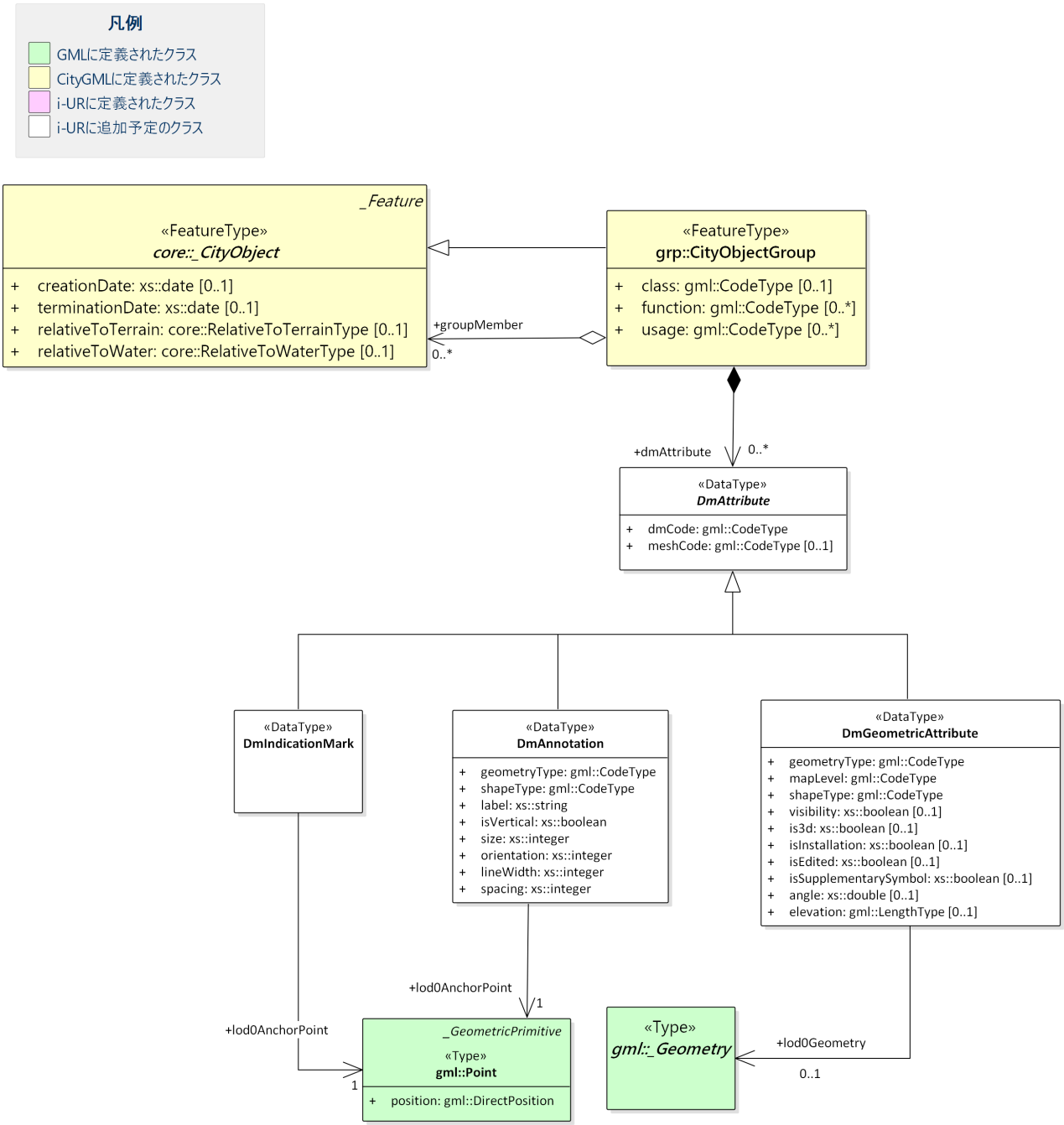
基準点（ただし、標高点を除く）の記述には、*frn::CityFurniture* を使用する。*frn::CityFurniture* の応用スキーマクラス図は、小物体の応用スキーマクラス図を参照すること。

(8) 注記及び地図記号

注記は *uro::DmAnnotation*、指示点は *uro::DmIndicationMark*、地図記号は *uro::DmGeometricAttribute* により記述する。

これらは都市計画基本図として描画する際に必要な描画情報である。

これらの描画情報は、*grp::CityObjectGroup* によりグループ化する（関連役割 *uro::dmAttribute*）。



4.2.3 応用スキーマ文書

(1) Building（CityGML）

1) bldg::Building

型の定義	建築物。建築物とは、土地に定着する工作物のうち、屋根及び柱若しくは壁を有するもの（これに類する構造のものを含む。）、これに附属する門若しくは塀、観覧のための工作物又は地下若しくは高架の工作物内に設ける事務所、店舗、興行場、倉庫その他これらに類する施設をいい、建築設備を含むものとする。[参考　建築基準法] 都市計画基本図に図示する普通建物、堅ろう建物、普通無壁舎、堅ろう無壁舎、分類しない建物、その他建物（取得分類コード 30XX）の記述に使用する。 都市計画基礎調査の建物利用現況の位置図に使用する。	
上位の型	bldg::_AbstractBuilding	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	建築物を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	建築物の範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	建築物と地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	建築物と水面との相対的な位置関係。
bldg::class	gml::CodeType [0..1]	建築物の形態による区分。 コードリスト（Building_class.xml）より選択する。
(bldg::function)	gml::CodeType [0..*]	建築物の主たる働き。
bldg::usage	gml::CodeType [0..*]	建築物の主な使い道。コードリスト（Building_usage.xml）より選択する。用途の区分は、都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）による区分とする。複数の建築物で一体の施設を構成しているものについては、一体としての用途とする。店舗等併用住宅、同共同住宅、作業所併用住宅は、1/3 以上が住宅のものとする。複合用途の建築物（商業系複合施設及び併用住宅を除く）については、主たる用途により分類する。複数の用途を記述する場合は、主たる用途を最初に記載する。
bldg::yearOfConstruction	xs::gYear [0..1]	建築物が建築された年。
bldg::yearOfDemolition	xs::gYear [0..1]	建築物が解体された年。
(bldg::roofType)	gml::CodeType [0..1]	建築物の屋根形状の種類。コードリスト（Building_roofType.xml）より選択する。

bldg::measuredHeight	gml::LengthType [0..1]	計測により取得した建築物の地上の最低点から最高点までの高さ。単位は m（uom=”m”）とする。
bldg::storeysAboveGround	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地上階の階数。
bldg::storeysBelowGround	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地下階の階数。
(bldg::storeyHeightsAboveGround)	gml::MeasureOrNullListType [0..1]	地上の各階の高さを、地表に最も近い階から列挙する。
(bldg::storeyHeightsBelowGround)	gml::MeasureOrNullListType [0..1]	地下の各階の高さを、地表に最も近い階から列挙する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
bldg::lod0FootPrint	gml::MultiSurface [0..1]	建築物の接地面での外形線により囲まれた面。 bldg::lod0FootPrint 又は bldg::lod0RoofEdge のいずれか一方が出現する。中庭が存在する場合には、中空の面として作成する。
bldg::lod0RoofEdge	gml::MultiSurface [0..1]	建築物の屋根の外形線により囲まれた面。 bldg::lod0FootPrint 又は bldg::lod0RoofEdge のいずれか一方が出現する。中庭が存在する場合には、中空の面として作成する。
bldg::outerBuildingInstallation	bldg::BuildingInstallation [0..*]	建築物に付属する屋根、外階段、バルコニー等のへの設備。「屋門」が存在する場合に適用する。
bldg::address	core::Address [0..*]	建築物に付与された住所。最大 1 個作成する。
uro::buildingIDAttribute	uro::BuildingIDAttribute [1]	建築物の識別情報。必ず 1 個作成する。
uro::buildingDetailAttribute	uro::BuildingDetailAttribute [0..*]	建築物に関する基礎的な情報。都市計画基礎調査の「建物利用現況」の結果を付与する。
uro::largeCustomerFacilityAttribute	uro::LargeCustomerFacilityAttribute [0..*]	当該建築物が大規模小売店舗等である場合に、都市計画基礎調査の「大規模小売店舗等の立地状況」の結果を付与する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 建築物の図式を構成する個々の図形の記述に、uro::DmGeometricAttribute を使用する。図形区分ごとに uro::DmGeometricAttribute を作成すること。

2) bldg::BuildingInstallation

型の定義	建築物の外側に設置され、建築物の外観を特徴づける設備。 都市計画基本図に図示する屋門の記述に使用する。	
上位の型	bldg::_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物付属物の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	建築物付属物を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	建築物付属物の範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
(bldg::class)	gml::CodeType [0..1]	建築物付属物の形態による区分。
(bldg::function)	gml::CodeType [0..1]	建築物付属物の主たる働き。
(bldg::usage)	gml::CodeType [0..*]	建築物付属物の主な使い道。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 屋門の形状は、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。 屋門の形状は、建築物の中の道路縁線を取得する。

(2) Bridge（CityGML）

型の定義	交通の障害となる河川、渓谷、湖沼、海峡、鉄道、水路、他の道路等の上方に、これを横断するために設置される構造物。 横断歩道橋及びペデストリアンデッキも含む。 都市計画基本図に図示する道路橋（高架部）、徒橋、横断歩道橋、鉄道橋（高架部）、跨線橋、桟橋（木橋、浮桟橋）の記述に使用する。	
上位の型	brid::_AbstractBridge	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	橋梁の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	橋梁を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	橋梁の範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(brid::class)	gml::CodeType [0..1]	橋梁の形態による区分。
(brid::function)	gml::CodeType [0..*]	橋梁の主たる働き。
(brid::usage)	gml::CodeType [0..*]	橋梁の主な使い道。
(brid::yearOfConstruction)	xs::gYear [0..1]	橋梁が建築された年。
(brid::yearOfDemolition)	xs::gYear [0..1]	橋梁が解体された年。
(brid::isMovable)	xs::boolen [0..1]	可動橋か否かの別。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 橋梁の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。 道路橋（高架部）及び鉄道橋（高架部）は、両側の縁線を取得する。徒橋は中心線を取得する。 横断歩道橋及び跨線橋は、外周を面として取得する。 桟　橋（木製・浮桟橋）は外周を線として取得する。

(3) CityFurniture（CityGML）

型の定義	都市の屋外（道路、住宅街、広場、造成地等）に設置されている、移動しない小規模な設備（例：街路灯、道路標識、交通信号機、花壇、広告板、ベンチ、境界杭、バス停）。 都市計画基本図に図示する石段、地下街・地下鉄等出入口、停留所、プラットホーム、門、小物体（ただし、坑口と独立樹を除く）、渡船発着所、せき、水門、透過水制、敷石斜板、構囲、基準点（ただし、標高点を除く）の記述に使用する。	
上位の型	core::_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	都市設備の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	都市設備を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	都市設備の範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(frn::class)	gml::CodeType [0..1]	都市設備の区分。
(frn::function)	gml::CodeType [0..*]	都市設備の種類。
(frn::usage)	gml::CodeType [0..*]	都市設備の主な使い道。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 小物体等の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。

		石段の場合は、縁線及び石段の上段部、下端部、階段線をそれぞれ線として取得する。 地下街・地下鉄等出入口の場合は、外周を面として取得し、階段線（入口から 3 段）を線として取得する。 停留所は、安全島がある場合は外縁を面として取得し、安全島が無いもしくは狭小の場合は中心位置を点として取得する。 プラットホームは、外周を面として取得する。 門は、門柱が 1.25m 以上の場合は門柱の外周を面として取得し、1.25m 未満の場合は中心位置を点として取得する。小物体は、中心位置を点として取得することを基本とする。輸送管は外周を面として取得し、送電線は中心線を取得する。 渡船発着所は中心位置を点として取得する。 透過水制及び敷石斜板は外周を面として取得する。 構囲は中心位置を線として取得する。 基準点（ただし、標高点を除く）は中心位置を点として取得する。

(4) CityObjectGroup（CityGML）

型の定義	都市オブジェクトの集まり。 都市計画基本図の描画情報（注記、建物記号、指示点）をグループ化する。	
上位の型	core::_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	グループの概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	グループを識別する名称。 注記の集まりの場合は「注記」とする。 建物記号の集まりの場合は「建物記号」とする。 指示点の集まりの場合は「指示点」とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	グループの範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(grp:class)	gml::CodeType [0..1]	グループの区分。
(grp:function)	gml::CodeType [0..*]	グループの機能。
(grp:usage)	gml::CodeType [0..*]	グループの主な使い道。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
grp:groupMember	core::_CityObject [0..*]	グループに含まれる都市オブジェクト。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。

(5) LandUse（CityGML）

型の定義	土地の利用の状態および仕方。 都市計画基本図に図示する場地（ただし、区域界を除く）の記述に使用する。 都市計画基礎調査の土地利用現況の位置図に使用する。	
上位の型	core::_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	土地利用の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	土地利用を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
luse::class	gml::CodeType [0..1]	土地利用用途の大まかな区分。 土地利用用途の区分は、都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）による区分とする。 コードリスト（Common_landUseType.xml）より選択する。
(luse::function)	gml::CodeType [0..*]	土地利用の機能。
luse::usage	gml::CodeType [0..*]	土地利用の用途。コードリスト（LandUse_usage.xml）より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
luse::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	土地利用が変化する境界により囲われた同一の土地利用の範囲。土地利用現況調査において作成する。

uro::landUseDetailAttribute	uro::LandUseDetailAttribute [0..1]	土地利用現況調査により得られた土地の詳細情報。
uro::landUseDataQualityAttribute	uro::LandUseDataQualityAttibute	作成されたデータに関する情報。 土地利用の形状の原典資料を示す場合に使用する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 場地の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。 場地は記号表示位置を点として取得する。なお、場地のうち、墓地と太陽光発電設備について、概ね 75m×75m 以上の広さで、記号を定間隔に配列する場合には、各点を gml::MultiPoint により一つの幾何オブジェクトとして構成すること。

(6) Relief（CityGML）

3) dem::ReliefFeature

型の定義	地形の凹凸を表現した地物。 *dem::BreaklineRelief*m 又は *dem::BreaklineRelief* を部品として保持する。 都市計画基本図に図示する等高線及び変形地の記述には、*dem::BreaklineRelief* を使用し、標高点の記述には、*dem::MassPointRelief* を使用する。なお、変形地のうち、洞口及び極小の散岩は *dem::MassPointRelief* を使用する。	
上位の型	core::_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	地形の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	地形の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
dem::lod	core::integerBetween0and4 [1]	この地形に適用される LOD。0～4 までの半角数字のいずれかとする。LOD0 の場合は 0 となる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem::reliefComopnent	dem::_ReliefComponent [1]	dem::BreaklineRelief 又は dem::MassPointRelief のいずれか 1 つのみをもつ。

4) dem::BreaklineRelief

型の定義	線により地形の起伏を表現した地物。 都市計画基本図に図示する等高線及び変形地の記述に使用する。なお、変形地のうち洞口は *dem::MassPointRelief* を使用する。 また、凹地（矢印）、土がけ（崩土）の記号及び岩がけの記号は、uro::DmGeometricAttribute を使用する。	
上位の型	dem::_ReliefComponent	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	地形の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	地形の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
dem::lod	core::integerBetween0and4	この地形に適用される LOD。LOD0 の場合は 0 となる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。

(dem::extent)	gml::Polygon [0..1]	空間範囲。
自身に定義された属性		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem::ridgesOrValleyLines	gml::MultiCurve [0..1]	等高線となる線への参照。標高（uro::dmAttribute により保持する uro::DmGeomertyAttribute の属性 uro::elevation）が同じとなる線の集まりを 1 つの幾何オブジェクトとする。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。

5) dem::MassPointRelief

型の定義	点の集まりにより地形の起伏を表現した地物。 都市計画基本図に図示する標高点及び洞口、極小の散岩の記述に使用する。	
上位の型	dem::_ReliefComponent	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	地形の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	地形の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
dem::lod	core::integerBetween0and4	この地形に適用される LOD。LOD0 の場合は 0 となる。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
(dem::extent)	gml::Polygon [0..1]	空間範囲。基準地域メッシュの四隅座標により構成する。
自身に定義された属性		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
dem::reliefPoints	gml::MultiPoint [1]	起伏を表現する点の集まり。

		標高（uro::dmAttribute により保持する uro::DmGeomertyAttribute の属性 uro::elevation）が同じとなる点の集まりを 1 つの幾何オブジェクトとする。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。

(7) Transportation（CityGML）

6) tran::Road

型の定義	一般交通の用に供する場所。 都市計画基本図に図示する道路縁（街区線）、トンネル内の道路、建設中の道路の記述に使用する。 都市計画基礎調査の「道路の状況」の位置図に使用する。	
上位の型	tran::TrafficComplex	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	道路の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	道路を識別する名称。道路法に基づき路線が指定又は認定された路線名。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(tran::class)	gml::CodeType [0..1]	交通の分類。
(tran::function)	gml::CodeType [0..*]	道路法における道路の区分及び建築基準法における道路の区分。
(tran::usage)	gml::CodeType [0..*]	道路の利用方法。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
(tran::trafficArea)	tran::TrafficArea [0..*]	道路を構成する要素のうち、車両や人が通行可能な領域への参照。

(tran::auxiliaryTrafficArea)	tran::AuxiliaryTrafficArea [0..*]	道路を構成する要素のうち、交通領域の機能を補助するために設けられた領域への参照。
tran::lod0Network	gml::GeometricComplex [0..1]	道路の連続性を表現する線。ネットワークを構成する。 都市計画基礎調査データの「道路の状況」において道路ネットワークの記述に使用する。 地図情報レベル2500では、道路縁（街区線）、トンネル内の道路、建設中の道路は道路敷の外線によりその形状を表現するため、都市計画基本図データでは使用しない。道路縁（街区線）、トンネル内の道路、建設中の道路の形状は、uro::dmAttribute により保持する uro::DmGeometricAttribute により記述する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 道路の形状は、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry により記述する。
自身に定義された属性		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
uro::roadStructureAttribute	uro::RoadStructureAttribute [0..1]	当該道路の道路構造に関する情報。
uro::trafficVolumeAttribute	uro::TrafficVolumeAttribute [0..1]	当該道路を通行する車両の量に関する情報。

7) tran::Railway

型の定義	専用の用地にレールを敷設した線路上を、動力を用いた車両を運転し、人や物を迅速・安全に運搬する陸上交通機関。 都市計画基本図に図示する普通鉄道、路面鉄道、特殊鉄道、索道、建設中の鉄道の記述に使用する。	
上位の型	tran::TrafficComplex	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	鉄道の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	鉄道を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(tran::class)	gml::CodeType [0..1]	交通の分類。
(tran::function)	gml::CodeType [0..*]	鉄道の区分。

(tran::usage)	gml::CodeType [0..*]	鉄道の利用方法。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
(tran::trafficArea)	tran::TrafficArea [0..*]	鉄道を構成する要素のうち、車両や人が通行可能な領域への参照。
(tran::auxiliaryTrafficArea)	tran::AuxiliaryTrafficArea [0..*]	鉄道を構成する要素のうち、交通領域の機能を補助するために設けられた領域への参照。
tran::lod0Network	gml::GeometricComplex [0..1]	鉄道の連続性を表現する線。 普通鉄道、路面鉄道、特殊鉄道、索道の中心線を取得する。 ただし、建設中の鉄道は外周によりその形状を表現するため、uro::dmAttribute により保持する uro::dmGeometricAttribute により記述する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 普通鉄道、路面鉄道、特殊鉄道、索道の形状は、tran::lod0Network により記述し、uro::dmAttribute により保持する uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry は使用しない。 建設中の鉄道の形状は、uro::dmAttribute により保持する uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry により記述する。

8) tran::Track

型の定義	公園、住宅地等で自動車の通行を規制している道路及び工場等特定の敷地内の道路及び幅員 2.5m 未満かつ以下のいずれかを満たす道路。 ・道路縁及び軽車道に接続するもの ・登山、観光等に利用されるもの ・神社等の主要な地点へ到達するもの ・耕地の区画等の景観を表現するために必要なもの 徒歩道及び庭園路の記述に使用する。	
上位の型	tran::TrafficComplex	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	徒歩道等の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	徒歩道等を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(tran::class)	gml::CodeType [0..1]	交通の分類。
(tran::function)	gml::CodeType [0..*]	徒歩道等の区分。
(tran::usage)	gml::CodeType [0..*]	徒歩道等の利用方法。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
(tran::trafficArea)	tran::TrafficArea [0..*]	徒歩道等を構成する要素のうち、車両や人が通行可能な領域への参照。
(tran::auxiliaryTrafficArea)	tran::AuxiliaryTrafficArea [0..*]	徒歩道等を構成する要素のうち、交通領域の機能を補助するために設けられた領域への参照。
tran::lod0Network	gml::GeometricComplex [0..1]	徒歩道等の連続性を表現する線。

		徒歩道の場合は、中心線とする。 庭園路等の場合は、道路縁線によりその形状を表現するため、標準製品仕様書では使用しない。庭園路等の形状は、uro::dmAttribute により保持する uro::lod0Geometry により記述する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 庭園路等の形状は、道路縁を線として取得し、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry により記述する。

9) tran::TrafficArea

型の定義	車両や人が通行可能な領域（車道部及び歩道部）。 歩道の記述に使用する。	
上位の型	tran::_TransportationObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
(tran::class)	gml::CodeType [0..1]	交通の分類。
(tran::function)	gml::CodeType [0..*]	交通領域の機能。
(tran::usage)	gml::CodeType [0..*]	交通領域の利用方法。
(tran::surfaceMaterial)	gml::CodeType [0..1]	表層舗装の有無及び材質。複数の表層舗装が混在している場合は、最も面積を占める舗装とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。

(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 歩道の形状は、車道との界線を取得し、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry により記述する。

10) tran::AuxiliaryTrafficArea

型の定義	道路を構成する領域のうち、交通領域の機能を補助するために設けられた領域。 分離帯の記述に使用する。	
上位の型	tran::_TransportationObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	道路の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	道路を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
(tran::class)	gml::CodeType [0..1]	交通の分類。
(tran::function)	gml::CodeType [0..*]	区画線や路面標示、道路標識等により示された交通補助領域の機能。コ
(tran::usage)	gml::CodeType [0..*]	交通補助領域の利用方法。
(tran::surfaceMaterial)	gml::CodeType [0..1]	表層舗装の有無及び材質。複数の表層舗装が混在している場合は、最も面積を占める舗装とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。

uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 分離帯の形状は、幅員が 1m 以上のものは外周を面として取得し、幅員が 1m 未満のものは、中心線を取得する。分離帯の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。

(8) Tunnel（CityGML）

型の定義	２地点間の交通と物資の輸送あるいは貯留などを目的とし、建設される地下の空間。雪崩又は落石等を防ぐために、道路又は鉄道上に設けられた覆いを含む。 都市計画基本図に図示する道路のトンネル、道路の雪覆い等、鉄道のトンネル、鉄道の雪覆い等の記述に使用する。	
上位の型	tun::_AbstractTunnel	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	トンネルの概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	トンネルを識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	トンネルの範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(tun::class)	gml::CodeType [0..1]	トンネルの形態による区分。
(tun::function)	gml::CodeType [0..*]	トンネルの主たる働き。
(tun::usage)	gml::CodeType [0..*]	トンネルの主な使い道。
(tun::yearOfConstruction)	xs::gYear [0..1]	トンネルが建築された年。
(tun::yearOfDemolition)	xs::gYear [0..1]	トンネルが解体された年。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。

		トンネルの形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。 道路のトンネル及び鉄道のトンネルの形状は、真形による表現を行う場合は、坑口部分の外周を面又は線として取得する。極小表現を行う場合は、坑口の中心位置を点として取得し、向きを角度として取得する。 道路の雪覆い等及びトンネルの雪覆い等の形状は、外周を面として取得する。

(9) Vegetation（CityGML）

11) veg::SolitaryVegetationObject

型の定義	独立した樹木。 都市計画基本図に図示する並木、独立樹（広葉樹）及び独立樹（針葉樹）の記述に使用する。	
上位の型	veg::_VegetationObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	樹木の説明。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	樹木を識別する管理番号や名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(veg::class)	gml::CodeType [0..1]	高木、中木、低木の別。
(veg::function)	gml::CodeType [0..*]	常緑、落葉の別、及び針葉、広葉の別。
(veg::usage)	gml::CodeType [0..*]	樹木の用途。
(veg::species)	gml::CodeType [0..1]	樹木の樹種。
(veg::height)	gml::LengthType [0..1]	樹高。
(veg::trunkDiameter)	gml::LengthType [0..1]	樹径。幹周を 3.14 で除算した数値。
(veg::crownDiameter)	gml::LengthType [0..1]	樹木の四方面に伸長した枝(葉)の幅。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。

(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 樹木の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。中心位置を点として取得する。

12) veg::PlantCover

型の定義	植被。芝生や茂みのように、植生に覆われた範囲を指し、個々の樹木を識別しない。 都市計画基本図に図示する植生の記述に使用する。	
上位の型	veg::_VegetationObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	植被の説明。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	植被を識別する管理番号や名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(veg::class)	gml::CodeType [0..1]	植被を構成する主な樹種による分類。
(veg::function)	gml::CodeType [0..*]	植被の機能。
(veg::usage)	gml::CodeType [0..*]	植被の用途。
(veg::averageHeight)	gml::LengthType [0..1]	平均高さ。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。

(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 植生の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。記号表示位置又は記号代表点を点として取得する。

(10) WaterBody（CityGML）

型の定義	河川、湖沼、等のように陸地内に存在する水の存在する部分及び海。水路や貯水槽、プールのような人工的に存在する水を含む。 都市計画基本図に図示する水部、滝の記述に使用する。 河川は、平水時において流水部の幅が 1m 以上のものを対象とする。ただし、主要な河川等にあっては、流水部の幅 1m 未満であっても対象としてよい。 湖池等とは、湖、池、沼等（人工的に貯水したものを含む。）をいい、おおむね 12.5m2 以上のものを対象とする。	
上位の型	wtr::_WaterObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	水部の説明。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	水部を識別する名称。浸水想定区域等の名称を記述する。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(wtr::class)	gml::CodeType [0..1]	水部の分類。
(wtr::function)	gml::CodeType [0..*]	水部の機能。
(wtr::usage)	gml::CodeType [0..*]	水部の利用方法。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。

(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
wtr::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	水部の水の流れを示す線。 一条河川の形状の記述に使用する。流水部の中心線を取得する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 水涯線、かれ川、湖沼の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。水涯線、湖沼は界線を取得する。かれ川は範囲を示す縁線を取得する。 水涯線は、河川、湖池等の水涯線及び海岸線の正射影を表示する。水涯線の地下部は、uro::DmGeometricAttribute の uro::visibility を 0（不可視）とする。 河川は、平水時における水涯線とし、海岸線は、満潮時における海岸の水涯線の正射影を表示する。

(11) Urban Object（i-UR）

都市計画基本図パッケージで使用する、Urban Object モジュールで定義されたクラスの応用スキーマ文書を以下で示す。

13) uro::DmGeometricAttribute

型の定義	都市計画基本図として、地物を図式に従った図形表現を行うためのデータ型。 uro::DmGeometrictAttribute は、地物の実体を表す図形だけではなく、地物を図式に従って表現する際に必要な情報（例：建物記号、建物の棟割線、記号の方向）を含む。 地物（ステレオタイプが FeatureType）は、関連役割 uro::dmAttribute により、この uro::DmGeometrictAttribute を保持できる。 なお、地物の情報として uro::DmGeometricAttribute を保持したくない場合は、grp::CityObjectGroup を用いてグループ化することもできるが、標準製品仕様書では地物が uro::DmGeometrictAttribute を保持することを基本とする。	
上位の型	uro::DmAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::dmCode	gml::CodeType	DM の図式分類コード。レイヤ番号（2 桁）とデータ項目（2 桁）からなる 4 桁の半角数字の列。コードリスト（Common_dmCode.xml）より選択する。

uro::dmMeshCode	gml::CodeType [0..1]	数値地形図データファイル仕様にもとづいて設定される DM データの図郭識別番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::geometryType	gml::CodeType	レコードタイプ。コードリスト（Common_geometryType.xml）より選択する。
uro::mapLevel	gml::CodeType	地図情報レベル。コードリスト（Common_MapLevel.xml）より選択する。都市計画基本図の場合は、2500 となる。
uro::shapeType	gml::CodeType	図形区分。コードリスト（Common_shapeType.xml）より選択する。
uro::visibility	xs::boolean [0..1]	可視性。上空から見た場合に、他の地物に遮蔽されておらず、上空から見えている（地図上に表現される）ことを示すフラグ。仮想的に設定された付属図形で描画対象としない場合にもこのフラグを 0 にする。 1：他の地物に遮蔽されていない。（省略時値） 0：他の地物に遮蔽されている。
uro::is3d	xs::boolean [0..1]	この図形の座標値が３次元データであることを示すフラグ。 1：この図形の座標値は３次元データである。 0：この図形の座標値は２次元データである。（省略時値） uro::is3d=0 の場合、z 値に示された”0”は意味を持たない。
uro::isInstallation	xs::boolean [0..1]	この図形が地物の付属図形であることを示すフラグ。 付属図形とは、地物の本質的な実体ではないが、描画処理などで地物を図形表現する際に利用可能な図形である。 1：この図形は付属図形である。 0：この図形は付属図形ではない。（省略時値） uro::isInstallation の値が 1 の場合、uro::dmShapeType の値は、0 以外となる。
uro::isEdited	xs::boolean [0..1]	個別の編集処理がおこなわれたことを示すフラグ。 1：編集処理が行われた。 0：編集処理が行われていない。（省略時値）
uro::isSupplementarySymbol	xs::boolean [0..1]	この図形が地物の補助記号であることを示すフラグ。 補助記号とは、公共測量標準図式において自動発生が可能とされる図形を指す。自動発生が不可能な場合で図形を作成する必要がある場合にのみ使用する。 1：この図形は補助記号である。 0：この図形は補助記号ではない。（省略時値）
uro::angle	xs::double [0..1]	図形の角度。真北を 0 とし、時計まわりを正とする。 uro::dmGeometryType の値が E7（方向）の場合に多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

uro::elevation	gml::LengthType [0..1]	この図形の標高。単位は m とする。 uro::dmCode のレイヤ番号が 73 の場合は多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
継承する関連役割		
関連役割名	属性の型及び多重度	定義
uro::dmElement	uro::DmElementAttribute [0..1]	DM の要素情報を保持するための関連。
(uro::object)	core::_CityObject [0..1]	この uro::DmGeometricAttribute が grp::CityObjectGroup によって保持されている場合に、対象となる都市オブジェクトを特定するための関連。
自身に定義された関連役割		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::lod0Geometry	gml::_Geometry [0..1]	地物の形状を示す幾何オブジェクト。 参照先の幾何オブジェクトの型は、uro::dmCode の値に応じて、gml::MultiPoint、gml::MultiCurve、又は gml::MultiSurface のいずれかとする。いずれの型を採用するかは、各地物型の関連役割 uro::dmAttribute に記載している。

14) uro::DmElementAttribute

型の定義	数値地形図（DM）データの要素レコードの情報を保持するためのデータ型	
上位の型	uro::DmAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::dmCode	gml::CodeType	DM の図式分類コード。レイヤ番号（2 桁）とデータ項目（2 桁）からなる 4 桁の半角数字の列。コードリスト（Common_dmCode.xml）より選択する。
(uro::meshCode)	gml::CodeType [0..1]	数値地形図データファイル仕様にもとづいて設定される DM データの図郭識別番号。このデータ型には無くてもよい。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::locationType	gml::CodeType [0..1]	地域分類。地図情報の属する位置的特性による分類で、必要に応じて利用者が任意に定義するコード。
uro::infoType	xs::string [0..1]	情報分類。・地・図情報の利用目的による分類で、必要に応じて利用者が任意に定義するコード。
uro::elementKey	xs::string [0..1]	要素識別番号。
uro::hierarchyLevel	xs::string [0..1]	階層レベル。
uro::dataType	gml::CodeType [0..1]	実データ区分。

uro::annotationType	gml::CodeType [0..1]	注記区分。
uro::precisionType	gml::CodeType [0..1]	制度区分。
uro::dislocationType	gml::CodeType [0..1]	転位区分。
uro::breakType	gml::CodeType [0..1]	間断区分。
uro::attributeValue	xs::string [0..1]	属性数値。
uro::attributeType	gml::CodeType [0..1]	属性区分。利用者が独自に設ける区分。
uro::attributeValueType	xs::string [0..1]	属性データ書式。属性レコードを持つ場合の、そのレコードに記述されている内容の書式を Fortran 形式で記述する。
uro::creationDate	xs::gYearMonth [0..1]	取得年月。
uro::terminationDate	xs::gYearMonth [0..1]	更新年月。
uro::freeSpace	xs::string [0..1]	空き領域。DM 形式で空き領域にデータが設定されている場合には，この属性を用いて保持する。

15) uro::DmAnnotation

型の定義	都市計画基本図として、注記を表現するために必要な情報のデータ型。 地物（ステレオタイプが FeatureType）は、関連役割 uro::dmAttribute により、uro::DmAnnotation を保持できる。このとき、uro::DmAnnotation は地物に付属する情報となる。 uro::DmAnnotation を地物に付属する情報として記述しない場合は、grp::CityObjectGroup により uro::DmAnotation をグループ化する。	
上位の型	uro::DmAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::dmCode	gml::CodeType	DM の図式分類コード。レイヤ番号（2 桁）とデータ項目（2 桁）からなる 4 桁の半角数字の列。コードリスト（Common_dmCode.xml）より選択する。
uro::dmMeshCode	gml::CodeType [0..1]	数値地形図データファイル仕様にもとづいて設定される DM データの図郭識別番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::geometryType	gml::CodeType	このインスタンスに対応する DM のレコードタイプ。コードリスト（Common_geometryType.xml）より選択する。 注記の場合は E7 となる。
uro::shapeType	gml::CodeType	このインスタンスに対応する図形区分。コードリスト（Common_shapeType.xml）より選択する。 注記の場合は 0 となる。
uro::label	xs::string	注記の文字列。

uro::isVertical	xs::boolean	縦書きか否か。 1：縦書き 0：横書き
uro::size	xs::integer	字の大きさ。単位は 10 分の 1 ミリメートル。
uro::orientation	xs::integer	注記の表示方向を示す角度。単位は度、範囲は縦書きの場合は－135°～-45°、横書きの場合は-45°～+45°とする。
uro::linewidth	xs::integer	注記の線の太さ。線号の号数を記述する。
uro::spacing	xs::integer	字の間隔。単位は 10 分の 1 ミリメートル。全角・半角が混在する場合には、全角を基準とする。
自身に定義された関連役割		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::lod0anchorPoint	gml::Point [0..1]	注記を配置する位置。
uro::object	core::_CityObject [0..1]	注記の対象となる地物への参照。地物と関連付ける場合に使用する。

16) uro::DmIndicationMark

型の定義	都市計画基本図の注記や地図記号の指示点のためのデータ型。 地物（ステレオタイプが FeatureType）は、関連役割 uro::dmAttribute により、uro::DmIndicationMark を保持できる。このとき、uro::DmIndicationMark は地物に付属する情報となる。 uro::DmIndicationMark を地物に付属する情報として記述しない場合は、grp::CityObjectGroup により uro::DmIndicationMark をグループ化する。	
上位の型	uro::DmAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::dmCode	gml::CodeType	DM の図式分類コード。レイヤ番号（2 桁）とデータ項目（2 桁）からなる 4 桁の半角数字の列。コードリスト（Common_dmCode.xml）より選択する。
uro::dmMeshCode	gml::CodeType [0..1]	数値地形図データファイル仕様にもとづいて設定される DM データの図郭識別番号。
自身に定義された関連役割		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::lod0anchorPoint	gml::Point [0..1]	指示点を配置する位置。

17) uro::OtherConstruction

型の定義	構造物のうち、建築物（bldg::Building）、橋梁（brid::Bridge）及びトンネル（tun::Tunnel）以外のもの。ここでいう構造物とは「目的とする機能を持ち、作用に対して抵抗することを意図として人為的に構築されるもの」を指す。 都市計画基本図に図示する、防波堤、せき、水門、敷石斜坂、人工斜面、土堤、被覆の記述に使用する。	
上位の型	core::_CityObject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	構造物の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	構造物を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	構造物の範囲及び適用される空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	データが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	データが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(brid::class)	gml::CodeType [0..1]	構造物の形態による区分。
(brid::function)	gml::CodeType [0..*]	構造物の主たる働き。
(brid::usage)	gml::CodeType [0..*]	構造物の主な使い道。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 構造物の形状の記述には、uro::DmGeometricAttribute の uro::lod0Geometry を使用する。 防波堤は外周を線として取得する。 せきは、真形の上流部及び下流部を線として取得することを基本とし極小の場合は中心位置を点として取得する。 水門は真形を線として取得する。 敷石斜坂は外周を面として取得する。

		人工斜面及び被覆は、上端線（低い方を右に取得）及び下端線（高い方を右に取得）を線として取得する。 土堤は上端線を取得する。

(12) Urban Function （i-UR）

都市計画基本図パッケージで使用する、Urban Function モジュールに定義されたクラスの応用スキーマ文書を以下で示す。

18) urf::Administration

型の定義	行政区域。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	境界線が属する都市計画区域の区分。

(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	境界線が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	境界線が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	境界線が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	境界線が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::offset	gml::LengthType [0..1]	オフセットされている場合の量。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::offsetDirection	xs::string [0..1]	基準となる線に対するオフセットの方向。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	境界線の位置。高さを 0 とする。 行政界及び所属界の場合は、lod0MultiCurve を使用してその位置を記述する。
urf::lod1MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	境界線の位置。高さを 0 とする。 都市計画の各区域の境界線の場合は、lod1MultiCurve を使用してその位置を記述する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。

19) urf::Boundary

応用スキーマ文書は、(12)1)urf::Boundary を参照すること。

4.3 都市計画基礎調査パッケージ

都市計画基礎調査図パッケージは、都市計画基礎調査実施要領に示された各データ項目について、位置図又は分布図に図示する地物、また、調書及び集計表を構成する表と表に含まれるレコードを、CityGML 及び i-UR に定義されたクラスに対応付けている。

4.3.1 都市計画基礎調査のデータ項目とクラスの対応

都市計画基礎調査の各データ項目について、位置図又は分布図、調書及び集計表に対応づく CityGML 及び i-UR のクラスを以下に示す。いずれのデータ項目をデータ製品の対象とするかは、拡張製品仕様書において示す。

都市計画基礎調査データ項目	対応するクラス		
	位置図及び分布図	調書	集計表
C0101：人口規模	人口分布図（メッシュ） urg::Population 人口分布図（小地域） urf::Subreigion, urf::PopulationSize	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::PopulationSizeType
C0102：DID	urf::DID urf::DIDPopulationType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::DIDPopulationType	―
C0103：将来人口	―	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::PopulationEstimationType
C0104：人口増減	―	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::PopulationChangeType
C0105：通勤・通学移動	―	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::CommutingPopulationType
C0106：昼間人口	昼間人口分布図（メッシュ） urg::Population 昼間人口分布図（小地域） urf::Subreigion, urf::DaytimePopulation	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::DaytimePopulationType	―
C0201：産業・職業分類別就業者数	―	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード NumberOfEmployeesByIndustryCategoryType, NumberOfEmployeesByOccupationType
C0202：事業所数・従業者数・売上金額	urg::OfficesAndEmployees	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::EconomicStructureAndActivitiesType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TotalEconomicStructureAndActivitiesType

都市計画基礎調査データ項目	対応するクラス		
	位置図及び分布図	調書	集計表
C0301：区域区分の状況	都市計画区域 urf::UrbanPlanningArea 準都市計画区域 urf::QuasiUrbanPlanningArea , 市街化地域、市街化調整地域 urf::AreaClassification, 非線引き用途地域 urf::UnclassifiedUseDistrict 非線引き用途白地 urf::UnclassifiedBlankDistrict 居住誘導区域 urf::ResidenceAttractionArea 都市機能誘導区域 urf::UrabanFunctionAttractionArea	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::AreaClassificationType	―
C0302：土地利用状況	luse::LandUse uro::LandUseDetailAttribute uro::LandUseDataQualityAttribute	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::LandUseType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TotalAreaByLandUseType
C0303：国公有地の状況	uro::PublicLand	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::PublicLandType	―
C0304：宅地開発状況	urf::DevelopmentProject	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::ResidentialDevelopmentType, urf::UrbanDevelopmentProjectType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TotalLandUseChangeType
C0305：農地転用状況	urf::LandUseDiversion	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::FarmlandConversionType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TotalLandUseChangeType
C0306：林地転用状況	urf::LandUseDiversion	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::ForestConversionType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TotalLandUseChangeType
C0307：新築動向	urf::NewHousing	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::NewHousingType	urf::TotalLandUseChangeType
C0308：条例・協定	urf::Agreement	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::AgreementType	―
C0309：農林漁業関係施策適用状況	urf::DevelopmentProject	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::AgreculturalDevelopmentType	―
C0401：建物利用現況	bldg::Building urf::BuildingDetailAttribute	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::BuildingType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::BuildingTotalType,

都市計画基礎調査データ項目	対応するクラス		
	位置図及び分布図	調書	集計表
C0402：大規模小売店舗等の立地状況	bldg::Building urf::LargeCustomerAttribute	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::LargCustomerFacilityType	―
C0403：住宅の所有関係別建て方別世帯数	―	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::NumberOfHouseholdType
C0501：都市施設の位置・内容等	urf::UrbanFacilityStatus	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::UrbanFacilityStatusType	―
C0502：道路の状況	tran::Road uro::RoadStructureAttribute	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::RoadType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::RoadWidthType
C0601：主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度	tran::Road uro::TrafficVolumeAttribute	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TrafficVolumeType	―
C0602：自動車流動量	―	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TrafficFlowVolumeType
C0603：鉄道・路面電車等の状況	urf::PublicTransitFacility	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::RailwayType	―
C0604：バスの状況	urf::PublicTransitFacility	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::BusCustomerType, urf::BusFrequencyType	―
C0701：地価の状況	urf::LandPrice	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::LandPriceType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::LandPriceAverageType
C0801：地形・水系・地質条件	urf::NaturalConditions	―	―
C0802：気象状況	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::WeatherObservationType	―
C0803：緑の状況	urf::GreenSpace	―	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::GreenSpaceAreaType
C0804：動植物調査	urf::DistributionOfFloraAndFauna	―	―
C0901：災害の発生状況	災害の発生状況 urf::DisasterDamage がけ崩れ発生回数図 urg::LandSlideDisaster	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード	―

都市計画基礎調査データ項目	対応するクラス		
	位置図及び分布図	調書	集計表
		urf::FloodingDamageType, urf::InlandFloodingDamageType, urf::LandSlideDamageType	
C0902：防災施設の位置及び整備の状況	urf::DisasterPrevaentionBase	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::DisasterPrevaentionBaseType	―
C1001：観光の状況	urg::Accomodation	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::AccomodationType	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::TouristAndTourismConsumptionType
C1002：景観・歴史資源等の状況	urf::ScenicResource	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::ScenicResourceType	―
C1003：レクリエーション施設の状況	urf::Recreation	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::RecreationType	―
C1004：公害の発生状況	urf::Pollution	表 urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable レコード urf::PollutionType	―

4.3.2　応用スキーマクラス図

位置図の表現には、図上の図形表現に使用する地物の空間属性及び図上の色分け等に使用する地物の属性が必要である。応用スキーマクラス図では、地物の空間属性を、地物型からの幾何オブジェクト（例：*gml::MultiSurface*）への関連として記述する。また、地物の属性は、地物型を示すクラスの属性、又は地物型から合成関連により合成されるデータ型として記述する。

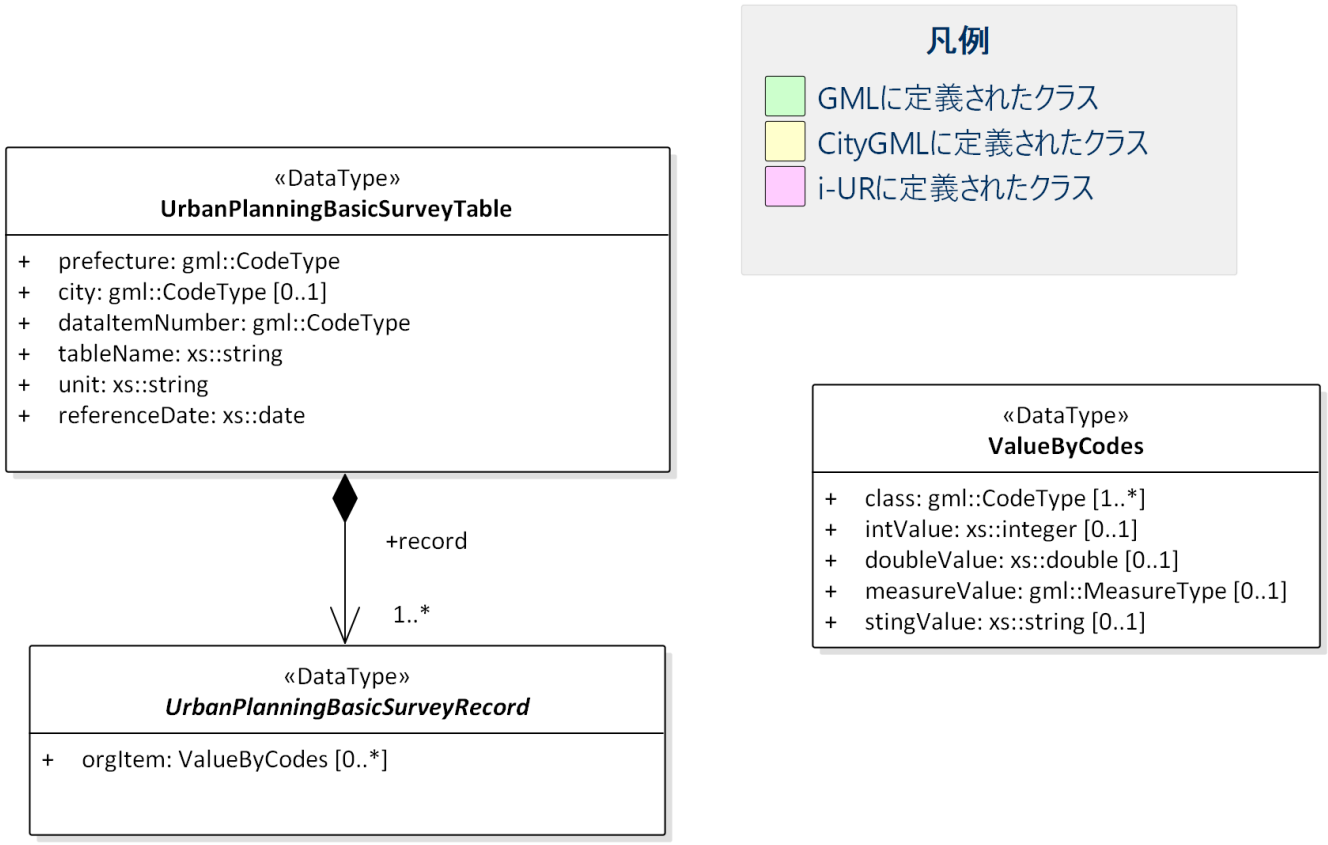
調書及び集計表を表現には、調書や集計表の個々のレコードを示す型と、レコードを束ねて 1 つの表として統合する型が必要となる。応用スキーマクラス図では、これらをそれぞれデータ型（ステレオタイプが DataType）として記述する。

(1)　調書及び集計表

urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable は、調書及び集計表の表を表現するデータ型である。

urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord は、調書及び集計表に含まれる個々のレコードを表現するデータ型の抽象型である。

urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable は、一つ以上の *urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord* を合成する（関連役割 *record*）。



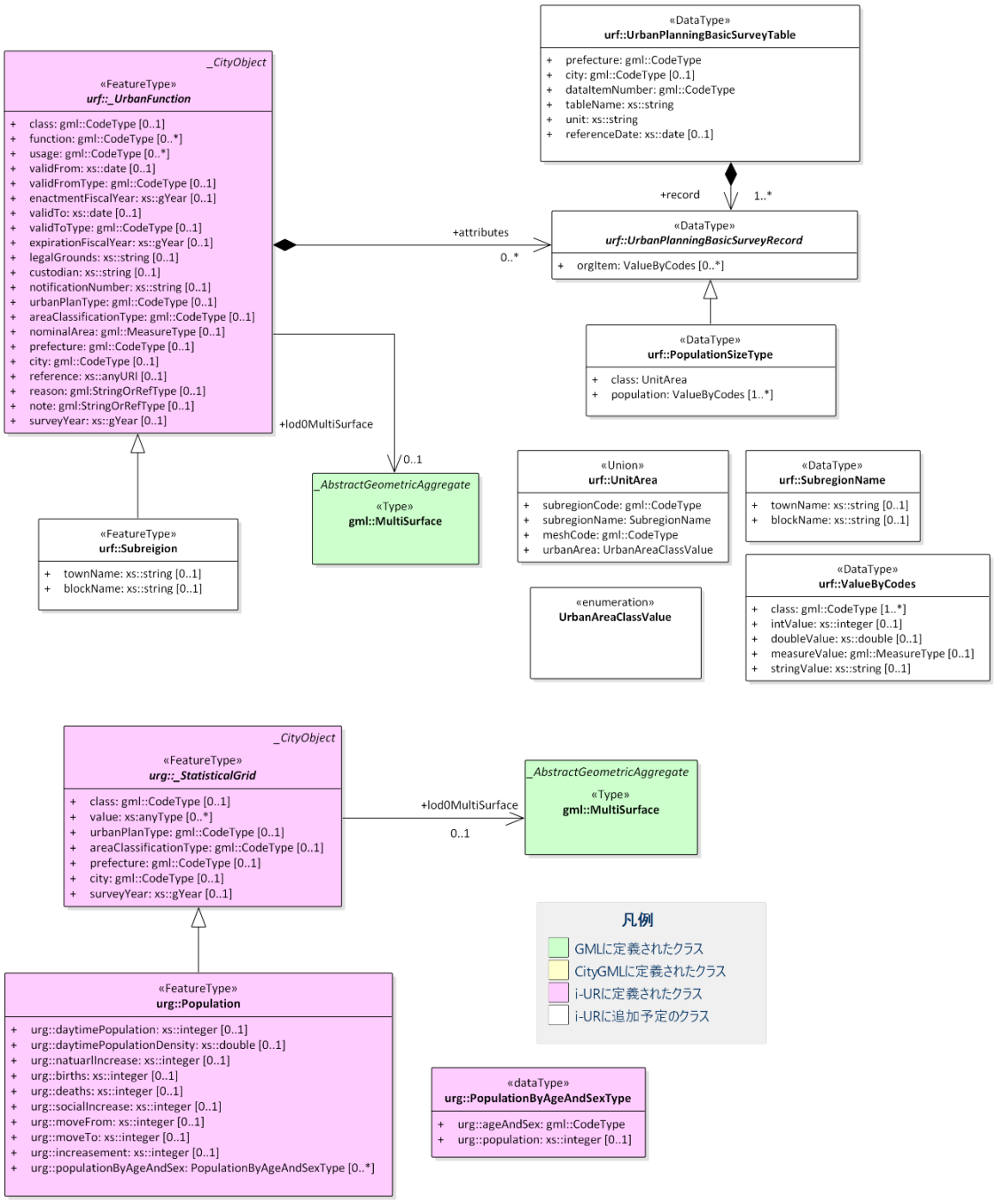
具体的な都市計画基礎調査の調書や集計表のレコードは、*urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord* を継承するデータ型として定義する。

(2) 人口

- C0101 人口規模

位置図を小地域単位で作成する場合は、*urf::Subregion* を使用し、属性のデータ型として *urf::PopulationSizeType* を使用する。また、位置図をメッシュ単位で作成する場合には、*urg::Population* を使用する。

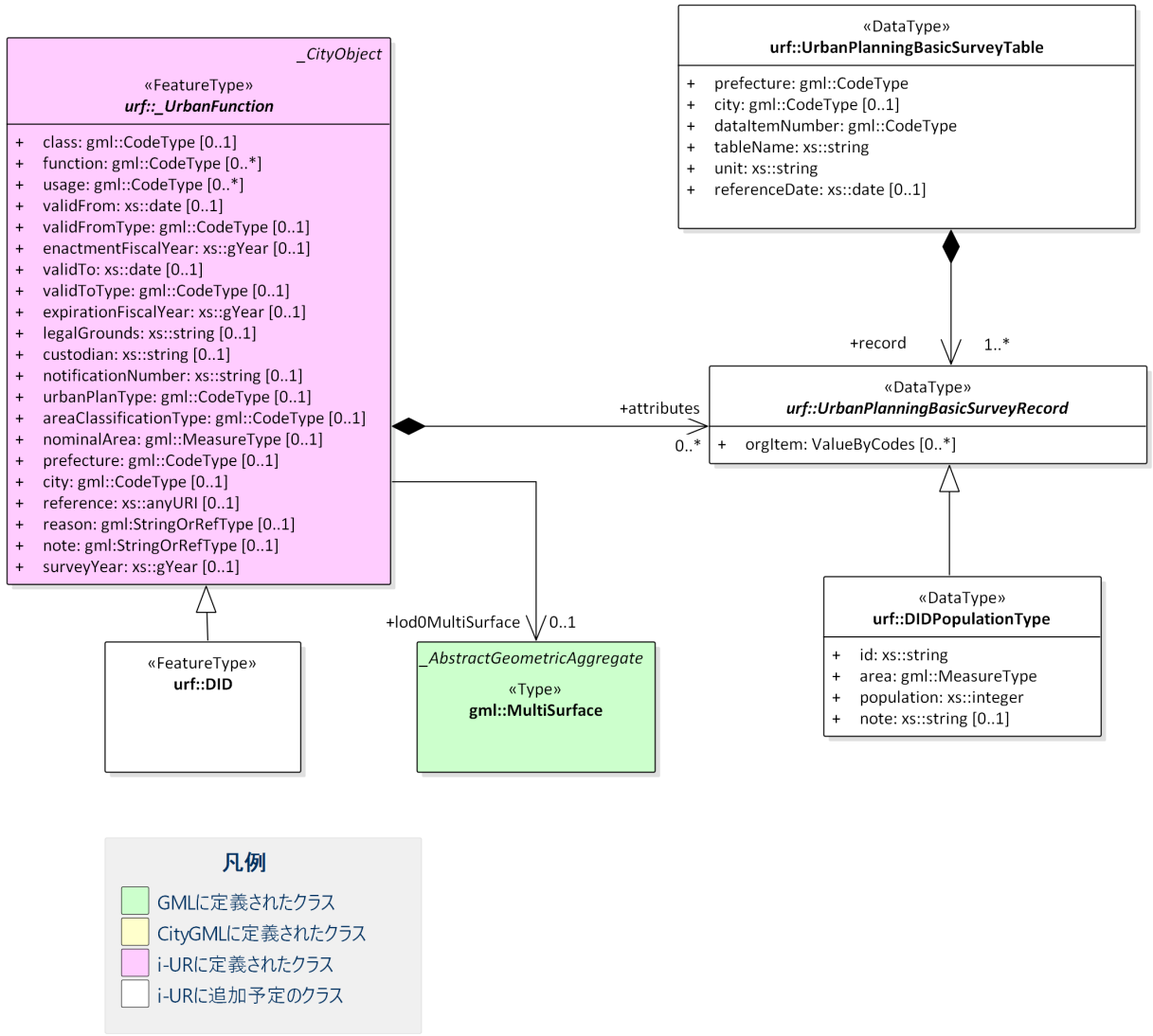
集計表のレコードの型として、*urf::PopulationSizeType* を使用する。



- C0102　DID

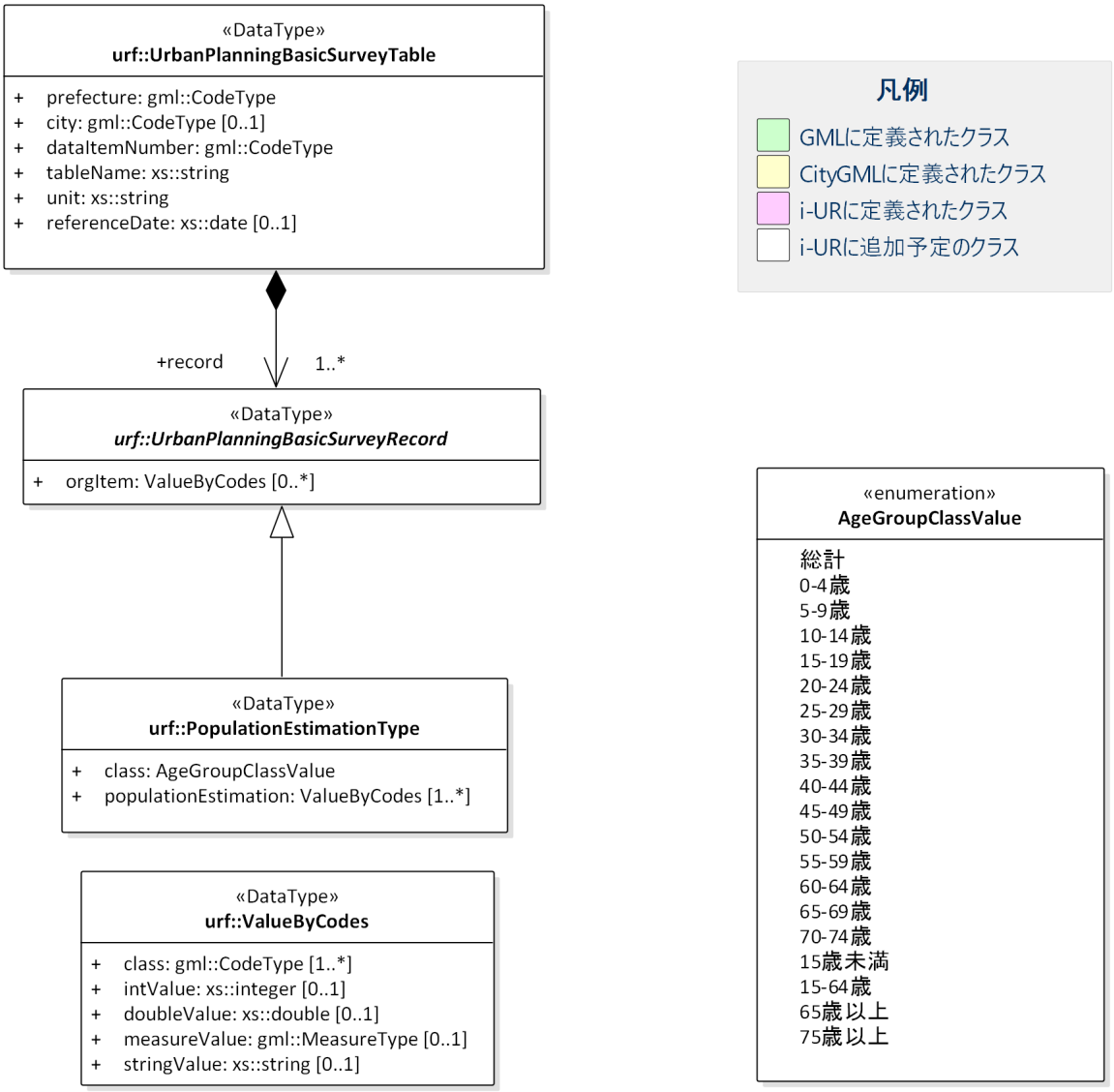
  位置図は、*urf::DID* を使用し、属性のデータ型として *urf::DIDPopulationType* を使用する。

  調書のレコードの型として、*urf::DIDPopulationType* を使用する。



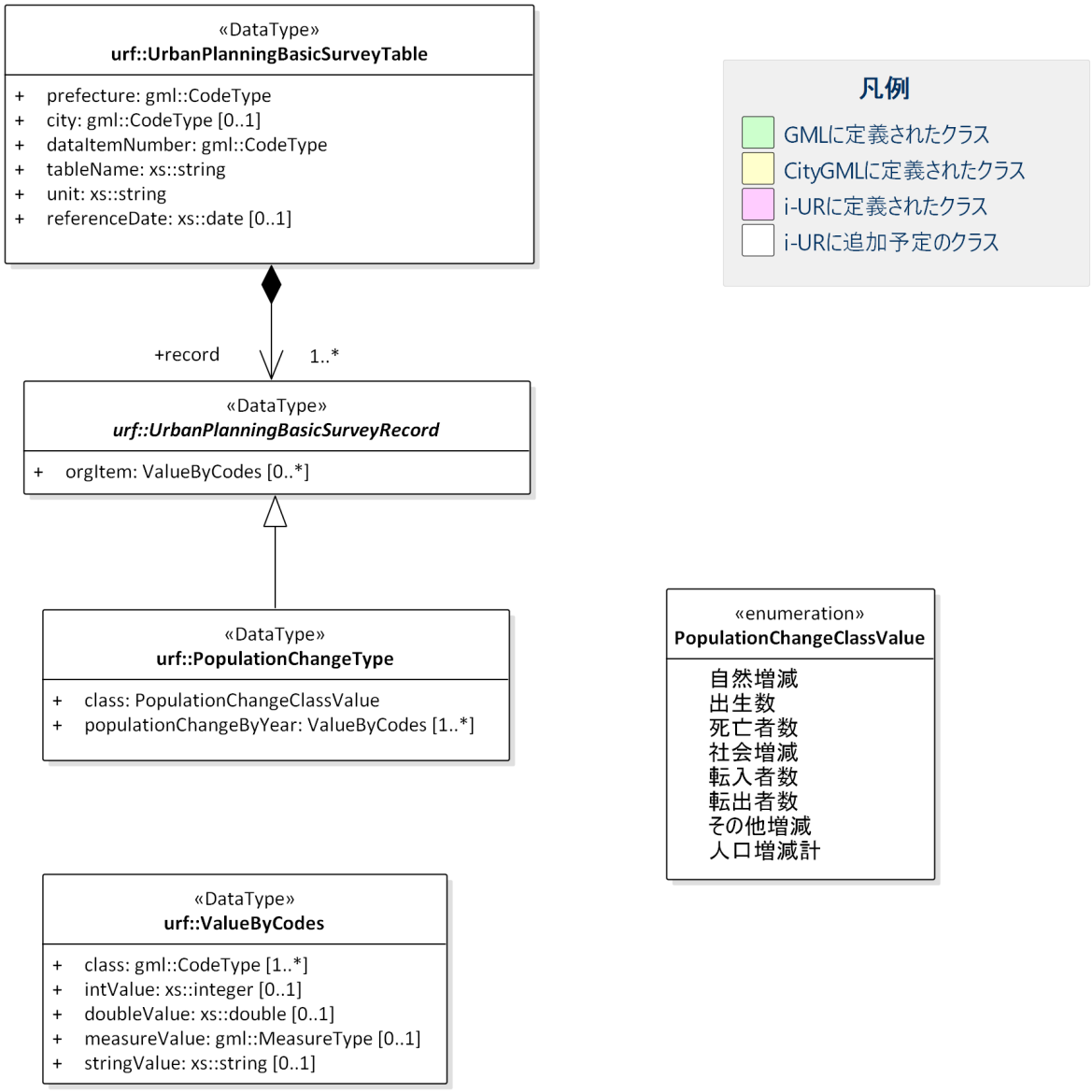
- C0103　将来人口

  集計表のレコードの型として、*urf::PopulationEstimationType* を使用する。



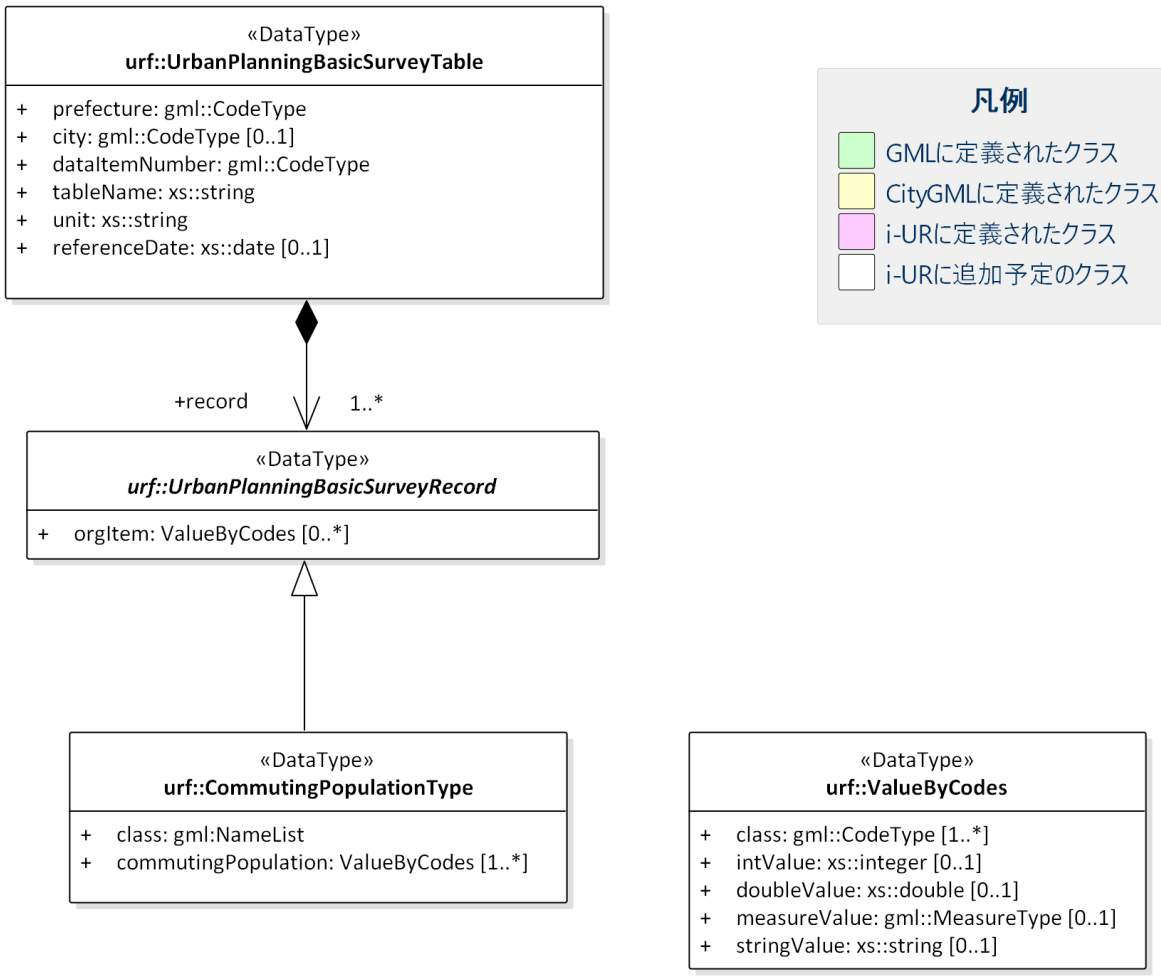
- C0104　人口増減

  集計表のレコードの型として、*urf::PopulationChangeType* を使用する。



- C0105　通勤通学

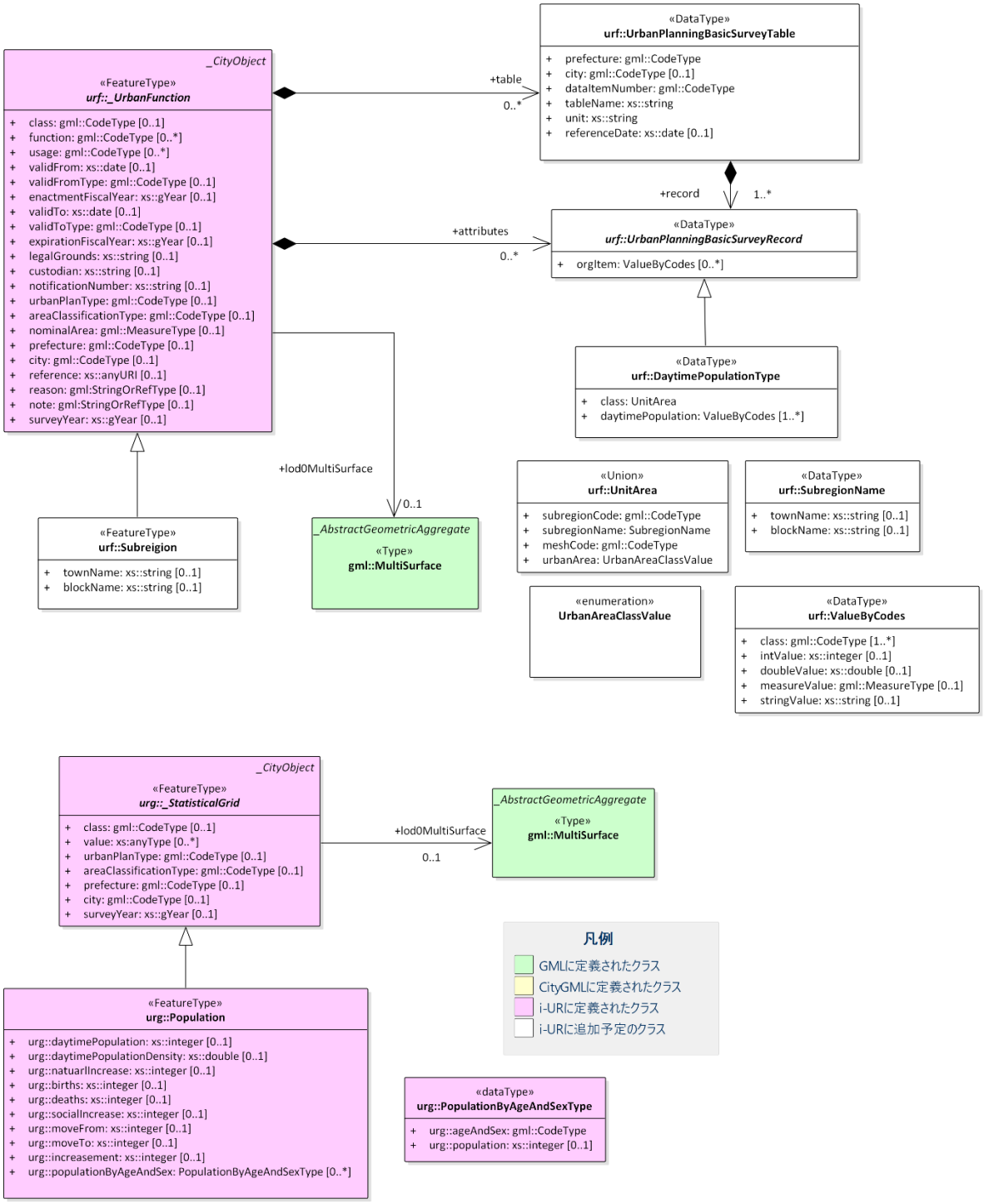
  集計表のレコードの型として、*urf::CommutingPopulationType* を使用する。



- C0106　昼間人口

  位置図を小地域単位で作成する場合は、*urf::Subregion* を使用し、属性のデータ型として *urf::DaytimePopulationType* を使用する。また、位置図をメッシュ単位で作成する場合には、urg::Population を使用する。

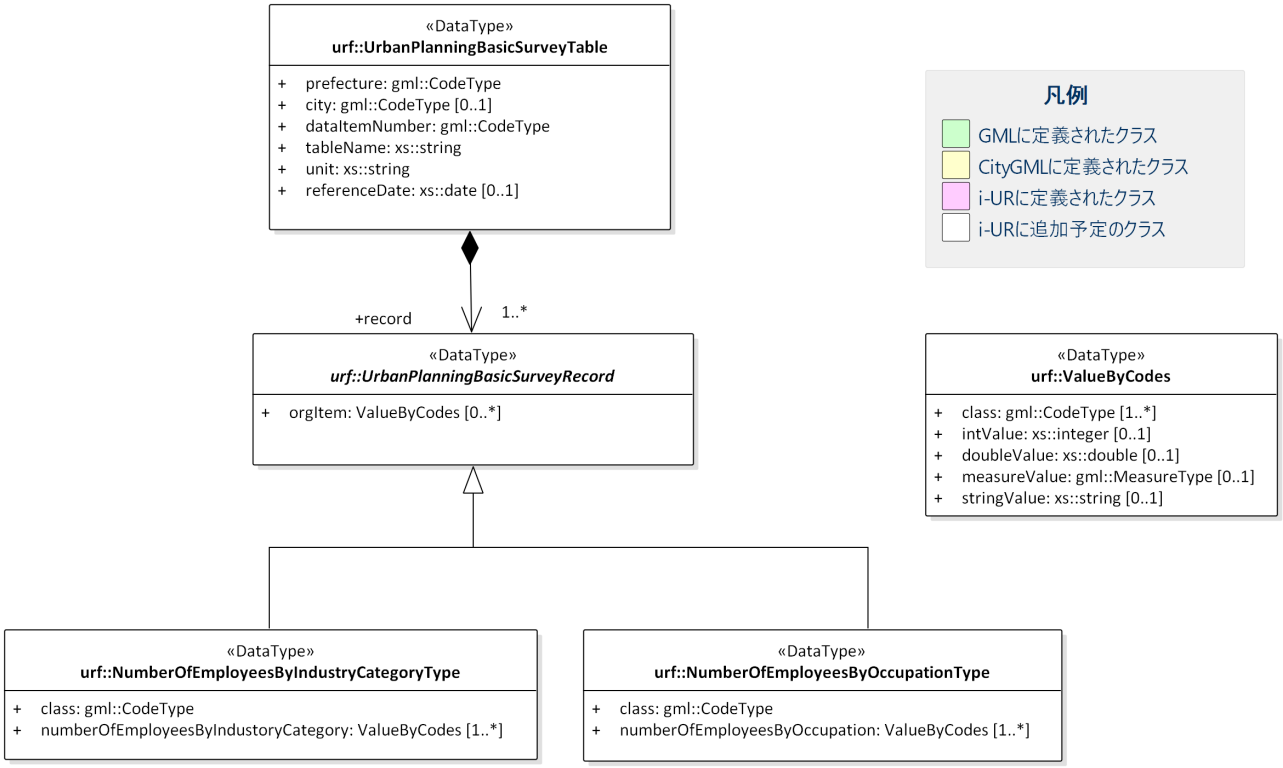
  集計表のレコードの型として、*urf::DaytimePopulationType* を使用する。



(3) 産業

- C0201 産業・職業分類別就業者数

  集計表のレコードの型として、産業分類別就業者数の場合は *urf::NumberOfEmploeesByIndustoryCategoryType*、職業分類別就業者数の場合は *urf::NumberOfEmploeesByOccupationType* を使用する。

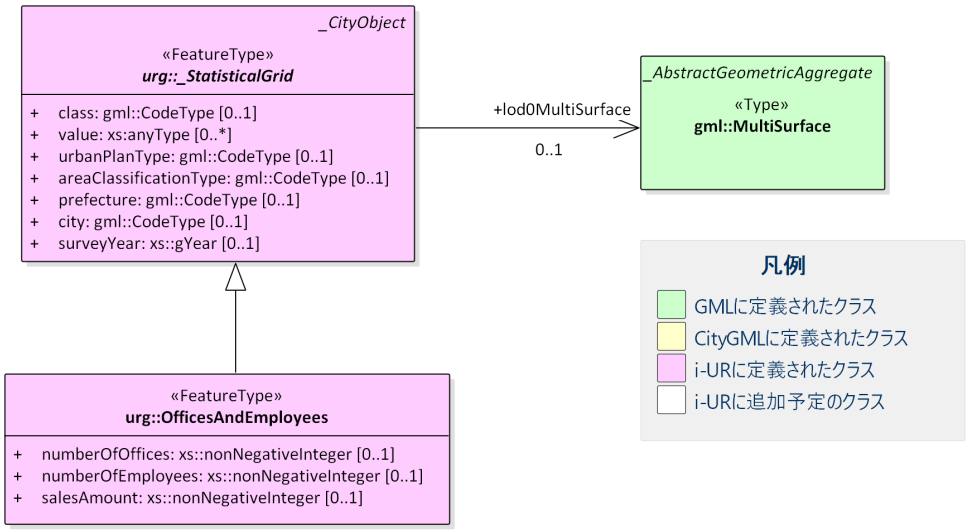


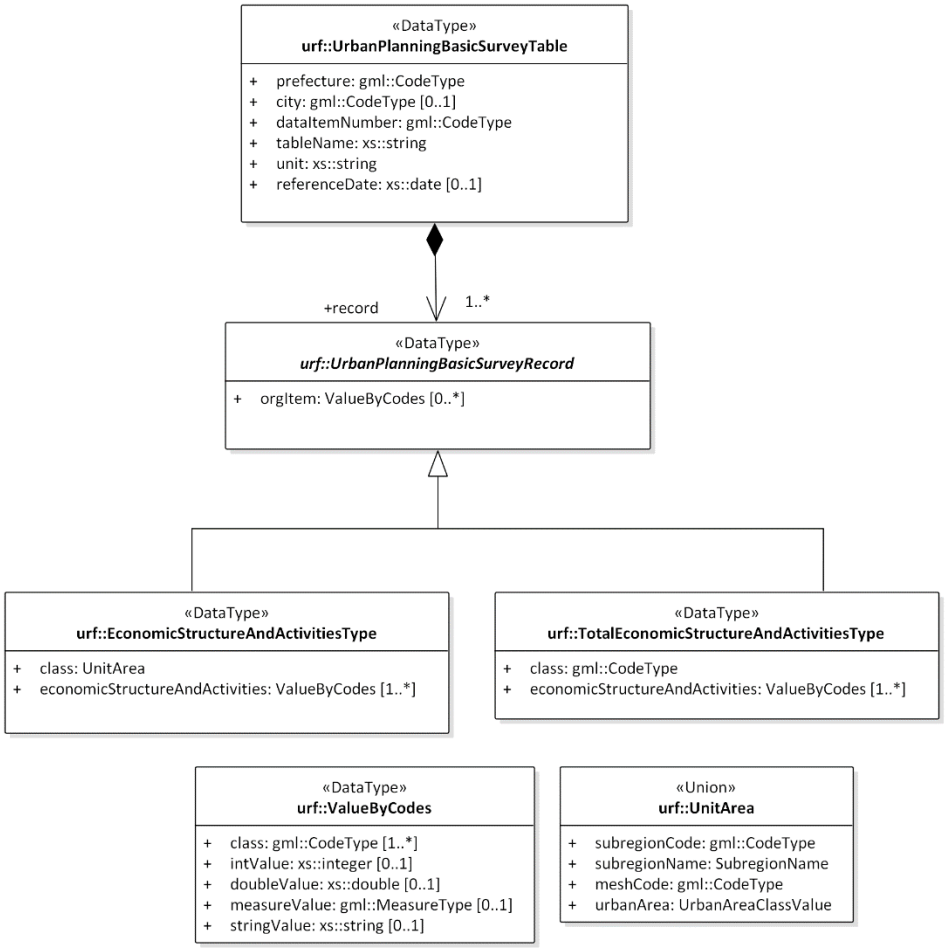
- C0202　事業所数・従業者数・売上金額

  メッシュ単位の位置図には *urg::OfficeAndEmployees* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::EconomicStrutureAndActivitiesType* を使用する。

  集計表のレコードの型には、*urf::TotalEconomicStructureAndActivitiesType* を使用する。



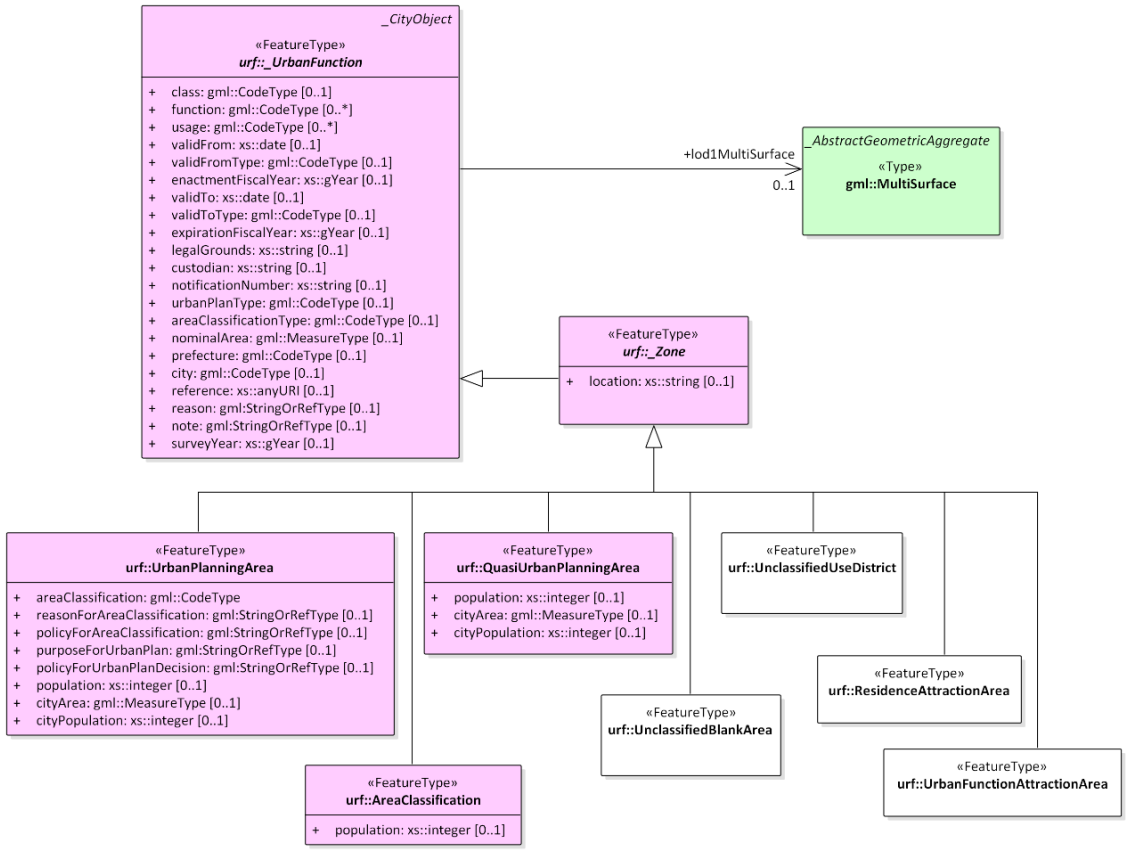


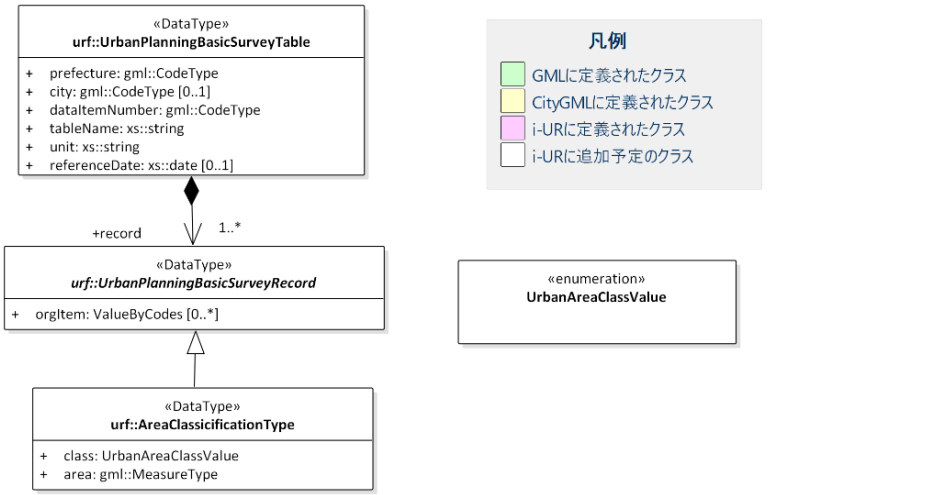
(4) 土地利用

- C0301　区域区分の状況

位置図には、urf::UrbanPlanningArea（都市計画区域）、urf::QuasiUrbanPlanningArea（準都市計画区域）、urf::AreaClassification（区域区分）、urf::UnclassifiedUseDistrict（非線引き用途地域）、urf::UnclaccifiedBlankDistrict（非線引き用途白地）urf::ResidenceAttractionArea（居住誘導区域）及び urf::UrbanFunctionAttarctionArea（都市機能誘導区域）を使用する。

調書のレコードの型には、*urf::AreaClassificationType* を使用する。



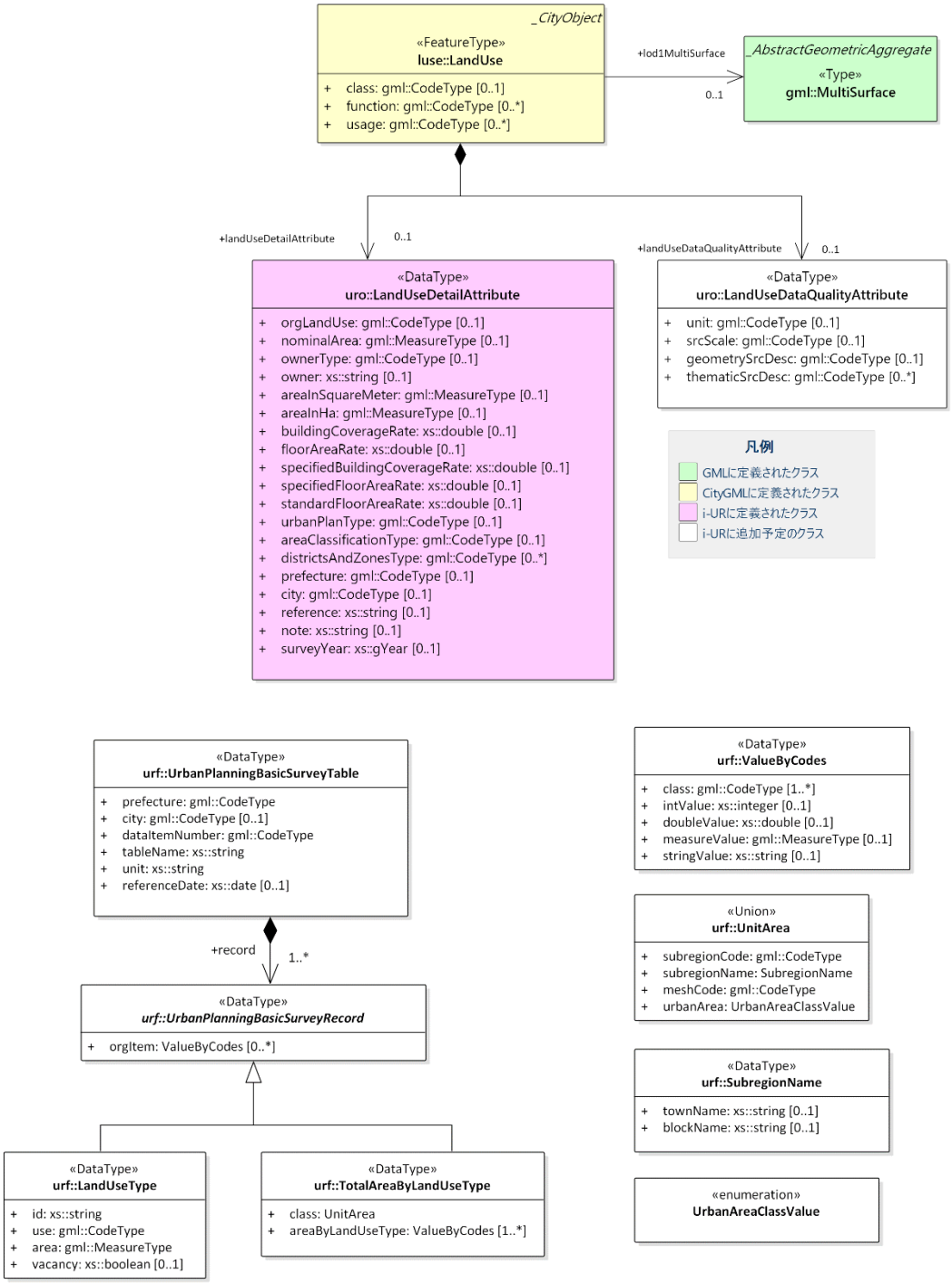


- C0302　土地利用現況

位置図には、*luse::LandUse* を使用する。*uro::LandUseDetailAttribute* は、土地利用に付与する属性を格納するデータ型である。また、*uro::LanduseDataQualityAttribute* には、土地利用のポリゴンの単位（敷地又は筆）やこのポリゴンを取得した原典資料の種類を格納するためのデータ型である。

調書のレコードの型には、*urf::LandUseType* を使用する。

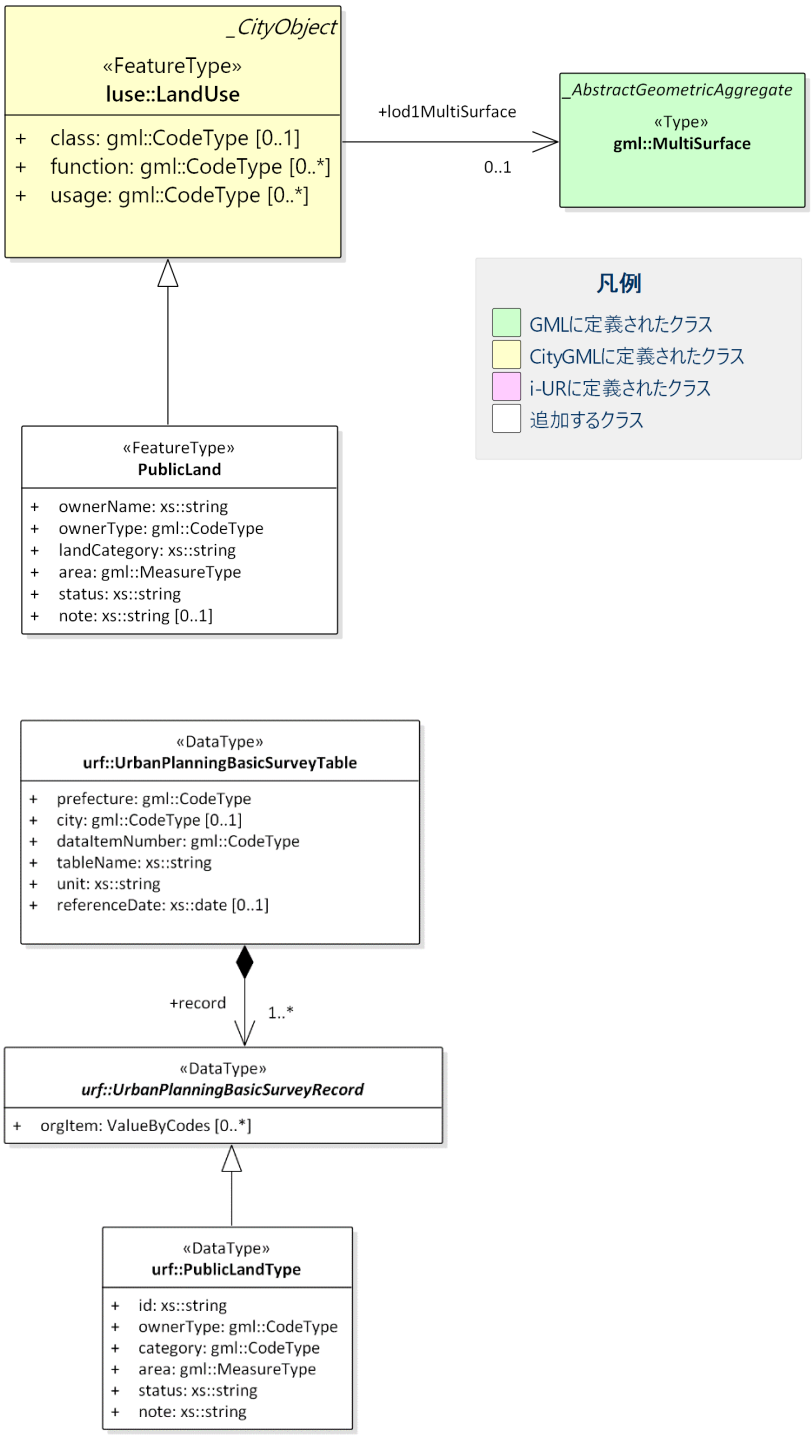
集計表のレコードの型には、*urf::TotalAreaByLandUseType* を使用する。



- C0303 国公有地の状況

  位置図には、*uro::PublicLand* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::PublicLandType* を使用する。

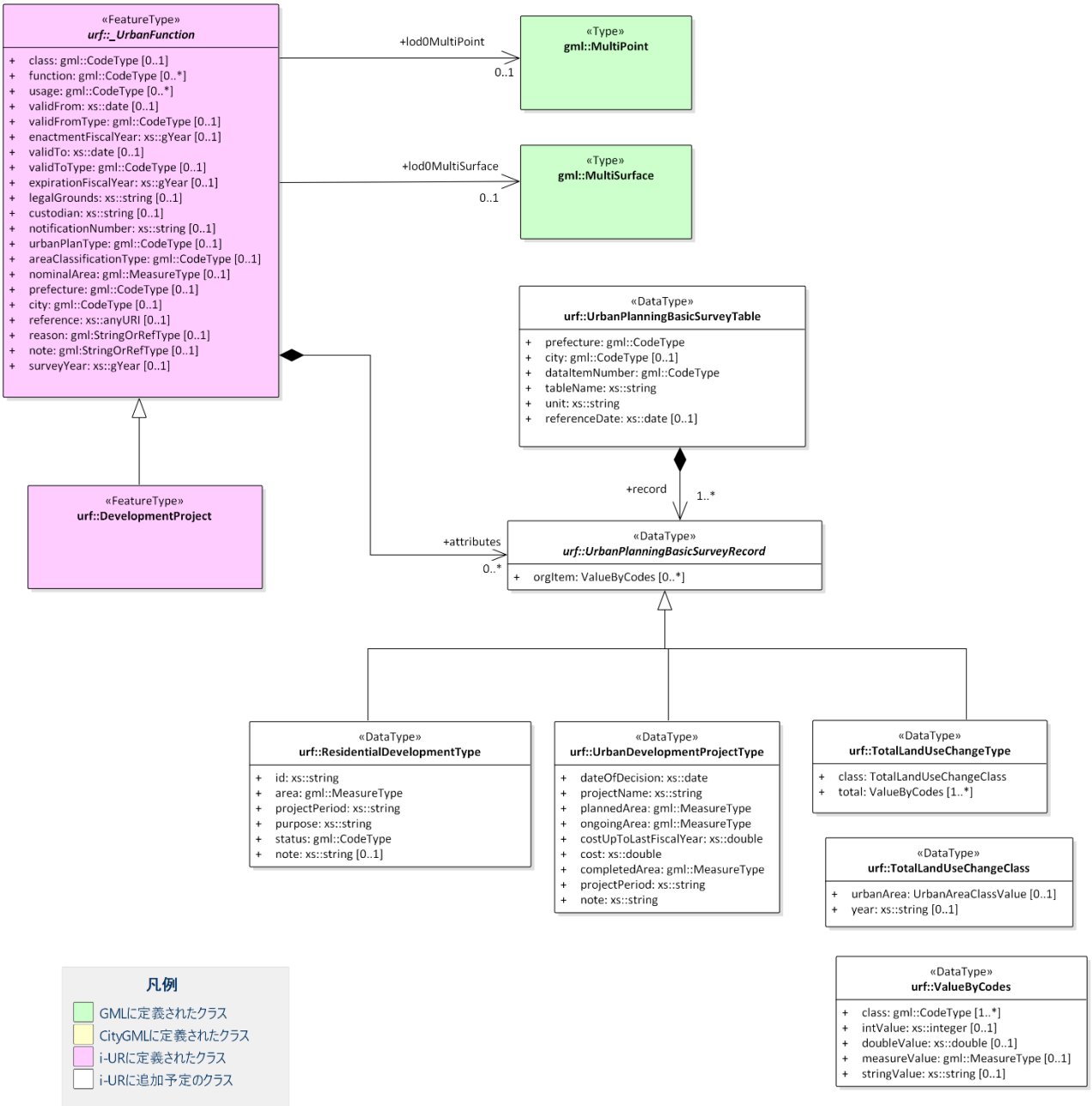


- C0304　宅地開発状況

位置図には、市街地開発事業等及び開発許可による開発には *urf::DevelopmentProject* を使用する。属性を格納するデータ型として、市街地開発事業等の場合は、*urf::UrbanDevelopmentProjectType*、開発許可による開発の場合は *urf::ResidentialDevelopmentType* を使用する。

調書のレコードの型には、市街地開発事業等の場合は、*urf::UrbanDevelopmentProjectType*、開発許可による開発の場合は *urf::ResidentialDevelopmentType* を使用する。

集計表のレコードの型には、*urf::TotalLandUseChangeType* を使用する。

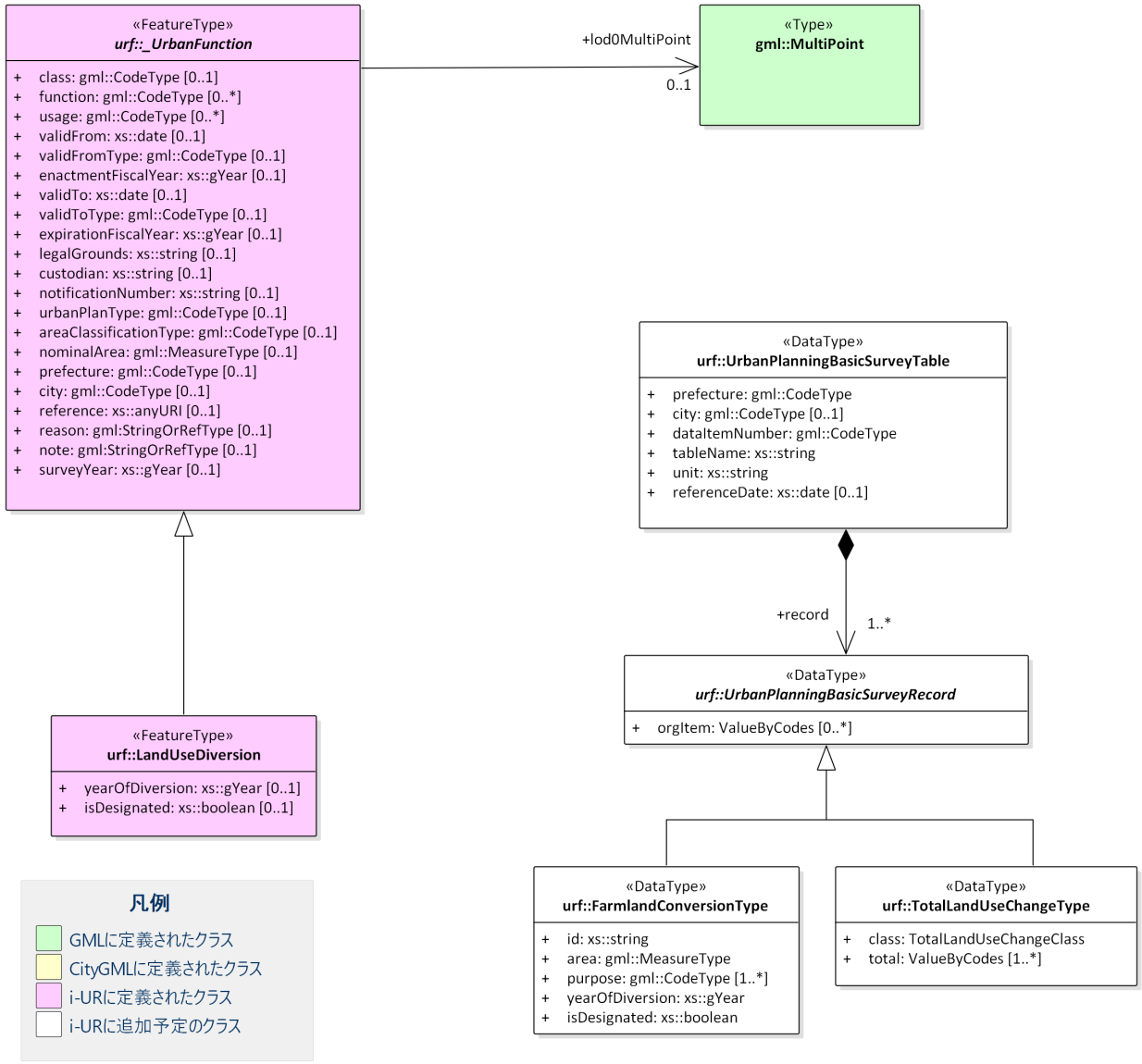


- C0305　農地転用状況

  位置図には、*urf::LandUseDiversion* を使用する。

  調書に使用するデータ型には、*urf::FarmlandConversionType* を使用する。

  集計表に使用するデータ型には、*urf::TotalLandUseChangeType* を使用する。

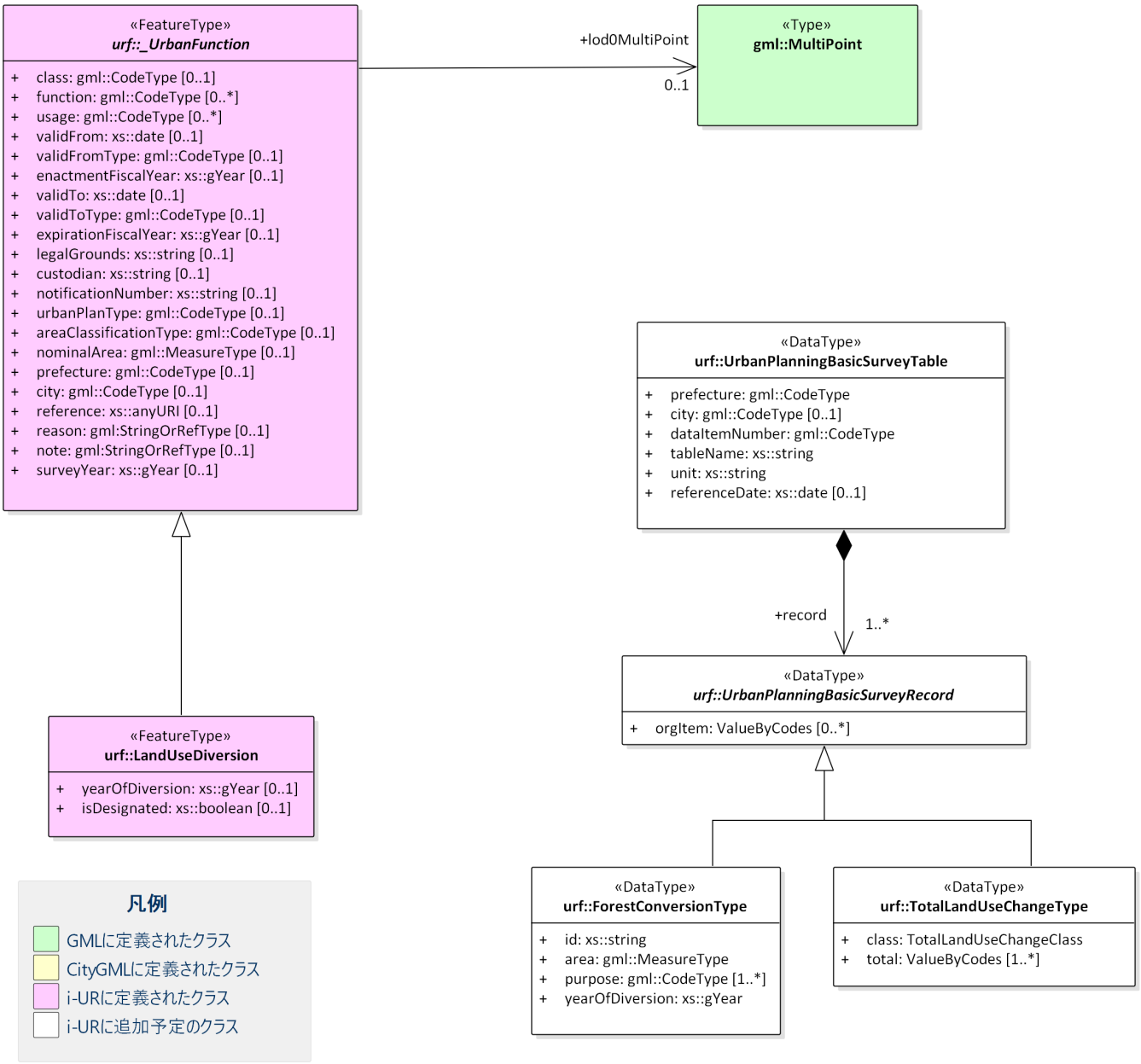


- C0306　林地転用状況

  位置図には、*urf::LandUseDiversion* を使用する。属性を格納するデータ型として、*urf::ForestConversionType* を使用する。

  調書に使用するデータ型には、*urf::ForestConversionType* を使用する。

  集計表に使用するデータ型には、*urf::TotalLandUseChangeType* を使用する。

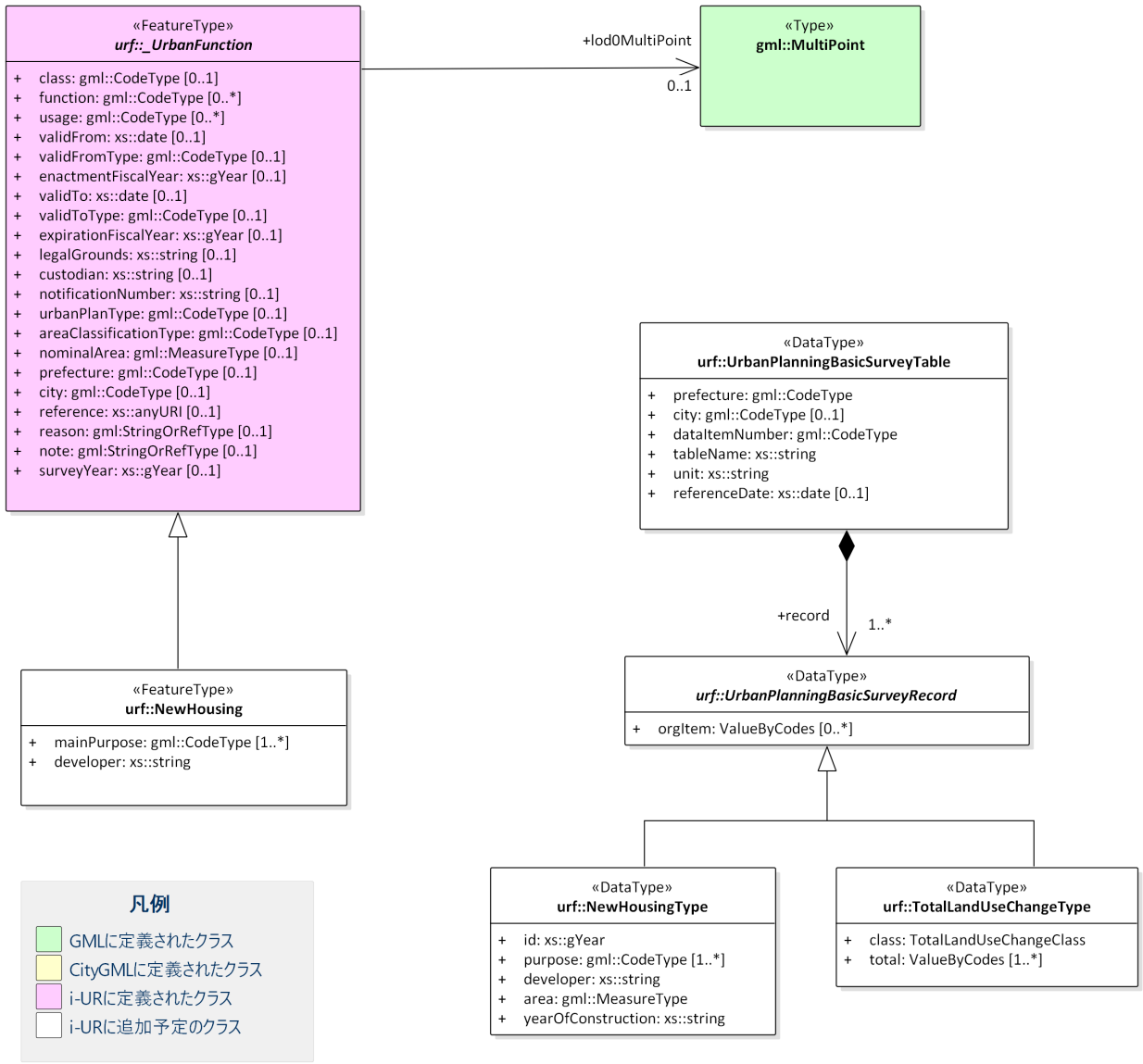


- C0307　新築動向

  位置図には、*urf::NewHousing* を使用する。

  調書に使用するデータ型には、*urf:: NewHousingType* を使用する。

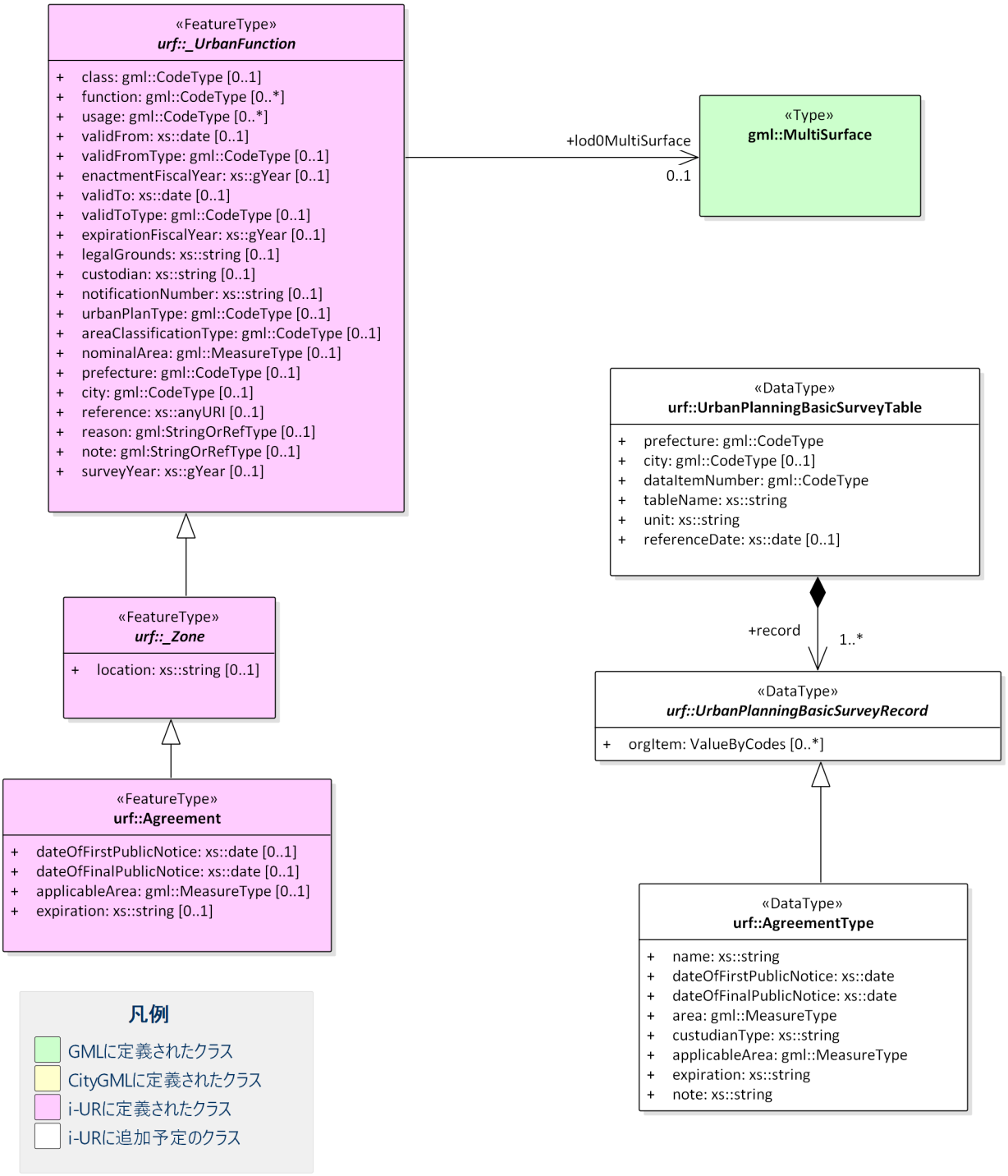
  集計表に使用するデータ型には、*urf::TotalLandUseChangeType* を使用する。



- C0308　条例・協定

  位置図には、*urf::Agreement* を使用する。

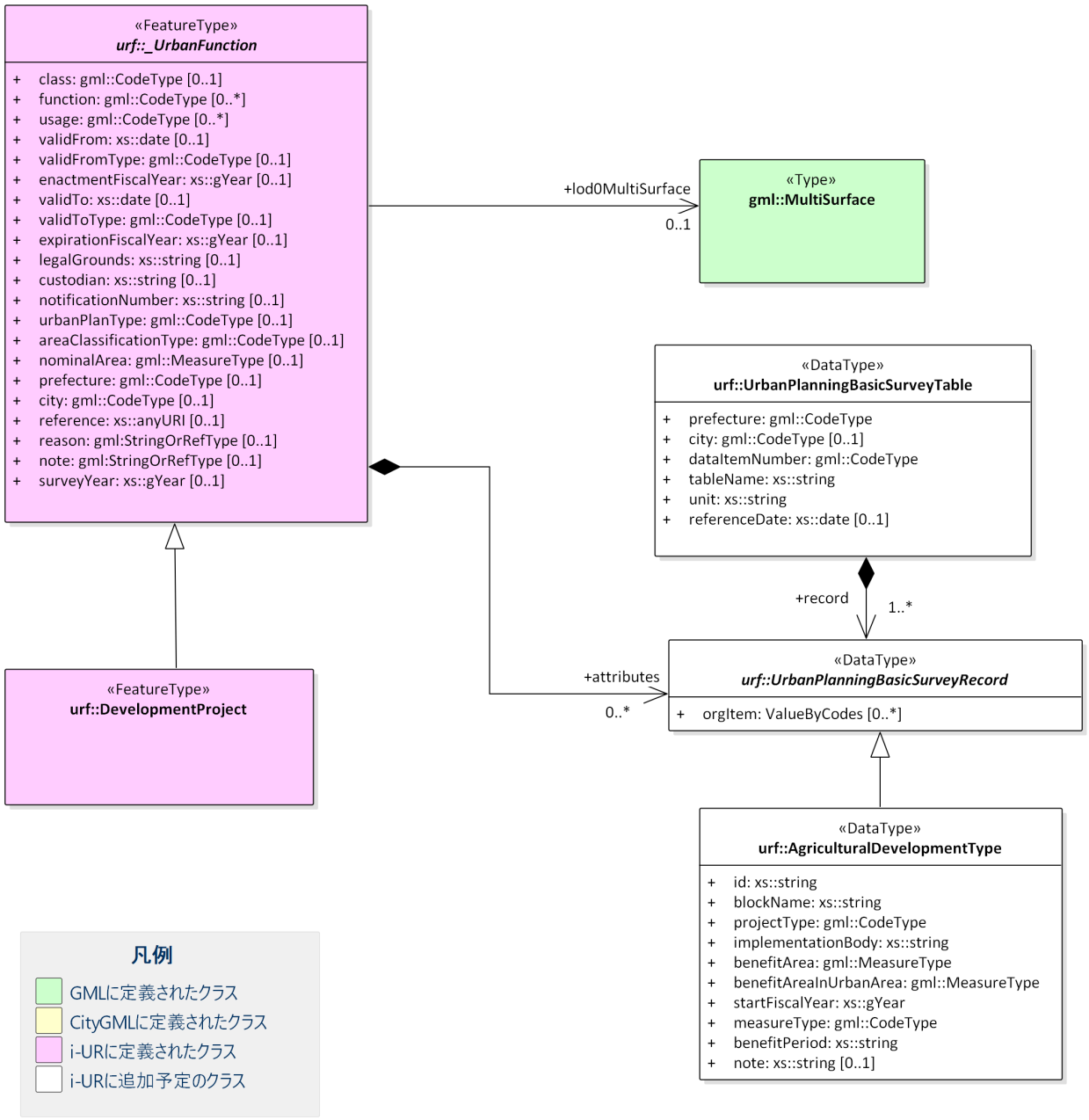
  調書のレコードの型には、*urf::AgreementType* を使用する。



- C0309　農林漁業関係施策適用状況

  位置図には、*urf::DevelopmentProject* を使用し、属性を格納するデータ型には、*urf::AgriculturalDevelopmentType* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::AgriculturalDevelopmentType* を使用する。



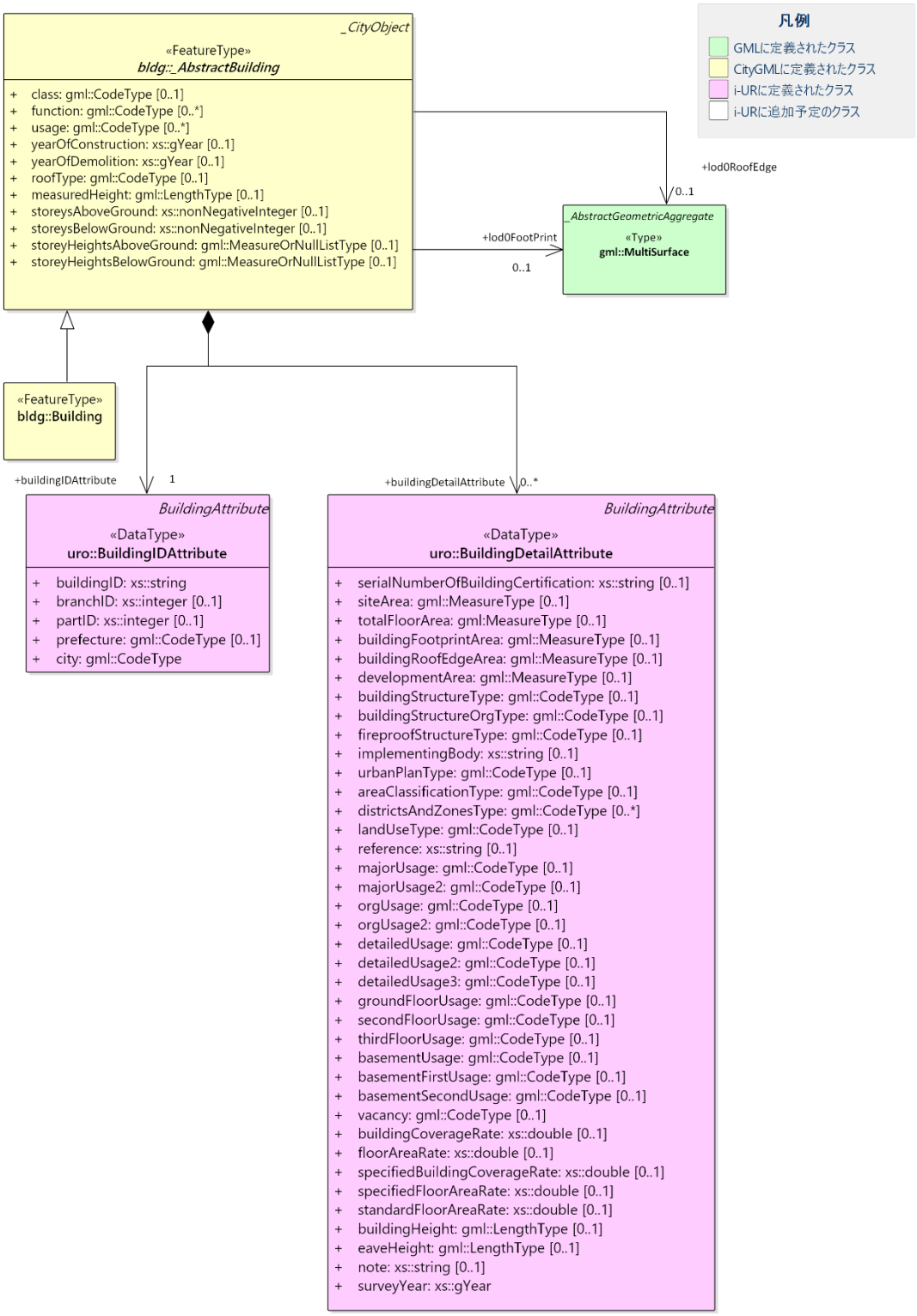
(5) 建物

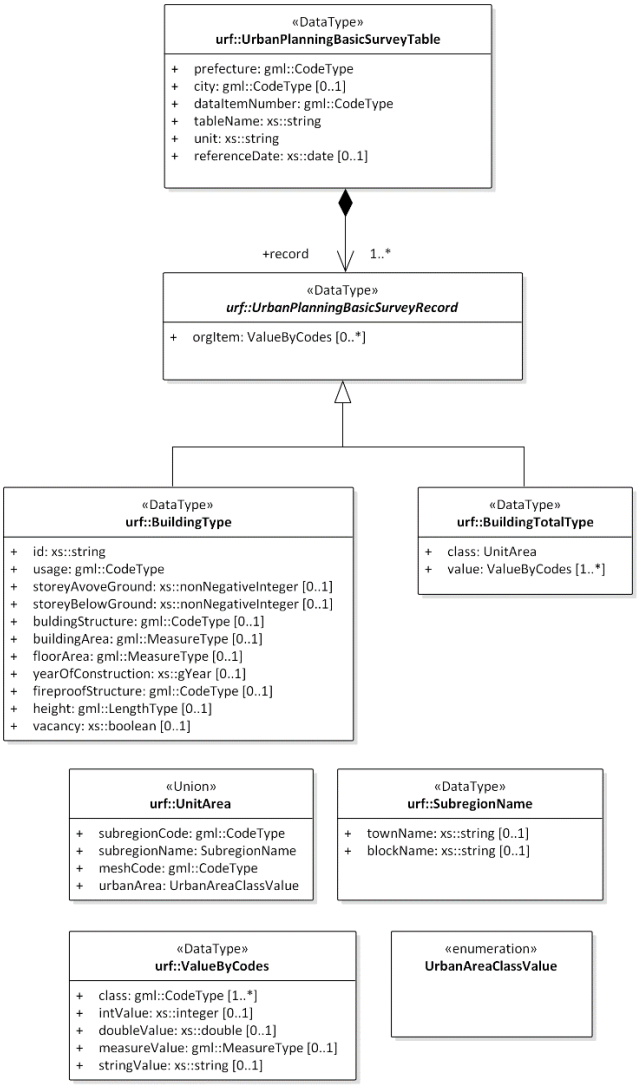
- C0401　建物利用現況

  位置図には、*bldg::Building*を使用し、属性を格納するデータ型には、*uro::BuildingDetailAttribute*及び *uro::BuildingIdAttribute* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::BuildingType*を使用する。

  集計表のレコードの型には、*urf::BuildingTotalType*を使用する。

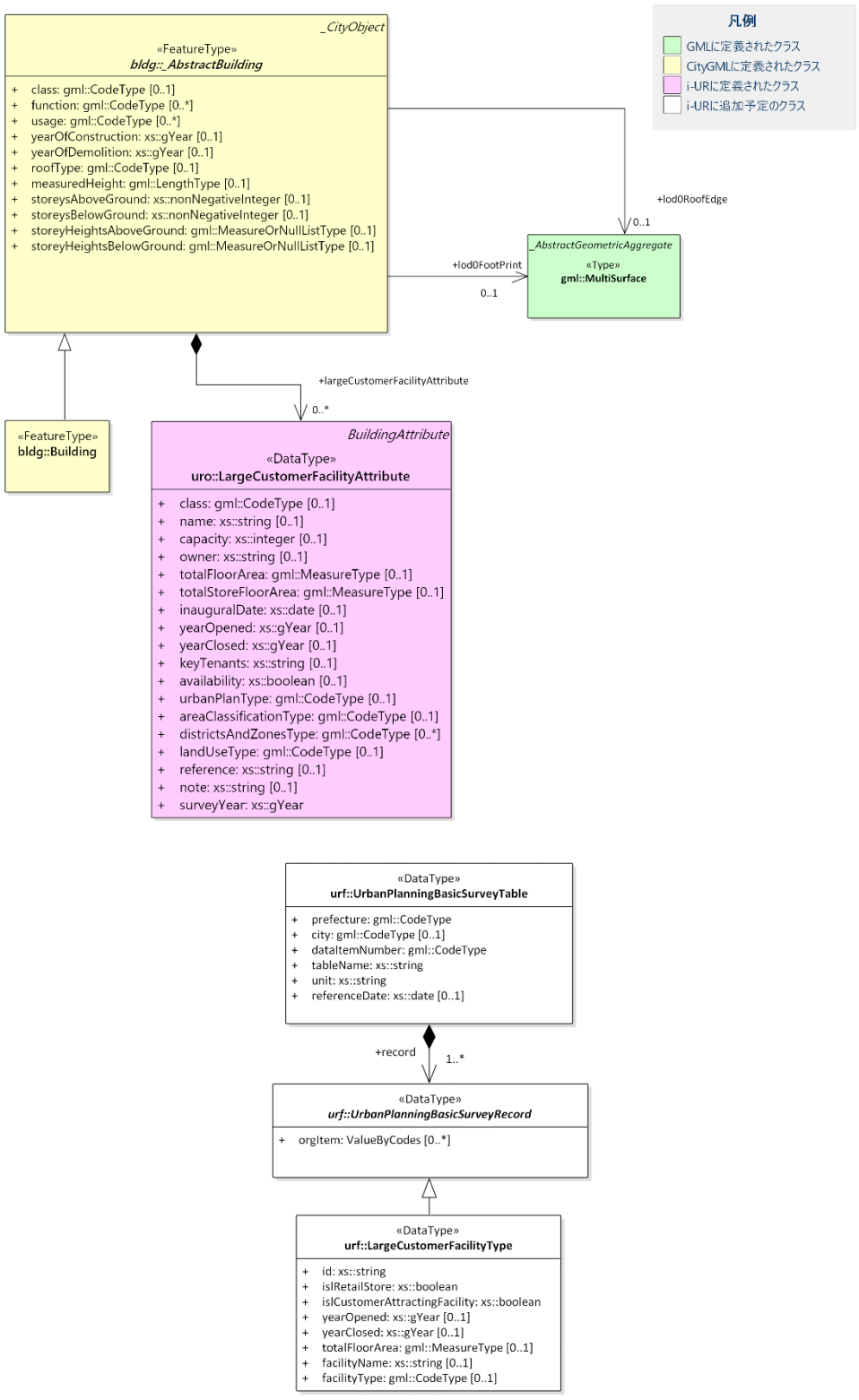



«DataType»
urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable
+ prefecture: gml::CodeType
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ dataItemNumber: gml::CodeType
+ tableName: xs::string
+ unit: xs::string
+ referenceDate: xs::date [0..1]
+record
1..*
«DataType»
urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord
+ orgItem: ValueByCodes [0..*]
«DataType»
urf::BuildingType
+ id: xs::string
+ usage: gml::CodeType
+ storeyAvoveGround: xs::nonNegativeInteger [0..1]
+ storeyBelowGround: xs::nonNegativeInteger [0..1]
+ buldingStructure: gml::CodeType [0..1]
+ buildingArea: gml::MeasureType [0..1]
+ floorArea: gml::MeasureType [0..1]
+ yearOfConstruction: xs::gYear [0..1]
+ fireproofStructure: gml::CodeType [0..1]
+ height: gml::LengthType [0..1]
+ vacancy: xs::boolean [0..1]
«DataType»
urf::BuildingTotalType
+ class: UnitArea
+ value: ValueByCodes [1..*]
«Union»
urf::UnitArea
+ subregionCode: gml::CodeType
+ subregionName: SubregionName
+ meshCode: gml::CodeType
+ urbanArea: UrbanAreaClassValue
«DataType»
urf::SubregionName
+ townName: xs::string [0..1]
+ blockName: xs::string [0..1]
«DataType»
urf::ValueByCodes
+ class: gml::CodeType [1..*]
+ intValue: xs::integer [0..1]
+ doubleValue: xs::double [0..1]
+ measureValue: gml::MeasureType [0..1]
+ stringValue: xs::string [0..1]
«enumeration»
UrbanAreaClassValue

- C0402 大規模小売店舗等の立地状況

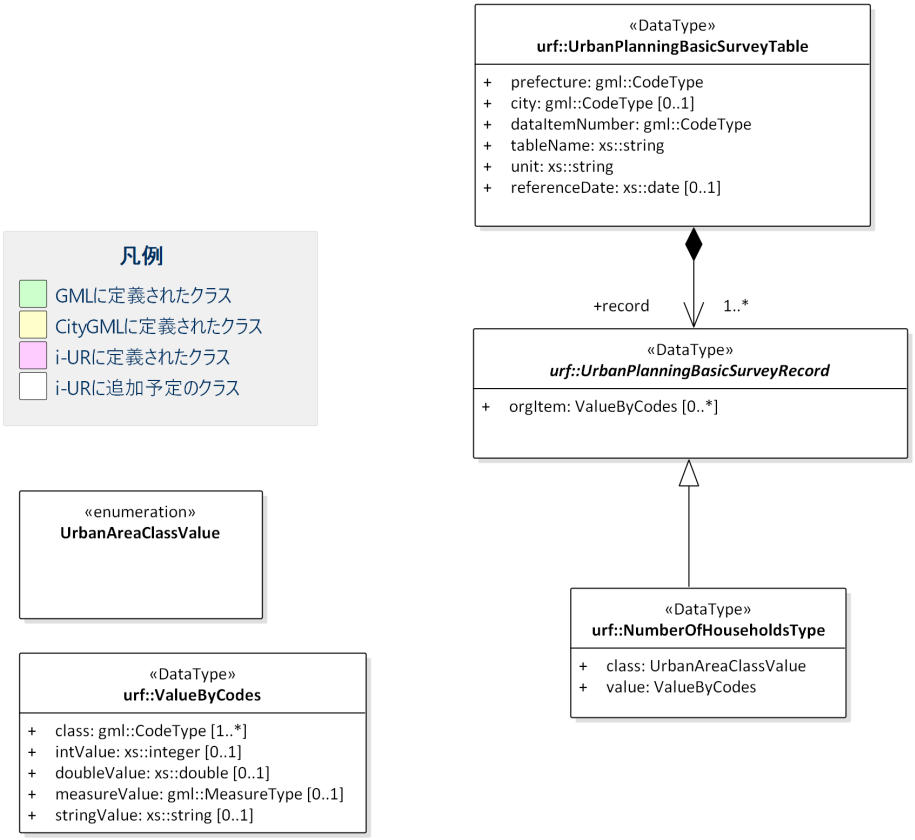
  位置図には、*bldg::Building* 及び *uro::LargeCustomerFacilityAttribute* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::LargeCustomerFacilityType* を使用する。



- C0403　住宅の所有関係別・建て方別世帯数

  集計表のレコードの型には、*urf::NumberOfHouseholdsType* を使用する。

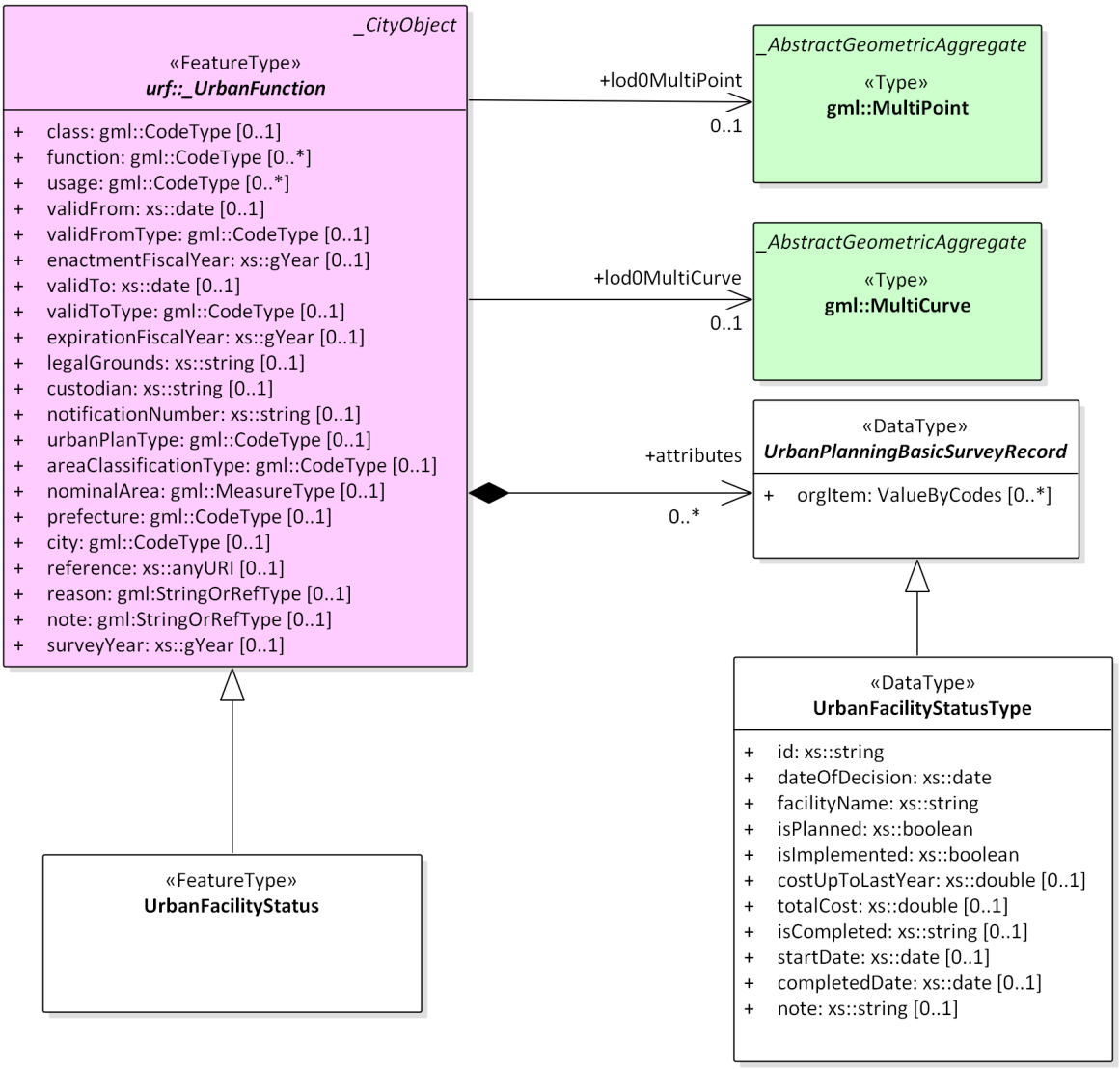


(6) 都市施設

- C0501　都市施設の位置及び内容

  位置図には、*urf::UrbanFacilityStatus* を使用し、属性を格納するデータ型には、*urf::UrbanFacilityStatusType* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::UrbanFacilityStatusType* を使用する。

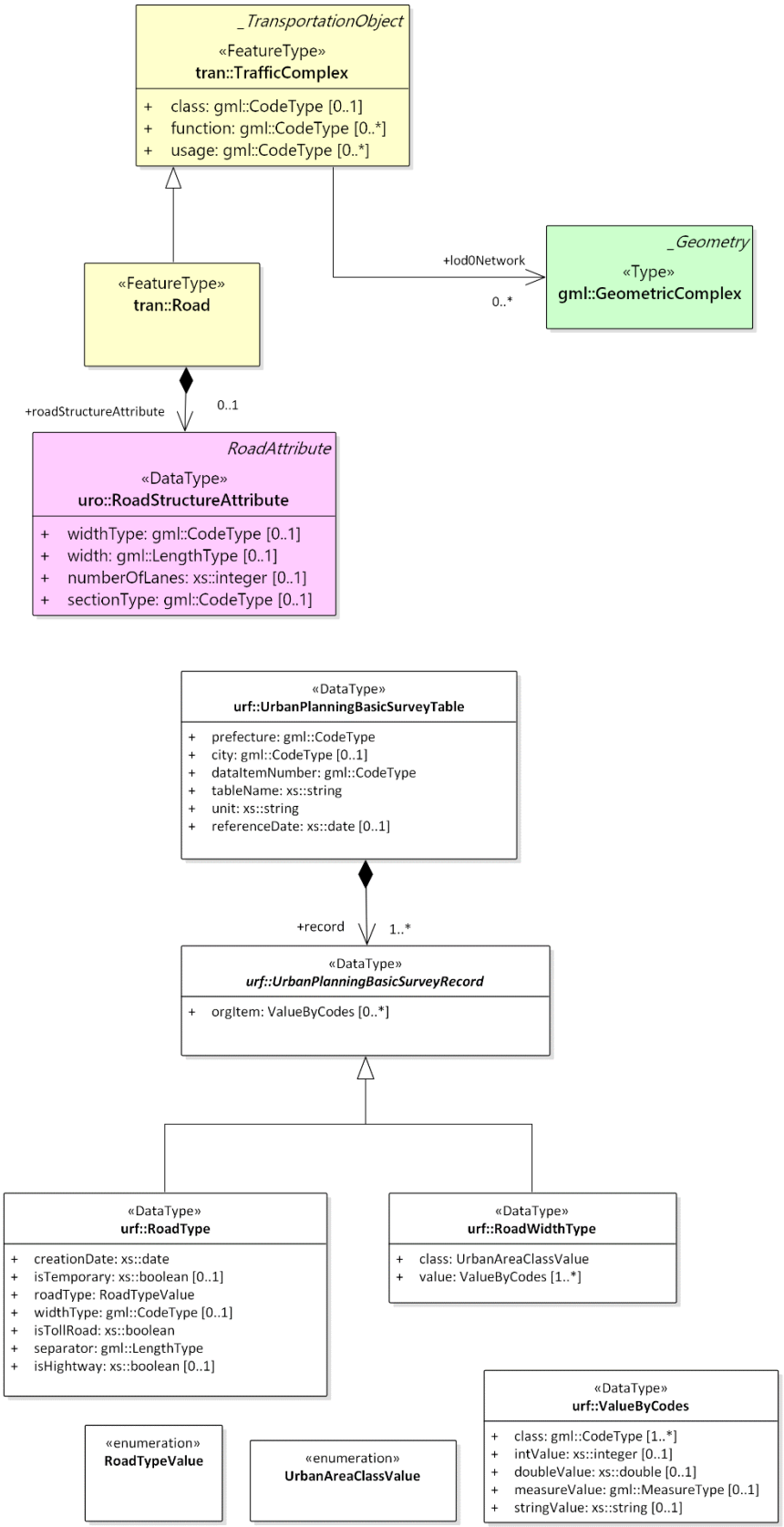


- C0502　道路の状況

  位置図には、*tran::Road* を使用し、属性を格納するデータ型には、*uro::RoadStructureAttribute* を使用する。

  調書のレコードの型として、*urf::RoadType* を使用する。

  集計表のレコードの型として、*urf::RoadWidthType* を使用する。

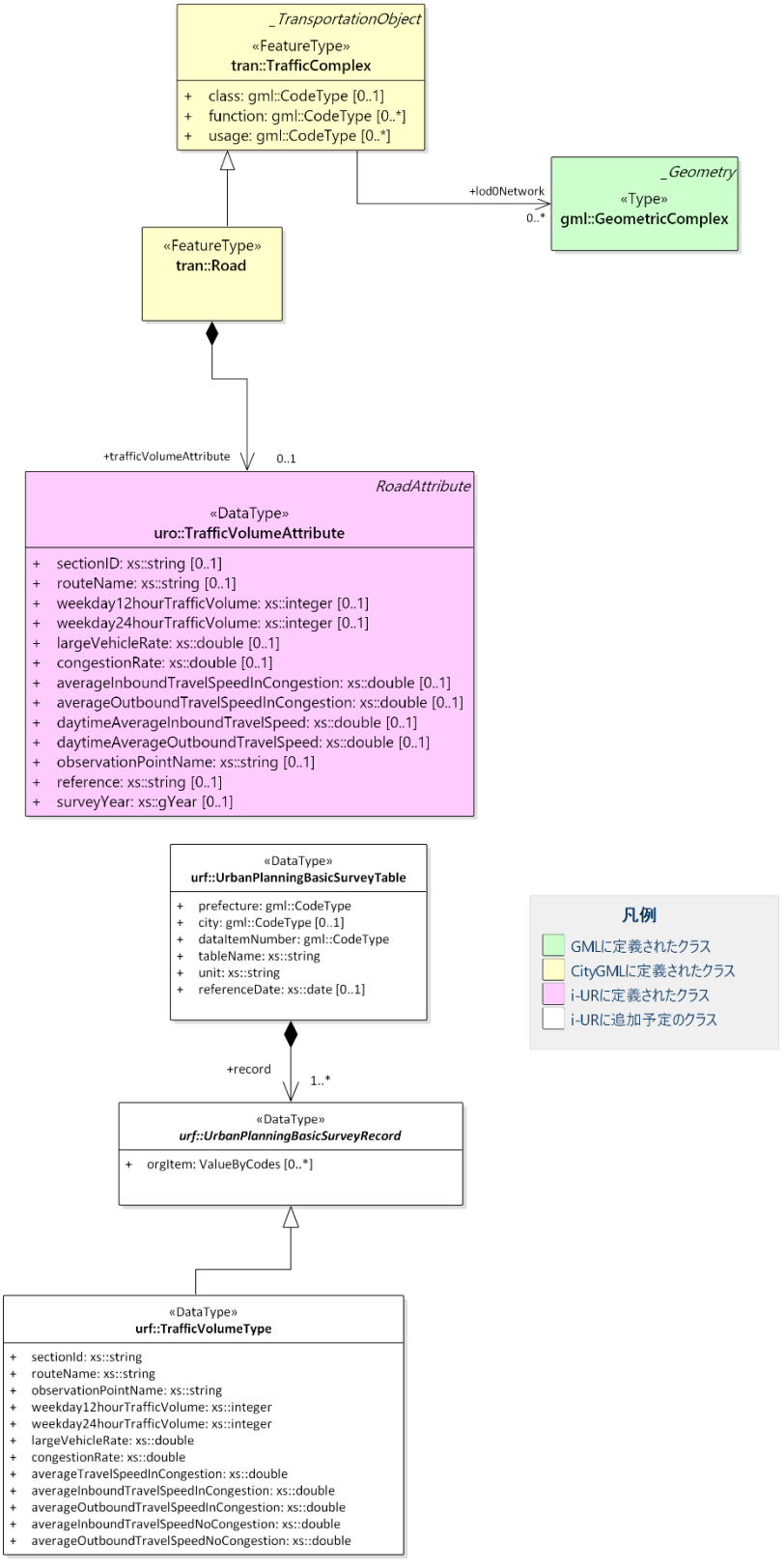


(7) 交通

- C0601　主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度

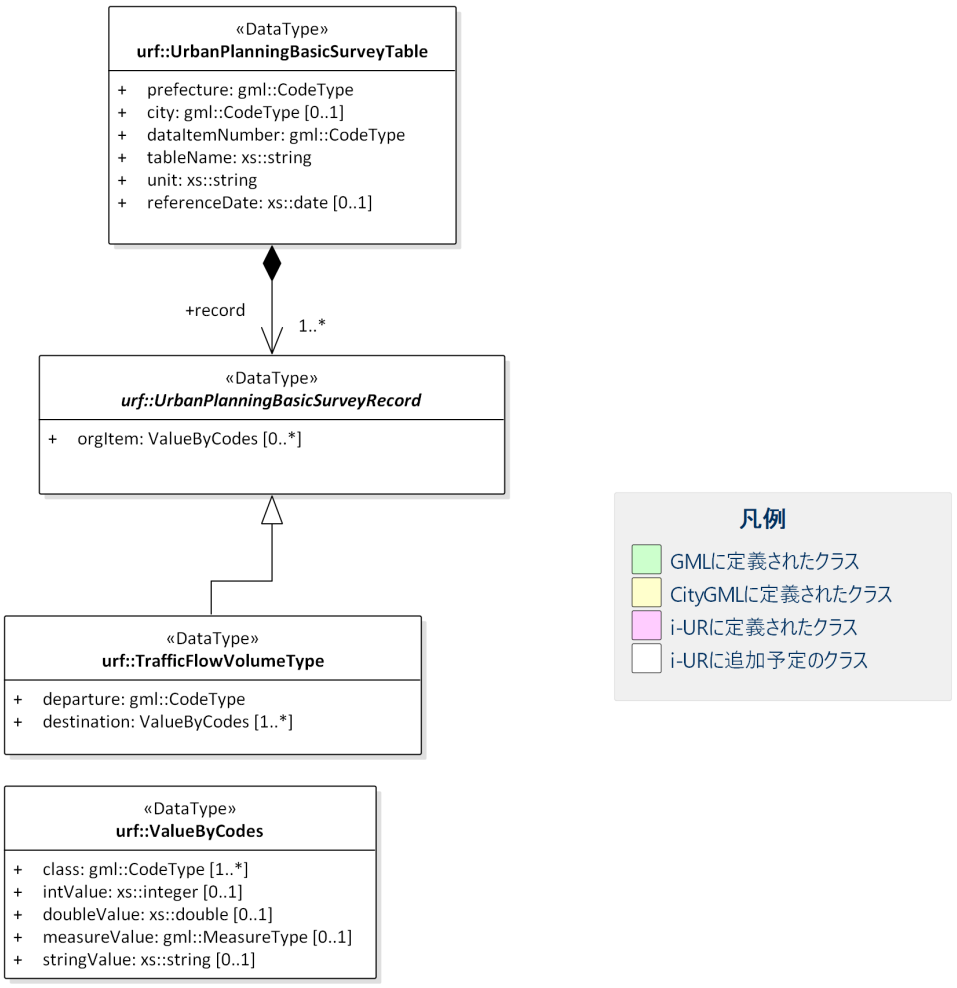
  位置図には、*tran::Road* を使用し、属性を格納するデータ型として、*uro::TrafficVolumeType* を使用する。

  調書のレコードの型として、*urf::TrafficVolumeType* を使用する。



- C0602　自動車流動量

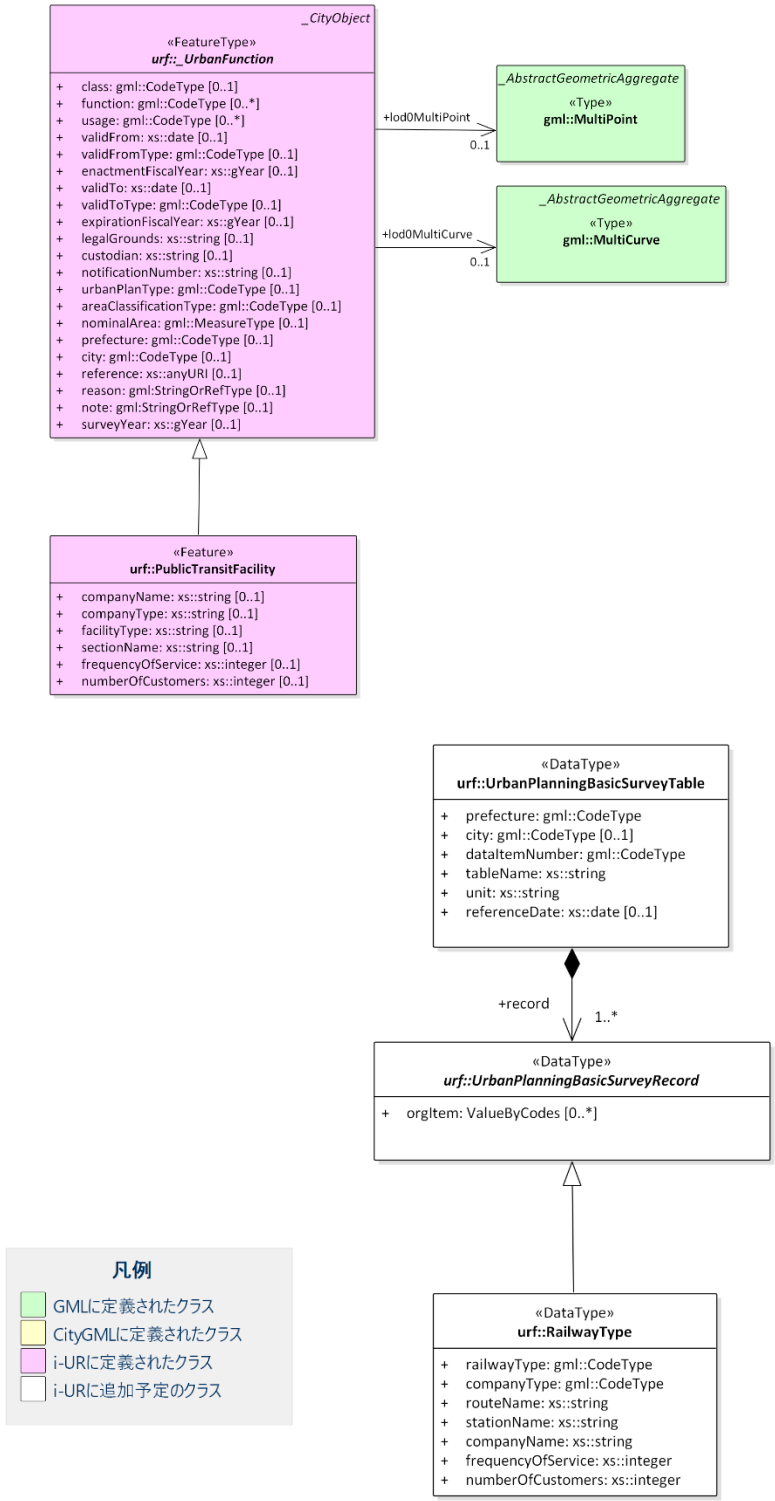
  集計表のレコード型には、*urf::TrafficFlowVolumeType* を使用する。



- C0603　鉄道・路面電車等の状況

位置図には、*urf::PublicTransitFacility* を使用する。

調書のレコードの型には、urf::RailwayType を使用する。

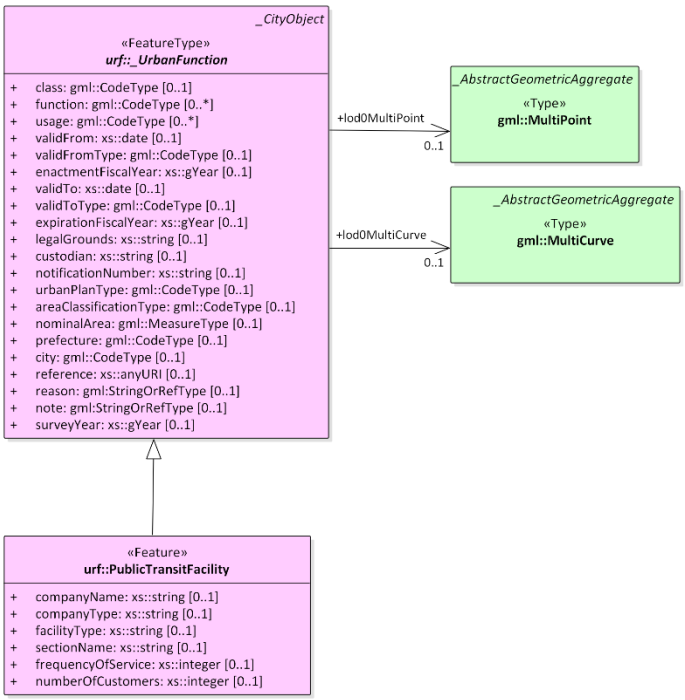


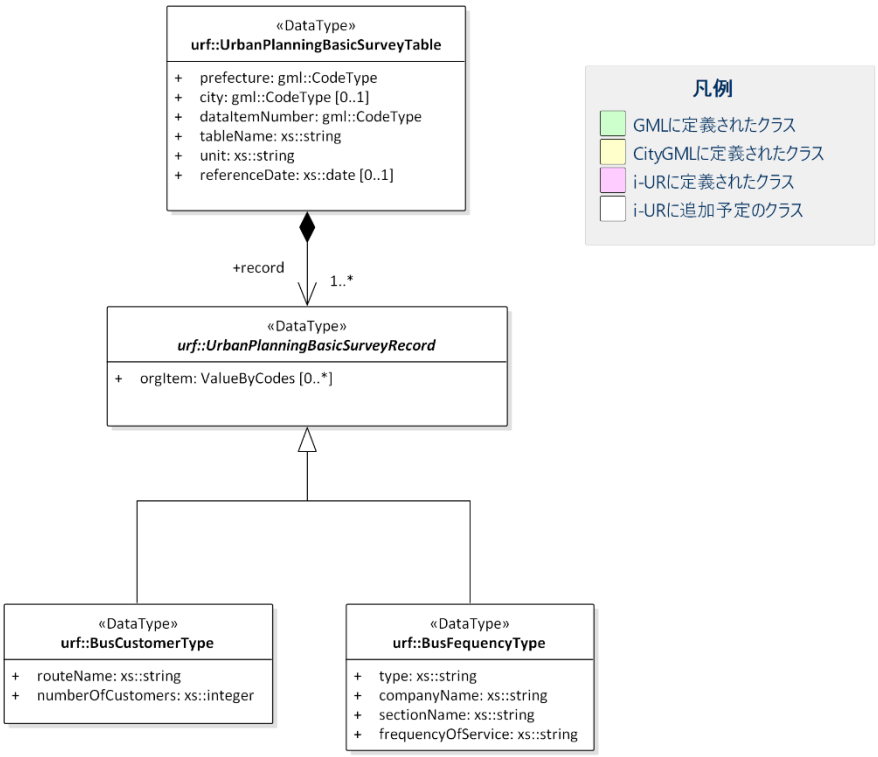
- C0604　バスの状況

  位置図には、位置図には、*urf::PublicTransitFacility* を使用する。

  乗降客調書のレコードの型には、*urf::BusCustomer Type* を使用する。

  運行状況調書のレコードの型には、*urf::BusFrequencyType* を使用する。





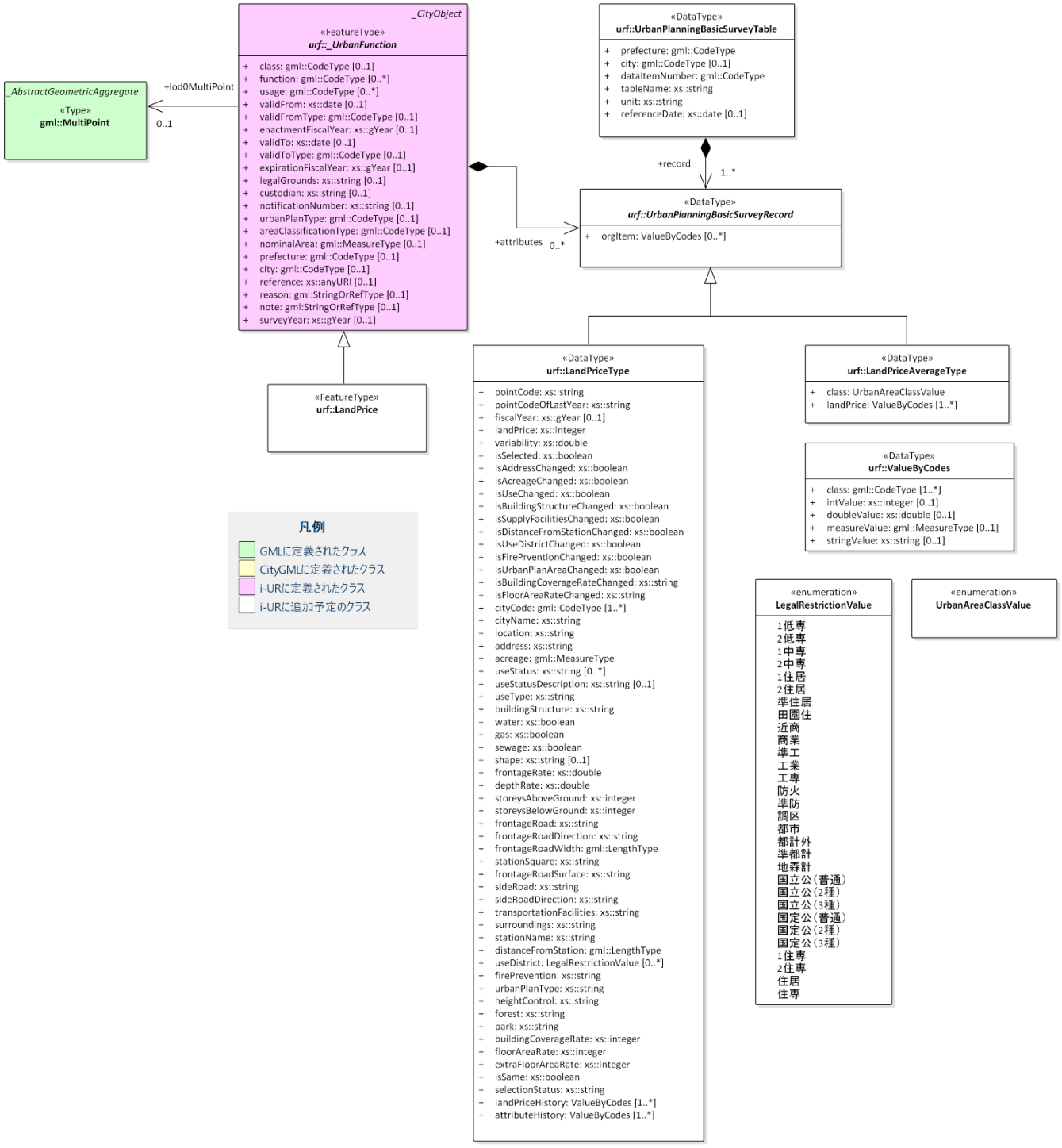
(8) 地価

- C0701　地価の状況

位置図には、*urf::LandPrice* を使用し、属性を格納するデータ型として *urf::LandPriceType* を使用する。

調書のレコードの型には *urf::LandPriceType* を使用する。

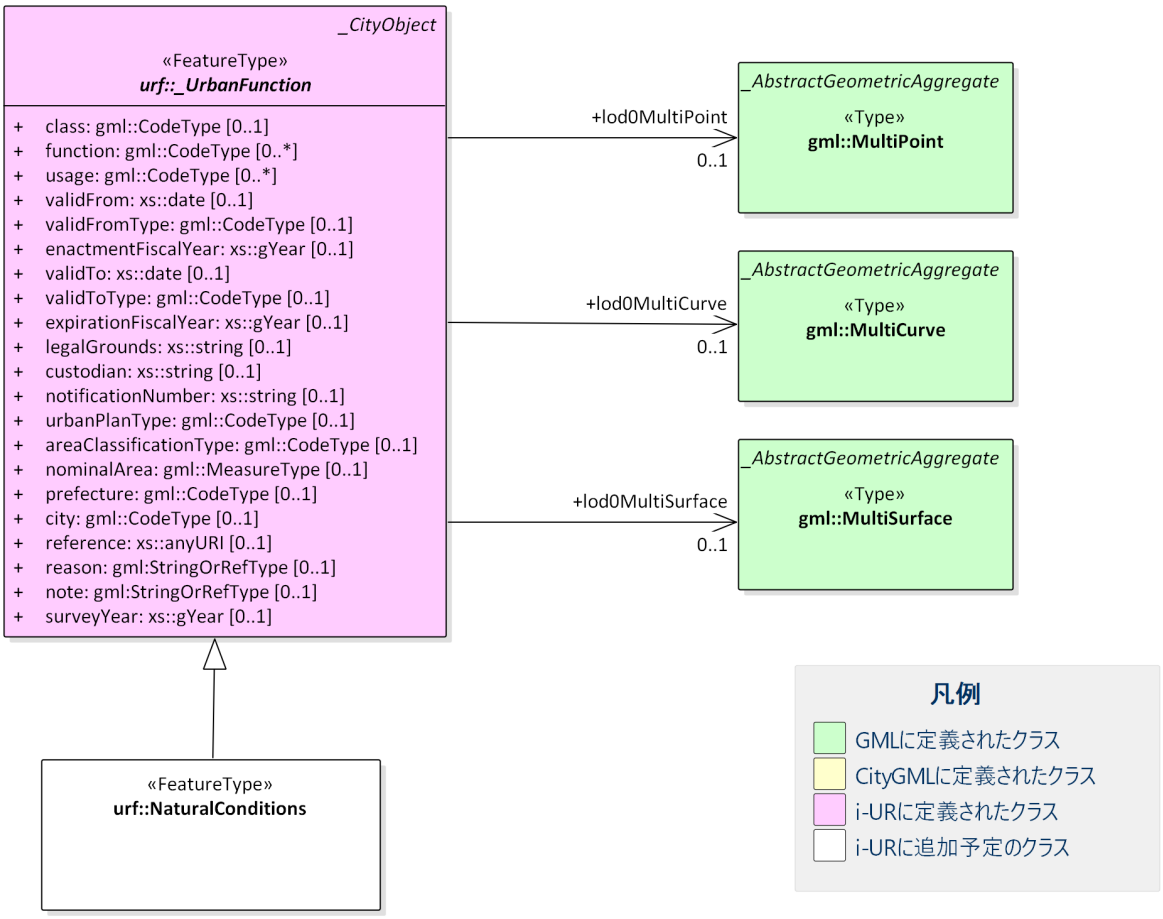
集計表のレコードの型には *urf::LandPriceAverageType* を使用する。



(9) 自然的環境等

- C0801　地形・水系・地質条件

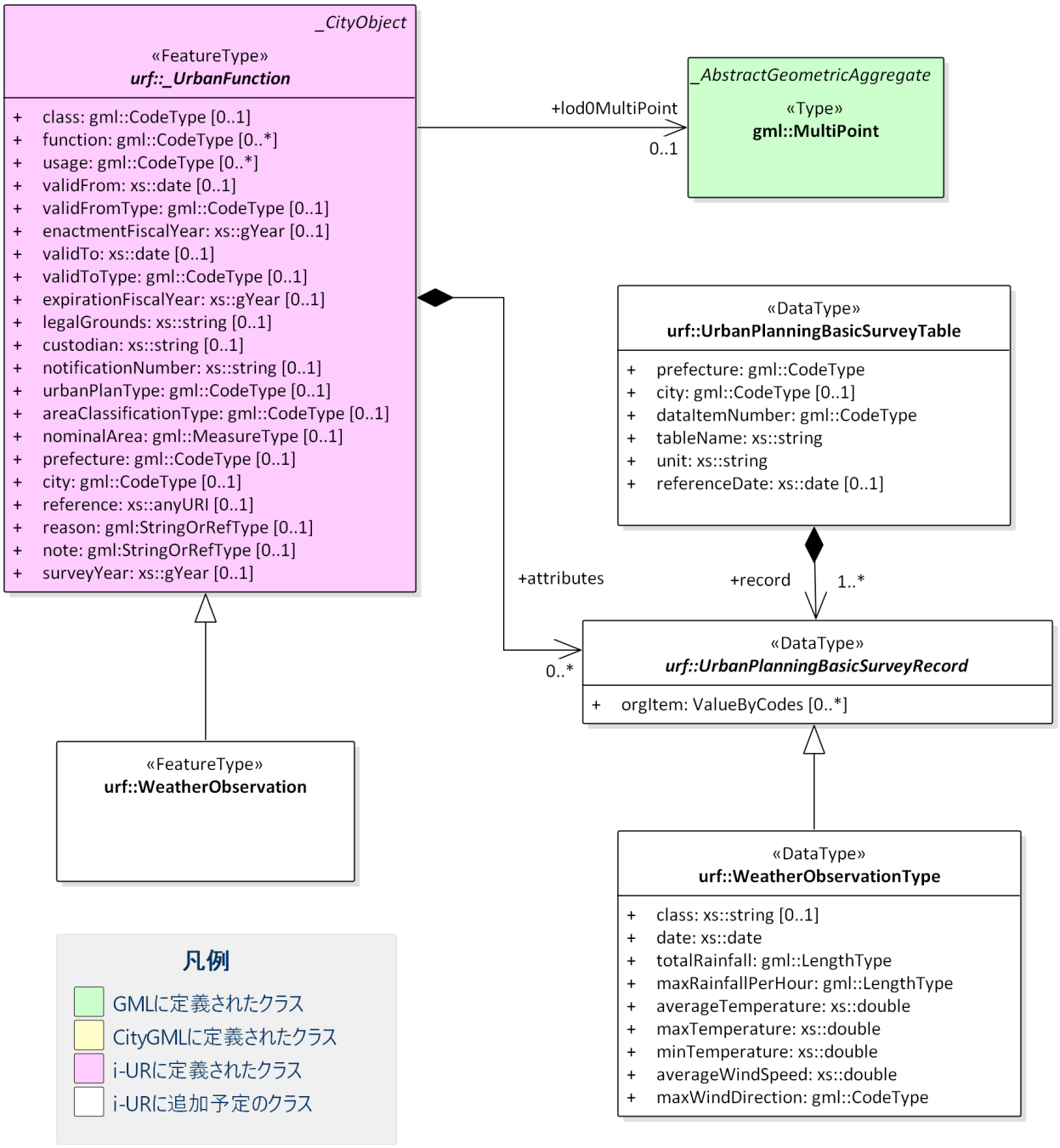
  位置図には、*urf::NaturalCondition* を使用する。



- C0802　気象状況

  位置図には、*urf::WeatherObservation* を使用し、属性を格納するデータ型には、*urf::WeatherObservationType* を使用する。

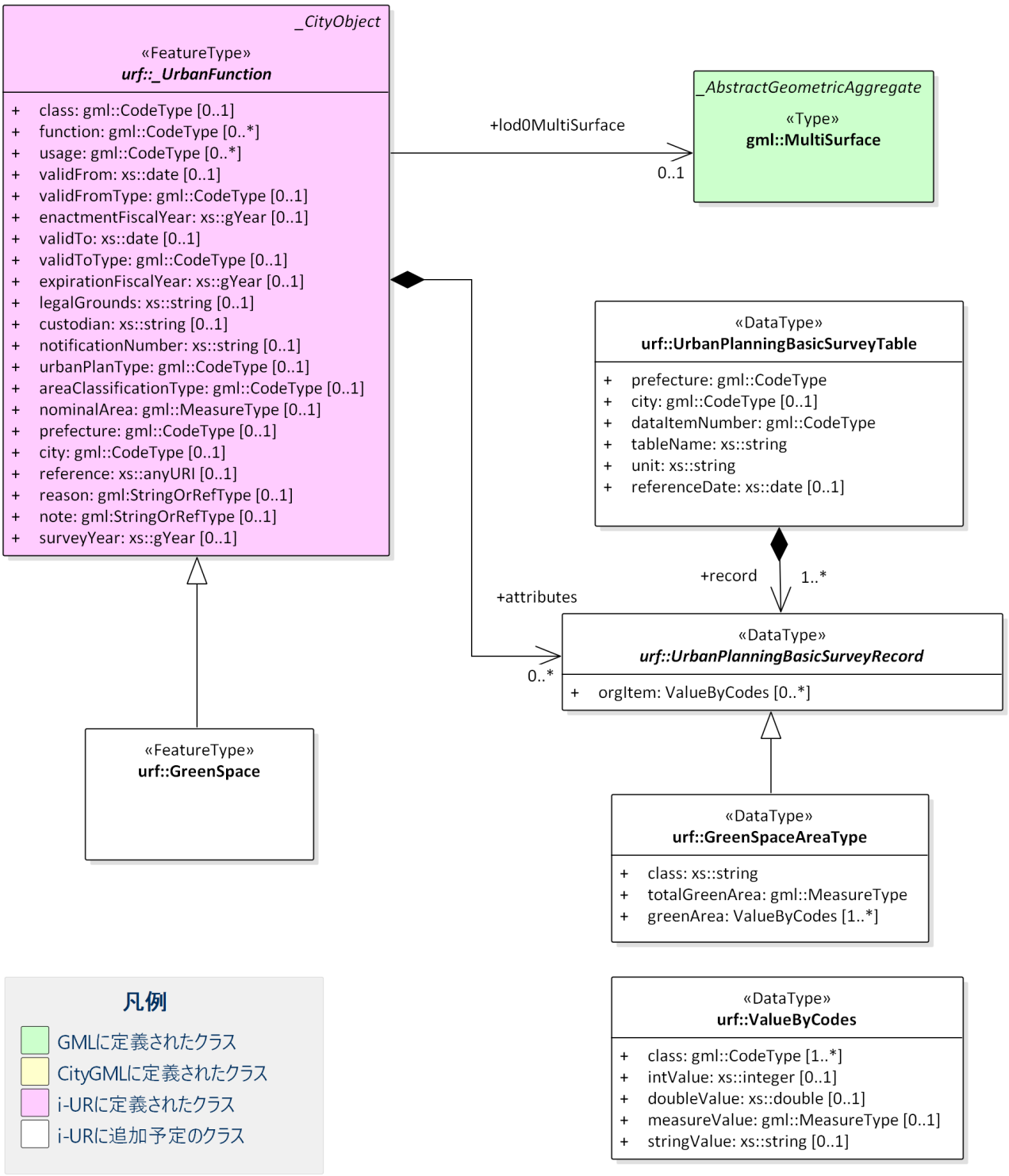
  調書のレコードの型には、*urf::WeatherObservationType* を使用する。



- C0803　緑の状況

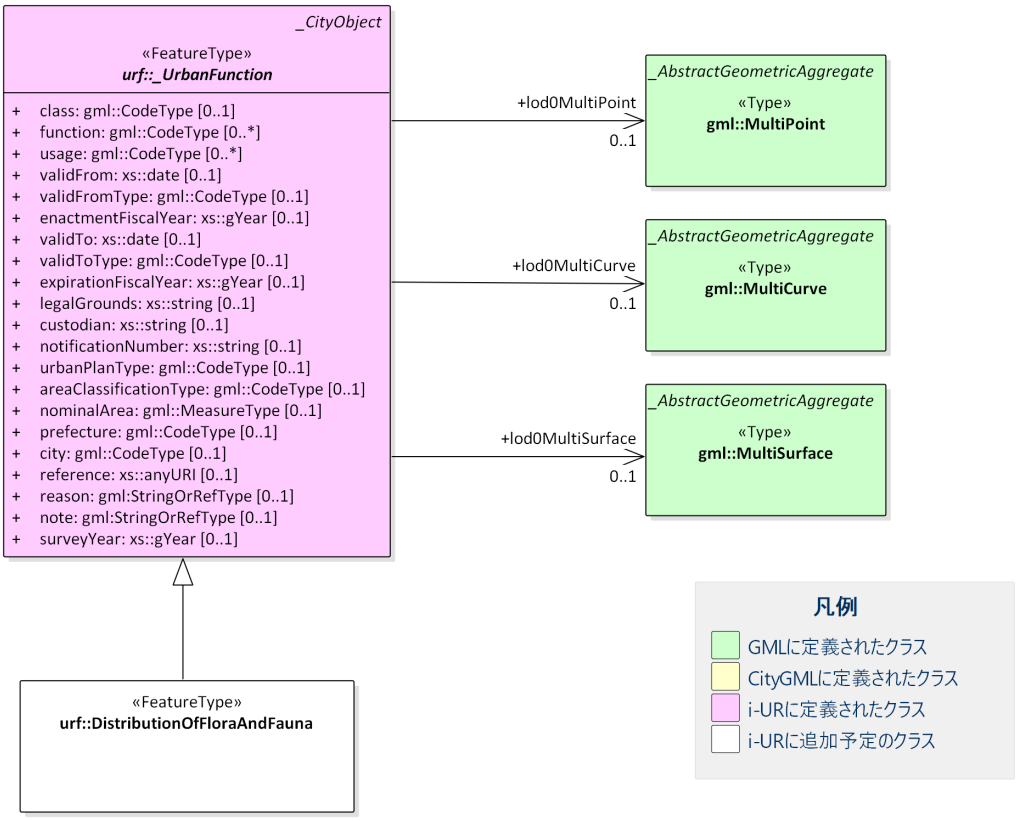
  位置図には、*urf::GreenSpace* を使用する。

  集計表のレコードのデータ型として、*urf::GreenSpaceAreaType* を使用する。



- C0804　動植物調査

  位置図には、*urf::DistricutionOfFloraAndFauna* を使用する。



(10) 災害

- C0901　災害の発生状況

  位置図は、*urf::DisasterDamage* を使用する。

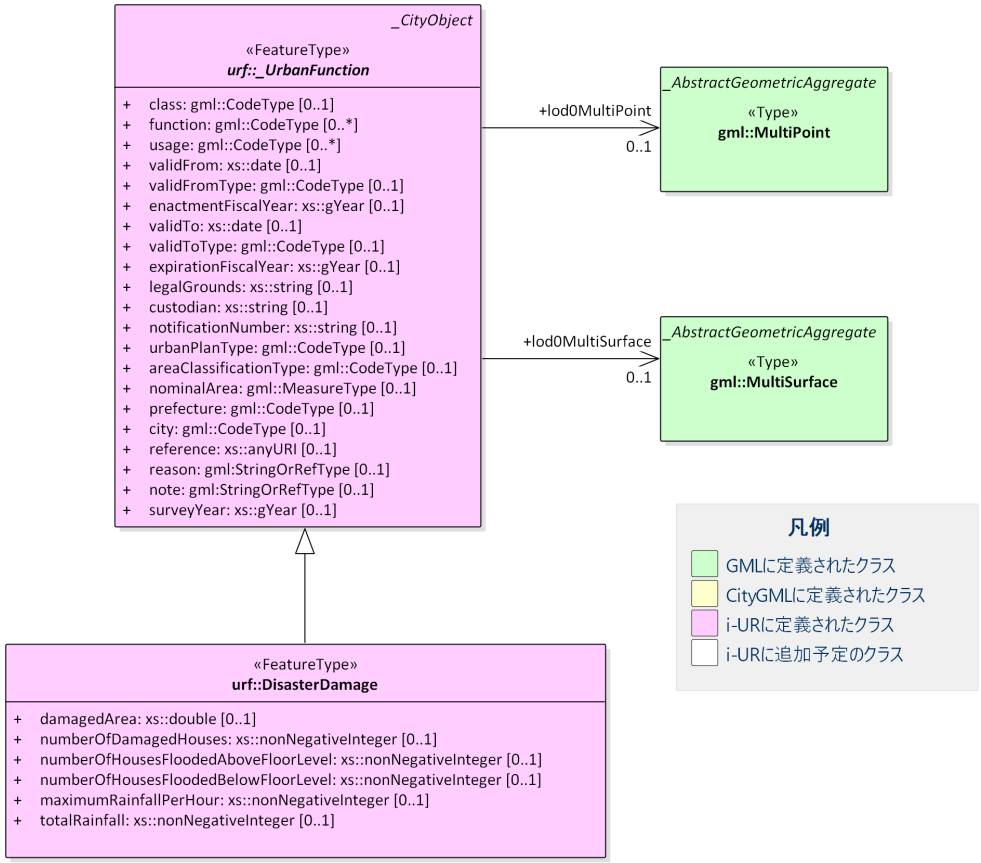
  崖崩れ発生回数図をメッシュで作成する場合は、*urg::LandSlideDisaster* を使用する。

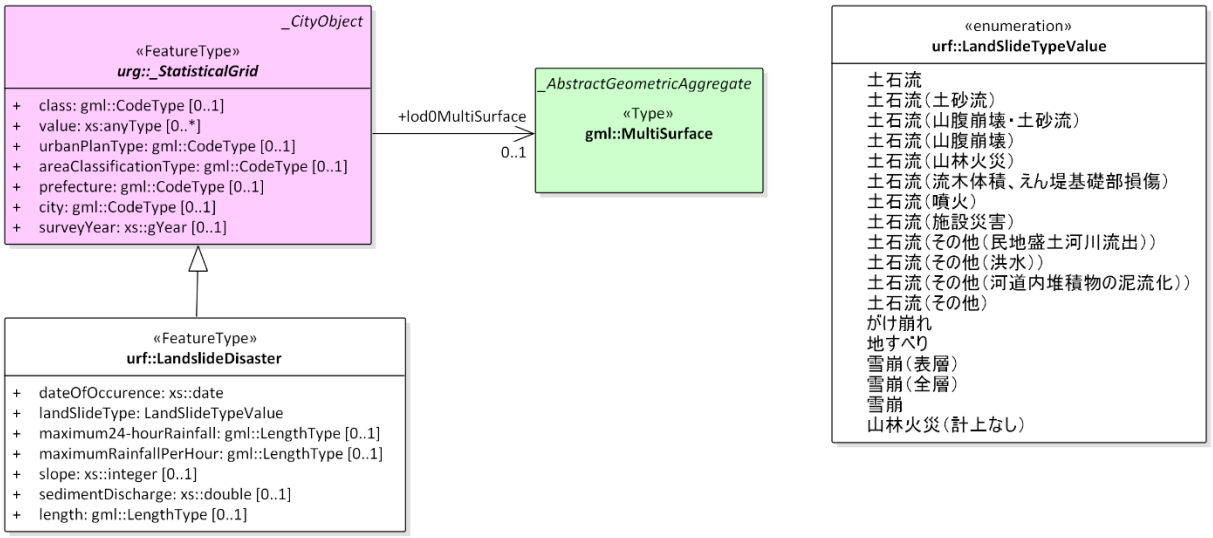
  災害の発生状況の調書は、災害の種類ごとに、以下に示すデータ型をレコードの型として使用する。

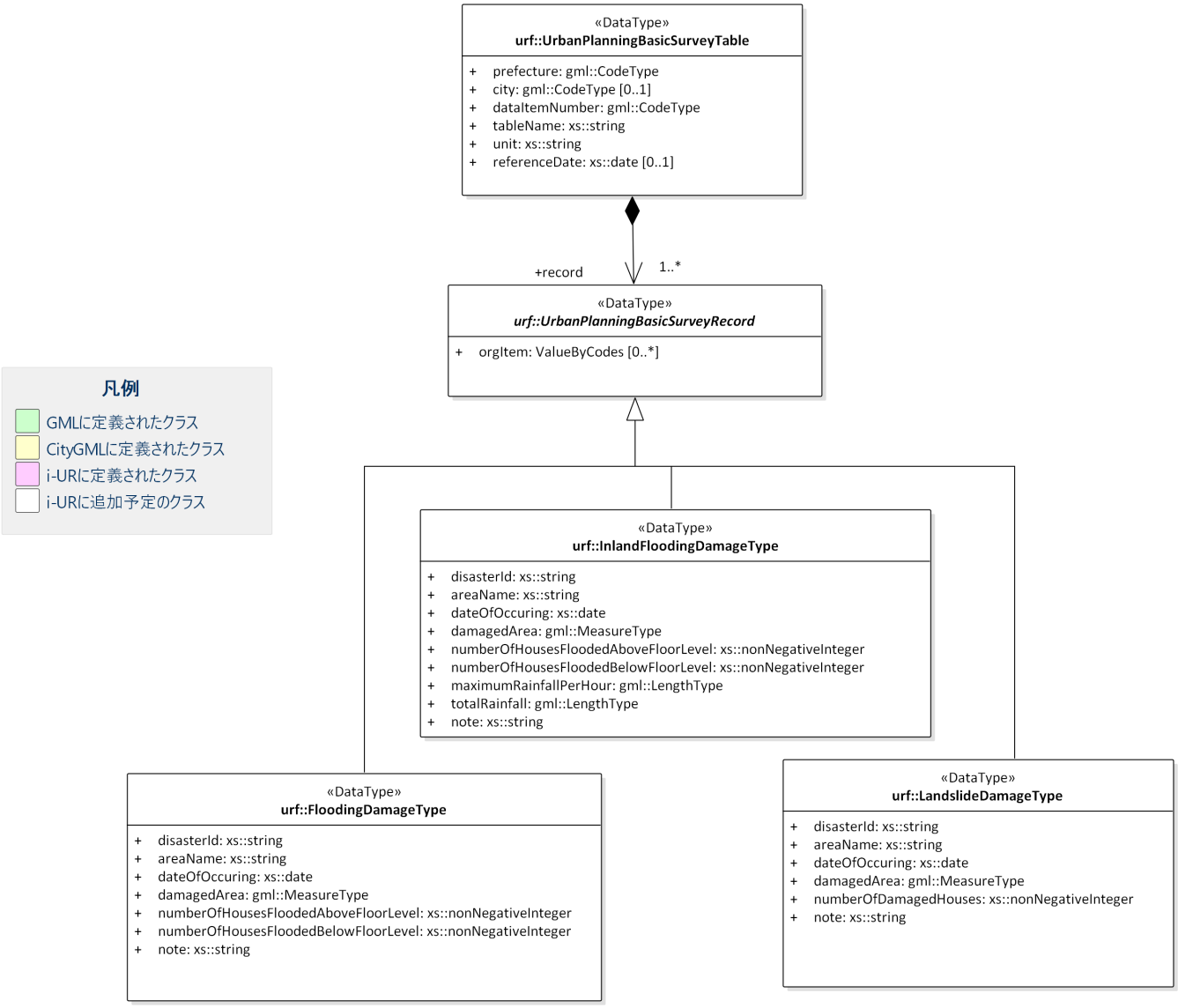
  水害（外水（洪水、高潮、津波））の調書は *urf::FloodingDamageType* を使用する。

  水害（内水）の調書は、*urf::InlandFloodingDamageType* を使用する。

  土砂災害（土石流、がけ崩れ等）の調書は *urf::LandslideDamageType* を使用する。



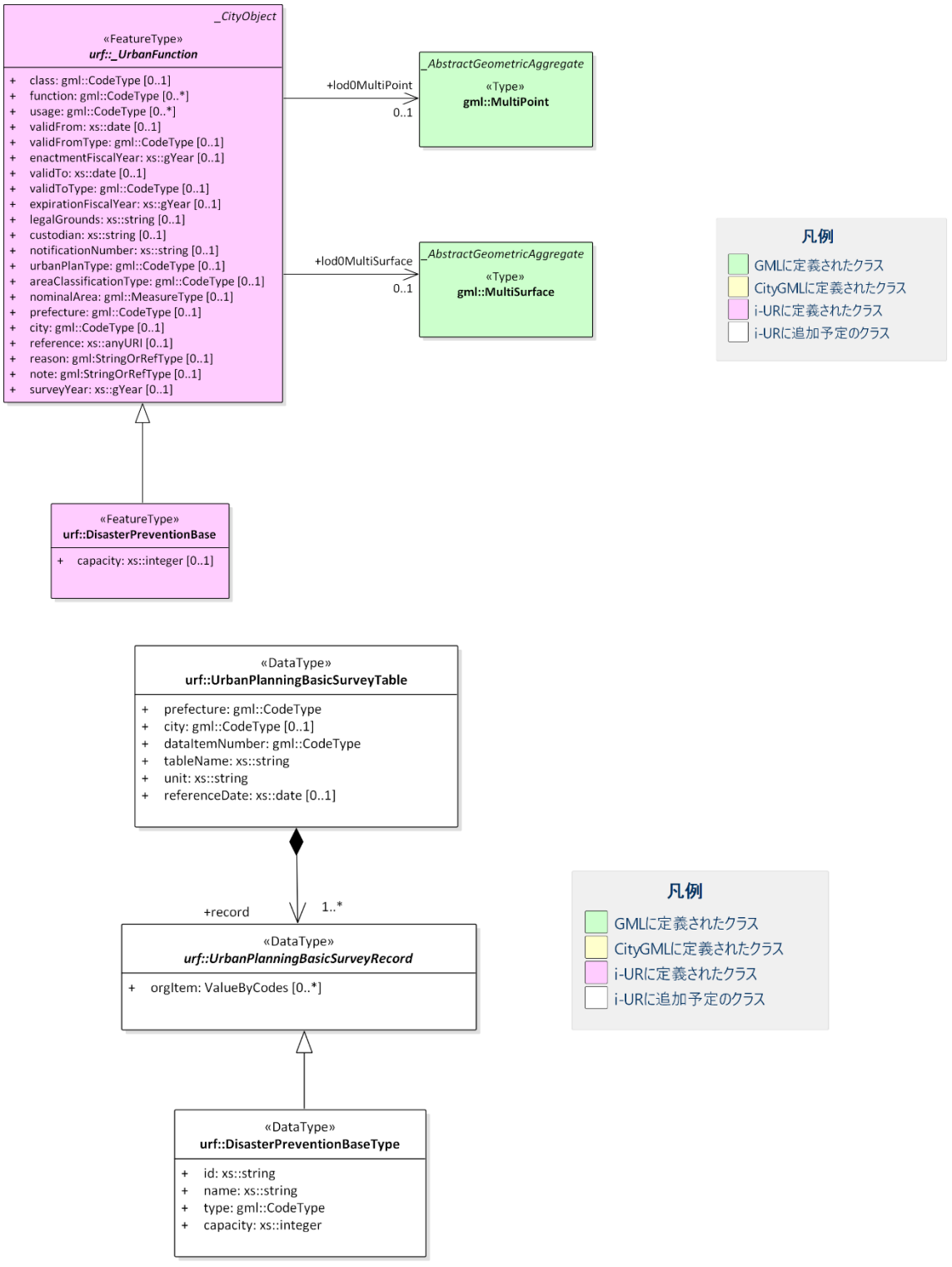



«DataType»
urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable
+ prefecture: gml::CodeType
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ dataItemNumber: gml::CodeType
+ tableName: xs::string
+ unit: xs::string
+ referenceDate: xs::date [0..1]
+record
1..*
«DataType»
urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord
+ orgItem: ValueByCodes [0..*]
凡例
GMLに定義されたクラス
CityGMLに定義されたクラス
i-URに定義されたクラス
i-URに追加予定のクラス
«DataType»
urf::InlandFloodingDamageType
+ disasterId: xs::string
+ areaName: xs::string
+ dateOfOccuring: xs::date
+ damagedArea: gml::MeasureType
+ numberOfHousesFloodedAboveFloorLevel: xs::nonNegativeInteger
+ numberOfHousesFloodedBelowFloorLevel: xs::nonNegativeInteger
+ maximumRainfallPerHour: gml::LengthType
+ totalRainfall: gml::LengthType
+ note: xs::string
«DataType»
urf::FloodingDamageType
+ disasterId: xs::string
+ areaName: xs::string
+ dateOfOccuring: xs::date
+ damagedArea: gml::MeasureType
+ numberOfHousesFloodedAboveFloorLevel: xs::nonNegativeInteger
+ numberOfHousesFloodedBelowFloorLevel: xs::nonNegativeInteger
+ note: xs::string
«DataType»
urf::LandslideDamageType
+ disasterId: xs::string
+ areaName: xs::string
+ dateOfOccuring: xs::date
+ damagedArea: gml::MeasureType
+ numberOfDamagedHouses: xs::nonNegativeInteger
+ note: xs::string

- C0902　防災施設の位置及び整備の状況

  位置図には、*urf::DisasterPreventionBase* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf::DisasterPreventionBaseType* を使用する。



(11) その他（景観・歴史資源等）

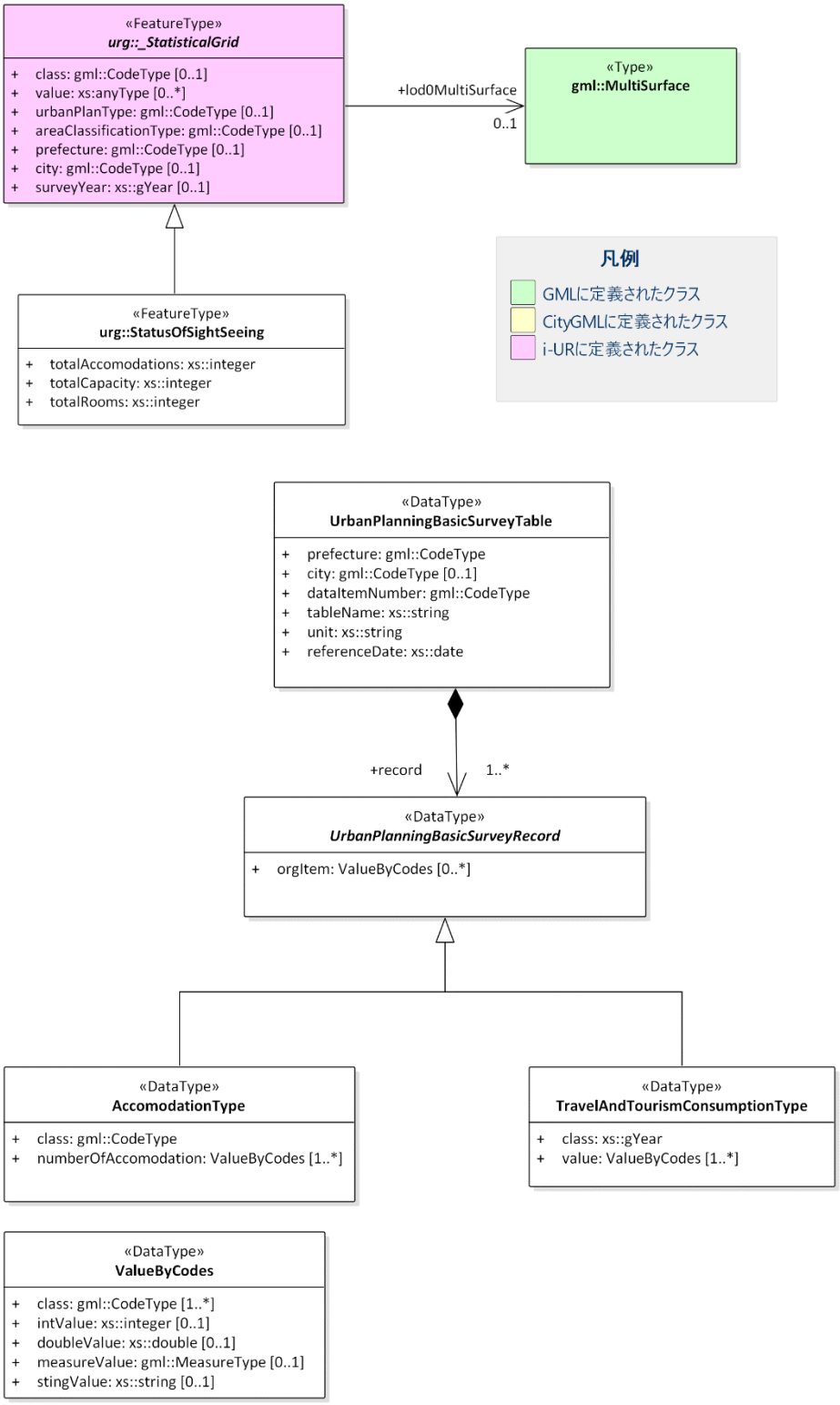
- C1001　観光の状況

宿泊施設総数メッシュ図には、*urg::StatusOfSightSeeing* を使用する。

メッシュ毎の宿泊容量の調書のレコードの型には、*urf::AccomodationType* を使用する。

観光入込客数・消費額の集計表は、レコードの型に *urf::TouristAndTourismConsumptionType* を使用する。

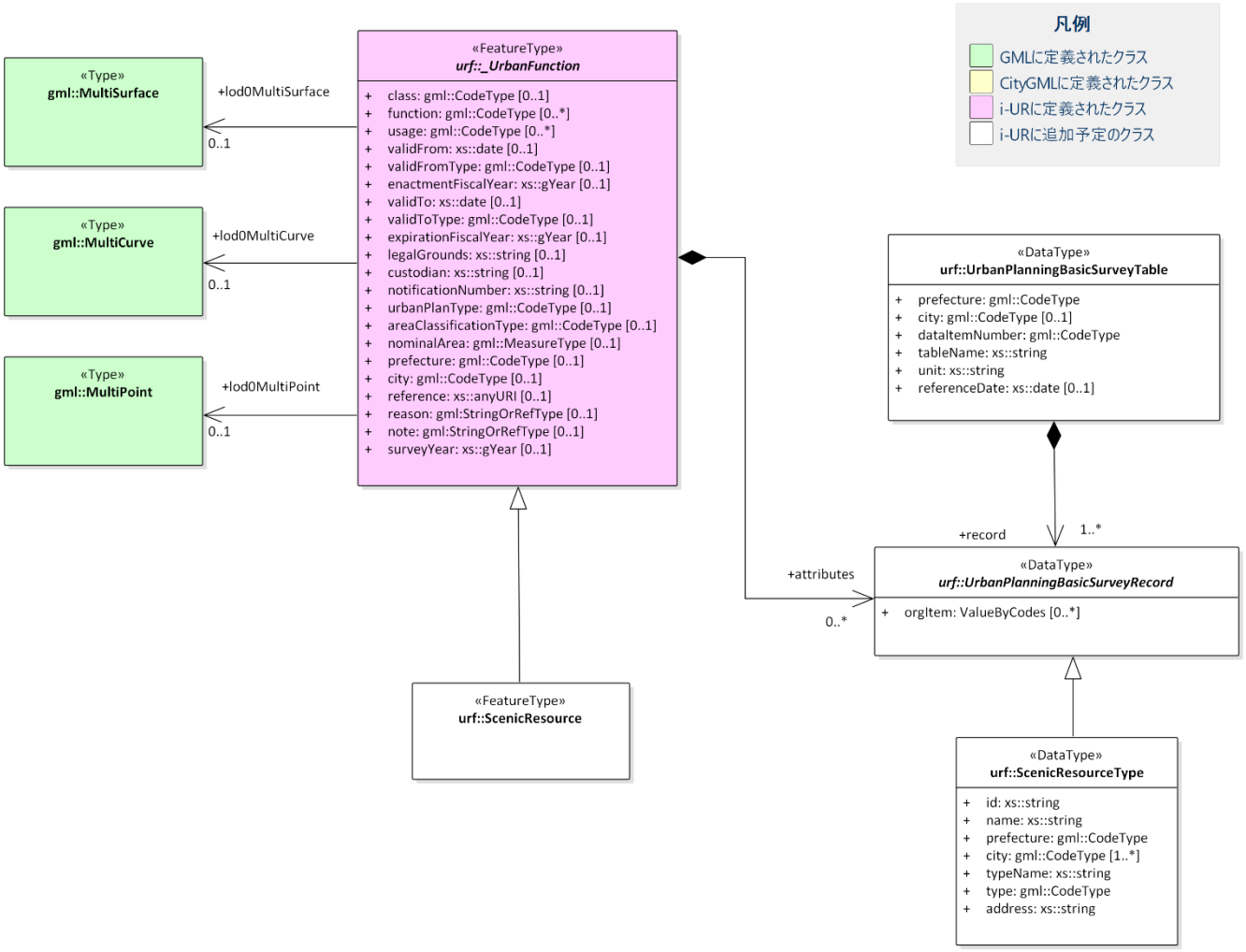
宿泊施設の状況の集計表は、レコードの型に *urf::AccomodationType* を使用する。



- C1002　景観・歴史資源の状況

  位置図には、*urf::ScenicResource* を使用する。属性を格納するデータ型には、*urf::WeatherObservationType* を使用する。

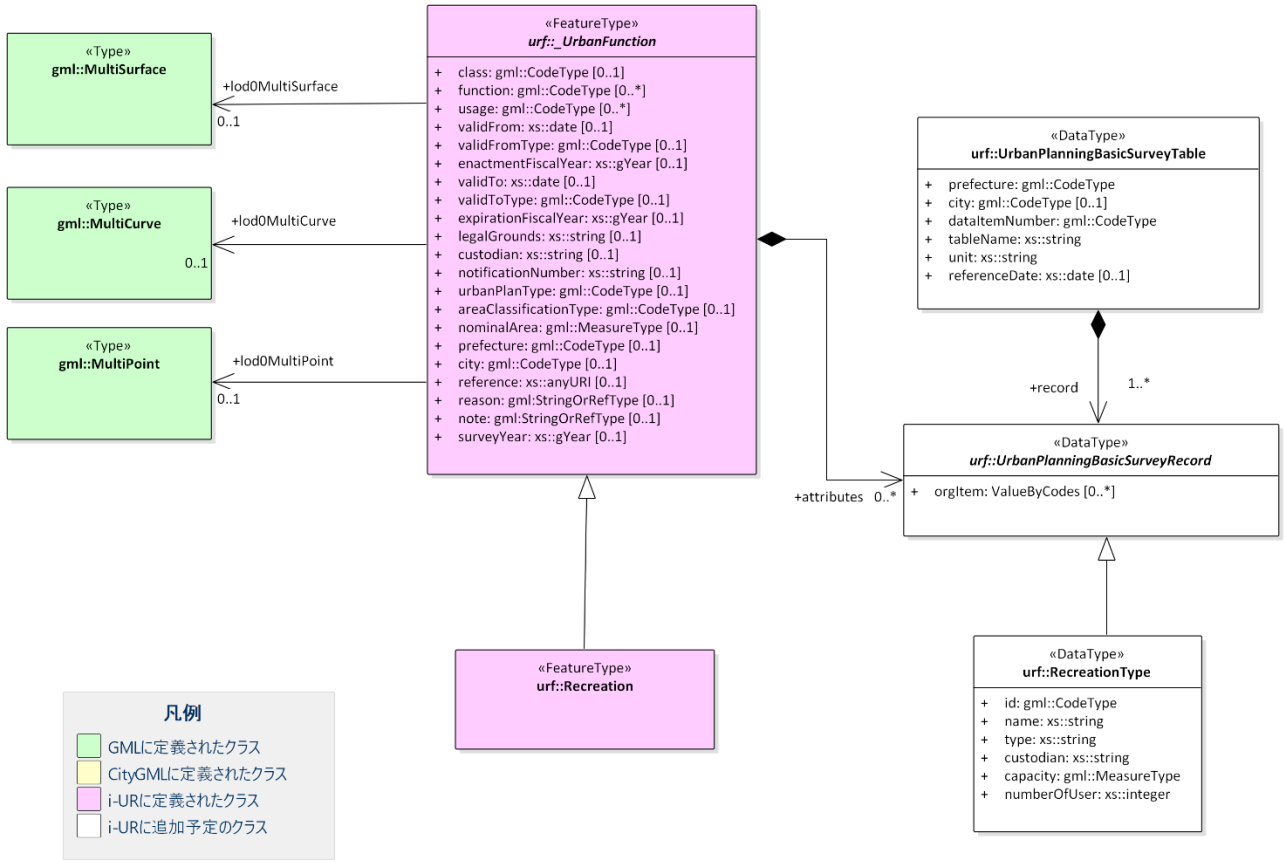
  調書のレコードの型には、u*rf::ScenicResourceType* を使用する。



- C1003　レクリエーション施設の状況

  位置図には、*urf::Recreation* を使用する。属性の型

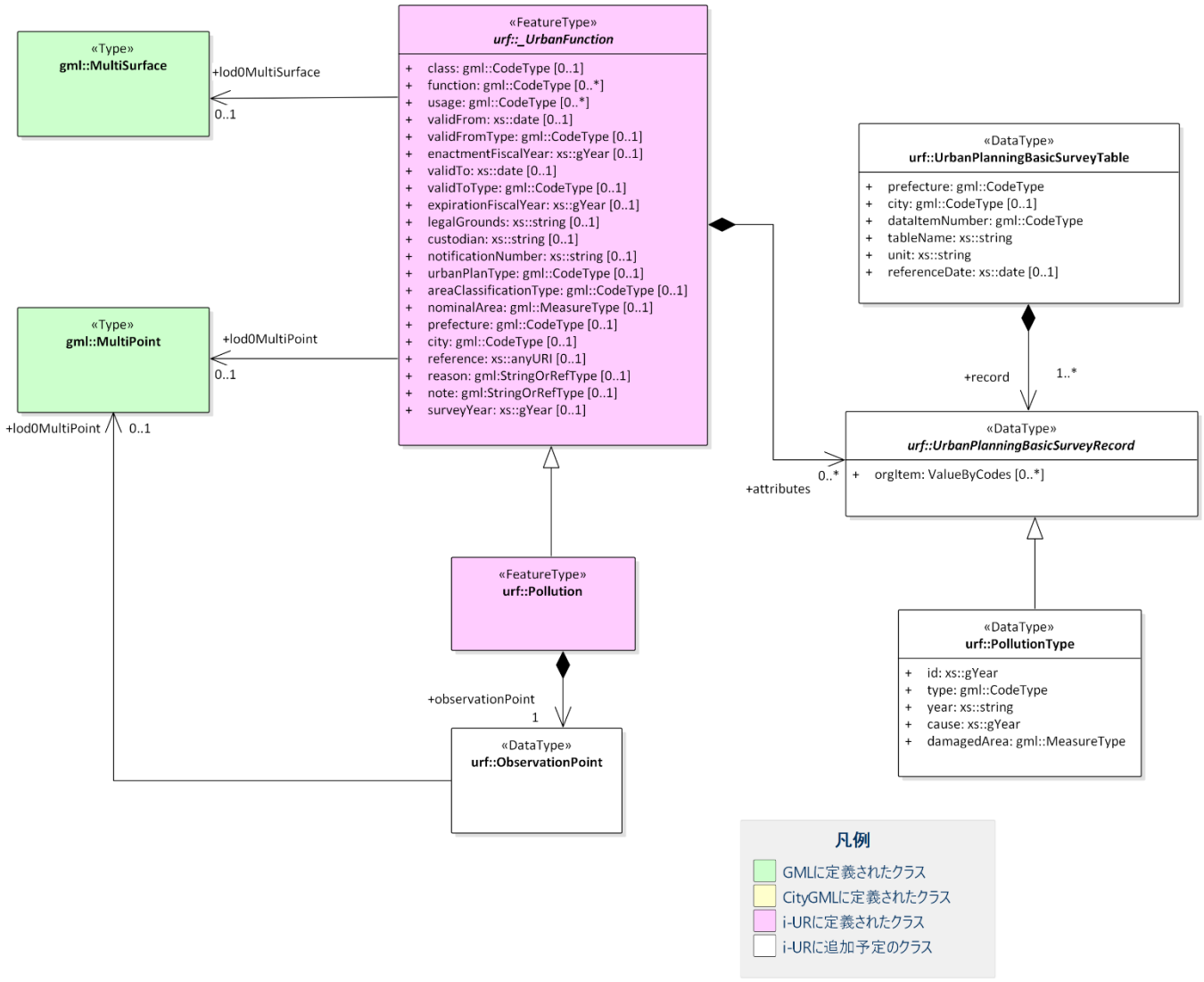
  調書のレコードの型には、*urf::Recreation*Type を使用する。



- C1004　公害の発生状況

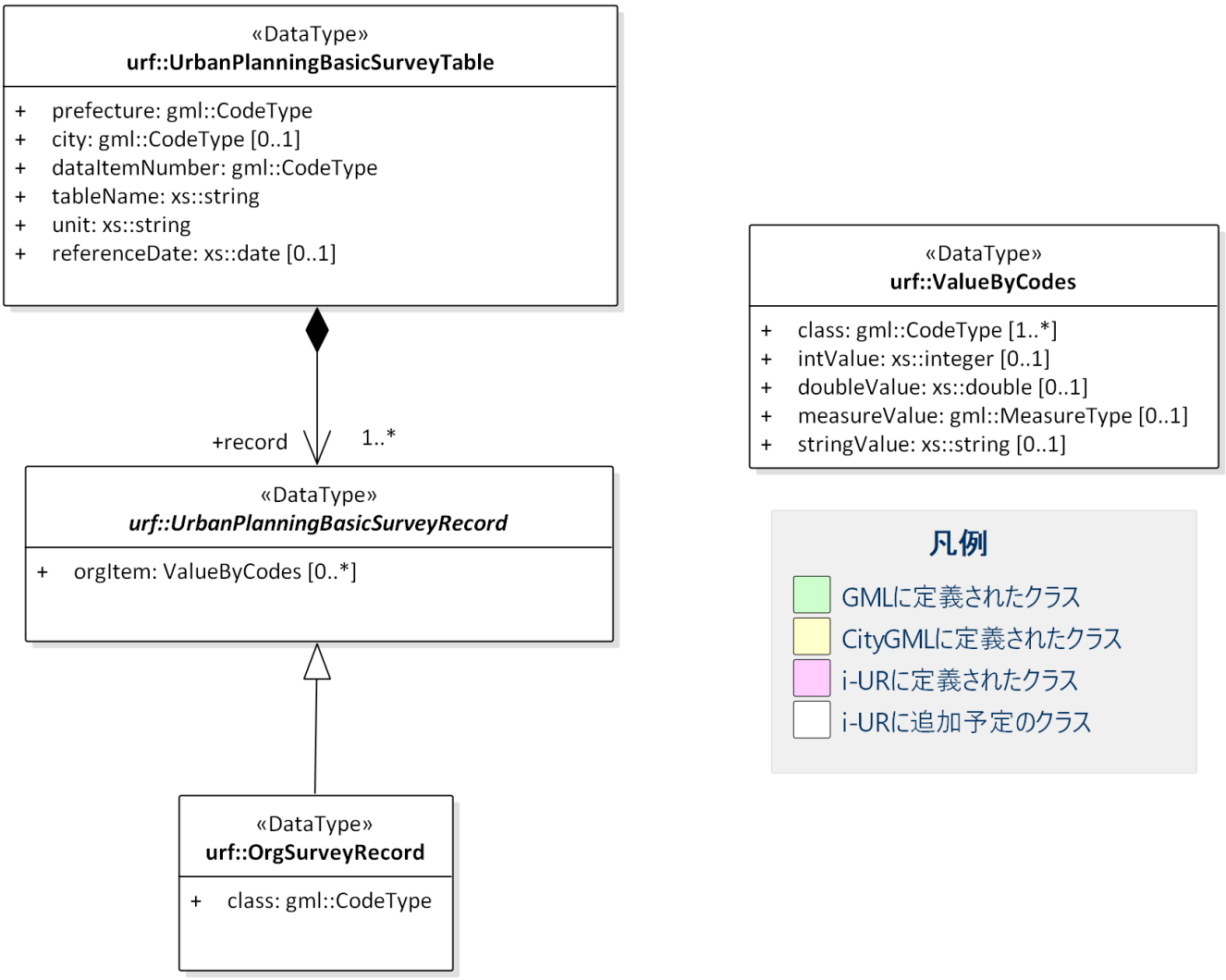
  位置図には、*urf::Pollution* を使用する。

  調書のレコードの型には、*urf:: Pollution*Type を使用する。



(12) 独自のデータ項目

都市計画基礎調査実施要領　収集データの分類及び項目一覧に示すデータ項目以外に、地域独自のデータ項目を設定している場合は、*urf::OrgSurveyRecord* を用いてこれを記述する。



4.3.3 応用スキーマ文書

都市計画基礎調査パッケージで使用するクラスの応用スキーマ文書を以下で示す。

なお、CityGML で定義された *bldg::Building*, *luse::LandUse*, *tran::Road*, の応用スキーマ文書は、4.2.3 を参照すること。また、都市計画決定情報（*urf::UrbanPlanningArea*, *urf::QuasiUrbanPlanningArea*, *urf::AreaClassification*）は 4.4.3 を参照すること。

(1) UrbanObject（i-UR）

都市計画基礎調査パッケージで使用する、Urban Object モジュールで定義されたクラスの応用スキーマ文書を以下で示す。

1) uro::BuildingDetailAttribute

型の定義	都市計画法に基づき実施される都市計画基礎調査において収集された、建築物に関する基礎的な情報。	
上位の型	uro::BuildingAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::serialNumberOfBuildingCertification	xs::string [0..1]	建築確認申請番号。
uro::siteArea	gml::MeasureType [0..1]	当該建築物が立地する敷地の面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
uro::totalFloorArea	gml::MeasureType [0..1]	当該建築物の各階の床面積の合計。単位は m2（uom="m2"）とする。
uro::buildingFootprintArea	gml::MeasureType [0..1]	建築物の壁や柱の中心線で囲まれた部分の水平投影面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
uro::buildingRoofEdgeArea	gml::MeasureType [0..1]	屋根を含む建築物の水平投影面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
uro::developmentArea	gml::MeasureType [0..1]	開発された面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
uro::buildingStructureType	gml::CodeType [0..1]	構造種別。コードリスト（BuildingDetailAttribute_buildingStructureType.xml）より選択する。
uro::buildingStructureOrgType	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の構造種別。コードリスト（BuildingDetailAttribute_buildingStructureOrgType.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::fireproofStructureType	gml::CodeType [0..1]	耐火構造区分。コードリスト（BuildingDetailAttribute_fireproofStructureType.xml）より選択する。
uro::implementingBody	xs::string [0..1]	建築物建築の実施主体の名称。
uro::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	建築物が立地する土地が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
uro::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	建築物が立地する土地が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
uro::districtsAndZonesType	gml::CodeType [0..*]	建築物が立地する土地が属する地域地区の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。建築物が複数の地域地区に含まれる場合は、複数を列挙する。

uro::landUseType	gml::CodeType [0..1]	建築物が立地する土地の土地利用区分。コードリスト（Common_landUseType.xml）より選択する。
uro::reference	xs::string [0..1]	建築物の位置を示す図面上の番号。
uro::majorUsage	gml::CodeType [0..1]	建物利用現況（中分類）よりも粗い区分による都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_majorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::majorUsage2	gml::CodeType [0..1]	建物利用現況（中分類）よりも粗い区分による都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_majorUsage2.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::orgUsage	gml::CodeType [0..1]	都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）に示された建築物の用途分類に相当する都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_orgUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::orgUsage2	gml::CodeType [0..1]	都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）に示された建築物の用途分類のうち、商業施設、文教厚生施設、運輸倉庫施設、工場が詳細化された区分に相当する都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_orgUsage2.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::detailedUsage	gml::CodeType [0..1]	建物利用現況（小分類）よりも細かい区分による都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_detailedUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::detailedUsage2	gml::CodeType [0..1]	建物利用現況（詳細分類）よりも細かい区分による都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_detailedUsage2.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::detailedUsage3	gml::CodeType [0..1]	建物利用現況（詳細分類 2）よりも細かい区分による都市独自の分類。コードリスト（BuildingDetailAttribute_detailedUsage3.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::groundFloorUsage	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物 1 階の用途。コードリスト（BuildingDetailAttribute_groundFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::secondFloorUsage	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の 2 階又は 2 階以上の用途。コードリスト（BuildingDetailAttribute_secondFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::thirdFloorUsage	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の 3 階又は 3 階以上の用途。コードリスト（BuildingDetailAttribute_thirdFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::basementUsage	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の地下の用途。コードリスト（BuildingDetailAttribute_basementFloorUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。

uro::basementFirstUsage	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の地下 1 階の用途。コードリスト（BuildingDetailAttribute_basementFirstUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::basementSecondUsage	gml::CodeType [0..1]	都市ごとの独自の区分に基づく建築物の地下 2 階の用途。コードリスト（BuildingDetailAttribute_basementSecondUsage.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::vacancy	gml::CodeType [0..1]	空き家か否かの別。コードリスト（BuildingDetailAttribute_vacancy.xml）より選択する。
uro::buildingCoverageRate	xs::double [0..1]	建蔽率（敷地面積に対する建築面積の割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::floorAreaRate	xs::double [0..1]	容積率（敷地面積に対する延床面積の割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::specifiedBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	指定建蔽率（用途地域別に定められている建蔽率）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::specifiedFloorAreaRate	xs::double [0..1]	指定容積率（都市計画で定められる容積率の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::standardFloorAreaRate	xs::double [0..1]	基準容積率（前面道路の幅員が 12m未満の場合に、前面道路の幅員による限度により算出される容積率）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::buildingHeight	gml::LengthType [0..1]	建築基準法施行令第 2 条に定義される地盤面からの建築物の高さ。単位は m（uom=”m”）とする。
uro::eaveHeight	gml::LengthType [0..1]	建築基準法施行令第 2 条に定義される建築物の地盤面から軒桁までの高さ。単位は m（uom=”m”）とする。
uro::note	xs::string [0..1]	その他建築物に関して特筆すべき事項。
uro::surveyYear	xs::gYear	建物利用現況調査の実施年（西暦）。

2) uro::BuildingIDAttribute

型の定義	建築物を識別するための情報。	
上位の型	uro::BuildingAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::buildingID	xs::string [1]	主たる建築物を識別するための番号。 [市区町村コード]-[接頭辞]-[オブジェクト連番] とする。 [市区町村コード] は、当該地物が存在する市区町村に該当するコード。複数の市区町村に跨る場合には、代表的な市区町村のコードとする。先頭の 0 は省略せず、5 桁で記述する。 [接頭辞]は地物型の区分を示す 3 桁又は 4 桁のコードとする。 建築物の場合は、bldg とする。

		[オブジェクト連番]は半角数字の連番とする。
uro::branchID	xs::integer [0..1]	主たる建築物に対して付帯する建築物を識別するための番号。
(uro::partID)	xs::integer [0..1]	主たる建築物を複数の bldg::BuildingPart に分けて記述する場合の、建築物部分を識別するための番号。bldg::BuildingPart には多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
uro::prefecture	gml::CodeType [0..1]	建築物が所在する都道府県の都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
uro::city	gml::CodeType [1]	建築物が所在する市区町村の市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。政令市の場合は、区の市区町村コードとする。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。 i-UR では多重度が[0..1]となっているが、建築物の位置の把握に使用するため、標準製品仕様書では多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

3) uro::LargeCustomerFacilityAttribute

型の定義	都市計画法に基づき実施される都市計画基礎調査において収集された、大規模小売店舗や大規模集客施設に関する基礎的な情報。	
上位の型	uro::BuildingAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::class	gml::CodeType [0..1]	集客施設の種類。コードリスト（LargeCustomerFacilityAttribute_class.xml）より選択する。
uro::name	xs::string [0..1]	集客施設の名称。
uro::capacity	xs::integer [0..1]	集客施設の収容人数。（病院の場合は、病床数、大学等の場合は学生数とする。）
uro::owner	xs::string [0..1]	施設の所有者の名称。
uro::totalFloorArea	gml::MeasureType [0..1]	集客施設各階における床面積を合計した面積。単位は m（uom="m2"）とする。
uro::totalStoreFloorArea	gml::MeasureType [0..1]	集客施設各階における店舗の床面積を合計した面積。単位は m（uom="m2"）とする。
uro::inauguralDate	xs::date [0..1]	集客施設が運営を開始した年月日。
uro::yearOpened	xs::gYear [0..1]	開設年。
uro::yearClosed	xs::gYear [0..1]	廃止年。
uro::keyTenants	xs::string [0..1]	集客施設が商業施設の場合の、主要なテナントの名称。
uro::availability	xs::oolean [0..1]	集客施設が医療施設の場合の、3 次医療圏規模の有無。

uro::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	集客施設が立地する土地が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
uro::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	集客施設が立地する土地が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
uro::districtsAndZonesType	gml::CodeType [0..*]	集客施設が立地する土地が属する地域地区の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。建築物が複数の地域地区に含まれる場合は、複数を列挙する。
uro::landUseType	gml::CodeType [0..1]	集客施設が立地する土地の土地利用区分。コードリスト（Common_landUseType.xml）より選択する。
uro::reference	xs::string [0..1]	図面対照番号。集客施設の位置を示す図面上の番号。
uro::note	xs::string [0..1]	その他集客施設に関して特筆すべき事項。
uro::surveyYear	xs::gYear [0..1]	集客施設の立地状況調査の実施年（西暦）。運用上多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

4) uro::LandUseDetailAttribute

型の定義	都市計画に関する基礎調査の一つとして、土地利用の現況と変化の動向を把握すること を目的とし都市計画法第 6 条の規 定に基づき実施される調査の結果。	
上位の型	uro::LandUseAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::orgLandUse	gml::CodeType [0..1]	都市独自の分類による土地利用用途。コードリスト（LandUseDetailAttribute _orgLandUse.xml）より選択する。本属性を使用する場合は、コードリストを作成すること。
uro::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	図上計測面積を調整した値。単位は m2（uom=”m2”）とする。
uro::ownerType	gml::CodeType [0..1]	土地所有者の区分。コードリスト（Common_ownerType.xml）より選択する。
uro::owner	xs::string [0..1]	土地所有者の名称。
uro::areaInSquareMeter	gml::MeasureType [0..1]	図上計測面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
uro::areaInHa	gml::MeasureType [0..1]	図上計測面積（ha 換算数）。単位は ha（uom=” ha”）とする。
uro::buildingCoverageRate	xs::double [0..1]	建蔽率（敷地面積に対する建築面積の割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::floorAreaRate	xs::double [0..1]	容積率（敷地面積に対する延床面積の割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::specifiedBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	指定建蔽率（用途地域別に定められている建蔽率）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::specifiedFloorAreaRate	xs::double [0..1]	指定容積率（都市計画で定められる容積率の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。

uro::standardFloorAreaRate	xs::double [0..1]	基準容積率（前面道路の幅員が 12m未満の場合に、前面道路の幅員による限度により算出される容積率）。全体を「1」とする割合で記述する。
uro::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	土地が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
uro::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	土地が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
uro::districtsAndZonesType	gml::CodeType [0..*]	土地が属する地域地区の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。建築物が複数の地域地区に含まれる場合は、複数を列挙する。
uro::prefecture	gml::CodeType [0..1]	土地が所在する都道府県の都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
uro::city	gml::CodeType [1]	土地が所在する市区町村の市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。政令市の場合は、区の市区町村コードとする。コードリスト（Common_localPublicAuthorities.xml）より選択する。
uro::reference	xs::string [0..1]	土地の位置を示す図面上の番号。
uro::note	xs::string [0..1]	その他土地に関して特筆すべき事項。
uro::surveyYear	xs::gYear [0..1]	土地利用現況調査の実施年（西暦）。

5) uro::LandUseDataQualityAttribute

型の定義	土地利用（luse::LandUse）オブジェクトごとの作成情報を記述するためのデータ型。	
上位の型	uro::LandUseAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::unit	gml::CodeType [0..1]	土地利用オブジェクトの形状の単位。コードリスト（LandUseDataQualityAttribute_unit.xml）より選択する。
uro:srcScale	gml::CodeType [0..1]	元となるデータの地図情報レベル。コードリスト（LandUseDataQualityAttribute_srcScale.xml）より選択する。
uro:geometrySrcDesc	gml::CodeType [0..*]	幾何オブジェクトを作成する元となるデータの説明。コードリスト（LandUseDataQualityAttribute_geometrySrcDesc.xml）より選択する。
uro:thematicSrcDesc	gml::CodeType [0..*]	主題属性を作成する元となるデータの説明。コードリスト（LandUseDataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml）より選択する。
uro:lodType	uro:RoadLODType[0..1]	道路オブジェクトに適用された LOD3 の詳細な区分（表 4-7 参照）。LOD3 の幾何オブジェクトに、複数の LOD3 の細分が混在している場合は、最も低い LOD とする。

		例えば、LOD3.0 と LOD3.1 が混在している場合は、LOD3.0 とする。

6) uro::RoadStructureAttribute

型の定義	道路を、路線、同等以上の道路との交差点、道路構造の変化点（トンネル、橋梁）で変化する場所で区切った区間における、道路の構造。	
上位の型	uro::RoadAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::width	gml::LengthType [0..1]	中央帯、車道、路肩、植樹帯、歩道等及び環境施設帯（環境施設帯の中の路肩、植樹帯、歩道等の部分を除いた部分）の幅員を合計した幅員。単位は m（uom="m"）とする。
uro::widthType	gml::CodeType [0..1]	幅員の区分。コードリスト（RoadStructureAttribute_widthType.xml）より選択する。都市計画基礎調査で収集されている場合にのみ作成する。
uro::numberOfLanes	xs::integer [0..1]	上下線の合計（一方通行区間の場合を除く）の車線数。 道路構造令第 2 条第 7 号の登坂車線、同第 2 条第 6 号にいう付加追越車線、同第 2 条 8 号の屈折車線、同第 2 条第 9 号の変速車線及び同第 2 条第 14 号の停車帯、及びゆずり車線は車線数には含めない。交差点付近において、右左折のための車線が設けられている場合はこの数を含まない。 「1 車線道路」は道路構造令第 5 条 1 項ただし書きによって、車線により構成されない車道を持つ道路であるが、ここでは車線数＝1 とする。「1 車線道路」は車道幅員が 5.5m 未満の場合とする。 道路構造が「交差部」の場合、この属性は作成しない。
uro::sectionType	gml::CodeType [0..1]	道路構造の種別。コードリスト（RoadStructureAttribute_sectionType.xml）より選択する。

7) uro::PublicLand

型の定義	国公有地。	
上位の型	luse::LandUse	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	国公有地の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	国公有地を識別する名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(luse::class)	gml::CodeType [0..1]	土地利用用途の大まかな区分。
(luse::function)	gml::CodeType [0..*]	土地利用の機能。
(luse::usage)	gml::CodeType [0..*]	土地利用の用途。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
uro::ownerType	gml::CodeType	所有者の区分。コードリスト（Common_ownerType.xml）より選択する。
uro::ownerName	xs::string	所有者名。
uro::landCategory	xs::string	地目。
uro::area	gml::MeasureType	面積。単位は ha とする。
uro::status	xs::string	利用状況。
uro::note	xs::string [0..1]	備考。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
(gen::stringAttribute)	gen::stringAttribute [0..*]	文字列型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::intAttribute)	gen::intAttribute [0..*]	整数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::doubleAttribute)	gen::doubleAttribute [0..*]	実数型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::dateAttribute)	gen::dateAttribute [0..*]	日付型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::uriAttribute)	gen::uriAttribute [0..*]	URI 型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::measureAttribute)	gen::measureAttribute [0..*]	単位付き数値型属性。属性を追加したい場合に使用する。
(gen::genericAttributeSet)	gen::GenericAttributeSet [0..*]	汎用属性のセット（集合）。
luse::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	国公有地の敷地の外周を面として取得する。

8) uro::TrafficVolumeAttribute

型の定義	道路の交通量に関する情報。全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査の対象となる高速自動車国道、都市高速道路、一般国道、主要地方道である都道府県道及び指定市の市道、一般都道府県道、指定市の一部の一般市道を対象とする。	
上位の型	uro::RoadAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

uro::sectionID	xs::string [0..1]	交通量調査において、調査の単位となる交通調査基本区間に付与される番号。原則として「都道府県（2 桁）」＋「道路種別（1 桁）」＋「路線番号（4 桁）」＋「順番号（4 桁）」からなる 11 桁の番号。
uro::weekday12hourTrafficVolume	xs::integer [0..1]	平日 7 時~19 時までに通過する車両台数。単位は台とする。
uro::weekday24hourTrafficVolume	xs::integer [0..1]	平日 7 時~翌朝 7 時又は 0 時~翌日 0 時までに通過する車両台数。単位は台とする。
uro::largeVehicleRate	xs::double [0..1]	自動車類交通量に対する大型車交通量の割合。 単位は%とする。
uro::congestionRate	xs::double [0..1]	交通調査基本区間の交通容量に対する交通量の比。 単位は%とする。
uro::averageTravelSpeedInCongestion	xs::double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7 時～9 時）又は夕方のラッシュ時間帯（17 時～19 時）において平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。 都市計画基礎調査で収集されている場合にのみ作成する。 単位は km/h とする。
uro::averageInboundTravelSpeedInCongestion	xs::double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7 時～9 時）又は夕方のラッシュ時間帯（17 時～19 時）において上り線における平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。 単位は km/h とする。
uro::averageOutboundTravelSpeedInCongestion	xs::double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7 時～9 時）又は夕方のラッシュ時間帯（17 時～19 時）において下り線における平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。 単位は km/h とする。
uro::observationPointName	xs::string [0..1]	交通量等を観測した地点の名称。
uro::reference	xs::string [0..1]	対象となる道路の区間を図上で識別する番号。
uro::surveyYear	xs::gYear [0..1]	調査が実施された年。

(2) Urban Function（i-UR）

都市計画基礎調査パッケージで使用する、UrbanFunction モジュールで定義されたクラスの応用スキーマ文書を以下で示す。

1) urf::AccomodationType

型の定義	都市計画基礎調査 C1001 に示される宿泊施設の調書及び集計表のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml::CodeType	調書の場合はメッシュ番号とし、集計表の場合は、調査年（西暦）とする。
numberOfAccomodation	urf::ValueByCodes [1..*]	調書の場合は、宿泊施設区分ごとの施設数、施設総数、収容人数、客室数とする。 宿泊施設区分は、コードリスト（C1001_accomodation.xml）から選択する。 集計表の場合は、宿泊施設の総数、収容人数の総数、客室数の総数とする。 値は整数（intValue）とする。

2) urf::Administration

型の定義	行政区域。都道府県及び市区町村。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都道府県又は市区町村の名称。 市区町村の場合は、都道府県名も記載する。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。

(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画基礎調査の実施主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）と基本する。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	行政区域の位置を示す点。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

3) urf::AreaClassificationType

型の定義	区域別の面積。都市計画基礎調査 C0301 に示される区域区分の状況の調書の作成に使用する。 都市計画区域（urf::UrbanPlanningArea）、準都市計画区域（ urf::QuasiUrbanPlanningArea）、市街化地域及び市街化調整地域（urf::AreaClassification）、非線引き用途地域（urf::UnclassifiedUseDistrict）、非線引き用途白地（urf::UnclassifiedBlankDistrict）、居住誘導区域（urf::ResidenceAttractionArea）、都市機能誘導区域（urf::UrabanFunctionAttractionArea）用いて作成する。
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord

ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UrbanAreaClassValue [1]	区域の区分。
urf::area	gml::MeasureType [1]	区域の区分ごとの合計面積。単位は ha とする。

4) urf::Agreement

型の定義	条例・協定の適用状況。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	条例又は協定の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType	公式な面積。単位は m2。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::dateOfFirstPublicNotice	xs::date [0..1]	当初の公示・決定年月日。
urf::dateOfFinalPublicNotice	xs::date [0..1]	最終の公示・決定年月日。
urf::applicableArea	gml::MeasureType [0..1]	条例が適用される区域の面積。単位は m2。
urf::expiration	xs::string [0..1]	有効となる期限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	条例・協定の適用される地域の外形線により囲まれた範囲。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

5) urf::AgreementType

型の定義	条例・協定（C0308）の調書のレコードに使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。

		値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::name	xs::string [1]	条例又は協定の名称。
urf::dateOfFirstPublicNotice	gml::CodeType [1..*]	当初の公示・決定年月日。
urf::dateOfFinalPublicNotice	gml::CodeType [1..*]	最終の公示・決定年月日。
urf::area	gml::MeasureType [1]	面積。単位は m2。
urf::custodianType	xs::string [1]	決定主体の名称。都道府県名又は市区町村名とする。
urf::applicableArea	gml::MeasureType [1]	条例が適用される区域の面積。単位は m2。
urf::expiration	xs::string [1]	期限を限って定められたものである場合、その期限を記載する。
urf::note	xs::string [1]	備考。

6) urf::AgriculturalDevelopmentType

型の定義	農林漁業関連施策の詳細。	
上位の型	―	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上の識別子。
urf::blockName	xs::string [1]	地区名。
urf::projectType	xs::string [1]	事業種別。かんがい排水事業、ほ場整備事業、その他事業（構造改善事業、農業近代化事業等）のいずれかとする。
urf::implementationBody	xs::string [1]	事業の実施主体の名称。
urf::benefitdArea	gml::MeasureType [0..1]	受益面積。単位は ha。
urf::benefitAreaInUrbanArea	gml::MearureType [1]	市街化区域内の受益面積。単位は ha。
urf::startFiscalYear	xs::fYear [0..1]	着工年度。4 桁の西暦とする。
urf::status	gml::CodeType [1]	進行状況。 ※要実施要領の反映予定
urf::measureType	xs::string [1]	施策種別。直轄、補助、融資等の別。 ※要実施要領の反映予定
urf::benefitPeriod	xs::string [1]	受益期間。
urf::note	xs::string [0..1]	備考。

7) urf::BuildingType

型の定義	都市計画基礎調査 C0401 に示される建物利用現況の調書のレコード。
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord

ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	建築物の識別子。
urf::usage	gml::CodeType [1]	建築物の用途。bldg::Building.usage と同じ値となる。
urf::storeyAboveGround	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地上階数。bldg::Building.storeyAboveGround と同じ値となる。
urf::storeyBelowGround	xs::nonNegativeInteger [0..1]	地下階数。bldg::Building.storeyBelowGround と同じ値となる。
urf::buildingStructure	gml::CodeType [0..1]	建物構造。bldg::Building.buildingDetailAttribute.buildingStructureType と同じ値となる。
urf::buildingArea	gml::MeasureType [0..1]	建築面積。bldg::Building.buildingDetailAttribute.buildingFootprintArea と同じ値となる。
urf::floorArea	gml::MeasureType [0..1]	延床面積。bldg::Building.buildingDetailAttribute.totalFloorArea と同じ値となる。
urf::yearOfConstruction	xs::gYear [0..1]	建築年。bldg::Building.yearOfConstruction と同じ値となる。
urf::fireproofStructure	gml::CodeType [0..1]	耐火構造種別。bldg::Building.buildingDetailAttribute.fireproofStructureType と同じ値となる。
urf::height	gml::LengthType [0..1]	建物高さ。bldg::Building.measuredHeight と同じ値となる。
urf::vacancy	xs::boolean[0..1]	空き家区分。bldg::Building.buildingDetailAttribute.vacancy と同じ値となる。

8) urf::BuildingTotalType

型の定義	建築物の属性を用いて集計した結果を記述するためのデータ型。 都市計画基礎調査 C0401 に示される建物利用現況の集計表の作成に使用する。	
上位の型	―	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。

		項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UnitArea [1]	集計単位。 小地域名称（urf::subregionName）又は区域区分（urf::urbanArea）のいずれかとする。
urf::value	urf::ValueByCodes [1..*]	コードは、建物の属性と、棟数・建築面積又は延床面積との組み合わせとする。 建物の属性は、「用途」、「階数」、「構造」、「建築面積」、「延床面積」、「建築年」、「耐火構造」、「高さ」のいずれかとする。 各々、以下のコードリストより選択する。 用途は、コードリスト（C0401_use.xml）より選択する。 階数は、コードリスト（C0401_floor.xml）より選択する。 構造は、コードリスト（C0401_structure.xml）より選択する。 建築面積は、コードリスト（C0401_buildingArea.xml）より選択する。 延床面積は、コードリスト（C0401_floorArea.xml）より選択する。 建築年は、コードリスト（C0401_constructionYear.xml）より選択する。 建物耐火構造は、コードリスト（C0401_fireProofStructure.xml）より選択する。 高さは、コードリスト（C0401_height.xml）より選択する。 また、値の種類は、コードリスト（C0401_total.xml）より選択する。 棟数・建築面積又は延床面積は、コードリスト（C0401_sumTarget.xml）から選択する。 組み合わせの例 ・業務施設の棟数の場合：“401:1” ・地下階なし_地上 1 階の建築面積の場合：“501:2”

		値は、建物棟数の整数（intValue）とし、単位は件とする。建築面積又は延べ床面積の場合は単位付き計測値（measureValue）とし、単位は m2 とする。

9) urf::BusCustomerType

型の定義	都市計画基礎調査 C0604 に示される乗降客調書のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::routeName	xs::string	路線名。urf::PublicTransitFacility.name と同じ値となる。
urf::numberOfCustomers	xs::integer	総数（日平均）。urf::PublicTransitFacility.numberOfCustomers と同じ値となる。

10) urf::BusFrequencyType

型の定義	都市計画基礎調査 C0604 に示される運行状況調書のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

urf::type	gml::CodeType	バス路線の区分。urf::PublicTransitFacility.companyType と同じ値となる。
urf::companyName	urf::ValueByCodes [1..*]	事業者名。urf::PublicTransitFacility.companyName と同じ値となる。
urf::sectionName	xs::string	系統。urf::PublicTransitFacility.sectionName と同じ値となる。
urf::frequencyOfService	xs::integer	平日一日当たりの運行本数。urf::PublicTransitFacility.frequencyOfService と同じ値となる。

11) urf::CommutingPopulationType

型の定義	15 歳以上就業者、15 歳以上通学者。 都市計画基礎調査 C0105 に示される通勤・通学移動の集計表の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml::nameList [1]	取りうる値は以下のいずれかとする。 ・“常住地;都全体”、“常住地;道全体”、“常住地;府全体”、“常住地;県全体” ・“常住地”と市区町村名の組み合わせ 例：“常住地;千代田区” ・“常住地;都外”、“常住地;道外”、“常住地;府外”、“常住地;県外” ・“従業地における就業・通学者数計” 市区町村名は、全角の漢字とする。○○市、○○町ののように、市、区、町又は村を付ける。
urf::commutingPopulation	urf::ValueByCodes [1..*]	区分と値（人口）の組。 区分は以下のいずれかとする。 ・“従業地・通学地;都全体”、“従業地・通学地;道全体”、“従業地・通学地;府全体”、“従業地・通学地;県全体” ・“ 従業地・通学地”と市区町村名の組み合わせ

		例：“従業地・通学地;千代田区” ・“ 従業地・通学地;不詳” ・“常住地における就業・通学者数計” 市区町村名は、全角の漢字とする。○○市、○○町ののように、市、区、町又は村を付ける。 値は整数（intValue）とし、人口（単位は「人」）とする。

12) urf::DaytimePopulationType

型の定義	昼間人口。 都市計画基礎調査 C0106 に示される「小地域別昼間人口」及び「メッシュ単位別昼間人口」の調書及び集計表の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UnitArea [1]	昼間人口の集計の単位。 調書の場合は、小地域コード（urf::subregionCode）又はメッシュコード（urf::meshCode）を選択する。 メッシュコードは、2 分の 1 地域（500m）メッシュ単位とする。 集計表の場合は、区域区分（urf::urbanArea）を選択する。
urf::population	urf::ValueByCodes [1..*]	urf::class において指定された単位ごとの昼間人口。 コードは、コードリスト（C0106_class.xml）より選択する。 値は人口の場合は整数（intValue）とし、人口密度の場合は実数（doubleValue）とする。

13) urf::DevelopmentProject

型の定義	開発事業（宅地開発事業、農林漁業関係施策事業）の状況。

上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	開発事業の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
urf::class	gml::CodeType [0..1]	開発事業の分類。 宅地開発事業、農林漁業関係施策事業のいずれかとする。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	開発事業区域の範囲。

		市街地開発事業等、農林漁業関係施策事業の場合は面で取得する。
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	開発事業が実施される概ねの位置。 開発許可による開発は点で取得する。
urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	都市計画基礎調査の調書のレコード。 開発事業が開発許可による開発の場合は urf::ResidentialDevelopmentType を使用する。 市街地開発事業の場合は urf::UrbanDevelopmentProjectType を使用する。 農林漁業関係施策事業の場合は urf::AgriculturalDevelopmentType を使用する。

14) urf::DID

型の定義	人口集中地区（DID）。国勢調査の基本単位区を基礎単位とし、市区町村の境域内で人口密度の高い地域。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。

(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画基礎調査の実施主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）と基本する。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	DID の外周により囲まれた範囲。
urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicRecord [0..*]	DID の属性。 urf::DIDPopulationType を使用し記述する。

15) urf::DIDPopulationType

型の定義	DID 内の人口。 都市計画基礎調査 C0102 に示される DID の調書の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string[1]	DID を識別する番号。

urf::area	gml::MeasureType [1]	DID の面積。単位は、ha とする。
urf::population	xs::integer [1]	DID 内の人口
urf::note	xs::string [0..1]	備考。

16) urf::DistributionOfFloraAndFauna

型の定義	動植物の分布状況。 都市計画基礎調査 C0804 に示される動植物調査の分布図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
urf::class	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。 植物、動物
urf::function	gml::CodeType [0..*]	植物又は動物の分布状況として示される区分。コードリスト（C0804_function.xml）を作成する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。

urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	点。概ねの位置や特定の位置を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	線。延長の長い地物や地物の外形を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	面：一定の範囲をもつ地物の記述に使用する。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

17) urf::DisasterDamage

型の定義	災害の被害状況。 都市計画基礎調査 C0901 に示される災害の発生状況の位置図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	災害の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	災害の区分。コードリスト（C0901_function.xml）より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	災害の発生年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。JIS X0401 に定義される 2 桁の半角数字と JIS X0402 に定義される 3 桁の半角数字とを組み合わせた 5 桁の半角数字。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	点。土石流、がけ崩れの発生地点を示す。
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	面。外水被害区域（河川の氾濫や堤防の決壊等により堤内地に生じた被害区域）及び内水被害区域（中小河川、下水道等の排水不良のため堤内地に生じた湛水による被害区域）の範囲を示す。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

18) urf::DisasterPreventionBase

型の定義	防災施設。 都市計画基礎調査 C0902 に示される防災施設の位置及び整備の状況の位置図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	防災施設の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。

core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	防災施設の区分。コードリスト（C0902_function.xml）より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	災害の発生年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::capacity	xs::integer [0..1]	収容可能人数。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	点。避難所、防災拠点、消防水利の位置を示す。
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	面。一時避難地、広域避難地の範囲を示す。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

19) urf::DisasterPreventionBaseType

型の定義	都市計画基礎調査 C0902 に示される防災施設の位置及び整備の状況の調書のレコードとして使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上で識別する識別子。
urf::name	xs::string [1]	防災拠点、避難所の名称。
urf::type	gml::CodeType [1]	防災施設の区分。コードリスト（C0902_function.xml）より選択する
urf::capacity	xs::string [1]	収容可能人数。

20) urf::EconomicStructureAndActivitiesType

型の定義	事業所数、従業者数、小売販売額、製造品出荷額等。 都市計画基礎調査 C0202 に示される事業所数・従業者数・売上金額の調書の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UnitArea [1]	集計単位。

		調書の場合は、小地域コード（urf::subregionCode）又はメッシュコード（urf::meshCode）を選択する。 メッシュコードは、2 分の 1 地域（500m）メッシュ単位とする。
urf::economicStructureAndActivities	urf::ValueByCodes [1..*]	urf::class において指定された単位ごとの産業別事業所数、産業別従業者数、産業別小売販売額又は、産業別製造品出荷額。 コードは以下のいずれかとする。 ・区分と産業分類の組 このとき、区分はコードリスト（C0202_class.xml）より選択する。また、産業分類は、コードリスト（Common_industoryType.xml）より選択する。 ・区分と“総額”の組 このとき、区分はコードリスト（C0202_class.xml）より選択する。 値は整数（intValue）とし、事業所数（単位は箇所）、従業者数（単位は人）、小売販売金額（単位は円）、又は製造品出荷額（単位は円）となる。

21) urf::FarmlandConversionType

型の定義	農地転用状況（C0305）の調書のレコードに使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上でこの土地を識別する識別子。
urf::area	gml::MeasureType [1]	転用面積。単位は m2。
urf::purpose	gml::CodeType [1..*]	転用目的。Common_LandUse.xml より選択する。
urf::yearOfDiversion	xs::gYear [1]	転用年。半角 4 桁の西暦とする。
urf::isDisignated	xs::boolean [1]	農用地指定の有無。

		1：農用地指定あり 0：農用地指定なし

22) urf::FloodingDamageType

型の定義	都市計画基礎調査 C0901 に示される水害（外水（洪水、高潮、津波））の調書のレコード。 災害別に、被害状況を記述する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string	位置図上の番号。
urf::areaName	xs::string	名称、地区名。
urf::dateOfOccurence	xs::date	発生年月日。
urf::damageArea	gml::MeasureType	浸水面積（単位は ha）。
urf::numberOfHousesFloodedAvoveFloorLevel	xs::nonNegativeInteger	床上浸水戸数（単位は戸）。
urf::numberOfHousesFloodedBelowFloorLevel	xs::nonNegativeInteger	床下浸水戸数（単位は戸）。
urf::note	xs::string	備考。

23) urf::ForestConversionType

型の定義	林地転用状況（C0306）の調書のレコードに使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。

		項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上でこの土地を識別する識別子。
urf::area	gml::MeasureType [1]	転用面積。単位は m2。
urf::purpose	gml::CodeType [1..*]	転用目的。Common_LandUse.xml より選択する。
urf::yearOfDiversion	xs::gYear [1]	転用年。半角 4 桁の西暦とする。

24) urf::GreenSpaceAreaType

型の定義	都市計画基礎調査 C0803 に示される緑の状況の集計表のレコード。 市区町村別に、緑被地の面積を集計する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf :class	gml::CodeType	市区町村コード。
urf::totalGreenArea	gml::MeatureType	cityName で示した市区町村内の緑被地面積の合計。単位は ha とする。
urf::greenArea	urf::ValueByCodes [1..*]	緑被地の区分ごとの面積。 緑被地の区分は、コードリスト（C0803_greenSpaceType.xml）から選択する。 緑被地面積は、単位付き計測値（measureValue）とし、単位は ha とする。

25) urf::InlandFloodingDamageType

型の定義	都市計画基礎調査 C0901 に示される水害（内水）の調書のレコード。 災害別に、被害状況を記述する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string	位置図上の番号。
urf::areaName	xs::string	名称、地区名。
urf::dateOfOccurence	xs::date	発生年月日。
urf::damageArea	gml::MeasureType	浸水面積（単位は ha）。
urf::numberOfHousesFloodedAvoveFloorLevel	xs::nonNegativeInteger	床上浸水戸数（単位は戸）。
urf::numberOfHousesFloodedBelowFloorLevel	xs::nonNegativeInteger	床下浸水戸数（単位は戸）。
urf::maximumRainfallPerHour	gml::LengthType	最大時間雨量（mm/hour）。
urf::totalRainfall	gml::LengthType	総雨量（mm）。
urf::note	xs::string	備考。

26) urf::LandPrice

型の定義	地価の調査地点。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	調査地点名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。

core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	地価の調査地点。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。urf::LandPriceType を用いて記述する。

27) urf::LandPriceType

型の定義	都市計画基礎調査 C0701 に示される地価の状況の調書のレコード。 国土数値情報の地価公示（点）及び都道府県地価調査（点）の属性項目と一致する。
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord
ステレオタイプ	<<DataType>>
上位から継承する属性属性	

属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::pointCode	xs::string	基準地コード又は標準地コード。
urf::pointCodeOfLastYear	xs::string	前年度の基準地コード又は標準地コード。
urf::fiscalYear	xs::gYear [0..1]	対象とする地価調査の年度。西暦（半角数字 4 桁）とする。
urf::landPrice	xs::integer	基準地の地価。単位を「円/m2」とする。ただし、林地の場合は[円/10a]とする。
urf::variability	xs::double	対前年変動率
urf::isSelected	xs::boolean	選定状況の変化有無。
urf::isAddressChanged	xs::boolean	住居漢字の変化有無。
urf::isAcreageChanged	xs::boolean	地積の変化有無。
urf::isUseChanged	xs::boolean	利用の現況の変化有無。
urf::isBulsingStructureChanged	xs::boolean	建物構造の変化有無。
urf::isSupplyFacilitiesChanged	xs::boolean	供給施設の変化有無。
urf::isDistanceFromStationChanged	xs::boolean	駅からの距離の変化有無。
urf::isUseDistrictChanged	xs::boolean	用途区分の変化有無。
urf::isFirePreventionChanged	xs::boolean	防火区分の変化有無。
urf::isUrbanPlanAreaChanged	xs::boolean	都市計画区分の変化有無。
urf::isBuildingCoverageRateChanged	xs::boolean	建ぺい率の変化有無。
urf::isFloorAreaRateChanged	xs::boolean	容積率の変化有無。
urf::cityCode	gml::CodeType [1..*]	基準地行政区域コード。
urf::cityName	xs::string	基準地市区町村名称。
urf::location	xs::string	所在及び地番。
urf::address	xs::string	住居表示。
urf::acreage	gml::MeasureType	地積。単位は m2 とする。
urf::useStatus	xs::string [0..*]	利用現況。以下から選択する。

		住宅、店舗、事務所、銀行、旅館、給油所、工場、倉庫、農地、山林、医院、空地、作業場、原野、その他、用材、雑木
urf::useStatusDescription	xs::string [0..1]	「利用現況」が“その他”の場合の利用状況（自由記述）
urf::useType	xs::string	地目による利用区分。
urf::buildingStructure	xs::string	標準地の建築物の構造による区別。 以下に示す「建物構造略号」＋「建物階数」で示す。ただし、建築物に地下階層がある場合は、地上階数の後に「F」、地下階数の後に「B」を記述する。 建物構造略号： SRC：鉄骨・鉄筋コンクリート RC：鉄筋コンクリート S：鉄骨造 LS：軽量鉄骨造 B：ブロック造 W：木造 記述例） 木造で地上 2 階建の場合： W2 鉄筋コンクリートで地上 3 階地下 1 階建ての場合： RC3F1B
urf::water	xs::boolean	供給施設有無（水道） 1：有 0：無
urf::gas	xs::boolean	供給施設有無（ガス） 1：有 0：無
urf::sewerage	xs::boolean	供給施設有無（下水） 1：有 0：無
urf::shape	xs::string [0..1]	基準地の形状区分
urf::frontageRate	xs::double	間口幅と奥行幅の比率（短い方を基準値 1.0 とする）
urf::depthRate	xs::double	間口幅と奥行幅の比率（短い方を基準値 1.0 とする）
urf::storeysAboveGround	xs::nonNegativeInteger	地上階層。不明な場合は 0 とする。
urf::storeysBelowGround	xs::nonNegativeInteger	地下階層。不明な場合は 0 とする。
urf::frontageRoad	xs::string	前面道路の状況。
urf::frontageRoadDirection	xs::string	前面道路の方位。
frontageRoadWidth	gml::LengthType	前面道路の幅員。単位は m とする。駅前広場の場合は 999.9 とする。
urf::stationSquare	xs::string	前面道路の駅前状況。
urf::frontageRoadSurface	xs::string	前面道路の舗装状況。
urf::sideRoad	xs::string	側道状況。
urf::sideRoadDirection	xs::string	側道の方位。

urf::transportationFacilities	xs::string	交通施設との近接状況。
urf::surroundings	xs::string	周辺の土地利用の状況。
urf::stationName	xs::string	最寄りの駅名。
urf::distanceFromStation	gml::LengthType	駅からの距離。単位は m とする。近接の場合は 0 とする。
urf::useDistrict	urf::LegalRestrictionValue [1..*]	用途区分。
urf::firePrevention	xs::string	防火区分。
urf::urbanPlanType	xs::string	都市計画区分。
urf::heightControl	xs::string	高度地区。
urf::forest	xs::string	森林区分。森林法の制限を受けているか。
urf::park	xs::string	公園区分。公園法の制限を受けているか。
urf::buildingCoverageRate	xs::integer	建ぺい率。単位は%。
urf::floorAreaRate	xs::integer	容積率。単位は%。
urf::extraFloorAreaRate	xs::string	建築物の高さ制限容積率より減額割合の適用の区別。
urf::isSame	xs::boolean	前年度地価公示の調査地点と共通かどうかの区別。 1：同じ 0：異なる
urf::selectionStatus	xs::string	選定年次ビット。 昭和 58 年から最新年までの選定対象の状況について、 1：選定対象年である 0：選定対象年ではない を順番に列挙する。
urf::landPriceHistory	urf::ValueByCodes [1..*]	各年の地価。単位は円/m2 とする。
urf::attributeHistory	urf::ValueByCodes [1..*]	各年の属性移動。 コードは各年（西暦 4 桁）とする。 属性移動の下記の 14 項目について、属性移動の区分を順番に列挙する。（桁数は 14 桁） 「選定状況、住居表示、地積、利用現況、建物構造、供給施設、駅からの距離、用途区分、防火区分、都市計画区分、森林区分、公園区分、建蔽率、容積率」 「選定状況」について、 1:継続 2:標準地・基準地番号変更 4:新設・選定替えで当該年追加 ※過年度に標準地・基準地のない場合のコードは“0”となる。 「選定状況」以外について、 0:前年から変更無し 1:前年から変更有り を順番に列挙する。

28) urf::LandPriceAverageType

型の定義	都市計画基礎調査 C0701 に示される地価の状況の集計表のレコード。 都市計画の区域区分別に、調査箇所の平均値を集計する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UrbanAreaClassValue [1]	集計の単位。区域区分とする。
urf::landPrice	urf::ValueByCodes [1..*]	コードは土地利用区分とし、以下のいずれかの値とする。 住宅地、商業地、工業地、準工業地、宅地見込地、林地 値は実数（doubleValue）とし、1m2 当たりの地価（単位は円）とする。

29) urf::LandSlideDamageType

型の定義	都市計画基礎調査 C0901 に示される土砂災害（土石流・がけ崩れ等）の調書のレコード。 災害別に、被害状況を記述する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

urf::id	xs::string	番号。
urf::areaName	xs::string	名称、地区名。
urf::dateOfOccurence	xs::date	発生年月日。
urf::damageArea	gml::MeasureType	浸水面積（単位は ha）。
urf::numberOfDamagedHouses	xs::nonNegativeInteger	被害建物棟数（単位は戸）。
urf::note	xs::string	備考。

30) urf::LandUseDiversion

型の定義	土地利用の転用。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
urf::class	gml::CodeType [0..1]	農地転用又は林地転用の区分。 農地が転用された場合は、農地、林地が転用された場合は林地とする。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	転用用途。Common_LandUse.xml より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画基礎調査の実施主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。

(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType	転用面積。単位は m2 とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::yearOfDiversion	xs::gYear [0..1]	転用された年。
urf::isDesignated	xs::boolean [0..1]	農地転用の場合に、農用地指定の有無。 1：農用地指定あり 0：農用地指定なし（省略時値）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	転用された土地の概ねの中心位置。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

31) urf::LandUseType

型の定義	土地利用の現況。 都市計画基礎調査 C0302 に示される土地利用現況の調書の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	インスタンスの識別子。
urf::use	gml::CodeType [1]	土地の用途。luse::LandUse.class と同じ値となる。

urf::area	gml::MeasureType [1]	土地の面積。luse::LandUse.landUseDetailAttribute.nominalArea と同じ値となる。
urf::vacancy	xs::boolean [0..1]	低未利用土地フラグ。低未利用土地に該当する場合に 1 とする。luse::LandUse.usage と同じ値となる。

32) urf::LargeCustomerFacilityType

型の定義	都市計画基礎調査 C0402 に示される大規模小売店舗等の立地状況の調書のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string	大規模小売店舗等の識別子。
urf::isRetailStore	xs::boolean	大規模小売店舗の場合に 1 とする。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute.class により判定する。
urf::isCustomerAttractingFaclity	xs::boolean	大規模集客施設の場合に 1 とする。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute.class と同じ値となる。
urf::yearOpened	xs::gYear [0..1]	開設年。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute. yearOpened と同じ値となる。
urf::yearClosed	xs::gYear [0..1]	廃止年。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute. yearClosed と同じ値となる。
urf::totalFloorArea	gml::MeasureType [0..1]	延床面積。単位は m2 とする。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute. totalFloorArea と同じ値となる。
urf::facilityName	xs::string [0..1]	施設名称。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute.name と同じ値となる。
urf::facilityType	gml::CodeType [0..1]	施設分類。bldg::Bulding.largeCustomerFacilityAttribute.class と同じ値となる。

33) urf::NaturalConditions

型の定義	地形・水系・地質条件。

	都市計画基礎調査 C0801 に示される地形・水系・地質条件の位置図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
urf::class	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。 地形図、水系図、地質条件
urf::function	gml::CodeType [0..*]	地形図、水系図又は地質条件として示される区分。コードリスト（C0801_function.xml）を作成する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	点。概ねの位置や特定の位置を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	線。延長の長い地物や地物の外形を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	面：一定の範囲をもつ地物の記述に使用する。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

34) urf::NewHousing

型の定義	建築物の新築着工の状況（新築動向）。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType	開発面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。

urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::mainPurpose	gml::CodeType [0..*]	主な用途。Building_usage.xml より選択する。
urf::developer	xs::string [0..1]	事業主体。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	概ねの位置。1 点のみを指定する。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

35) urf::NewHousingType

型の定義	新築動向（C0307）の調書のレコードに使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(urf::orgItem)	urf::ValueByCodes [0..1]	調書に都市独自の項目を追加したい場合に使用する。 項目名（class）は任意の文字列とする。ただし、標準製品仕様書で定義するこのデータ型の他の属性名と同じであってはならない。 値は、整数（intValue）、実数値（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（string）のいずれかから選択する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上でこの土地を識別する識別子。
urf::purpose	gml::CodeType [1..*]	主な用途。urf::NewHousing.mainPurpose の値と一致する。
urf::developer	xs::string [1]	事業主体の名称。
urf::area	gml::MeasureType [1]	開発面積。単位は m2。
urf::yearOfConstruction	xs::gYear [1]	開発年。半角 4 桁の西暦とする。

36) urf::NumberOfEmployeesByIndustryCategory

型の定義	産業分類別就業者数。 都市計画基礎調査 C0201 に示される産業・職業分類別就業者数の集計表の作成に使用する。 常住地別の場合は、集計表の urf::tableName を“常住地別産業分類別就業者数”とし、従業地別の場合は、集計表の urf::tableName を“従業地別産業分類別就業者数”とする。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml:CodeType [1]	産業分類。コードリスト（Common_industoryType.xml）より選択する。
urf::numberOfEmployeesByIndustoryCategory	urf::ValueByCodes [1..*]	コードは市区町村コード（5 桁）とする。 値は整数（intValue）とし、就業者数となる。

37) urf::NumberOfEmployeesByOccupation

型の定義	職業分類別就業者数。 都市計画基礎調査 C0201 に示される産業・職業分類別就業者数の集計表の作成に使用する。 常住地別の場合は、集計表の urf::tableName を“常住地別職業分類別就業者数”とし、従業地別の場合は、集計表の urf::tableName を“従業地別職業分類別就業者数”とする。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml:CodeType [1]	職業分類。コードリスト（Common_occupationType.xml）より選択する。
urf::numberOfEmployeesByOccupation	urf::ValueByCodes [1..*]	コードは市区町村コード（5 桁）とする。 値は整数（intValue）とし、就業者数となる。

38) urf::NumberOfHouseholdsType

型の定義	住宅の所有関係別世帯数の集計。 都市計画基礎調査 C0403 に示される住宅の所有関係別世帯数の集計表及び住宅の建て方世帯数の集計表の作成に使用する。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UrbanAreaClassValue [1]	集計単位。区域単位に集計する。
urf::value	urf::ValueByCodes [1..*]	コードと値の組。 コードは、住宅の所有区分又は住宅の建て方区分とする。

		住宅の所有区分は、コードリスト（C0403_ownership.xml）より選択する。 住宅の建て方区分は、コードリスト（C0403_structure.xml）より選択する。 値は整数（intValue）とし、世帯数となる。

39) urf::ObservationPoint

型の定義	公害の観測地点。	
上位の型	―	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	公害を観測した位置。

40) urf::OrgSurveyRecord

型の定義	都市独自の調書及び集計表のためのレコード型。 この型を使用する場合には、レコードの識別に用いるデータ（urf::class）及び調書又は集計表の記載項目（urf::value）を指定しなければならない。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml:NameList	調書のレコードの識別子。
urf:value	urf::ValueByCodes [1..*]	項目と値の組合せ。 項目は 1 つ以上のコード又は文字列の組合せとなる。 値は、整数（intValue）、実数（doubleValue）、単位付き計測値（measureValue）、文字列（stringValue）のいずれかとし、追加する項目ごとに指定する。 単位付き計測値の場合には単位も記載すること。

41) urf::Pollution

型の定義	公害。 都市計画基礎調査 C1004 に示される公害の発生状況の位置図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	被害の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	公害の種類。コードリスト（C1004_function.xml）より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	設置主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	被害区域。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。urf::PollutionType を使用する。
自身に定義された関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::observationPoint	urf::ObservationPoint [1]	公害の観測地点。

42) urf::PollutionType

型の定義	都市計画基礎調査 C1004 に示される公害の発生状況の調書のレコードとして使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上で識別する識別子。
urf::type	xs::string [1]	公害の種類。コードリスト（C1004_function.xml）より選択する。
urf::year	xs::gYear [0..1]	公害の発生年。
urf::cause	xs::string [0..1]	公害の発生源。
urf::damagedArae	gml::MeasureType [0..1]	被害面積。単位は ha。

43) urf::PopulationEstimationType

型の定義	将来の予測人口。 都市計画基礎調査 C0103 に示される将来人口の集計表の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::AgeGroupClassValue [1]	年齢階級別の区分。
urf::populationEstimation	urf::ValueByCodes [1..*]	予測する年かつ性別ごとの区分における年齢階級別の人口。 区分は、予測する年と性別の組み合わせとする。 予測する年は、半角 4 桁数字の西暦とする。性別は全角で総数、男、女のいずれかとする。 値は整数（intValue）とし、人口となる。

44) urf::PopulationChangeType

型の定義	人口増減。 都市計画基礎調査 C0104 に示される人口増減の調書の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::PopulationChangeClassValue [1]	集計の項目。

		自然増減、出生者数、死亡者数、社会増減、転入者数、転出者数、その他増減、人口増減計のいずれかから選択する。
urf::populationChangeByYear	urf::ValueByCodes[1..*]	年毎の区分と値（人口）の組。 区分は人口増減を集計する年とし、半角数字 4 桁の西暦とする。 値は整数（intValue）とし、人口となる。

45) urf::PopulationSizeType

型の定義	人口規模。 都市計画基礎調査 C0101 に示される小地域別人口規模及びメッシュ単位別人口規模の調書、また、区域区分別人口規模の集計表の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UnitArea [1]	人口規模の集計の単位。 調書の場合は、小地域コード又はメッシュコード（4 分の 1 地域メッシュ）とする。 集計表の場合は、区域区分とする。
urf::population	urf::ValueByCodes [1..*]	urf::class において指定された単位ごとの性別及び年齢階級別の人口。 コードは性別及び年齢階級別の組合せであり、コードリスト（Common_ageAndSex.xml）より選択する。 値は整数（intValue）とし、人口となる。

46) urf::PublicLandType

型の定義	国公有地の現況。 都市計画基礎調査 C0303 に示される国公有地の状況の調書の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	インスタンスの識別子。
urf::ownerType	gml::CodeType [1]	国公有地の管理者。uro::PublicLand.ownerType と同じ値となる。
urf::category	gml::CodeType [1]	国公有地の地目。uro::PublicLand.category と同じ値となる。
urf::area	gml::MeasureType [1]	国公有地。uro::PublicLand.area と同じ値となる。
urf::status	xs::string [1]	利用状況。uro::PublicLand.status と同じ値となる。

urf::note	xs::string[0..1]	備考。uro::PublicLand.note と同じ値となる。

47) urf::PublicTransitFacility

型の定義	公共交通機関。鉄道路線及びバス路線を指す。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	名称。線路の場合は路線名、駅の場合は駅名とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
urf::class	gml::CodeType [0..1]	分類。 鉄道路線の場合は１とする。バス路線の場合は２とする。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	機能。 路線の場合は１とする。駅・停留所の場合は２とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。

(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::companyType	gml::CodeType [0..1]	事業者区分。コードリスト（PublicTransitFacility_companyType.xml）より選択する。
urf::companyName	xs::string [0..1]	事業者名。
urf::facilityType	gml::CodeType [0..1]	鉄道の区分。コードリスト（PublicTransitFacility_railwayType.xml）より選択する。
urf::sectionName	xs::string [0..1]	区間名。
urf::frequencyOfService	xs::integer [0..1]	1 日当たりの運行本数
urf::numberOfCustomers	xs::integer [0..1]	1 日当たりの旅客数。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	バス路線の範囲。デマンドバスのように、ルートが定められてない場合に、運行可能な範囲を面で示す。 urf::function の値が 1 の場合は線又は面で取得する。
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	鉄道又はバス路線の中心線。urf::function の値が 1 の場合は線又は面で取得する。
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	駅又は停留所の概ねの位置。鉄道又はバス路線の中心線上に存在する。urf::function の値が 2 の場合は線で取得する。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

48) urf::RailwayType

型の定義	都市計画基礎調査 C0603 に示される鉄道・路面電車等の状況の調書のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::railwayType	gml::CodeType	鉄道区分。urf::PublicTransitFacility.facilityType と同じ値となる。
urf::companyType	gml::CodeType	事業者種別。urf::PublicTransitFacility.companyType と同じ値となる。
urf::routeName	xs::string	線名。urf::PublicTransitFacility.name と同じ値となる。
urf::stationName	xs::string	駅名。urf::PublicTransitFacility.name と同じ値となる。
urf::companyName	xs::string	運営会社名。urf::PublicTransitFacility.companyName と同じ値となる。

urf::frequencyOfService	xs::integer	運行本数。urf::PublicTransitFacility.frequencyOfService と同じ値となる。
urf::numberOfCustomers	xs::integer	乗降客数。urf::PublicTransitFacility.numberOfCustomers と同じ値となる。

49) urf::ResidentialDevelopmentType

型の定義	宅地開発動向（C0304）の詳細。開発許可による開発の場合に使用する属性のデータ型。調書のレコードの型としても使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上の識別子。
urf::area	gml::MeasureType	事業面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::projectPeriod	xs::string [1]	事業期間。
urf::purpose	xs::string [1]	主な用途
urf::status	gml::CodeType [0..1]	進行状況。 開発許可による開発の場合は、以下の分類に沿って記述する。 ａ：調査実施時点で完了しているもの ｂ：現在施行中のもの、又は開発審査会による開発許可を受けたもの
urf::note	xs::string [0..1]	備考。市街化調整区域内の開発については、その旨を記す。

50) urf::Recreation

型の定義	レクリエーション施設。野球場、陸上競技場、サッカー場・ラグビー場、テニスコート、 ゴルフ場、水泳プール、その他スポーツ施設、ボート場、ヨットハーバー、 海水浴場・潮干狩、遊園地、動物園、植物園、競輪・競馬場、観光有料 道路、サイクリングコース、ハイキング・登山コース、自然歩道、キャンプ場 等 都市計画基礎調査 C1003 に示されるレクリエーション施設の状況の位置図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	施設の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。

core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	施設の区分。コードリスト（C1003_function.xml）より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	災害の発生年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	設置主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	点。概ねの位置や特定の位置を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	線。延長の長い地物や地物の外形を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	面：一定の範囲をもつ地物の記述に使用する。
urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..1]	レクリエーション施設の詳細情報。 urf::RecreationType を用いて記述する。

51) urf::RecreationType

型の定義	都市計画基礎調査 C1003 に示されるレクリエーション施設の状況の調書のレコードとして使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上で識別する識別子。
urf::name	xs::string [1]	レクリエーション施設のの名称。
urf::type	gml::CodeType [1..*]	施設の区分。コードリスト（C1003_function.xml）より選択する。
urf::custodian	xs::string [1]	設置主体。
urf::capacity	gml::MeasureType [0..1]	施設の規模。単位は m2 又は km。
urf::numberOfUsers	xs::integer [0..1]	年間利用者数（単位は人）。

52) urf::ResidenceAttractionArea

型の定義	居住誘導区域。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	小地域コード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。

(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画基礎調査の実施主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	公式な面積。単位は m2 とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	居住誘導区域の外周により囲まれた範囲。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

53) urf::RoadType

型の定義	都市計画基礎調査 C0502 に示される道路の状況の調書のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::creationDate	xs::date	電子国土基本図（地図情報）としてこの地物を生成した時点。
urf::isTemporary	xs::boolean[0..1]	暫定的な地物である場合は「1」。
urf::roadType	urf::RoadTypeValue	道路の種別。以下のいずれかの値をとる。 国道、都道府県道、市区町村道等、高速自動車国道等、その他、不明
urf::widthType	gml::CodeType	道路の幅員の区分。 コードリスト（RoadStructureAttribute_widthType.xml）より選択する。
urf::isTollRoad	xs:: boolean	道路を通行するために料金を徴収されるかどうかの区分。 1：有料 0：無料
urf::separator	gml::LengthType	分離帯の有無及び分離帯の幅。単位は m とする。
urf::isHighway	xs:: boolean [0..1]	高速道路の場合は「1」。

54) urf::RoadWidthType

型の定義	都市計画基礎調査 C0502 に示される道路幅員の集計表のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::unit	urf::UrbanAreaClassValue [1]	集計の単位。区域とする
urf::value	urf::ValueByCodes [1..*]	道路の幅員別の延長。 コードは、コードリスト（RoadStructureAttribute_widthType.xml）より選択する。 値は単位付き計測値（measureValue）となり、単位は m とする。

55) urf::ScenicResource

型の定義	景観・歴史資源。 景観地区、風致地区、歴史的風致形成建造物、国宝・重要文化財（建造物）、重要有形民俗文化財、史跡、名勝、重要伝統的建造物群保存地区、伝統的建造物群保存地区、国登録有形文化財（建造物）、埋蔵文化財包蔵地、景観重要建造物、景観重要樹木、その他都道府県や市町村が選定した資源。 都市計画基礎調査 C1002 に示される景観・歴史資源等の状況の状況の位置図の作成に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	景観・歴史資源の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	景観・歴史資源の区分。コードリスト（C1002_function.xml）より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。

(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	点。概ねの位置や特定の位置を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	線。延長の長い地物や地物の外形を示す場合に使用する。
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	面：一定の範囲をもつ地物の記述に使用する。
urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。urf::ScenicResourceType を使用して記述する。

56) urf::ScenicResourceType

型の定義	都市計画基礎調査 C1002 に示される景観・歴史資源等の状況の状況の調書のレコードとして使用するデータ型。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::id	xs::string [1]	位置図上で識別する識別子。
urf::name	xs::string [1]	観光資源の名称。
urf::prefecture	gml::CodeType [1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [1..*]	市区町村コード。
urf::typeName	xs::string [1]	観光資源の種別名。

urf::type	gml::CodeType [1..*]	景観・歴史資源の区分。コードリスト（C1002_function.xml）より選択する。
urf::address	xs::string [1]	観光資源の所在地住所。

57) urf::Subregion

型の定義	国勢調査の集計単位として使用される町丁・字等により細分する小地域。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	小地域を識別するコード。 5 桁の市区町村コードと、町丁・字又は大字・町名を識別する 6 桁又は 4 桁のコードからなる 9 桁又は 11 桁のコード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画基礎調査の実施主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）と基本する。

urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::townName	xs::string [0..1]	大字・町名。
urf::blockName	xs::string [0..1]	小字・丁目名。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	小地域の外周により囲まれた範囲。
urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicRecord [0..*]	小地域の属性。 urf::PopulationSizeType 及び urf::DaytimePopulationType を使用し記述する。

58) urf::SubregionName

型の定義	小地域の名称。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::townName	xs::string [0..1]	大字・町名。
urf::blockName	xs::string [0..1]	字・丁名。

59) urf::TotalEconomicStructureAndActivitiesType

型の定義	行政区域単位に集計した、産業分類別の事業所数、従業者数、売上金額等。 都市計画基礎調査 C0202 に示される事業所数・従業者数・売上金額の集計表の作成に使用する。 事業所数、従業者数、小売販売額、製造品販売額ごとに集計を作成する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml::CodeType[1]	産業分類とする。 コードリスト（Common_industoryType.xml）より選択する。
urf::numberOfOffices	urf::ValueByCodes [1..*]	コードは市区町村コード（5 桁）とする。

		値は整数（intValue）とし、事業所数、従業者数、又は売上金額となる。

60) urf::TotalAreaByLandUseType

型の定義	土地利用の現況。 都市計画基礎調査 C0302 に示される土地利用現況の集計表の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::UnitArea [1]	集計単位。 小地域名称（urf::subregionName）又は区域区分（urf::urbanArea）のいずれかとする。
urf::areaByLandUseType	urf::ValueByCodes [1..*]	土地利用区分ごとの合計面積。 コードは土地利用区分とする。コードリスト（Common_landUseType.xml）より選択、又は“低未利用土地”とする。 値は実数値（doubleValue）とし、urf::class で指定した単位で合計した面積とする。（単位は ha）

61) urf::TotalLandUseChangeType

型の定義	土地の転用状況。 都市計画基礎調査 C0304 宅地開発状況、C0305 農地転用状況表、C0306 林地転用状況、C0307 新築動向の各集計表の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	urf::TotalLandUseChangeClass [1]	集計単位。 C0304 宅地開発状況、C0305 農地転用状況表、C0306 林地転用状況の場合は、集計単位は、区域区分と集計した年の組合せ、又は、区域区分のみ（各集計年の合計）とする。 区域区分は、urf::UrbanAreaClassValue より選択する。集計した年は、半角 4 桁の西暦で記述し、各集計年の合計の場合は、“合計”とする。 例：“行政区域:2022”、“都市計画区域:合計” C0307 新築動向の場合は、集計単位は、集計した年、又はその合計とする。

		集計した年は、半角 4 桁の西暦で記述し、各集計年の合計の場合は、“合計”とする。 例：“2022”、“合計”
urf:total	urf::ValueByCodes [1..*]	土地利用の区分ごとの合計件数又は合計面積。 コードは、土地利用の区分と集計内容の組み合わせとする。 集計内容は、集計内容は“件数”、“面積”のいずれかとする。 土地利用の区分は、都市計画基礎調査のデータ項目ごとに以下のように設定する。 ・C0304 宅地開発状況 土地利用の区分は、“住宅用地”、“商業用地”、“工業用地”、“その他”、“不明”のいずれかとする。 ・C0305 農地転用状況 土地利用の区分は“青地”、“白地”、“住宅用地”、“商業用地”、“工業用地”、“公益施設用地”、“その他”、“不明”、“前年末の農地”のいずれかとする。 ただし、“前年末の農地”の集計内容は、”面積”のみと組み合わせ、“件数”との組み合わせは不要とする。 ・C0306 林地転用状況 土地利用の区分は、“住宅用地”、“商業用地”、“工業用地”、“公益施設用地”、“その他”、“不明”のいずれかとする。 ・C0307 新築動向 土地利用の区分は、“住宅用地”、“商業用地”、“工業用地”、“公益施設用地”、“その他”のいずれかとする。 いずれも値は、合計件数（単位は件）の場合は整数（intValue）とし、合計面積（単位は m2）の場合は単位付き計測値（measureValue）とする。

62) urf::TrafficVolumeType

型の定義	都市計画基礎調査 C0601 に示される主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度の調書のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::sectionID	xs::string	交通量調査において、調査の単位となる交通調査基本区間に付与される番号。原則として「都道府県（2 桁）」＋「道路種別（1 桁）」＋「路線番号（4 桁）」＋「順番号（4 桁）」からなる 11 桁の番号。
urf::routeName	xs::string	路線名。

urf::observationPointName	xs::string	交通量等を観測した地点の名称。
urf::weekday12hourTrafficVolume	xs::integer	平日 7 時~19 時までに通過する車両台数。単位は台とする。
urf::weekday24hourTrafficVolume	xs::integer	平日 7 時~翌朝 7 時又は 0 時~翌日 0 時までに通過する車両台数。単位は台とする。
urf::largeVehicleRate	xs::double	自動車類交通量に対する大型車交通量の割合。 単位は%とする。
urf::congestionRate	xs::double	交通調査基本区間の交通容量に対する交通量の比。 単位は%とする。
urf::averageInboundTravelSpeedInCongestion	xs::double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7 時～ 9 時）又は夕方のラッシュ時間帯（17 時～19 時）において上り線における平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。 上下線で旅行速度が大きく異なることはないと考えられる場合は、上下線共通の調査としてどちらか 1 方向のみとする。 単位は km/h とする。
urf::averageOutboundTravelSpeedInCongestion	xs::double [0..1]	朝のラッシュ時間帯（7 時～ 9 時）又は夕方のラッシュ時間帯（17 時～19 時）において下り線における平均旅行速度を集計し、その遅い方の時間帯の旅行速度。 上下線で旅行速度が大きく異なることはないと考えられる場合は、上下線共通の調査としてどちらか 1 方向のみとする。 単位は km/h とする。
urf::averageInboundTravelSpeedInNoCongestion	xs::double [0..1]	昼間 12 時間（午前 7 時～午後 7 時）の任意の時間帯の上り線における平均旅行速度。 上下線で旅行速度が大きく異なることはないと考えられる場合は、上下線共通の調査としてどちらか 1 方向のみとする。 単位は km/h とする。
urf::averageOutboundTravelSpeedInNoCongestion	xs::double [0..1]	昼間 12 時間（午前 7 時～午後 7 時）の任意の時間帯の下り線における平均旅行速度。 上下線で旅行速度が大きく異なることはないと考えられる場合は、上下線共通の調査としてどちらか 1 方向のみとする。 単位は km/h とする。

63) urf::TrafficFlowVolumeType

型の定義	都市計画基礎調査 C0602 に示される自動車流動量の集計表のレコード。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::depature	gml::CodeType	発地となる市区町村を示す 5 桁の市区町村コードとする。

urf::destination	urf::ValueByCodes [1..*]	着地ごとの 1 日当たりのトリップ数。 コードは着地となる市区町村を示す 5 桁の市区町村コードとする。 値は、整数（intValue）とする。

64) urf::TravelAndTouristTripConsumptionType

型の定義	都市計画基礎調査 C1001 に示される観光目的及びビジネス目的の入込客数及び消費額の集計表のレコード。 観光目的、ビジネス目的でそれぞれ表を作成する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
year	xs::gYear [0..1]	調査年。西暦 4 桁とする。集計表の場合のみ使用する。
value	urf::ValueByCodes [1..*]	観光目的の集計表を作成する場合、コードは、値の種類（入込客数、観光消費額）、居住タイプ（県内居住、県外居住）及び観光形態（宿泊、日帰り）の組み合わせとし、コードリスト（C1001_consumption.xml）から選択する。 値は整数（intValue）とし、入込客数の単位は人、観光消費額の単位は円とする。 ビジネス目的の集計表を作成する場合、コードは、宿泊施設総数、収容人数、客室数とする。 値は整数（intValue）とし、入込客数の単位は人、観光消費額の単位は円とする。

65) urf::UrbanFacilityStatus

型の定義	都市計画基礎調査 C0501 に示される都市施設の位置・内容。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
urf::surveyYear	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	都市施設の区域の中心線。 道路、都市高速鉄道、河川、運河、その他の水路、水道、下水道、その他延長の長い都市施設は、線で表現する。
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	都市施設の区域の代表位置。 都市施設の区域のうち、線で表現しない施設は点で表現する。

urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicRecord [0..*]	都市施設の内容。 urf::UrbanFacilityStatusType を使用し記述する。

66) urf::UrbanFacilityStatusType

型の定義	都市計画基礎調査 C0501 に示される都市施設の位置・内容の調書のレコードを記述するためのデータ型。 都市計画の変更を行った場合は、当初と変更のそれぞれについて作成する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::dateOfDecision	xs::date	決定又は変更年月日。都市計画決定情報と同一となる。
urf::facilityName	xs::string	都市施設名称。
urf::isPlanned	xs::boolean	計画中の場合に 1 とする。
urf::isImplemented	xs::boolean	事業中の場合に 1 とする。
urf::costUptToLastYear	xs::double	過年度末までの事業費。
urf::cost	xs::double	総事業費。
urf::isCompleted	xs::string	以下の改良済・概成済の延長等を含んで記載する。 改良済：用地が計画のとおり確保されており、供用している。 概成済：改良済以外の区間のうち、都市計画施設と同程度の機能している。
urf::startDate	xs::date	事業開始年月日。現在事業中のものは記入する。事業に着手されていないもの、計画決定時にすでに完成しているものは記入しない。
urf::completedDate	xs::date	事業完了年月日。現在事業中のものは事業 期間を記入する。事業に着手されていないもの、計画決定時にすでに完成しているものは記入しない。
urf::note	xs::string [0..1:	計画決定時にすでに完成しているものは、事業期間は記入せずその旨を備考欄に記入する。 また、認可を受けていないものについてはその旨を備考欄に記入する。 区間・区域別に事業化されているものは、区間、区域別の事業期間を記入し、備考欄に区間区域を記入する。 都市計画の変更を行った場合、その目的について備考欄に記入する。

67) urf::UrbanFunctionAttractionArea

型の定義	都市機能誘導区域。

上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	小地域コード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画基礎調査の実施主体。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）と基本する。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義

urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市機能誘導区域の外周により囲まれた範囲。
(urf::attribute)	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。

68) urf::UrbanDevelopmentProjectType

型の定義	宅地開発動向（C0304）の詳細。市街地開発事業等による開発の場合に使用する属性のデータ型。調書のレコードの型としても使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::dateOfDecition	xs::date [1]	決定年月日。
urf::projectName	xs::string [1]	市街地開発事業等の名称。
urf::plannedArea	gml::MeasureType [1]	計画面積。（単位は ha）
urf::ongoingArea	gml::MeasureType [1]	事業中面積。（単位は ha）
urf::costUpToLastFiscalYear	xs::double [1]	過年度までの事業費。単位は百万円。
urf::cost	xs::double [1]	総事業費用。 市街地開発事業等の場合は、総事業費を記述する。 単位は百万円。
urf::completedArea	gml::MeasureType [1]	整備済み面積。（単位は ha）
urf::projectPeriod	xs::string [0..1]	事業期間。現在事業中のものは認可を受けた事業期間を記入する。事業に着手されていないものは記入しない。
urf::note	xs::string [0..1]	備考。土地区画整理事業の場合は、仮換地指定時を記述する。

69) urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable

型の定義	都市計画基礎調査のデータ項目ごとに定められた調書又は集計表を示すデータ型。	
上位の型	―	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::prefecture	gml::CodeType	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
urf::dataItemNumber	gml::CodeType	この調書又は集計表が作成されるデータ項目の番号。コードリスト（UrbanPlanningBasicSurveyTable_dataItemNumber.xml）より選択する。
urf::tableName	xs::string	この調書又は集計表の名称。

urf::unit	xs::string [0..1]	この調書又は集計表の作成単位。一つのデータ項目に対して、複数の調書又は集計表が作成される場合に、各々の調書又は集計表の作成する単位を記す。 例えば、C0101（人口規模）の場合、調書は「小地域」「4 分の 1 地域メッシュ」のいずれかとなる。C0106（昼間人口）の場合、調書は「小地域」「2 分の 1 地域メッシュ」のいずれかとなる。また、C0201（産業・職業分類別就業者数）の場合は、「常住地別就業者数」又は「従業地別就業者数」となる。
urf::referenceDate	xs::date [0..1]	この調書又は集計表が作成された基準日。 C0302 土地利用現況や C0401 建物利用現況のように、市区町村が独自に実施する調査により情報を収集・整理した場合には基準日を記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::record	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord [1..*]	この調書又は集計表に含まれるレコード。 urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord は抽象データ型であり、調書又は集計表に含まれる実際のレコードは、urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord を継承する具象データ型となる。

70) urf::UnitArea

型の定義	集計の単位。 小地域コード（urf::subregionCode）、小地域名称（urf::subregionName）、メッシュコード（urf::meshCode）、又は区域区分（urf::urbanArea）から一つを選択する。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<<Union>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::subregionCode	gml::CodeType	9 桁又は 11 桁からなる小地域コード。
urf::subregionName	urf::SubregionName	大字・町名と字・丁目名。
urf::meshCode	gml::CodeType	2 分の 1 又は 4 分の 1 地域メッシュのメッシュコード。
urf::urbanArea	urf::UrbanAreaClassValue	都市計画区域の区分。

71) urf::ValueByCodes

型の定義	コードの組合せと値の組。 値は「整数型」、「実数型」、「単位付き計測値型」又は「文字列型」から一つを選択する。

	例えば、C0101 の人口規模の場合は、性別と年齢区分の組合せが「コードの組合せ」となり、これに対応する「人数」が値となる。この時、値は「整数型」となる。	
上位の型	―	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::class	gml::CodeType [1..*]	一つ以上のコードの組。
urf:intValue	xs::integer [0..1]	整数。
urf::doubleValue	xs::double [0..1]	実数。
urf::measureValue	gml::MeasureType [0..1]	単位付き計測値。
urf::stringValue	xs::string [0..1]	文字。

72) urf::WeatherObservation

型の定義	観測地点において計測された気象情報。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	景観・歴史資源の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。以下のいずれかの値をとる。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	機能。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	決定主体。

(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType	事業面積。単位は ha（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
(urf::reference)	xs::anyURI	位置図対応番号。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	備考。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	気象観測地点。
urf::attribute	urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord[0..*]	属性のデータ型。調書のレコードとして使用される。 urf::WeatherObservationType を使用して記述する。

73) urf::WeatherObservationType

型の定義	都市計画基礎調査 C0802 に示される気象状況の調書のレコード。 観測地点ごとに観測データを記述する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
上位から継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::observationPoint	xs::string	観測地点名。
urf::date	xs::date	観測日時。
urf::totalRainfall	gml::LengthType	総降水量。単位は㎜。
urf::maxRainfallPerHour	gml::LengthType	1 時間あたりの最大降水量。単位は㎜。
urf::averageTemprature	xs::double	平均気温。単位は℃。
urf::maxTemprature	xs::double	最高気温。単位は℃。
urf::minTemprature	x:double	最低気温。単位は℃。
urf::averageWindSpeed	xs::double	平均風向。単位は m/s。
urf::averageWindDirection	gml::CodeType	最多風向。

(3) Statistical Grid（i-UR）

1) urg::Population

型の定義	人口分布を示すメッシュデータ。
上位の型	urf::_StatisticalGrid
ステレオタイプ	<<FeatureType>>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	メッシュコード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urg::class)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータの区分。
(urg::value)	xs::anyType [0..*]	メッシュデータの値。
(urg::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータが属する都市計画区域の区分。
(urg::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータ が属する区域区分。
(urg::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
(urg::city)	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
urg::surveyYear	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urg::referenceDate	xs::date [0..1]	基準となる年月日。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urg::total	xs::integer [0..1]	総人口。
urg::daytimePopulation	xs::integer [0..1]	昼間人口。
urg::daytimePopulationDensity	xs::double [0..1]	昼間人口密度。
urg::naturalIncrease	xs::integer [0..1]	自然増減。
urg::births	xs::integer [0..1]	出生者数。
urg::deaths	xs::integer [0..1]	死者数。
urg::socialIncrease	xs::integer [0..1]	社会増減。
urg::moveFrom	xs::integer [0..1]	転入者数。
urg::moveTo	xs::integer [0..1]	転出者数。
urg::increasement	xs::integer [0..1]	人口増減。
urg::malePopulation	xs::integer [0..1]	男性人口。
urg::femalePopulation	xs::integer [0..1]	女性人口。
urg::populationByAgeAndSex	urg::PopulationByAgeAndSexType [0..*]	性別年齢別人口。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	メッシュデータの四隅座標により構成される面。

2) urg::PopulationByAgeAndSexType

型の定義	性別年齢別と人口との対となるデータ型。	
上位の型	―	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urg::ageAndSexy	gml::CodeType [1]	性別と年齢階級との組。コードリスト（Common_ageAndSex.xml）より選択する。
urg::population	gml::integer [1]	人口（単位：人）。

3) urg::OfficesAndEmploees

型の定義	事業所数、従業員数、売上金額を示すメッシュデータ。	
上位の型	urf::_StatisticalGrid	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	メッシュコード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urg::class)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータの区分。
(urg::value)	xs::anyType [0..*]	メッシュデータの値。
(urg::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータが属する都市計画区域の区分。
(urg::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータ が属する区域区分。
(urg::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	都道府県コード。
(urg::city)	gml::CodeType [0..1]	市区町村コード。
urg::surveyYear	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urg::referenceDate	xs::date [0..1]	基準となる年月日。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urg::numberOfOffice	xs::nonNegativeInteger [0..1]	事業所数。
urg::umberOfEmploees	xs::nonNegativeInteger [0..1]	従業員数。
urg::salesAmount	xs::nonNegativeInteger [0..1]	売上金額。
継承する関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	メッシュデータの四隅座標により構成される面。

4) urg::LandSlideDisaster

型の定義	がけ崩れの発生回数を示すメッシュデータ。	
上位の型	urf::_StatisticalGrid	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	メッシュコード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urg::class)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータの区分。
(urg::value)	xs::anyType [0..*]	メッシュデータの値。
(urg::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータが属する都市計画区域の区分。
(urg::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータ が属する区域区分。
urg::prefecture	gml::CodeType [0..1]	土砂災害・雪崩の発生個所の都道府県コード。
urg::city	gml::CodeType [0..1]	土砂災害・雪崩の発生個所の市区町村コード。
urg::surveyYear	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urg::referenceDate	xs::date [0..1]	基準となる年月日。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urg::dateOfOccurence	xs::date	発生日。
urg::landSlideType	urg::LandSlideTypeValue	災害の種類。
urg::maximumRainfallPerDay	gml::LengthType	当該土砂災害や雪崩が発生した際の 24 時間雨量の最大値（mm/24hr）。
urg::maximumRainfallPerHour	gml::LengthType	時間あたり最大雨量（mm/h）。
urf::Slope	xs::integer	当該土砂災害や雪崩が発生した際の斜面勾配（○度もしくは１／○）。
urf::sedimentDischarge	xs::integer	当該土砂災害や雪崩が発生した際に流出した土砂量（m3）
urf::length	gml::LengthType	当該土砂災害や雪崩が発生した際の移動長さ（m）
継承する関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	メッシュデータの四隅座標により構成される面。

5) urg::StatusOfSightSeeing

型の定義	宿泊施設数を示すメッシュデータ。 都市計画基礎調査 C1001　観光の状況の宿泊施設総数メッシュ図に使用する。	
上位の型	urf::_StatisticalGrid	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	メッシュコード。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::relativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::relativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urg::class)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータの区分。
(urg::value)	xs::anyType [0..*]	メッシュデータの値。
(urg::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータが属する都市計画区域の区分。
(urg::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	メッシュデータ が属する区域区分。
urg::prefecture	gml::CodeType [0..1]	土砂災害・雪崩の発生個所の都道府県コード。
urg::city	gml::CodeType [0..1]	土砂災害・雪崩の発生個所の市区町村コード。
urg::surveyYear	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urg::referenceDate	xs::date [0..1]	基準となる年月日。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urg::totalAccomodations	xs::integer	総宿泊施設数。
urg::totalCapacity	xs::integer	総収容人数。
urg::totalRooms	xs::integer	総部屋数。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	メッシュデータの四隅座標により構成される面。

4.4 都市計画決定情報パッケージ

都市計画決定情報パッケージは、都市計画法及び関連法令に示された、都市計画図書（計画図及び計画書）に含まれる情報を地物及びその属性として定義する。

4.4.1 都市計画の区域とクラスとの対応

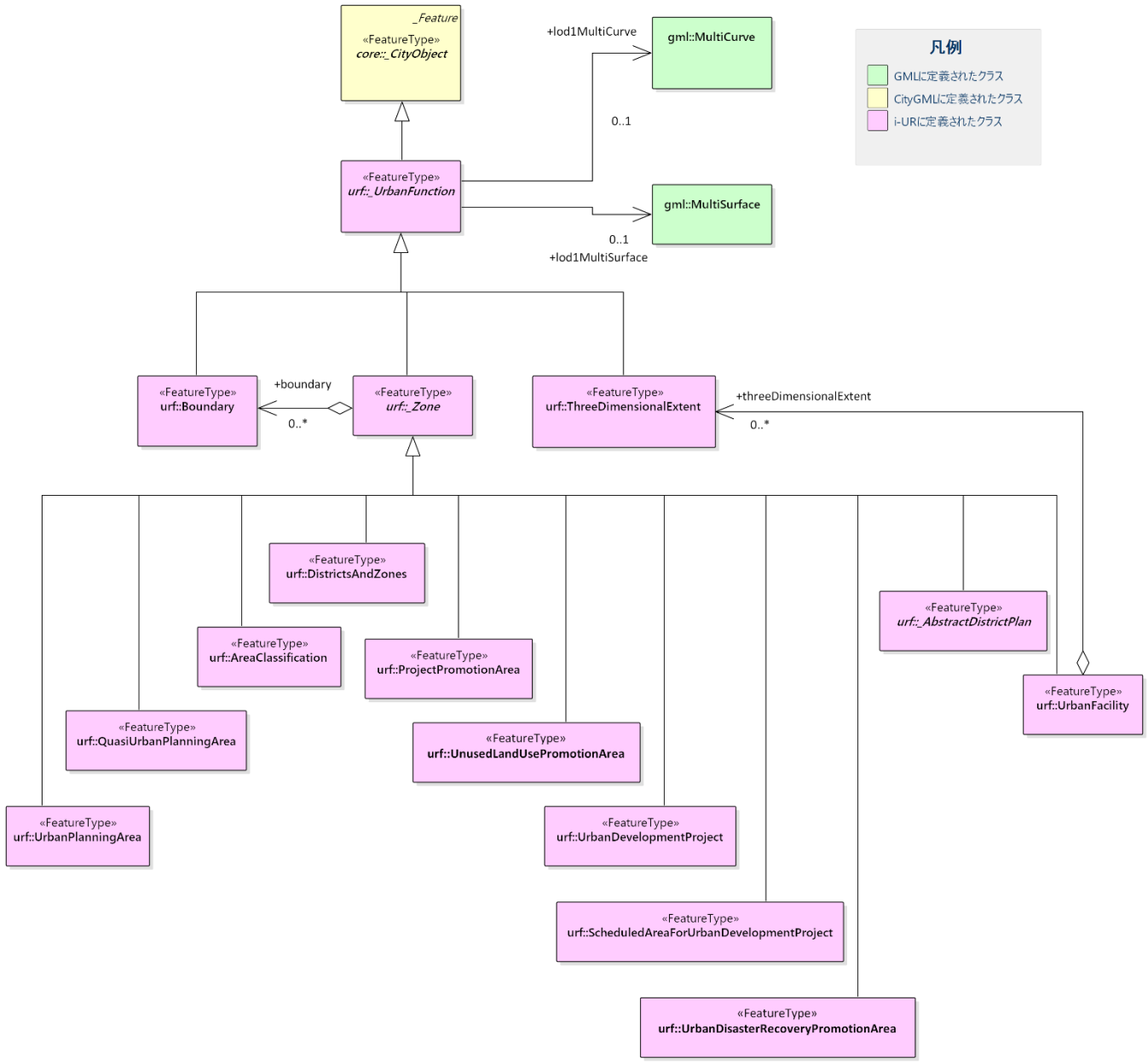
都市計画の区域	対応するクラス	クラス図
都市計画区域	urf::UrbanPlanningArea	(1)
準都市計画区域	urf::QuasiUrbanPlanningArea	
区域区分	urf::AreaClassification	(2)
地域地区	urf::DistrictsAndZones	(3)
用途地域	urf::UseDistrict	
特別用途地区	urf::SpecialUseDistrict	
特定用途制限地域	urf::SpecialUseRestrictionDistrict	
特例容積率適用地区	urf::ExceptionalFloorAreaRateDistrict	
高層住居誘導地区	urf::HighRiseResidentialAttractionDistrict	
高度地区	urf::HeightControlDistrict	
高度利用地区	urf::HighLevelUseDistrict	
特定街区	urf::SpecifiedBlock	
都市再生特別地区	urf::SpecialUrbanRenaissanceDistrict	
居住調整地域	urf::HousingControlArea	
居住環境向上用途誘導地区	urf::ResidentialEnvironmentImprovementDistrict	
特定用途誘導地区	urf::SpecialUseAttractionDistrict	
防火地域又は準防火地域	urf::FirePreventionDistrict	
特定防災街区整備地区	urf::SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone	
景観地区	urf::LandscapeZone	
風致地区	urf::ScenicDistrict	
駐車場整備地区	urf::ParkingPlaceDevelopmentZone	
臨港地区	urf::PortZone	
歴史的風土特別保存地区	urf::SpecialZoneForPreservationOfHistoricalLandscape	
第一種歴史的風土保存地区又は第二種歴史的風土保存地区	urf::ZoneForPreservationOfHistoricalLandscape	
緑地保全地域	urf::GreenSpaceConservationDistrict	
特別緑地保全地域	urf::SpecialGreenSpaceConservationDistrict	
緑化地域	urf::TreePlantingDistrict	
流通業務地区	urf::DistributionBusinessZone	
生産緑地地区	urf::ProductiveGreenZone	

	伝統的建造物群保存地区	urf::ConservationZoneForClustersOfTraditionalStructures	
	航空機騒音障害防止地区又は航空機騒音障害防止特別地区	urf::AircraftNoiseControlZoneurf::AircraftNoiseControlZone	
促進区域		urf::ProjectPromotionArea	(4)
	市街地再開発促進区域	urf::UrbanRedevelopmentPromotionArea	
	土地区画整理促進区域	urf::LandReadjustmentPromotionArea	
	住宅街区整備促進区域	urf::ResidentialBlockConstructionPromotionArea	
	拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域	urf::LandReadjustmentPromotionAreasForCoreBusinessUrbanDevelopment	
遊休土地転換利用促進地区		urf::UnusedLandUsePromotionArea	(5)
被災市街地復興推進地域		urf::UrbanDisasterRecoveryPromotionArea	(6)
都市施設		urf::UrbanFacility	(7)
	交通施設	urf::TrafficFacility	(8)
	公共空地	urf::OpenSpaceForPublicUse	(9)
	供給施設及び処理施設	urf::SupplyFacility, urf::TreatmentFacility	(10)
	水路	urf::Waterway	(11)
	教育文化施設	urf::EducationalAndCulturalFacility	(12)
	医療施設及び社会福祉施設	urf::MedicalFacility, urf::SocialWelfareFacility	(13)
	市場、と畜場、火葬場	urf::MarketsSlaughterhousesCrematoria	(14)
	一団地の住宅施設	urf::CollectiveHousingFacilities	(7)
	一団地の官公庁施設	urf::CollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities	
	流通業務団地	urf::DistributionBusinessPark	
	一団地の津波防災拠点市街地形成施設	urf::CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention	
	一団地の復興再生拠点市街地形成施設	urf::CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization	
	一団地の復興拠点市街地形成施設	urf::CollectiveFacilitiesForReconstruction	
	一団地の都市安全確保拠点施設	urf::CollectiveUrbanDisasterPreventionFacilities	
	政令で定める都市施設	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
	電気通信施設	urf::TelecommunicationFacility	
	防風施設	urf::WindProtectionFacility	
	防火施設	urf::FireProtectionFacility	
	防潮施設	urf::TideFacility	
	防水施設	urf::FloodPreventionFacility	
	防雪施設	urf::SnowProtectionFacility	
	防砂施設	urf::SandControlFacility	
市街地開発事業		urf::UrbanDevelopmentProject	(15)
	土地区画整理事業	urf::LandReadjustmentProject	
	新住宅市街地開発事業	urf::NewHousingAndUrbanDevelopmentProject	
	工業団地造成事業	urf::IndustrialParkDevelopmentProject	

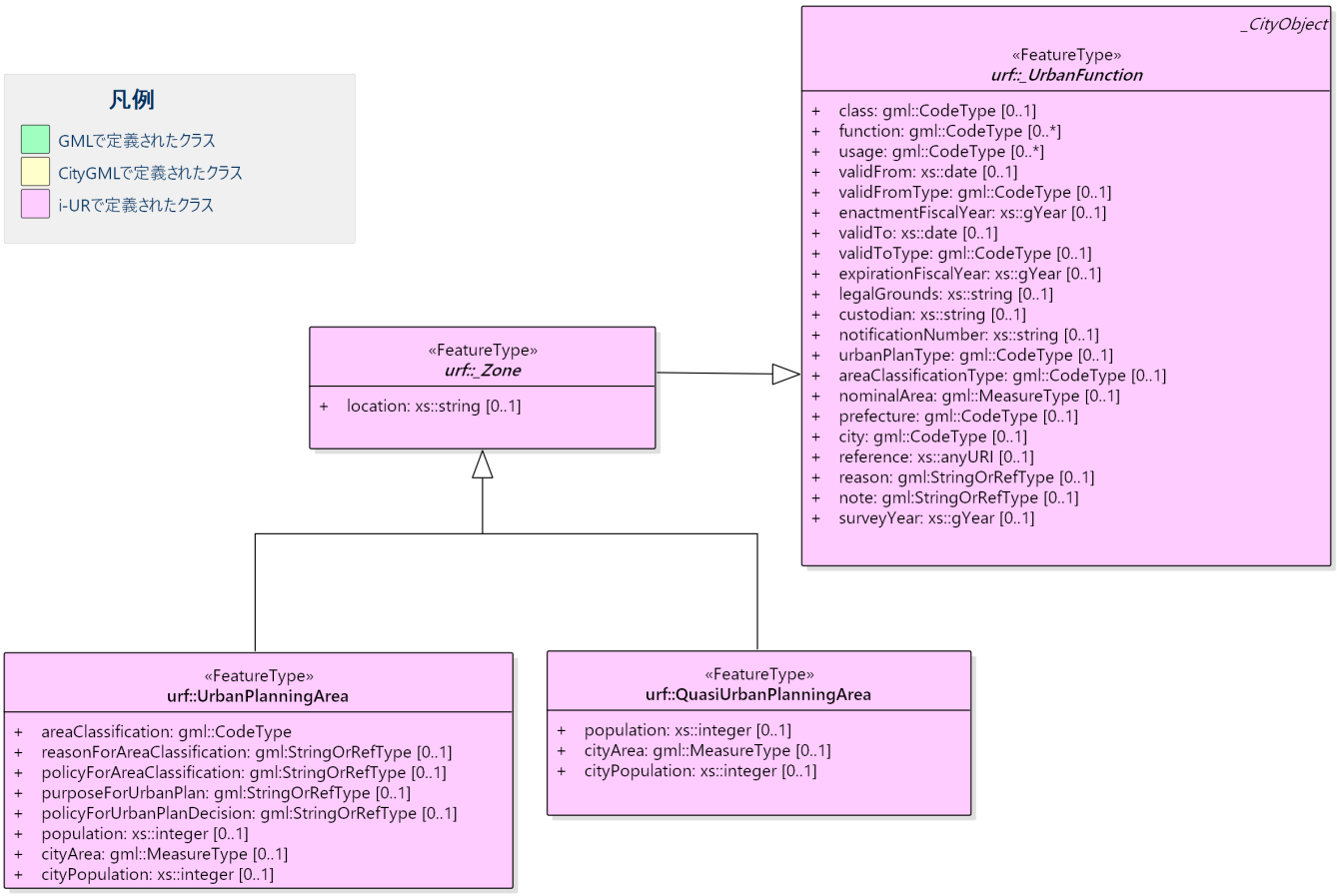
	市街地再開発事業	urf::UrbanRedevelopmentProject	
	新都市基盤整備事業	urf::NewUrbanInfrastructureProject	
	住宅街区整備事業	urf::ResidentialBlockConstructionProject	
	防災街区整備事業	urf::DisasterPreventionBlockImprovementProject	
	市街地改造事業	urf::UrbanRenewalProject	
市街地開発事業等の予定区域		urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	(16)
	新住宅市街地開発事業の予定区域	urf::ScheduledAreaForNewHousingAndUrbanDevelopmentProjects	
	工業団地造成事業の予定区域	urf::ScheduledAreaForIndustrialParkDevelopmentProjects	
	新都市基盤整備事業の予定区域	urf::ScheduledAreaForNewUrbanInfrastructureProjects	
	一団地の住宅施設の予定区域	urf::ScheduledAreaForCollectiveHousingFacilities	
	一団地の官公庁施設の予定区域	urf::ScheduledAreaForCollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities	
	流通業務団地の予定区域	urf::ScheduledAreaForDistributionBusinessPark	
地区計画等			(17)
	地区計画	urf::DistrictPlan	
	地区整備計画	urf::DistrictDevelopmentPlan	
	地区施設	urf::DistrictFacilityurf::DistrictFacility	
	沿道地区計画	urf::RoadsideDistrictPlan	
	沿道地区整備計画	urf::RoadsideDistrictImprovementPlan	
	沿道地区施設	urf::RoadsideDistrictFacility	
	集落地区計画	urf::RuralDistrictPlan	
	集落地整備計画	urf::RuralDistrictImprovementPlan	
	集落施設	urf::RuralDistrictFacility	
	歴史的風致維持向上地区計画	urf::HistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrictPlan	
	歴史的風致維持向上地区整備計画	urf::DistrictImprovementPlanForHistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrict	
	防災街区整備地区計画	urf::DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan	
	特定建築物地区整備計画	urf::SpecifiedBuildingZoneImprovementPlan	
	特定地区防災施設	urf::ZonalDisasterPreventionFacility	
	防災街区整備地区整備計画	urf::DistrictImprovementPlanForDisasterPreventionBlockImprovementZonePlan	
	地区防災施設	urf::ZonalDisasterPreventionFacility	
立体的な範囲		urf::ThreeDimensionalExtent	(18)
境界		urf::Boundary	(18)

4.4.2 応用スキーマクラス図

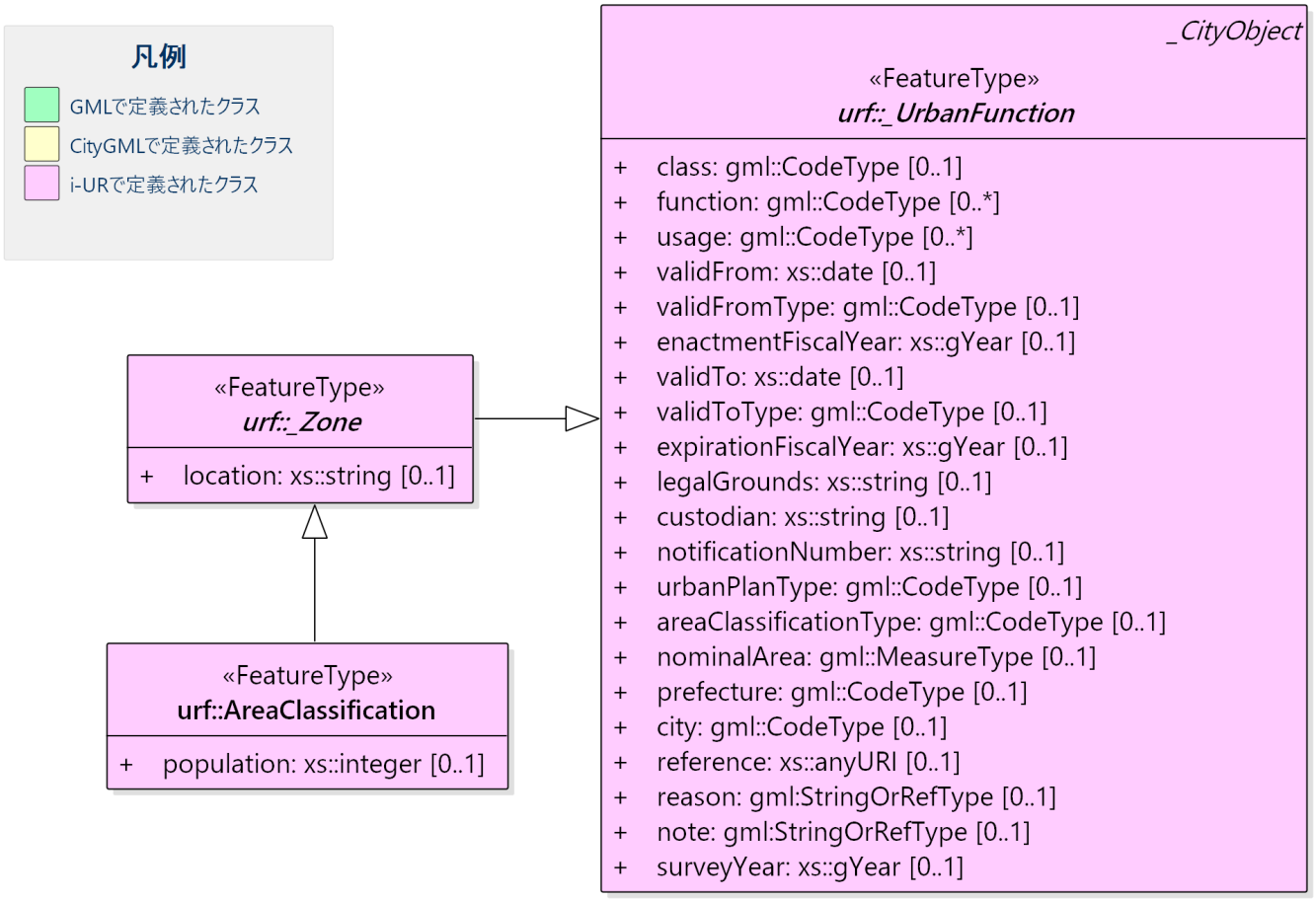
(1) 都市計画決定情報の概要



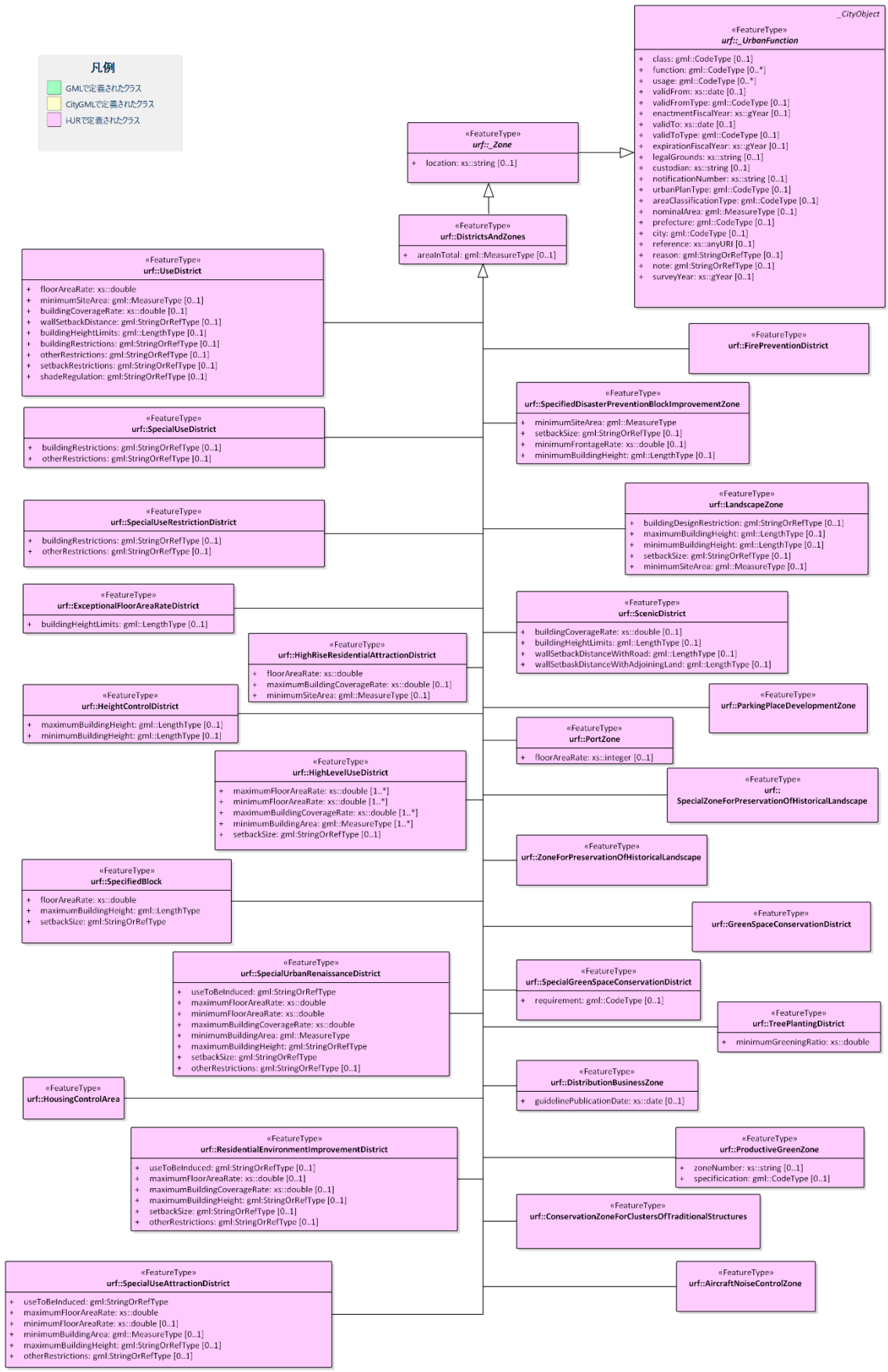
(2)　都市計画区域、準都市計画区域



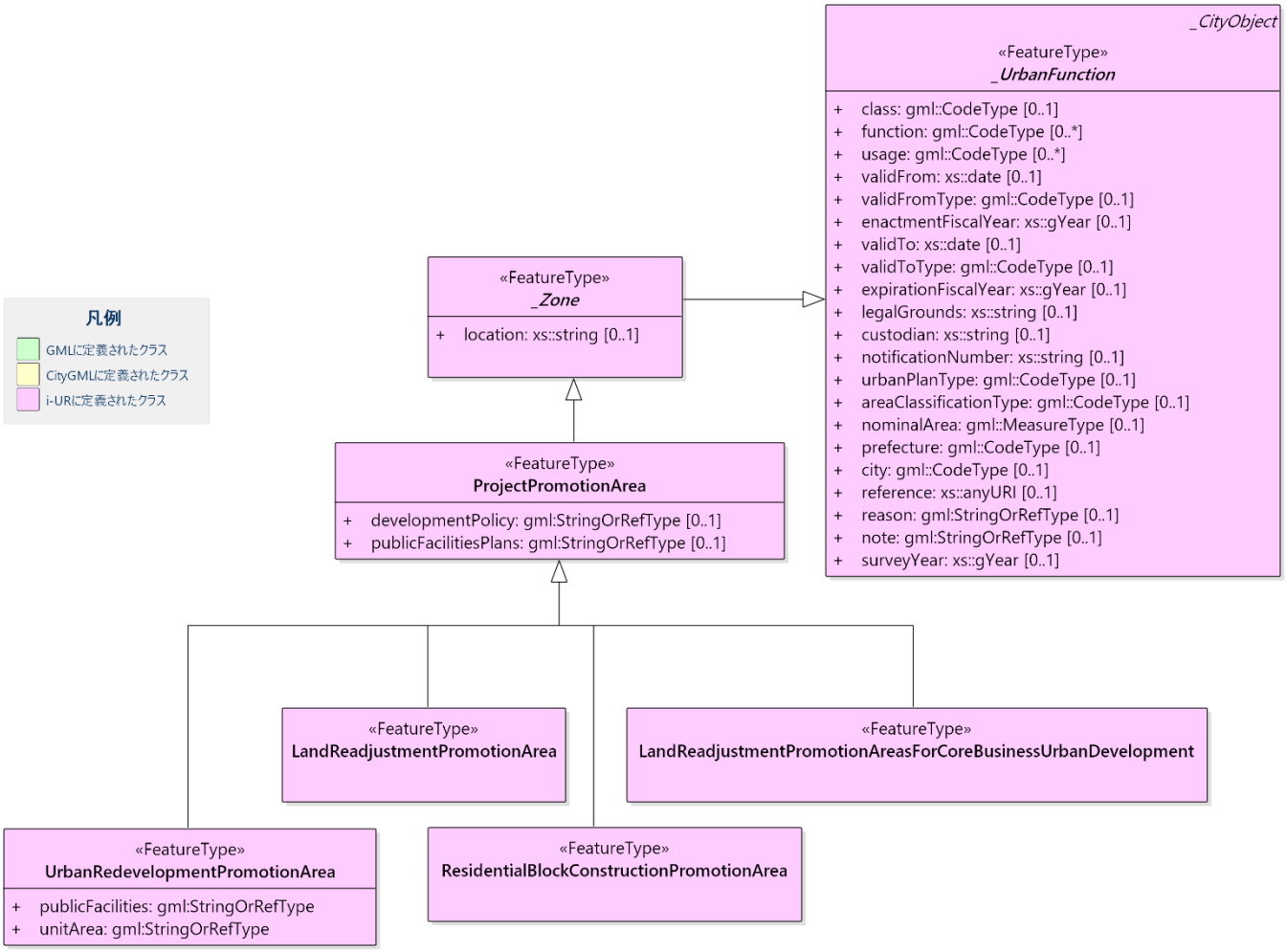
(3)　区域区分


凡例
GMLで定義されたクラス
CityGMLで定義されたクラス
i-URで定義されたクラス
_CityObject
«FeatureType»
urf::_UrbanFunction
+ class: gml::CodeType [0..1]
+ function: gml::CodeType [0..*]
+ usage: gml::CodeType [0..*]
+ validFrom: xs::date [0..1]
+ validFromType: gml::CodeType [0..1]
+ enactmentFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ validTo: xs::date [0..1]
+ validToType: gml::CodeType [0..1]
+ expirationFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ legalGrounds: xs::string [0..1]
+ custodian: xs::string [0..1]
+ notificationNumber: xs::string [0..1]
+ urbanPlanType: gml::CodeType [0..1]
+ areaClassificationType: gml::CodeType [0..1]
+ nominalArea: gml::MeasureType [0..1]
+ prefecture: gml::CodeType [0..1]
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ reference: xs::anyURI [0..1]
+ reason: gml:StringOrRefType [0..1]
+ note: gml:StringOrRefType [0..1]
+ surveyYear: xs::gYear [0..1]
«FeatureType»
urf::_Zone
+ location: xs::string [0..1]
«FeatureType»
urf::AreaClassification
+ population: xs::integer [0..1]

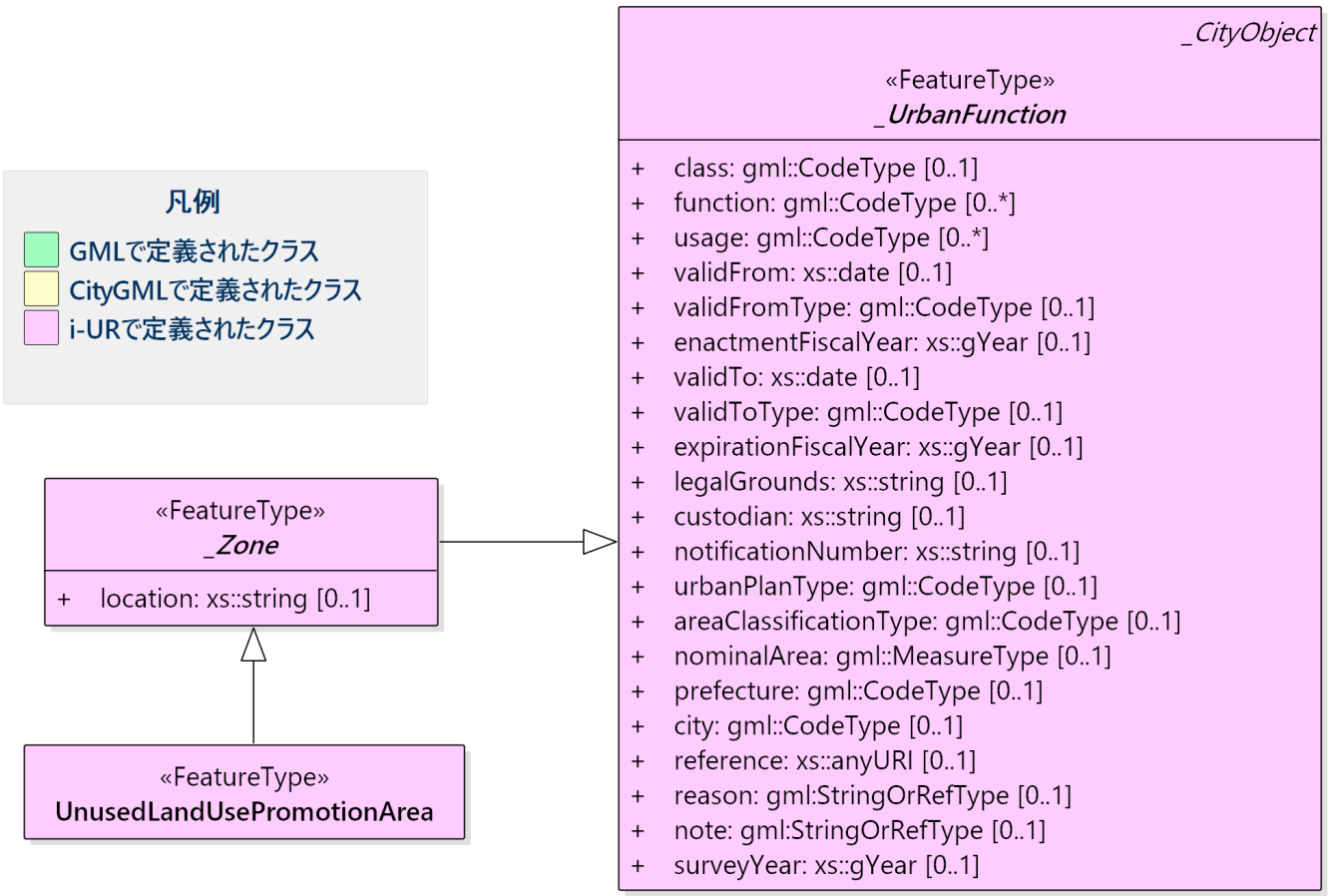
(4) 地域地区及び用途地域



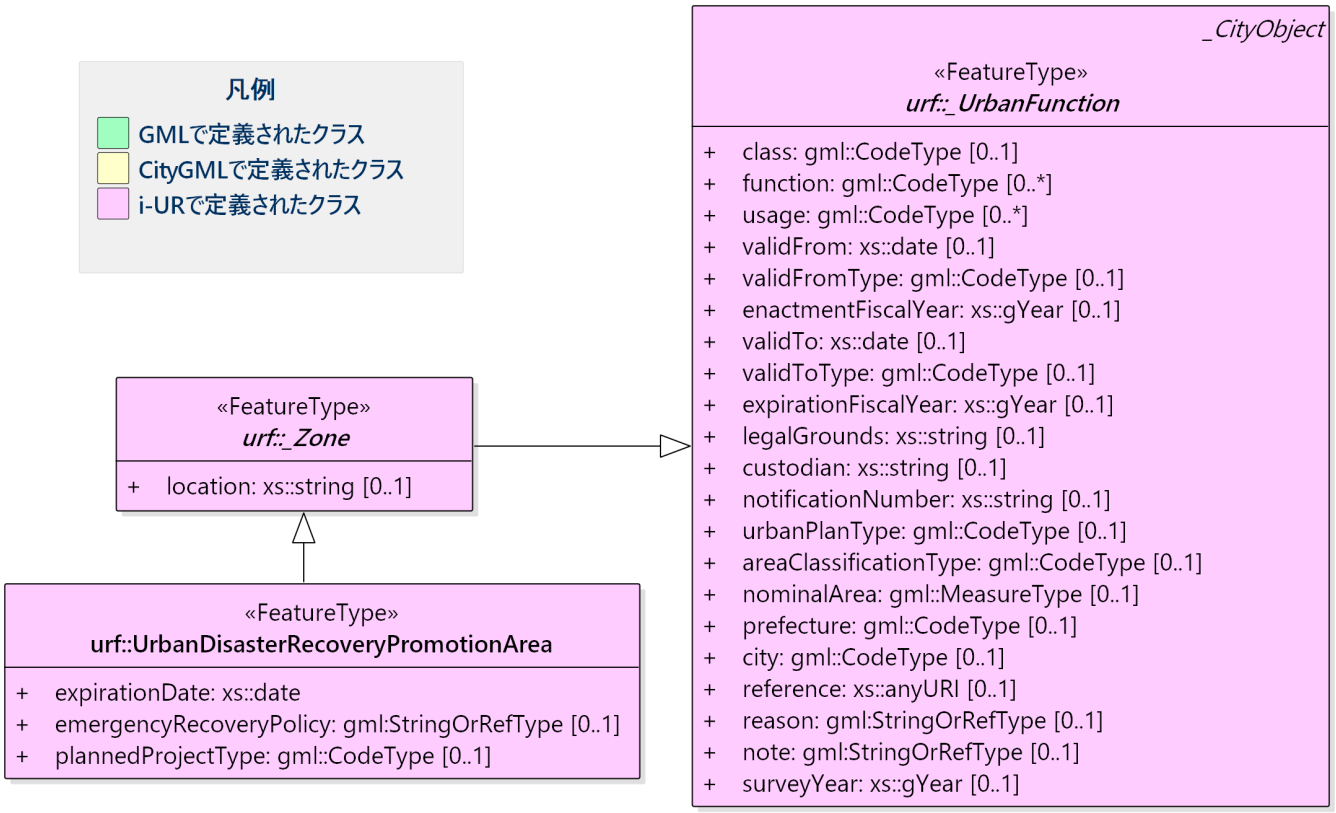
(5) 促進区域



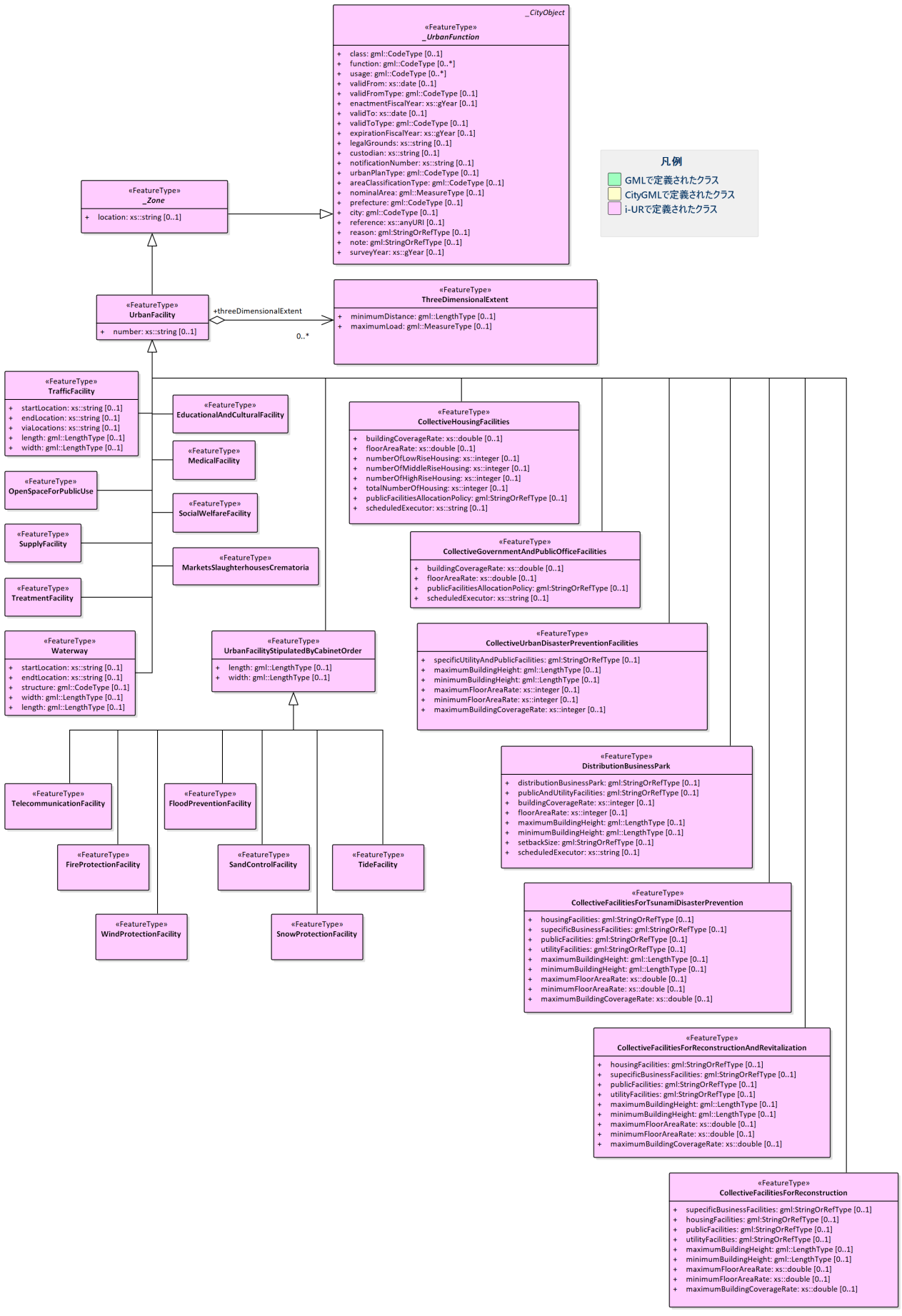
(6) 遊休土地転換利用促進地区



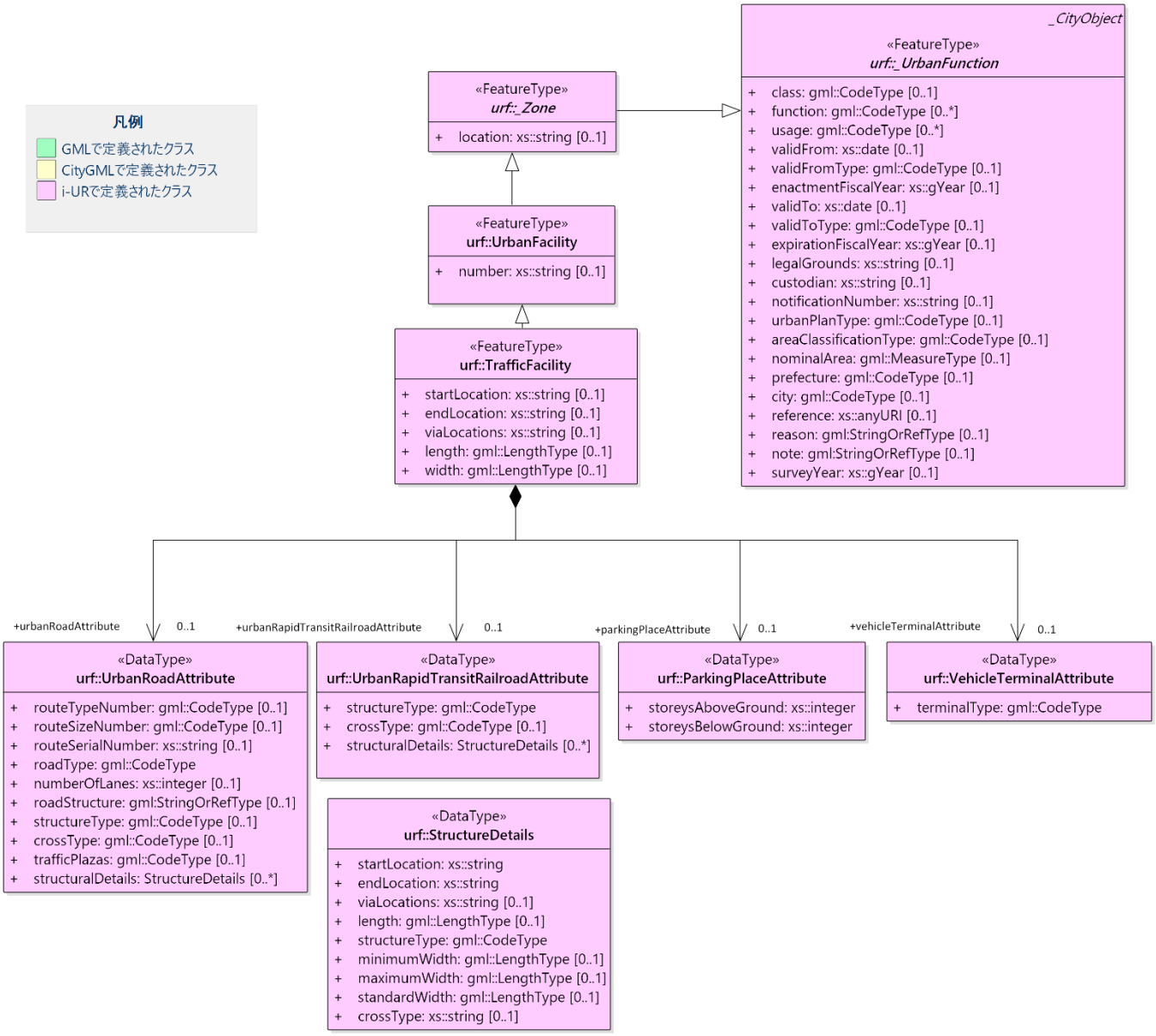
(7)　被災市街地復興推進地域



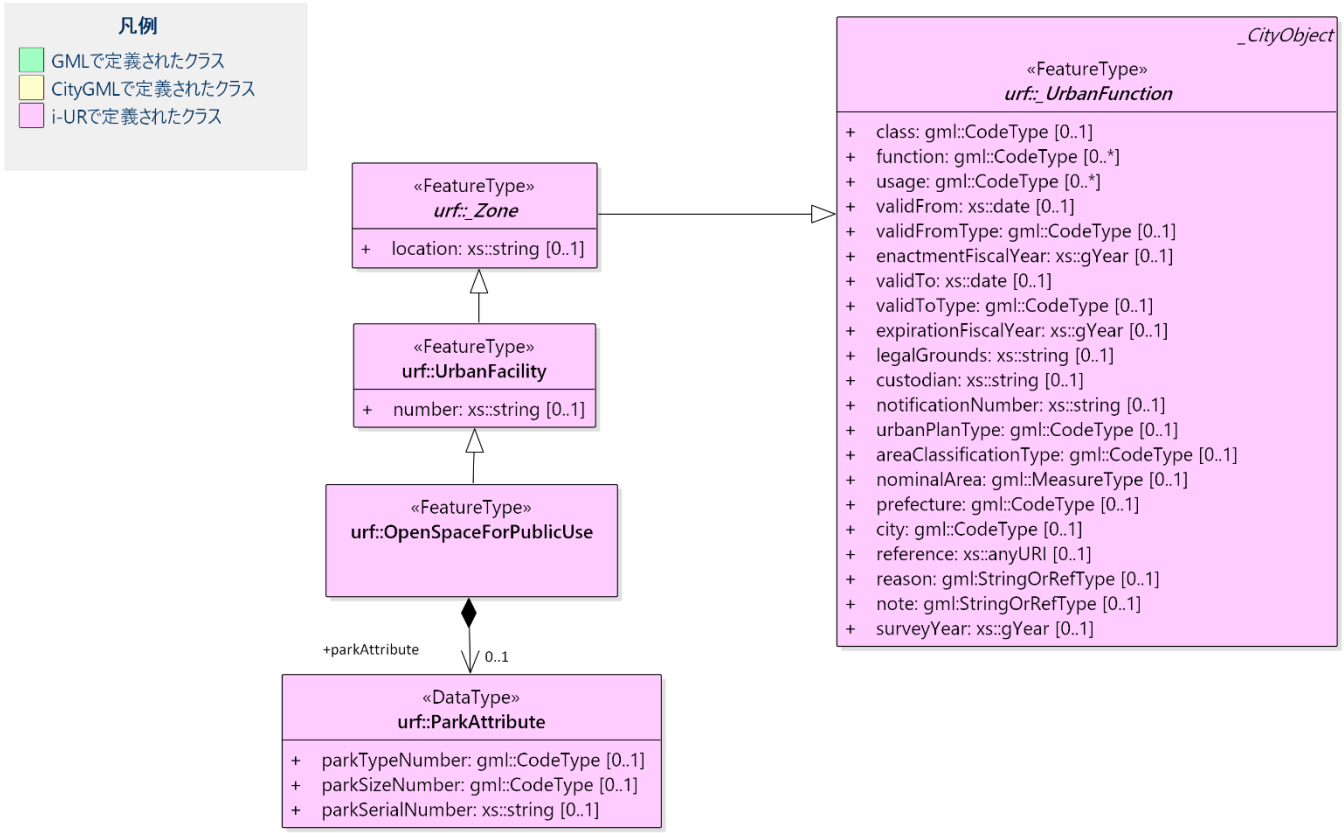
(8) 都市施設


凡例
GMLで定義されたクラス
CityGMLで定義されたクラス
i-URで定義されたクラス
_CityObject
«FeatureType»
_UrbanFunction
+ class: gml::CodeType [0..1]
+ function: gml::CodeType [0..*]
+ usage: gml::CodeType [0..*]
+ validFrom: xs::date [0..1]
+ validFromType: gml::CodeType [0..1]
+ enactmentFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ validTo: xs::date [0..1]
+ validToType: gml::CodeType [0..1]
+ expirationFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ legalGrounds: xs::string [0..1]
+ custodian: xs::string [0..1]
+ notificationNumber: xs::string [0..1]
+ urbanPlanType: gml::CodeType [0..1]
+ areaClassificationType: gml::CodeType [0..1]
+ nominalArea: gml::MeasureType [0..1]
+ prefecture: gml::CodeType [0..1]
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ reference: xs::anyURI [0..1]
+ reason: gml:StringOrRefType [0..1]
+ note: gml:StringOrRefType [0..1]
+ surveyYear: xs::gYear [0..1]
«FeatureType»
_Zone
+ location: xs::string [0..1]
«FeatureType»
UrbanFacility
+ number: xs::string [0..1]
+threeDimensionalExtent
0..*
«FeatureType»
ThreeDimensionalExtent
+ minimumDistance: gml::LengthType [0..1]
+ maximumLoad: gml::MeasureType [0..1]
«FeatureType»
TrafficFacility
+ startLocation: xs::string [0..1]
+ endLocation: xs::string [0..1]
+ viaLocations: xs::string [0..1]
+ length: gml::LengthType [0..1]
+ width: gml::LengthType [0..1]
«FeatureType»
EducationalAndCulturalFacility
«FeatureType»
MedicalFacility
«FeatureType»
OpenSpaceForPublicUse
«FeatureType»
SocialWelfareFacility
«FeatureType»
SupplyFacility
«FeatureType»
MarketsSlaughterhousesCrematoria
«FeatureType»
TreatmentFacility
«FeatureType»
CollectiveHousingFacilities
+ buildingCoverageRate: xs::double [0..1]
+ floorAreaRate: xs::double [0..1]
+ numberOfLowRiseHousing: xs::integer [0..1]
+ numberOfMiddleRiseHousing: xs::integer [0..1]
+ numberOfHighRiseHousing: xs::integer [0..1]
+ totalNumberOfHousing: xs::integer [0..1]
+ publicFacilitiesAllocationPolicy: gml:StringOrRefType [0..1]
+ scheduledExecutor: xs::string [0..1]
«FeatureType»
CollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities
+ buildingCoverageRate: xs::double [0..1]
+ floorAreaRate: xs::double [0..1]
+ publicFacilitiesAllocationPolicy: gml:StringOrRefType [0..1]
+ scheduledExecutor: xs::string [0..1]
«FeatureType»
Waterway
+ startLocation: xs::string [0..1]
+ endtLocation: xs::string [0..1]
+ structure: gml::CodeType [0..1]
+ width: gml::LengthType [0..1]
+ length: gml::LengthType [0..1]
«FeatureType»
UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder
+ length: gml::LengthType [0..1]
+ width: gml::LengthType [0..1]
«FeatureType»
CollectiveUrbanDisasterPreventionFacilities
+ specificUtilityAndPublicFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ maximumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ minimumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ maximumFloorAreaRate: xs::integer [0..1]
+ minimumFloorAreaRate: xs::integer [0..1]
+ maximumBuildingCoverageRate: xs::integer [0..1]
«FeatureType»
DistributionBusinessPark
+ distributionBusinessPark: gml:StringOrRefType [0..1]
+ publicAndUtilityFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ buildingCoverageRate: xs::integer [0..1]
+ floorAreaRate: xs::integer [0..1]
+ maximumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ minimumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ setbackSize: gml:StringOrRefType [0..1]
+ scheduledExecutor: xs::string [0..1]
«FeatureType»
TelecommunicationFacility
«FeatureType»
FloodPreventionFacility
«FeatureType»
FireProtectionFacility
«FeatureType»
SandControlFacility
«FeatureType»
TideFacility
«FeatureType»
WindProtectionFacility
«FeatureType»
SnowProtectionFacility
«FeatureType»
CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention
+ housingFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ supecificBusinessFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ publicFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ utilityFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ maximumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ minimumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ maximumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ minimumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ maximumBuildingCoverageRate: xs::double [0..1]
«FeatureType»
CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization
+ housingFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ supecificBusinessFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ publicFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ utilityFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ maximumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ minimumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ maximumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ minimumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ maximumBuildingCoverageRate: xs::double [0..1]
«FeatureType»
CollectiveFacilitiesForReconstruction
+ supecificBusinessFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ housingFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ publicFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ utilityFacilities: gml:StringOrRefType [0..1]
+ maximumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ minimumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ maximumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ minimumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ maximumBuildingCoverageRate: xs::double [0..1]

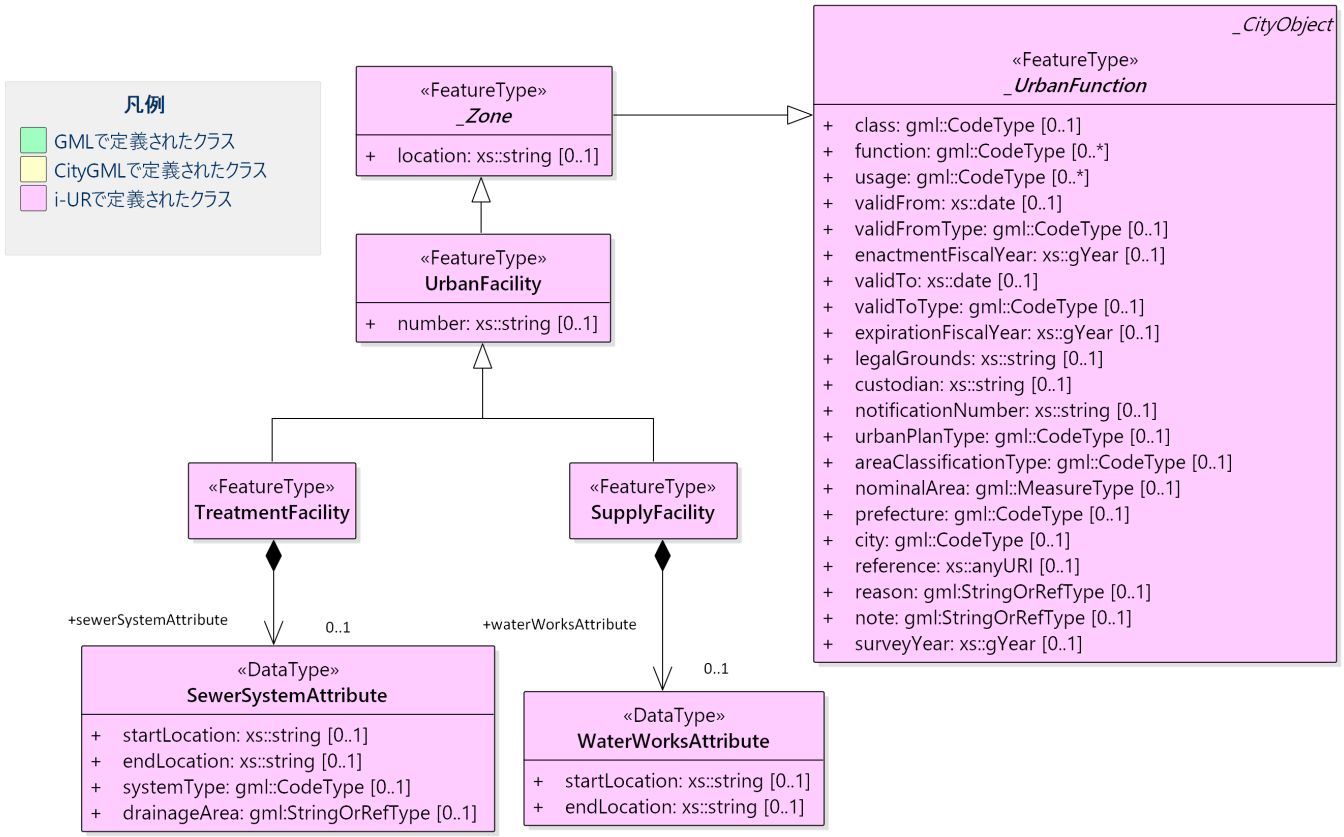
(9) 交通施設


凡例
GMLで定義されたクラス
CityGMLで定義されたクラス
i-URで定義されたクラス
«FeatureType»
urf::_Zone
+ location: xs::string [0..1]
_CityObject
«FeatureType»
urf::_UrbanFunction
+ class: gml::CodeType [0..1]
+ function: gml::CodeType [0..*]
+ usage: gml::CodeType [0..*]
+ validFrom: xs::date [0..1]
+ validFromType: gml::CodeType [0..1]
+ enactmentFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ validTo: xs::date [0..1]
+ validToType: gml::CodeType [0..1]
+ expirationFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ legalGrounds: xs::string [0..1]
+ custodian: xs::string [0..1]
+ notificationNumber: xs::string [0..1]
+ urbanPlanType: gml::CodeType [0..1]
+ areaClassificationType: gml::CodeType [0..1]
+ nominalArea: gml::MeasureType [0..1]
+ prefecture: gml::CodeType [0..1]
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ reference: xs::anyURI [0..1]
+ reason: gml:StringOrRefType [0..1]
+ note: gml:StringOrRefType [0..1]
+ surveyYear: xs::gYear [0..1]
«FeatureType»
urf::UrbanFacility
+ number: xs::string [0..1]
«FeatureType»
urf::TrafficFacility
+ startLocation: xs::string [0..1]
+ endLocation: xs::string [0..1]
+ viaLocations: xs::string [0..1]
+ length: gml::LengthType [0..1]
+ width: gml::LengthType [0..1]
+urbanRoadAttribute
0..1
+urbanRapidTransitRailroadAttribute
0..1
+parkingPlaceAttribute
0..1
+vehicleTerminalAttribute
0..1
«DataType»
urf::UrbanRoadAttribute
+ routeTypeNumber: gml::CodeType [0..1]
+ routeSizeNumber: gml::CodeType [0..1]
+ routeSerialNumber: xs::string [0..1]
+ roadType: gml::CodeType
+ numberOfLanes: xs::integer [0..1]
+ roadStructure: gml:StringOrRefType [0..1]
+ structureType: gml::CodeType [0..1]
+ crossType: gml::CodeType [0..1]
+ trafficPlazas: gml::CodeType [0..1]
+ structuralDetails: StructureDetails [0..*]
«DataType»
urf::UrbanRapidTransitRailroadAttribute
+ structureType: gml::CodeType
+ crossType: gml::CodeType [0..1]
+ structuralDetails: StructureDetails [0..*]
«DataType»
urf::ParkingPlaceAttribute
+ storeysAboveGround: xs::integer
+ storeysBelowGround: xs::integer
«DataType»
urf::VehicleTerminalAttribute
+ terminalType: gml::CodeType
«DataType»
urf::StructureDetails
+ startLocation: xs::string
+ endLocation: xs::string
+ viaLocations: xs::string [0..1]
+ length: gml::LengthType [0..1]
+ structureType: gml::CodeType
+ minimumWidth: gml::LengthType [0..1]
+ maximumWidth: gml::LengthType [0..1]
+ standardWidth: gml::LengthType [0..1]
+ crossType: xs::string [0..1]

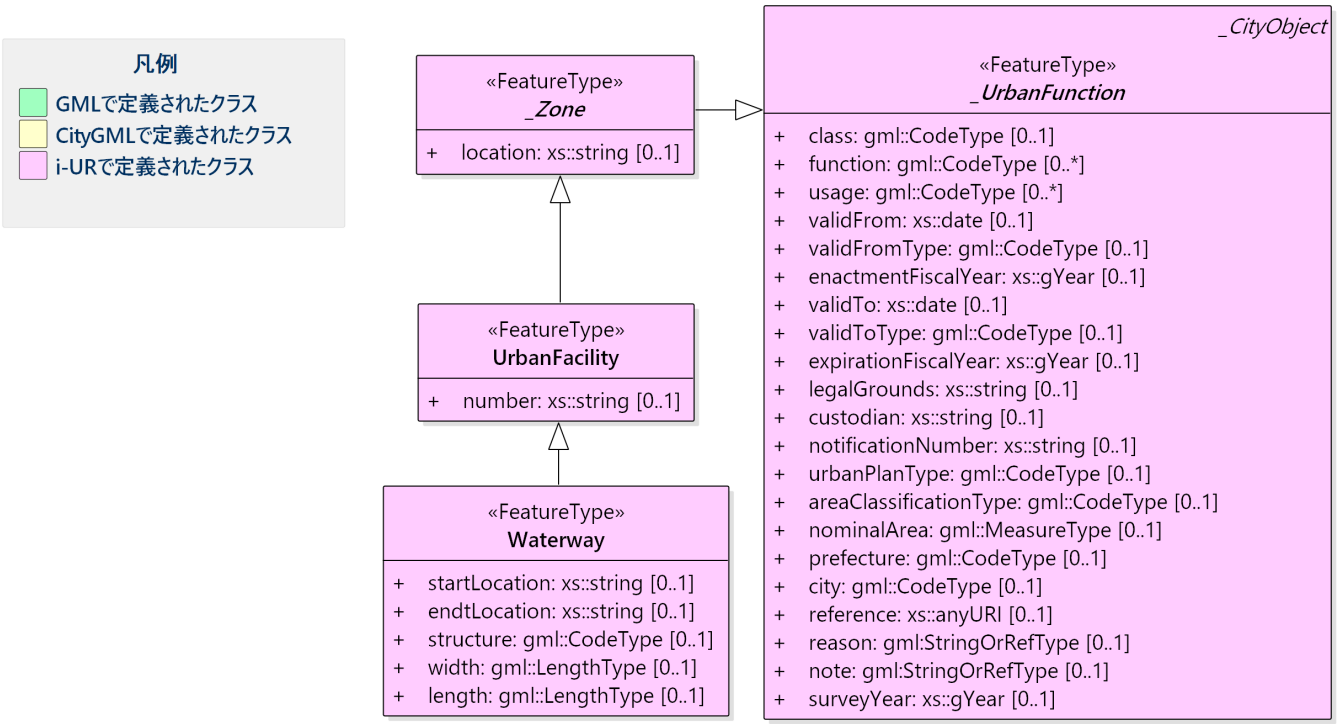
(10) 公共空地



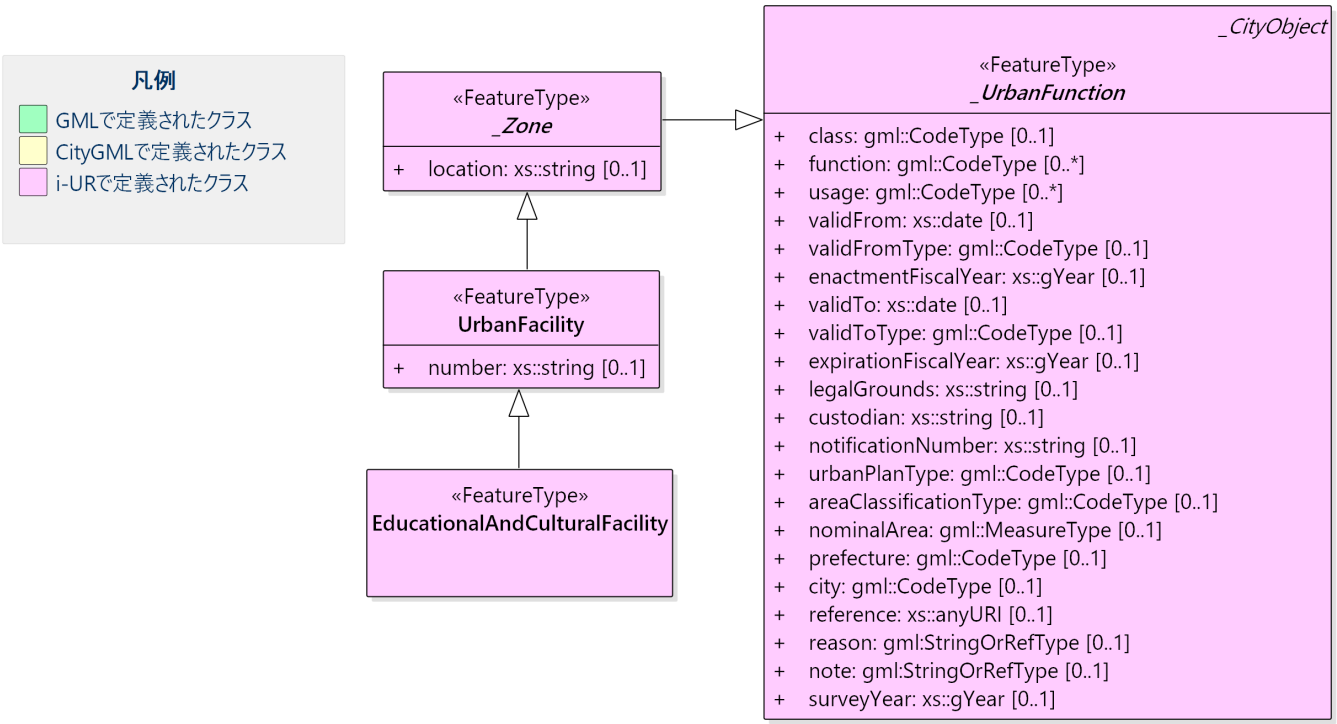
(11) 供給施設及び処理施設



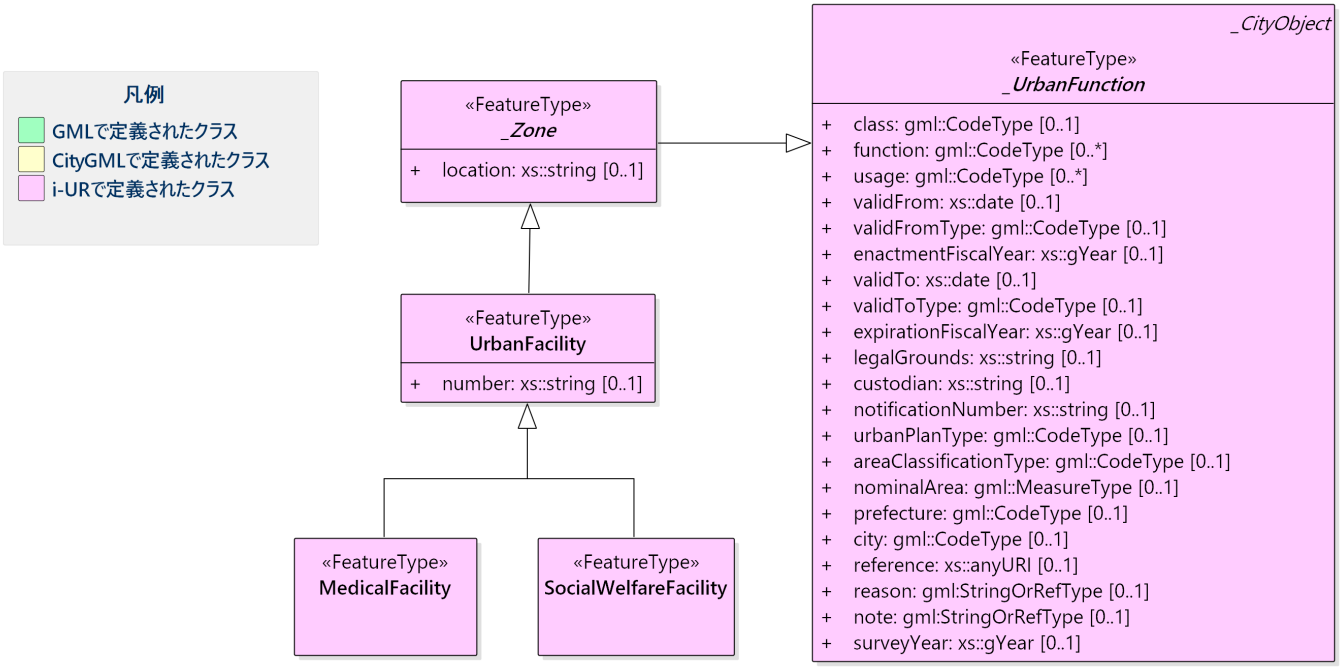
(12) 水路



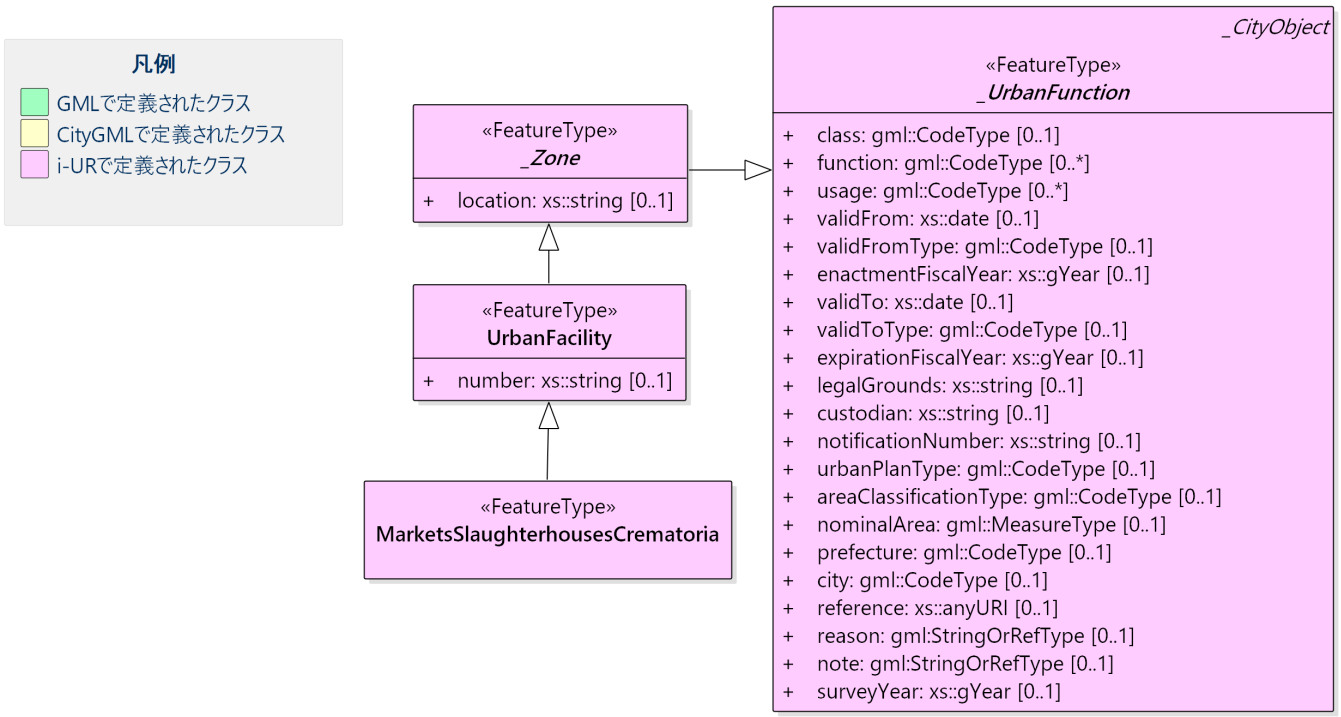
(13) 教育文化施設



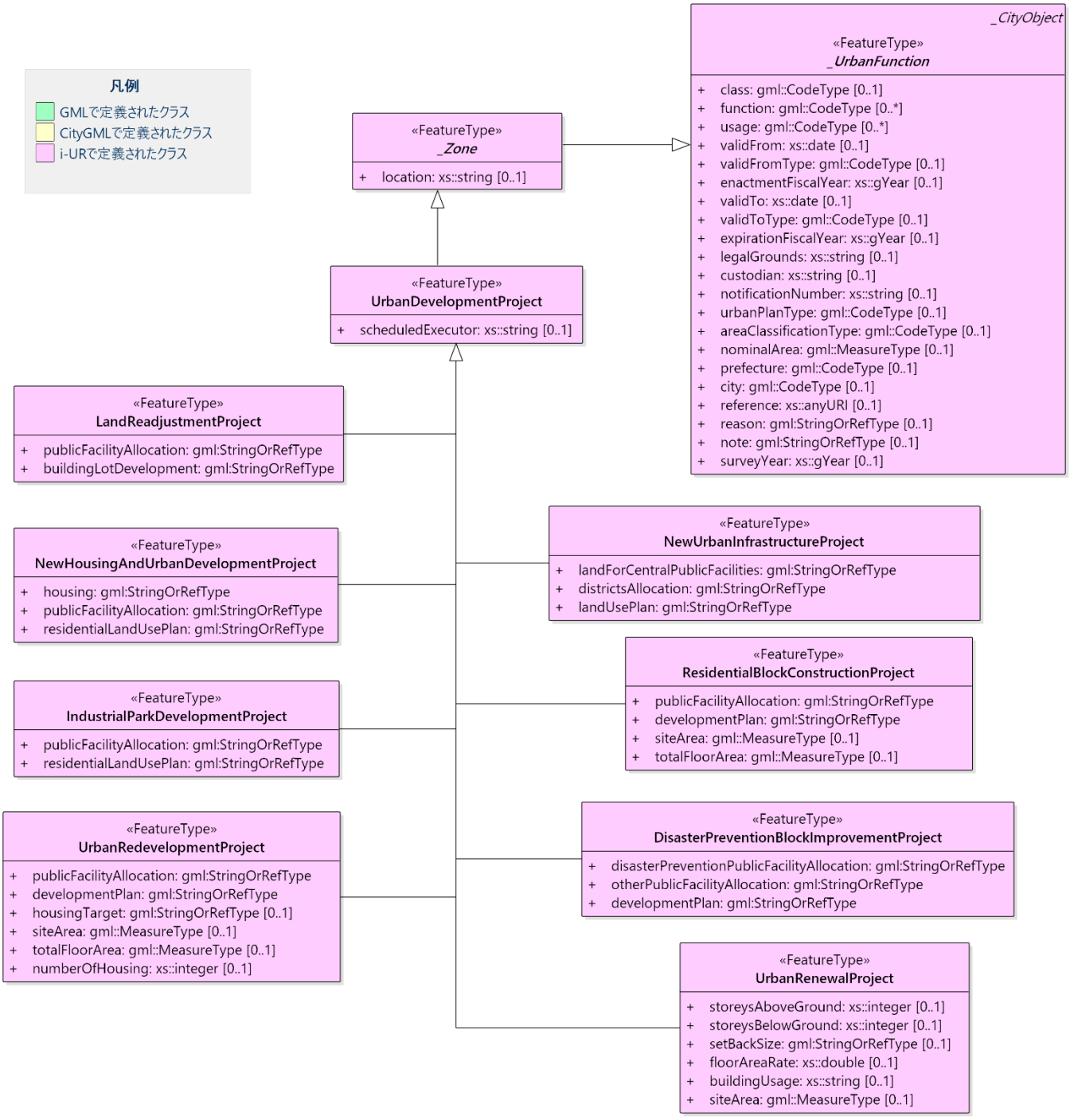
(14) 医療施設及び社会福祉施設



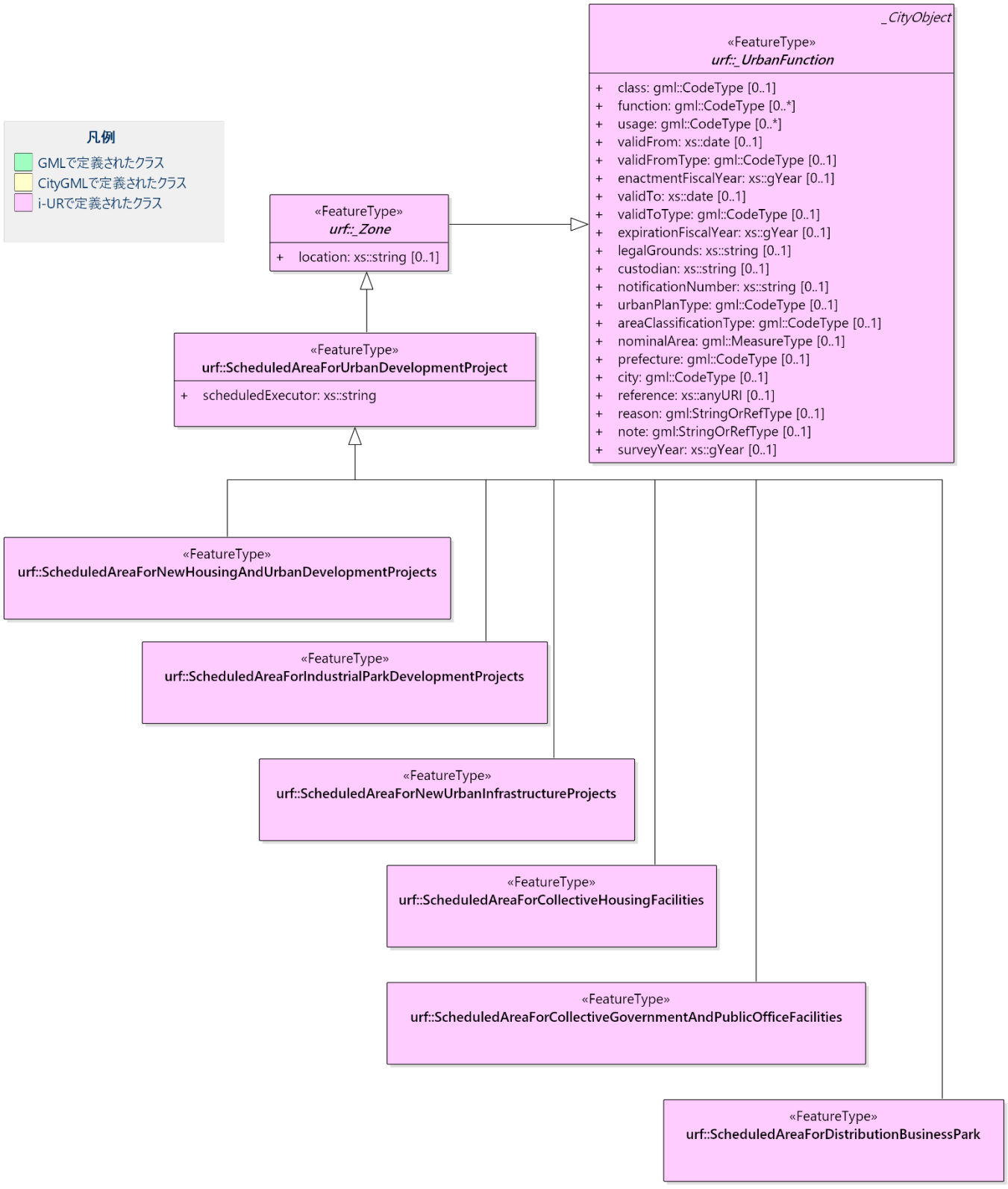
(15) 市場、と畜場、火葬場



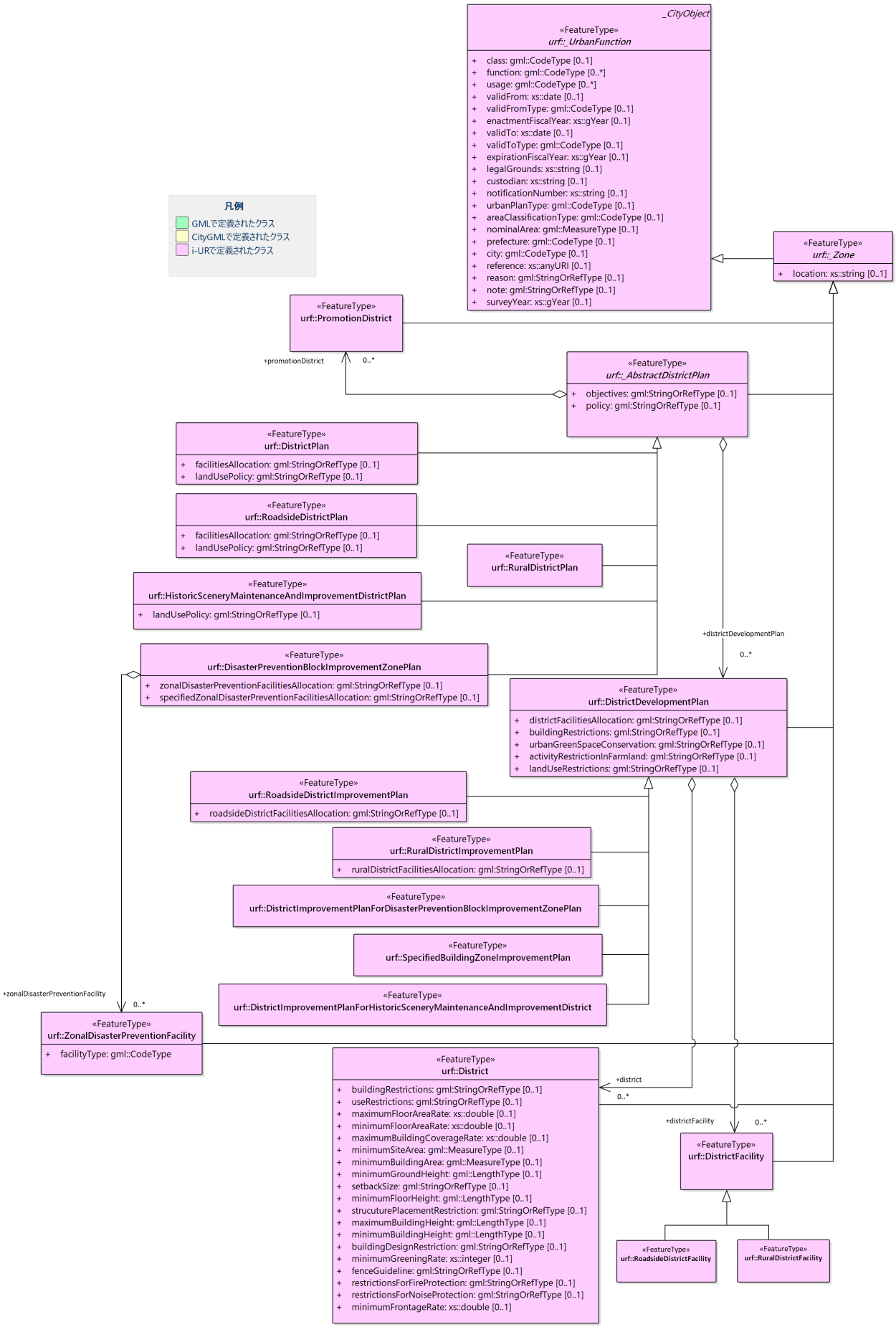
(16) 市街地開発事業


凡例
GMLで定義されたクラス
CityGMLで定義されたクラス
i-URで定義されたクラス
«FeatureType»
_Zone
+ location: xs::string [0..1]
_CityObject
«FeatureType»
_UrbanFunction
+ class: gml::CodeType [0..1]
+ function: gml::CodeType [0..*]
+ usage: gml::CodeType [0..*]
+ validFrom: xs::date [0..1]
+ validFromType: gml::CodeType [0..1]
+ enactmentFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ validTo: xs::date [0..1]
+ validToType: gml::CodeType [0..1]
+ expirationFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ legalGrounds: xs::string [0..1]
+ custodian: xs::string [0..1]
+ notificationNumber: xs::string [0..1]
+ urbanPlanType: gml::CodeType [0..1]
+ areaClassificationType: gml::CodeType [0..1]
+ nominalArea: gml::MeasureType [0..1]
+ prefecture: gml::CodeType [0..1]
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ reference: xs::anyURI [0..1]
+ reason: gml:StringOrRefType [0..1]
+ note: gml:StringOrRefType [0..1]
+ surveyYear: xs::gYear [0..1]
«FeatureType»
UrbanDevelopmentProject
+ scheduledExecutor: xs::string [0..1]
«FeatureType»
LandReadjustmentProject
+ publicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ buildingLotDevelopment: gml:StringOrRefType
«FeatureType»
NewHousingAndUrbanDevelopmentProject
+ housing: gml:StringOrRefType
+ publicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ residentialLandUsePlan: gml:StringOrRefType
«FeatureType»
IndustrialParkDevelopmentProject
+ publicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ residentialLandUsePlan: gml:StringOrRefType
«FeatureType»
UrbanRedevelopmentProject
+ publicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ developmentPlan: gml:StringOrRefType
+ housingTarget: gml:StringOrRefType [0..1]
+ siteArea: gml::MeasureType [0..1]
+ totalFloorArea: gml::MeasureType [0..1]
+ numberOfHousing: xs::integer [0..1]
«FeatureType»
NewUrbanInfrastructureProject
+ landForCentralPublicFacilities: gml:StringOrRefType
+ districtsAllocation: gml:StringOrRefType
+ landUsePlan: gml:StringOrRefType
«FeatureType»
ResidentialBlockConstructionProject
+ publicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ developmentPlan: gml:StringOrRefType
+ siteArea: gml::MeasureType [0..1]
+ totalFloorArea: gml::MeasureType [0..1]
«FeatureType»
DisasterPreventionBlockImprovementProject
+ disasterPreventionPublicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ otherPublicFacilityAllocation: gml:StringOrRefType
+ developmentPlan: gml:StringOrRefType
«FeatureType»
UrbanRenewalProject
+ storeysAboveGround: xs::integer [0..1]
+ storeysBelowGround: xs::integer [0..1]
+ setBackSize: gml:StringOrRefType [0..1]
+ floorAreaRate: xs::double [0..1]
+ buildingUsage: xs::string [0..1]
+ siteArea: gml::MeasureType [0..1]

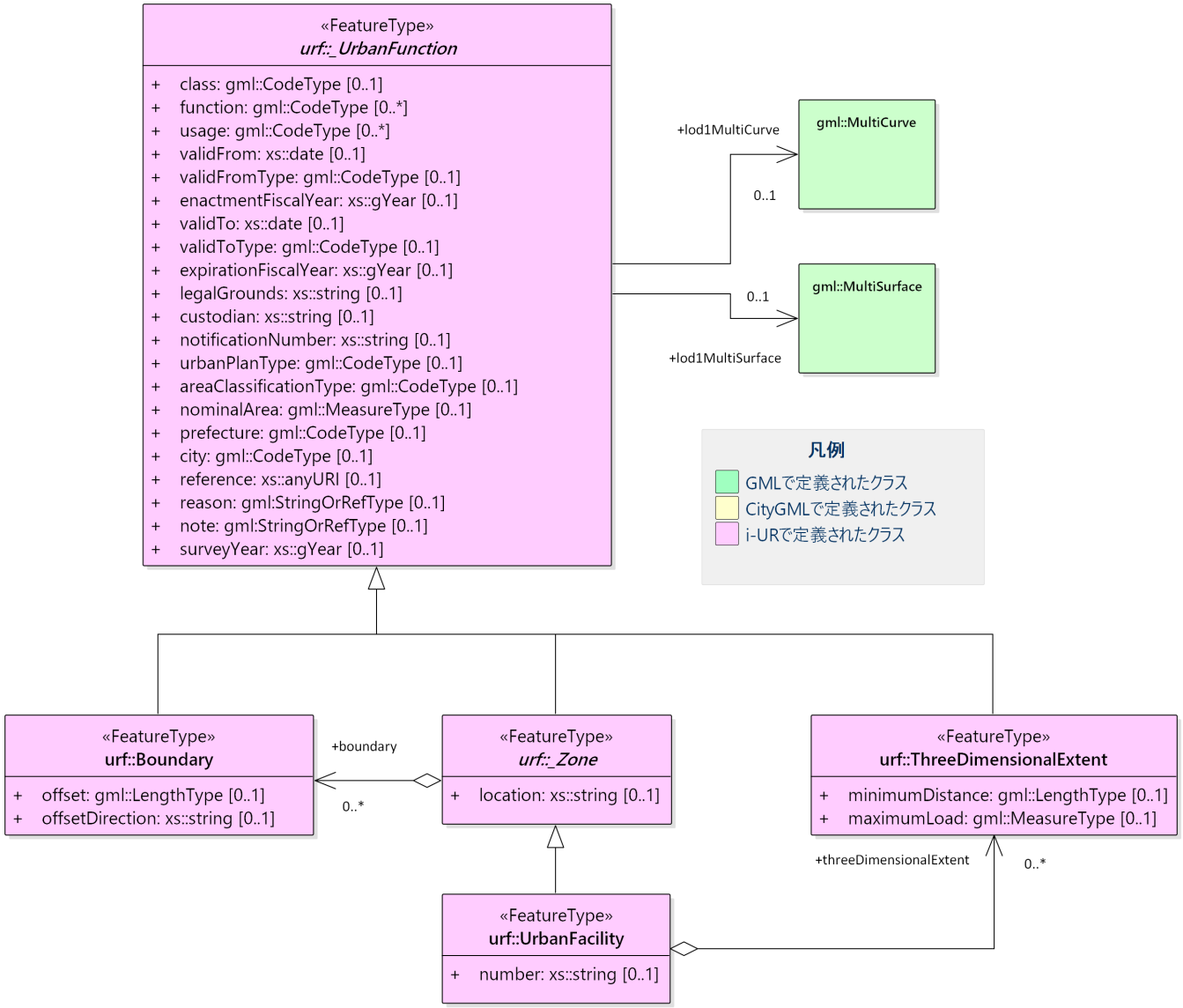
(17) 市街地開発事業等予定区域



(18) 地区計画等


凡例
GMLで定義されたクラス
CityGMLで定義されたクラス
i-URで定義されたクラス
_CityObject
«FeatureType»
urf::_UrbanFunction
+ class: gml::CodeType [0..1]
+ function: gml::CodeType [0..*]
+ usage: gml::CodeType [0..*]
+ validFrom: xs::date [0..1]
+ validFromType: gml::CodeType [0..1]
+ enactmentFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ validTo: xs::date [0..1]
+ validToType: gml::CodeType [0..1]
+ expirationFiscalYear: xs::gYear [0..1]
+ legalGrounds: xs::string [0..1]
+ custodian: xs::string [0..1]
+ notificationNumber: xs::string [0..1]
+ urbanPlanType: gml::CodeType [0..1]
+ areaClassificationType: gml::CodeType [0..1]
+ nominalArea: gml::MeasureType [0..1]
+ prefecture: gml::CodeType [0..1]
+ city: gml::CodeType [0..1]
+ reference: xs::anyURI [0..1]
+ reason: gml:StringOrRefType [0..1]
+ note: gml:StringOrRefType [0..1]
+ surveyYear: xs::gYear [0..1]
«FeatureType»
urf::_Zone
+ location: xs::string [0..1]
«FeatureType»
urf::PromotionDistrict
+promotionDistrict
0..*
«FeatureType»
urf::_AbstractDistrictPlan
+ objectives: gml:StringOrRefType [0..1]
+ policy: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::DistrictPlan
+ facilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
+ landUsePolicy: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::RoadsideDistrictPlan
+ facilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
+ landUsePolicy: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::RuralDistrictPlan
«FeatureType»
urf::HistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrictPlan
+ landUsePolicy: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan
+ zonalDisasterPreventionFacilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
+ specifiedZonalDisasterPreventionFacilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
+districtDevelopmentPlan
0..*
«FeatureType»
urf::DistrictDevelopmentPlan
+ districtFacilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
+ buildingRestrictions: gml:StringOrRefType [0..1]
+ urbanGreenSpaceConservation: gml:StringOrRefType [0..1]
+ activityRestrictionInFarmland: gml:StringOrRefType [0..1]
+ landUseRestrictions: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::RoadsideDistrictImprovementPlan
+ roadsideDistrictFacilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::RuralDistrictImprovementPlan
+ ruralDistrictFacilitiesAllocation: gml:StringOrRefType [0..1]
«FeatureType»
urf::DistrictImprovementPlanForDisasterPreventionBlockImprovementZonePlan
«FeatureType»
urf::SpecifiedBuildingZoneImprovementPlan
«FeatureType»
urf::DistrictImprovementPlanForHistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrict
+zonalDisasterPreventionFacility
0..*
«FeatureType»
urf::ZonalDisasterPreventionFacility
+ facilityType: gml::CodeType
«FeatureType»
urf::District
+ buildingRestrictions: gml:StringOrRefType [0..1]
+ useRestrictions: gml:StringOrRefType [0..1]
+ maximumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ minimumFloorAreaRate: xs::double [0..1]
+ maximumBuildingCoverageRate: xs::double [0..1]
+ minimumSiteArea: gml::MeasureType [0..1]
+ minimumBuildingArea: gml::MeasureType [0..1]
+ minimumGroundHeight: gml::LengthType [0..1]
+ setbackSize: gml:StringOrRefType [0..1]
+ minimumFloorHeight: gml::LengthType [0..1]
+ strucuturePlacementRestriction: gml:StringOrRefType [0..1]
+ maximumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ minimumBuildingHeight: gml::LengthType [0..1]
+ buildingDesignRestriction: gml:StringOrRefType [0..1]
+ minimumGreeningRate: xs::integer [0..1]
+ fenceGuideline: gml:StringOrRefType [0..1]
+ restrictionsForFireProtection: gml:StringOrRefType [0..1]
+ restrictionsForNoiseProtection: gml:StringOrRefType [0..1]
+ minimumFrontageRate: xs::double [0..1]
+district
0..*
+districtFacility
0..*
«FeatureType»
urf::DistrictFacility
«FeatureType»
urf::RoadsideDistrictFacility
«FeatureType»
urf::RuralDistrictFacility

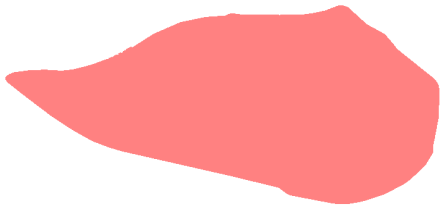
(19) 立体的な範囲、区域界



4.4.3 応用スキーマ文書

(1) 都市計画区域、準都市計画区域

1) urf::UrbanPlanningArea

型の定義	都市計画区域。都市の実態や将来の計画を勘案して、一体の都市地域となるべき区域として指定された区域。（都市計画法第 5 条第 1 項）  図　都市計画区域の例 複数の市区町村にまたがる都市計画区域の場合は、市区町村の境界で区切る。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画区域の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	オブジェクトと地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	オブジェクトと水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画区域の種類。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。 都市計画区域の総面積とし、複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	都市計画区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	都市計画区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	都市計画区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他都市計画区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
(urf::location)	xs::string [0..1]	区域の位置を示す名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::areaClassification	gml::CodeType [1]	都市計画法第 6 条の 2 第 2 項第 1 号に定める区域区分の決定の有無。 コードリスト（Common_availabilityType.xml）より選択する。
urf::reasonForAreaClassification	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画区域内に区域区分を設定する又はしない理由。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::policyForAreaClassification	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 6 条の 2 第 2 項第 1 号に定める区域区分を定める場合のその方針。
urf::purposeForUrbanPlan	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 6 条の 2 第 2 項第 2 号に定める目標。
urf::policyForUrbanPlanDecision	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 6 条の 2 第 2 項第 3 号に定める土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針。
urf::population	xs::integer [0..1]	都市計画区域内の総人口。単位は人とする。
urf::cityArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村の面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::cityPopulation	xs::integer [0..1]	都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村内の人口。単位は人とする。
継承する関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。都市計画区域の外周及び内周となる境界線。

2) urf::QuasiUrbanPlanningArea

型の定義	準都市計画区域。そのまま土地利用を整序し、又は環境を保全するための措置を講ずることなく放置すれば、将来における一体の都市としての整備、開発及び保全に支障が生じるおそれがあると認められる一定の区域。（都市計画法第 5 条の 2 第 1 項）	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	区域の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。 準都市計画区域の総面積とし、複数の市区町村に跨っている場合は合計とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	準都市計画区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	準都市計画区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	準都市計画区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他準都市計画区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
(urf::location)	xs::string [0..1]	区域の位置を示す名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::population	xs::integer [0..1]	準都市計画区域内の総人口。単位は人とする。
urf::cityArea	gml::MeasureType [0..1]	準都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村内の面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::cityPopulation	xs::integer [0..1]	準都市計画区域が複数市区町村に跨っている場合の、当該市区町村内の人口。単位は人とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	準都市計画区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。準都市計画区域の外周及び内周となる境界線。

(2) 区域区分

1) urf::AreaClassification

型の定義	都市計画法第 7 条に基づき、無秩序な市街地の拡大による環境悪化の防止、計画的な公共施設整備などによる良好な市街地の形成などを行うため、都市計画区域について区分された、計画的な市街化を図るべき区域「市街化区域」と、市街化を抑制すべき「市街化調整区域」。（都市計画法第 7 条） 

	図　区域区分（市街化調整地域）の例	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	区域の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域 が属する区域区分。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。

urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
(urf::location)	xs::string [0..1]	区域の位置を示す名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::population	xs::integer [0..1]	都市計画法第 13 条第 1 項第 2 号で定められる整備、開発、保全の方針に記載される人口。単位は人とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	市街化区域又は市街化調整区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。準都市計画区域の外周及び内周となる境界線。

(3) 地域地区

1) urf::DistrictsAndZones

型の定義	地域地区。都市計画法第 8 条に基づき、都市計画区域内の土地をその利用目的によって区分し、建築物などに対するルールを決め、土地の合理的な利用を図るために指定された区域。 下位の地物型として定義されていない地域地区を記述したい場合にのみ、この地物型を使用し、属性「urf::function」でその内容を識別する。下位の地物型として定義されている場合は、必ず下位の地物型を使用すること。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。

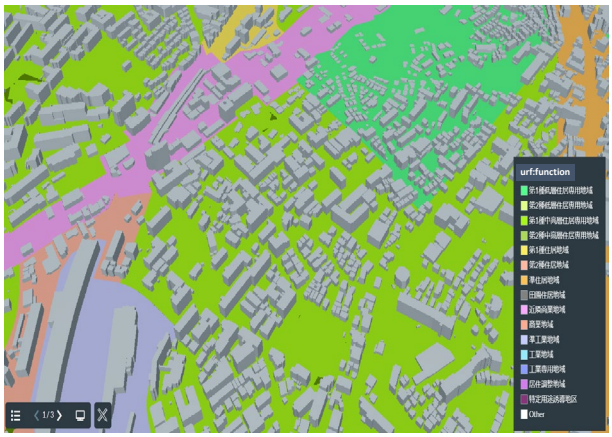


図　urf::DistrictsAndZones 及び下位型の例

（3D 地形の上で LOD1 の bldg::Building と重畳表示している）

(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）に定義されていない地域地区を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。

urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

2) urf::UseDistrict

型の定義	都市計画法第八条第 1 項第一号で定められる用途地域。 第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域又は工業専用地域。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::floorAreaRate	xs::double [1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号イに定める容積率（延べ面積の敷地面積に対する割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumSiteArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号イに定める建築物の敷地面積の最低限度。
urf::buildingCoverageRate	xs::double [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号ロ及びハに定める建ぺい率（建築面積の敷地面積に対する割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::wallSetbackDistance	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号ロに定める外壁の後退距離。

		一律に距離が指定されている場合は、半角数字と単位(m）を記述する。複数の上限が設定されている場合はその条件を列挙する。
urf::buildingHeightLimits	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号ロに定める建築物の高さの限度。
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、用途地域内の建築物の制限。
urf::otherRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
urf::setbackRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築物の各部分の高さの制限。
urf::shadeRegulation	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、日影による中高層の建築物の制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

3) urf::SpecialUseDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 2 号で定められる特別用途地区。 用途地域内の一定の地区における当該地区の特性にふさわしい土地利用の増進、環境の保護等の特別の目的の実現を図るため当該用途地域の指定を補完して定める地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::usage	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。コードリスト（SpecialUseDistrict_usage.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第 49 条で定められ

		るその地区の指定の目的のためにする建築物の建築の制限又は禁止に関して必要な規定。
urf::otherRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第10条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第50条で定められる特別用途地区における建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

4) urf::SpecialUseRestrictionDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 2 号で定められる特定用途制限地域。 用途地域が定められていない土地の区域（市街化調整区域を除く。）内において、その良好な環境の形成又は保持のため当該地域の特性に応じて合理的な土地利用が行われるよう、制限すべき特定の建築物等の用途の概要を定める地域。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	制限すべき特定の建築物等の用途の概要。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第 49 条の 2 で定められる建築物の用途の制限。
urf::otherRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条に定める用途地域における地域地区内における建築物その他の工作物に関する制限のうち、建築基準法第 50 条で定められる特定用途制限地域における建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

5) urf::ExceptionalFloorAreaRateDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 2 号の 3 で定められる特例容積率適用地区。 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域又は工業地域内の適正な配置及び規模の公共施設を備えた土地の区域において、建築基準法第五十二条第一項から第九項までの規定による建築物の容積率の限度からみて未利用となっている建築物の容積の活用を促進して土地の高度利用を図るため定める地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。

urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingHeightLimits	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号チに定める当該地区における市街地の環境を確保するために必要な場合に定められた建築物の高さの最高限度。 単位は m（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

6) urf::HighRiseResidentialAttractionDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 2 号の 4 で定められる高層住居誘導地区。 住居と住居以外の用途とを適正に配分し、利便性の高い高層住宅の建設を誘導するため、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、近隣商業地域又は準工業地域でこれらの地域に関する都市計画において建築基準法第五十二条第一項第二号に規定する建築物の容積率が十分の四十又は十分の五十と定められたものの内において、建築物の容積率の最高限度、建築物の建蔽率の最高限度及び建築物の敷地面積の最低限度を定める地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom="ha"）とする。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom="ha"）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::floorAreaRate	xs::double [1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号イに定める容積率（延べ面積の敷地面積に対する割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号ロ及びハに定める（建ぺい率建築面積の敷地面積に対する割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumSiteArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号イに定める建築物の敷地面積の最低限度。単位は m2（uom="m2"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

7) urf::HeightControlDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 3 号で定められる高度地区。 用途地域内において市街地の環境を維持し、又は土地利用の増進を図るため、建築物の高さの最高限度又は最低限度を定める地区。
上位の型	urf::DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<<FeatureType>>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	高度地区の区分。コードリスト（HeightControlDistrict_usage.xml）より選択する。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。

urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号トに定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号トに定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

8) urf::HighLevelUseDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 3 号で定められる高度利用地区。 用途地域内の市街地における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図るため、建築物の容積率の最高限度及び最低限度、建築物の建蔽率の最高限度、建築物の建築面積の最低限度並びに壁面の位置の制限を定める地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。

(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [1..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号チに定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [1..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号チに定める容積率の最低限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [1..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号チに定めるに定める建ぺい率の最高限度（建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumBuildingArea	gml::MeasureType [1..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号チに定める建築物の建築面積の最低限度。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号チに定めるに定める外壁の後退距離。文字列又は計画図への参照とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

9) urf::SpecifiedBlock

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 4 号で定められる特定街区。 市街地の整備改善を図るため街区の整備又は造成が行われる地区について、その街区内における建築物の容積率並びに建築物の高さの最高限度及び壁面の位置の制限を定める街区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。

urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xmlcl_up_daz）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		

属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::floorAreaRate	xs::double [1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号リに定める容積率（延べ面積の敷地面積に対する割合）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号リに定める建築物の高さの最高限度。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 2 号リに定める外壁の後退距離。文字列又は計画図への参照とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

10) urf::SpecialUrbanRenaissanceDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 4 号の 2 で定められる都市再生特別地区。都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第三十六条第一項の規定による都市再生特別地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。

urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::useToBeInduced	gml::StringOrRefType [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める当該地区において建築物その他の構造物の誘導すべき用途。
urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める容積率の最低限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める建ぺい率の最高限度（建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。

urf::minimumBuildingArea	gml::MeasureType [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める建築物の建築面積の最低限度。
urf::maximumBuildingHeight	gml::StringOrRefType [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める建築物の高さの最高限度。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [1]	都市再生特別措置法第 36 条第 2 項に定める外壁の後退距離。
urf::otherRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	建築基準法第 50 条で定める建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

11) urf::HousingControlArea

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 4 号の 2 で定められる地区。 都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第八十九条の規定による居住調整地域。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。

urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

12) urf::ResidentialEnvironmentImprovementDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 4 号の 2 で定められる地区。都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第九十四条の二第一項の規定による居住環境向上用途誘導地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。

(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::useToBeInduced	gml::StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第 94 条の 2 第 2 項に定める当該地区において建築物その他の構造物の誘導すべき用途。
urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	都市再生特別措置法第 94 条の 2 第 2 項に定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs:: :double [0..1]	都市再生特別措置法第 94 条の 2 第 2 項に定める建ぺい率の最高限度（建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingHeight	gml::StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第 94 条の 2 第 2 項に定める建築物の高さの最高限度。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [0..1]	都市再生特別措置法第 94 条の 2 第 2 項に定める外壁の後退距離。
urf::otherRestrictions	gml::StringOrRefType[0..1]	建築基準法第 50 条で定める建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

13) urf::SpecialUseAttractionDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 4 号の 2 で定められる地区。 都市再生特別措置法（平成十四年法律第二十二号）第百九条第一項の規定による特定用途誘導地区。
上位の型	urf::DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<<FeatureType>>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。

core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::useToBeInduced	gml::StringOrRefType [1]	都市再生特別措置法第 109 条第 2 項第 1 号に定める当該地区において建築物その他の構造物の誘導すべき用途。
urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [1]	都市再生特別措置法第 109 条第 2 項第 1 号に定める容積率の最高限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	都市再生特別措置法第 109 条第 1 項第 2 号に定める容積率の最低限度（延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumBuildingArea	gml::MeasureType[0..1]	都市再生特別措置法第 109 条第 1 項第 2 号に定める建築物の建築面積の最低限度。単位はm2（uom=”m2”）とする。
urf::maximumBuildingHeight	gml:: StringOrRefType[0..1]	都市再生特別措置法第 109 条第 2 項第 3 号に定める建築物の高さの最高限度。
urf::otherRestrictions	gml::StringOrRefType[0..1]	建築基準法第 50 条で定める建築物の敷地、構造又は建築設備に対する制限。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

14) urf::FirePreventionDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 5 号で定められる防火地域又は準防火地域。 市街地における火災の危険を防除するため定める地域。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	防火地域又は準防火地域の種類。コードリスト（FirePreventionDistrict_usage.xml）より選択する。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。種類が「防火地域」の場合は、防火地域の合計面積とし、種類が「準防火地域」の場合は、準防火地域の合計面積。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

15) urf::SpecifiedDisasterPreventionBlockImprovementZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 5 号の 2 で定められる地区。 密集市街地整備法第三十一条第一項の規定による特定防災街区整備地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::minimumSiteArea	gml::MeasureType [1]	密集市街地整備法第 31 条第 3 項第 1 号に定める建築物の敷地面積の最低限度。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [1]	密集市街地整備法第 31 条第 3 項第 2 号に定める外壁の後退距離。制限を設けない場合は「無」とする。
urf::minimumFrontageRate	xs::double [0..1]	密集市街地整備法第 31 条第 3 項第 2 号に定める間口率の最低限度（建築物の防災都市計画施設に面する部分の長さの敷地の防災都市計画施設に接する部分の長さに対する割合の最低限度）。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	密集市街地整備法第 31 条第 3 項第 2 号に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義

urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

16) urf::LandscapeZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 6 号で定められる景観地区。 景観法（平成十六年法律第百十号）第六十一条第一項の規定による景観地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	景観地区を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingDesignRestriction	gml::StringOrRefType [0..1]	景観法第 61 条第 2 項第 1 号に定める建築物の形態にかかる制限。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	景観法第 61 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	景観法第 61 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [0..1]	景観法第 61 条第 2 項第 3 号に定める外壁の後退距離。
urf::minimumSiteArea	gml::MeasureType [0..1]	景観法第 61 条第 2 項第 4 号に定める建築物の敷地面積の最低限度。 単位は m2（uom=”m2”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

17) urf::ScenicDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 7 号で定められる風致地区。都市の風致を維持するため定める地区。
上位の型	urf::DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<<FeatureType>>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	風致地区を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	風致地区の種類。コードリスト（ScenicDistrict_usage.xml）より選択する。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。

urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingCoverageRate	xs::double [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第 4 条第 1 項で定める建ぺい率の規制。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::buildingHeightLimits	gml::LengthType [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第 4 条第 1 項で定める建築物等の高さの規制。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::wallSetbackDistanceWithRoad	gml::LengthType [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第 4 条第 1 項で定める建築物の壁面から敷地境界までの距離(道路に接する部分)。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::wallSetbackDistanceWithAdjoiningLand	gml::LengthType [0..1]	風致地区内における建築等の規制に関する条例附則第 4 条第 1 項で定める建築物の壁面から敷地境界までの距離(道路に接しない部分)。単位は m（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

18) urf::ParkingPlaceDevelopmentZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 8 号で定められる地区。 駐車場法（昭和三十二年法律第百六号）第三条第一項の規定による駐車場整備地区。
上位の型	urf::DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<<FeatureType>>
継承する属性	
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。

core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

19) urf::PortZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 9 号で定められる臨港地区。港湾を管理運営するため定める地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	分区の種類。コードリスト（PortZone_usage.xml）より選択する。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。

urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::floorAreaRate	xs::double [0..1]	延べ面積の敷地面積に対する割合。全体を「1」とする割合で記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

20) urf::SpecialZoneForPreservationOfHistoricalLandscape

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 10 号で定められる地区。古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（昭和四十一年法律第一号）第六条第一項の規定による歴史的風土特別保存地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。

urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

21) urf::ZoneForPreservationOfHistoricalLandscape

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 11 号で定められる地区。 明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法（昭和五十五年法律第六十号）第三条第一項の規定による第一種歴史的風土保存地区又は第二種歴史的風土保存地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

22) urf::GreenSpaceConservationDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 12 号で定められる地区。 都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第五条の規定による緑地保全地域。
上位の型	urf::DistrictsAndZones

ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。

urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

23) urf::SpecialGreenSpaceConservationDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 12 号で定められる地区。 都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第十二条の規定による特別緑地保全地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。

urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::requirement	gml::CodeType [0..1]	都市緑地法第 3 条で定める指定の要件。コードリスト（SpecialGreenSpaceConservationDistrict_requirement.xml）から選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。

		計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

24) urf::TreePlantingDistrict

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 12 号で定められる地区。 都市緑地法（昭和四十八年法律第七十二号）第三十四条第一項の規定による緑化地域。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地域地区の名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::minimumGreeningRate	xs::double [1]	都市緑地法第 34 条第 3 項で定める最低限度の緑化率。全体を「1」とする割合で記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

25) urf::DistributionBusinessZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 13 号で定められる地区。流通業務市街地の整備に関する法律（昭和四十一年法律第百十号）第四条第一項の規定による流通業務地区。
上位の型	urf::DistrictsAndZones
ステレオタイプ	<<FeatureType>>
継承する属性	
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::guidelinePublicationDate	xs::date [0..1]	流通業務市街地の整備に関する法律第 5 条の 2 で定める流通業務施設の整備に関する基本方針が定められた日。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

26) urf::ProductiveGreenZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 14 号で定められる地区。 生産緑地法（昭和四十九年法律第六十八号）第三条第一項の規定による生産緑地地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::zoneNumber	xs::string [0..1]	生産緑地地区番号。
urf::specification	gml::CodeType [0..1]	特定生産緑地指定の有無。コードリスト（Common_availabilityType.xml）より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

27) urf::ConservationZoneForClustersOfTraditionalStructures

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 15 号で定められる地区。文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第百四十三条第一項の規定による伝統的建造物群保存地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 4 条に定める名称（当該地区又は地域を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。

urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

28) urf::AircraftNoiseControlZone

型の定義	都市計画法第 8 条第 1 項第 16 号で定められる地区。 特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法（昭和五十三年法律第二十六号）第四条第一項の規定による航空機騒音障害防止地区及び航空機騒音障害防止特別地区。	
上位の型	urf::DistrictsAndZones	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地域地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	当該地区又は地域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。

urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める地域地区（及び用途地域）の区分。コードリスト（Common_districtsAndZonesType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された地域地区 が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	地域地区が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地域地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。特定空港の名称。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 1 号に定める当該地区又は地域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::areaInTotal	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 8 条第 3 項第 3 号に定める区域の「面積」について、同一の種類となる区域の当該市区町村内における合計。単位は ha（uom=”ha”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。

		計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。地域地区の外周及び内周となる境界線。

(4) 促進区域

1) urf::ProjectPromotionArea

型の定義	都市計画法第 10 条の 2 に基づき、都市計画区域に定められた促進区域。 下位の地物型として定義されていない促進区域を記述したい場合には、この地物型を使用し、属性「urf::function」でその内容を識別する。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	促進区域の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める促進区域の区分。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）に定義されていない促進区域を記述する場合のみ、文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。

urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める促進区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::developmentPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。
urf::publicFacilitiesPlans	gml::StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

2) urf::UrbanRedevelopmentPromotionArea

型の定義	都市計画法第 10 条の 2 第 1 項第 1 号で定められる区域。 都市再開発法第七条第一項の規定による市街地再開発促進区域。	
上位の型	urf::ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める名称（促進区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める促進区域の区分。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。

urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める促進区域が設定された位置。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。町丁目又は字まで記載する。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::developmentPolicy)	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の開発の方針。
(urf::publicFacilitiesPlans)	gml::StringOrRefType [0..1]	当該区域の開発に必要な公共施設に関する都市計画。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::publicFacilities	gml::StringOrRefType [1]	都市再開発法第 7 条第 2 項に定める道路、公園、広場その他政令で定める公共の用に供する施設の配置及び規模。
urf::unitArea	gml::StringOrRefType [1]	都市再開発法第 7 条第 2 項に定める市街地再開発促進区域内における建築敷地の造成及び公共施設の用に供する敷地の造成を一体として行うべき土地の区域としてふさわしいものとなるように定められた整備区の単位。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

3) urf::LandReadjustmentPromotionArea

型の定義	都市計画法第 10 条の 2 第 1 項第 2 号で定められる区域。大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第五条第一項の規定による土地区画整理促進区域。	
上位の型	urf::ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める名称（促進区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。

urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める促進区域の区分。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める促進区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::developmentPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第 5 条第 2 項に示される住宅市街地としての開発の方針。
urf::publicFacilitiesPlans	gml::StringOrRefType [0..1]	当該区域が良好な住宅市街地として開発されるために必要な公共施設に関する都市計画。
継承する関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

4) urf::ResidentialBlockConstructionPromotionArea

型の定義	都市計画法第 10 条の 2 第 1 項第 3 号で定められる区域。大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第二十四条第一項の規定による住宅街区整備促進区域。	
上位の型	urf::ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める名称（促進区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める促進区域の区分。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める促進区域が設定された位置。 町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::developmentPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第 5 条第 2 項に示される住宅市街地としての開発の方針。
urf::publicFacilitiesPlans	gml::StringOrRefType [0..1]	当該区域が良好な住宅市街地として開発されるために必要な公共施設に関する都市計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

5) urf::LandReadjustmentPromotionAreasForCoreBusinessUrbanDevelopment

型の定義	都市計画法第 10 条の 2 第 1 項第 4 号で定められる区域。 地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律第十九条第一項の規定による拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域。	
上位の型	urf::ProjectPromotionArea	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める名称（促進区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める促進区域の区分。コードリスト（ProjectPromotionArea_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。

urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 2 第 2 項に定める促進区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::developmentPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再開発の促進に関する法律第 19 条第 2 項に示される開発の方針。
urf::publicFacilitiesPlans	gml::StringOrRefType [0..1]	地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再開発の促進に関する法律第 19 条第 4 項に示される、当該区域が良好な拠点業務市街地として整備され、又は開発されるために必要な公共施設に関する都市計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(5) 遊休土地転換利用促進地区

1) urf::UnusedLandUsePromotionArea

型の定義	都市計画法第 10 条の 3 第 1 項で定められる遊休土地転換利用促進地区。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める名称（遊休土地転換利用促進地区を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める区域（区域の範囲）。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(6) 被災市街地復興推進地域

1) urf::UrbanDisasterRecoveryPromotionArea

型の定義	都市計画法第 10 条の 4 第 1 項で定められる被災市街地復興推進地域。
上位の型	urf::_Zone

ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 10 条の 4 第 2 項に定める名称（被災市街地復興推進地域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める面積。 単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。

urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::expirationDate	xs::date [1]	都市計画法第 10 条の 4 第 2 項で定める別に法律で定める事項のうち、被災市街地復興特別措置法第 5 条の 2 で定められる期間満了の日。
urf::emergencyRecoveryPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 10 条の 4 第 2 項で定める別に法律で定める事項のうち、緊急かつ健全な復興を図るための市街地の整備改善の方針。
urf::plannedProjectType	gml::CodeType [0..1]	**当該区域で実施される事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。**
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	都市施設の中心位置。 中心線で取得しない場合は、中心位置で取得する。
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	都市施設の中心線。 道路、都市高速鉄道、水道、下水道、河川、運河、その他の水路の場合に適用する。
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 10 条の 3 第 2 項に定める区域（区域の範囲）。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(7) 都市施設

1) urf::UrbanFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項各号に掲げる施設。 下位の地物型として定義されていない都市施設を記述したい場合には、この地物型を使用し、属性「urf::function」で地物型の内容を識別する。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。

(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない都市施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。

urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::number	xs::string [0..1]	都市計画施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

2) urf::TrafficFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項各号に掲げる施設。 都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 1 号に定める道路、都市高速鉄道、駐車場、自動車ターミナルその他の交通施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない交通施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。

urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::startLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［起点の地名］。
urf::endLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［終点の地名］。
urf::viaLocations	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［起点から終点までに存在する主な地名］。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定められる区域［起点から終点までの延長距離］。単位は m（uom=”m”）とする。

urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定められる区域［幅員］。単位は m（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::urbanRoadAttribute	urf::UrbanRoadAttribute [0..1]	交通施設が道路の場合の追加情報。
urf::urbanRapidTransitRailroadAttribute	urf::UrbanRapidTransitRailroadAttribute [0..1]	交通施設が都市高速鉄道の場合の追加情報。
urf::parkingPlaceAttribute	urf::ParkingPlaceAttribute [0..1]	交通施設が駐車場の場合の追加情報。
urf::vehicleTerminalAttribute	urf::VihicleTerminalAttribute [0..1]	交通施設が自動車ターミナルの場合の追加情報。

3) urf::UrbanRoadAttribute

型の定義	都市計画法第 11 条第 1 項第 1 号に定める道路について定めるべき事項。	
上位の型	urf::TrafficFacilityAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::routeTypeNumber	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和 44 年　建設省都計発第 102 号)IV(2)③で定められる区分。コードリスト（UrbanRoadAttribute_routeTypeNumber.xml）より選択する。
urf::routeSizeNumber	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和 44 年　建設省都計発第 102 号)IV(2)③で定められる規模。コードリスト（UrbanRoadAttribute_routeSizeNumber.xml）より選択する。
urf::routeSerialNumber	xs::string[0..1]	都市局長通達(昭和 44 年　建設省都計発第 102 号)IV(2)③で定められる一連番号。
urf::roadType	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 1 号で定める道路の種別。コードリスト（UrbanRoadAttribute_roadType.xml）より選択する。
urf::numberOfLanes	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 1 号で定める車線の数。
urf::roadStructure	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 1 号で定める道路の構造。

urf::structureType	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 1 号及び都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 2 号で定める構造種別。コードリスト（Common_trafficFacilityStructureType.xml）より選択する。
urf::crossType	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 1 号及び都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 2 号で定める交差種別（道路構造が地表式のみ）。コードリスト（Common_trafficFacilityCrossingType.xml）より選択する。
urf::trafficPlazas	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 1 項で定める施設における交通広場の有無。コードリスト（Common_availabilityType.xml）より選択する。
urf::structuralDetails	urf::StructureDetails [0..*]	道路の構造の内訳。

4) urf::UrbanRapidTransitRailroadAttribute

型の定義	都市計画法第 11 条第 1 項第 1 号に定める都市高速鉄道について定めるべき事項。	
上位の型	urf::TrafficFacilityAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::structureType	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 4 号及び都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 6 号で定められる構造(鉄道構造)。コードリスト（Common_trafficFacilityStructureType.xml）より選択する。
urf::crossType	gml::CodeType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 4 号及び都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 6 号で定められる構造（鉄道構造が地表式のみ）。コードリスト（Common_trafficFacilityCrossingType.xml）より選択する。
urf::structuralDetails	urf::StructureDetails [0..*]	道路の構造の内訳。

5) urf::StructureDetails

型の定義	道路及び都市高速鉄道の構造を区間ごとに記述するために使用する型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::startLocation	xs::string [1]	起点の位置。
urf::endLocation	xs::string [1]	終点の位置。
urf::viaLocations	xs::string [0..1]	起点から終点までに存在する主な地名。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	区間の長さ。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::structureType	gml::CodeType [0..1]	道路又は鉄道の構造の形式。コードリスト（Common_trafficFacilityStructureType.xml）より選択する。
urf::minimumWidth	gml::LengthType [0..1]	最小の幅員。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::maximumWidth	gml::LengthType [0..1]	最大の幅員。単位は m（uom=”m”）とする。

urf::standardWidth	gml::LengthType [0..1]	標準的な幅員。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::crossType	gml::CodeType [0..1]	交差の種別。コードリスト（Common_trafficFacilityCrossingType.xml）より選択する。

6) urf::ParkingPlaceAttribute

型の定義	都市計画法第 11 条第 1 項第 1 号に定める駐車場について定めるべき事項。	
上位の型	urf::TrafficFacilityAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::storeysAboveGround	xs:: integer [1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 2 号及び都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 3 号に定める駐車場の地上階数。
urf::storeysBelowGround	xs::integer [1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 2 号及び都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 3 号に定める駐車場の地下階数。

7) urf::VehicleTerminalAttribute

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 1 号に定める自動車ターミナルについて定めるべき事項。	
上位の型	urf::TrafficFacilityAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::terminalType	gml::CodeType [1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（VehicleTerminalAttribute_terminalType.xml）から選択する。

8) urf::OpenSpaceForPublicUse

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 2 号に定める公園、緑地、広場、墓園その他の公共空地。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない公共空地を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::parkAttribute	urf::ParkAttribute [0..1]	公共空地が公園の場合の追加情報。

9) urf::ParkAttribute

型の定義	都市計画法第 11 条第 1 項第 2 号に定める公園について定めるべき事項。	
上位の型	urf::OpenSpaceForPublicUseAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::parkTypeNumber	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和 44 年　建設省都計発第 102 号)IV(4)②にて定められる区分。コードリスト（ParkAttribute_parkTypeNumber.xml）より選択する。
urf::parkSizeNumber	gml::CodeType [0..1]	都市局長通達(昭和 44 年　建設省都計発第 102 号)IV(4)②にて定められる規模。コードリスト（ParkAttribute_parkSizeNumber.xml）より選択する。
urf::parkSerialNumber	xs::string [0..1]	都市局長通達(昭和 44 年　建設省都計発第 102 号)IV(4)②にて定められる一連番号。

10) urf::SupplyFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 3 号に定める水道、電気供給施設、ガス供給施設その他の供給施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない供給施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::waterWorksAttribute	urf::WaterWorksAttribute [0..1]	供給施設が水道の場合の追加情報。

11) urf::WaterWorksAttribute

型の定義	都市計画法第 11 条第 1 項第 3 号に定める水道について定めるべき事項。	
上位の型	urf::SupplyFacilityAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::startLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［起点の町丁目又は字］。
urf::endLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［終点の町丁目又は字］。

12) urf::TreatmentFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 3 号に定める下水道、汚物処理場、ごみ焼却場その他の処理施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない処理施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。
自身に定義された関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::sewerSystemAttribute	urf::SewerSystemAttribute [0..1]	処理施設が下水道の場合の追加情報。

13) urf::SewerSystemAttribute

型の定義	都市計画法第 11 条第 1 項第 3 号に定める下水道について定めるべき事項。	
上位の型	urf::TreatmentFacilityAttribute	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::startLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［起点の町丁目又は字］。
urf::endLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める位置［終点の町丁目又は字］。
urf::systemType	gml::CodeType [0..1]	下水道法施行規則第 19 条第 1 項第 3 号で定められる種別。コードリスト（SewerSystemAttribute_systemType.xml）より選択する。
urf::drainageArea	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 6 号に定められた排水区域。

14) urf::Waterway

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 4 号に定める河川、運河、その他の水路。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない水路を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::startLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める「位置」を表す水路の起点位置。
urf::endLocation	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める「位置」を表す水路の終点位置。
urf::structure	gml::CodeType[0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 4 号に定める「構造」。コードリスト（Waterway_structure.xml）より選択する。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		

関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

15) urf::EducationalAndCulturalFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 5 号に定める学校、図書館、研究施設その他の教育文化施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない教育施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。

urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

16) urf::MedicalFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 6 号に定める病院その他の医療施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない医療施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

17) urf::SocialWelfareFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 6 号に定める保育所その他の社会福祉施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない社会福祉施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。

urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	都市施設の大まかな位置。施設の中心位置。
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

18) urf::MarketsSlaughterhousesCrematoria

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 7 号に定める市場、と畜場又は火葬場。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。

urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

19) urf::CollectiveHousingFacilities

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 8 号に定める、一団地における 50 戸以上の集団住宅及びこれらに附帯する通路その他の施設（一団地の住宅施設）。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。

urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingCoverageRate	xs::double[0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 7 号に定める建ぺい率の限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::floorAreaRate	xs:: double [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 7 号に定める容積率の限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::numberOfLowRiseHousing	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 7 号に定める低層住宅の予定戸数。
urf::numberOfMiddleRiseHousing	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 7 号に定める中層住宅の予定戸数。
urf::numberOfHighRiseHousing	xs::integer [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 7 号に定める高層住宅の予定戸数。
urf::totalNumberOfHousing	xs::integer [0..1]	住宅予定戸数の合計。
urf::publicFacilitiesAllocationPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 7 号に定める公益的施設、住宅及び公共施設の配置方針。

urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 5 項に定める都市施設に関する都市計画事業の施行予定者。区域の面積が二十ヘクタール以上の一団地の住宅施設の場合に適用する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

20) urf::CollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 9 号に定める、一団地の国家機関又は地方公共団体の建築物及びこれらの付帯に関する通路その他の施設（一団地の官公庁施設）。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingCoverageRate	xs::double[0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 8 号に定める建ぺい率の限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::floorAreaRate	xs:: double [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 8 号に定める容積率の限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::publicFacilitiesAllocationPolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法施行令第 6 条第 1 項第 8 号に定める公益的施設、住宅及び公共施設の配置方針。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 5 項に定める都市施設に関する都市計画事業の施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

21) urf::DistributionBusinessPark

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 11 号に定める施設（流通業務団地）。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。

urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	都市施設の大まかな位置。施設の中心位置。
urf::distributionBusinessPark	gml::StringOrRefType [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 2 項に定める流通業務施設の敷地の位置及び規模。
urf::publicAndUtilityFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 2 項に定める公共施設及び公益的施設の位置及び規模。
urf::buildingCoverageRate	xs::double [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 3 項に定める建ぺい率の限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::floorAreaRate	xs:: double [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 3 項に定める容積率の限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 3 項に定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 3 項に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [0..1]	流通業務市街地整備法第 7 条第 3 項に定める外壁の後退距離。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 5 項に定める都市施設に関する都市計画事業の施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

22) urf::CollectiveFacilitiesForTsunamiDisasterPrevention

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 12 号に定める施設。 津波防災地域づくりに関する法律（平成二十三年法律第百二十三号）第二条第十五項に規定する一団地の津波防災拠点市街地形成施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。

urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::housingFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 1 号に定める住宅施設の位置及び規模。
urf::supecificBusinessFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 1 号に定める特定業務施設の位置及び規模。
urf::publicFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 1 号に定める公共施設の位置及び規模。
urf::utilityFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 1 号に定める公益的施設の位置及び規模。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	津波津波防災地域づくり法第 17 条第 2 項第 2 号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	都市施設の大まかな位置。施設の中心位置。
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

23) urf::CollectiveFacilitiesForReconstructionAndRevitalization

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 13 号に定める施設。 福島復興再生特別措置法（平成二十四年法律第二十五号）第三十二条第一項に規定する一団地の復興再生拠点市街地形成施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::housingFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 1 号に定める住宅施設の位置及び規模。
urf::supecificBusinessFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 1 号に定める特定業務施設の位置及び規模。
urf::publicFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 1 号に定める公共施設の位置及び規模。
urf::utilityFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 1 号に定める公益的施設の位置及び規模。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。

urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	福島復興再生特措法第 32 条第 2 項第 2 号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

24) urf::CollectiveFacilitiesForReconstruction

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 14 号に定める施設。 大規模災害からの復興に関する法律（平成二十五年法律第五十五号）第二条第八号に規定する一団地の復興拠点市街地形成施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::housingFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 1 号に定める住宅施設の位置及び規模。
urf::supecificBusinessFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 1 号に定める特定業務施設の位置及び規模。
urf::publicFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 1 号に定める公共施設の位置及び規模。
urf::utilityFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 1 号に定める公益的施設の位置及び規模。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 2 号に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。

urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	大規模災害復興法第 41 条第 2 項第 2 号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

25) urf::CollectiveUrbanDisasterPreventionFacilities

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 10 号に定める施設（一団地の都市安全確保拠点施設）。 溢水、湛水、津波、高潮その他の自然現象による災害が発生した場合における居住者等（居住者、来訪者又は滞在者をいう。以下同じ。）の安全を確保するための拠点となる一団地の特定公益的施設（避難場所の提供、生活関連物資の配布、保健医療サービスの提供その他の当該災害が発生した場合における居住者等の安全を確保するために必要な機能を有する集会施設、購買施設、医療施設その他の施設をいう。）及び公共施設をいう。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::specificUtilityAndPublicFacilities	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 11 条第 4 項第 1 号に定める特定公益施設及び公共施設の位置及び規模。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 4 項第 2 号に定める建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 4 項第 2 号に定める建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。

urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	都市計画法第 11 条第 4 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	都市計画法第 11 条第 4 項第 2 号に定める延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	都市計画法第 11 条第 4 項第 2 号に定める建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

26) urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める施設。	
上位の型	urf::UrbanFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）に定義されていない政令で定める施設を記述する場合は、その種類を文字列で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiPoint	gml::MultiPoint [0..1]	都市施設の大まかな位置。施設の中心位置。
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。

		計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

27) urf::TelecommunicationFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める電気通信事業の用に供する施設。	
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

28) urf::WindProtectionFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める防風の施設。	
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。

core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。

urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

29) urf::FireProtectionFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める防火の施設。	
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

30) urf::TideFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める防潮の施設。
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder
ステレオタイプ	<<FeatureType>>

継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。

urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

31) urf::FloodPreventionFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める防水の施設。	
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。

urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

urf::threeDimensionalExtent	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

32) urf::SnowProtectionFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める防雪の施設。	
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。

urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。
urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

33) urf::SandControlFacility

型の定義	都市計画において定められるべき都市計画法第 11 条第 1 項第 15 号の政令で定める防砂の施設。	
上位の型	urf::UrbanFacilityStipulatedByCabinetOrder	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項で定める名称（都市施設を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。

(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::number	xs::string [0..1]	都市施設を識別するための番号。
urf::length	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す延長。単位はm（uom=”m”）とする。

urf::width	gml::LengthType [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項の区域を示す幅員。単位はm（uom=”m”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 11 条第 2 項に定める都市施設の区域。高さを 0 とする。計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::threeDimensionalExtent)	gml::ThreeDimensionalExtent [0..*]	都市施設に設定された立体的な範囲。

(8) 市街地開発事業

1) urf::UrbanDevelopmentProject

型の定義	都市計画法第 12 条に定める市街地開発事業	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条第 5 項に定める事業の実施予定機関の名称。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

2) urf::LandReadjustmentProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 1 号に定める事業。 土地区画整理法（昭和二十九年法律第百十九号）による土地区画整理事業。
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject
ステレオタイプ	<<FeatureType>>
継承する属性	
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。

gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。

(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
(urf::scheduledExecutor)	xs::string [0..1]	事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::publicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	都市計画法第 12 条第 3 項に定める公共施設の配置。
urf::buildingLotDevelopment	gml::StringOrRefType [1]	都市計画法第 12 条第 3 項に定める宅地の整備に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

3) urf::NewHousingAndUrbanDevelopmentProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 2 号に定める事業。 新住宅市街地開発法（昭和三十八年法律第百三十四号）による新住宅市街地開発事業。
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject
ステレオタイプ	<<FeatureType>>
継承する属性	
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。

urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::housing	gml::StringOrRefType [1]	新住宅市街地開発法第 4 条に定める住区。
urf::publicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	新住宅市街地開発法第 4 条に定める公共施設の配置及び規模。
urf::residentialLandUsePlan	gml::StringOrRefType [1]	新住宅市街地開発法第 4 条に定める宅地の利用計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義

urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

4) urf::IndustrialParkDevelopmentProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 3 号に定める事業。 首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関する法律（昭和三十三年法律第九十八号）による工業団地造成事業又は近畿圏の近郊整備区域及び都市開発区域の整備及び開発に関する法律（昭和三十九年法律第百四十五号）による工業団地造成事業。	
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::publicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関する法律第 5 条第 1 項又は近畿圏の近郊整備区域及び都市開発区域の整備及び開発に関する法律第 7 条第 1 項に定める公共施設の配置及び規模。
urf::residentialLandUsePlan	gml::StringOrRefType [1]	首都圏の近郊整備地帯及び都市開発区域の整備に関する法律第 5 条第 1 項又は近畿圏の近郊整備区域及び都市開発区域の整備及び開発に関する法律第 7 条第 1 項に定める宅地の利用計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

5) urf::UrbanRedevelopmentProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 4 号に定める事業。都市再開発法による市街地再開発事業。

上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	都市施設の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	市街地再開発事業の種類。コードリスト（UrbanRedevelopmentProject_usage.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。

urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
(urf::scheduledExecutor)	xs::string [0..1]	事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::publicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	都市再開発法第 4 条第 1 項に定める公共施設の配置及び規模。
urf::developmentPlan	gml::StringOrRefType [1]	都市再開発法第 4 条第 1 項に定める建築物及び建築敷地の整備計画。
urf::housingTarget	gml::StringOrRefType [0..1]	都市再開発法第 5 条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の戸数その他住宅建設の目標。
urf::siteArea	gml::MeasureType [0..1]	都市再開発法第 5 条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の敷地面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
urf::totalFloorArea	gml::MeasureType [0..1]	都市再開発法第 5 条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の延床面積。単位は m2（uom="m2"）とする。
urf::numberOfHousing	xs::integer [0..1]	都市再開発法第 5 条に定める当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の戸数。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

6) urf::NewUrbanInfrastructureProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 5 号に定める事業。 新都市基盤整備法（昭和四十七年法律第八十六号）による新都市基盤整備事業。	
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義

gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。

urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::landForCentralPublicFacilities	gml::StringOrRefType [1]	新都市基盤整備法第 4 条第 1 項に定める根幹公共施設の用に供すべき土地の区域。
urf::districtsAllocation	gml::StringOrRefType [1]	新都市基盤整備法第 4 条第 1 項に定める開発誘導地区の配置及び規模。
urf::landUsePlan	gml::StringOrRefType [1]	新都市基盤整備法第 4 条第 1 項に定める開発誘導地区内の土地の利用計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

7) urf::ResidentialBlockConstructionProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 6 号に定める事業。 大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法による住宅街区整備事業。	
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。

urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::publicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	大都市における住宅及び住宅地の供給促進に関する特別措置法第 31 条第 2 項に定める公共施設の配置及び規模。
urf::developmentPlan	gml::StringOrRefType [0..1]	大都市における住宅及び住宅地の供給促進に関する特別措置法第 31 条第 2 項に定める施設住宅の建設に関する計画。

urf::siteArea	gml::MeasureType [0..1]	当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の敷地面積。単位はm2（uom=”m2”）とする。
urf::totalFloorArea	gml::MeasureType [0..1]	当該市街地再開発事業により確保されるべき住宅の延床面積。単位はm2（uom=”m2”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

8) urf::DisasterPreventionBlockImprovementProject

型の定義	都市計画法第 12 条第 1 項第 7 号に定める事業。密集市街地整備法による防災街区整備事業。	
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
(urf::scheduledExecutor)	xs::string [0..1]	事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::disasterPreventionPublicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	密集市街地整備法第 120 条第 1 項に定める防災公共施設の配置及び規模。
urf::otherPublicFacilityAllocation	gml::StringOrRefType [1]	密集市街地整備法第 120 条第 1 項に定めるその他の公共施設の配置及び規模。
urf::developmentPlan	gml::StringOrRefType [1]	密集市街地整備法第 120 条第 1 項に定める防災施設建築物の整備に関する計画。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

9) urf::UrbanRenewalProject

型の定義	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律(昭和 36 年法律第 109 号)第 3 条で定められる、旧都市計画法(大正 8 年法律第 36 号)第 3 条の定める手続きによって都市計画として決定された市街地改造事業。	
上位の型	urf::UrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	市街地開発事業の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める名称（市街地開発事業を識別する名前）。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の種類。コードリスト（Common_urbanDevelopmentProjectType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。

urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項で定める事業の実施予定機関の名称。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::storeysAboveGround	xs::nonNegativeInteger [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律第 4 条第 2 項で定められる建築物の整備に関する計画に示される建築物の地上階数。
urf::storeysBelowGround	xs::nonNegativeInteger [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律第 4 条第 2 項で定められる建築物の整備に関する計画に示される建築物の地下階数。
urf::setbackSize	gml::StringOrRef [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律第 4 条第 2 項で定められる建築物の整備に関する計画に示される壁面の位置の限度。
urf::floorAreaRate	xs::double [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律第 4 条第 2 項で定められる建築物の整備に関する計画に示される容積の限度。
urf::buildingUsage	xs::string [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律第 4 条第 2 項で定められる建築物の整備に関する計画に示される主な用途。
urf::siteArea	gml::MeasureType [0..1]	旧公共施設の整備に関連する市街地の改造に関する法律第 4 条第 2 項で定められる建築物の整備に関する計画に示される建築敷地の面積。単位は m2（uom=”m2”）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(9) 市街地開発事業の予定区域

1) urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 に定める予定区域。
上位の型	urf::_Zone

ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。

urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

2) urf::ScheduledAreaForNewHousingAndUrbanDevelopmentProjects

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 第 1 項第 1 号に定める新住宅市街地開発事業の予定区域。	
上位の型	urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める市街地開発事業の区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

3) urf::ScheduledAreaForIndustrialParkDevelopmentProjects

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 第 1 項第 2 号に定める工業団地造成事業の予定区域。
上位の型	urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject
ステレオタイプ	<<FeatureType>>
継承する属性	

属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。

urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

4) urf::ScheduledAreaForNewUrbanInfrastructureProjects

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 第 1 項第 3 号に定める新都市基盤整備事業の予定区域。	
上位の型	urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

5) urf::ScheduledAreaForCollectiveHousingFacilities

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 第 1 項第 4 号に定める区域の面積が 20ha 以上の一団地の住宅施設の予定区域。	
上位の型	urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。

gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。

urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

6) urf::ScheduledAreaForCollectiveGovernmentAndPublicOfficeFacilities

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 第 1 項第 5 号に定める一団地の官公庁施設の予定区域。	
上位の型	urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

7) urf::ScheduledAreaForDistributionBusinessPark

型の定義	都市計画法第 12 条の 2 第 1 項第 6 号に定める流通業務団地の予定区域。	
上位の型	urf::ScheduledAreaForUrbanDevelopmentProject	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項で定める名称（市街地開発事業等予定区域を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める市街地開発事業予定区域の種類。コードリスト（Common_scheduledAreaType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法第 12 条第 2 項に定める面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	区域が設定された位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::scheduledExecutor	xs::string [1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める施行予定者。

継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 2 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(10) 地区計画等

1) urf::DistrictPlan

型の定義	建築物の建築形態、公共施設その他の施設の配置等からみて、一体としてそれぞれの区域の特性にふさわしい態様を備えた良好な環境の各街区を整備し、開発し、及び保全するための計画。	
上位の型	urf::_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項で定める名称（地区計画を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区計画の種類。 促進区を定める場合、当該地区計画は、再開発等促進区又は開発整備促進区を定める地区計画となる。コードリスト（Common_districtPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法施行令第 7 条の 3 に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::objectives	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 2 項第 2 号に定める当該地区計画の目標。
urf::policy	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 2 項第 3 号に定める当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::facilityAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	道路、公園その他の政令で定める施設（都市計画施設及び沿道地区施設を除く。）の配置及び規模。 地区計画に促進区を定める場合に作成する。（都市計画法第 12 条の 5 第 5 項第 1 号）
urf::landUsePolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	土地利用に関する基本方針。 地区計画に促進区を定める場合に作成する。（都市計画法第 12 条の 5 第 5 項第 2 号）
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

urf::districtDevelopmentPlan	urf::DistrictDevelopmentPlan [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 2 項第 1 号に定める当該地区計画等に定められた地区整備計画。
urf::promotionDistrict	urf::PromotionDistrict [0..*]	当該地区計画等に再開発等促進区や開発整備促進区を定める場合の促進区。促進区を定める場合、「再開発促進区を定める地区計画」又は「開発整備促進区を定める地区計画」となる。

2) urf::RoadsideDistrictPlan

型の定義	幹線道路の沿道の整備に関する法律（昭和五十五年法律第三十四号）第九条第一項の規定による沿道地区計画。	
上位の型	urf::_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項で定める名称（地区計画を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区計画の種類。 沿道再開発等促進区を定める場合は、沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画となる。コードリスト（Common_districtPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。

urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法施行令第 7 条の 3 に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::objectives	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 2 項第 2 号に定める当該地区計画の目標。
urf::policy	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 2 項第 3 号に定める当該区域の整備、開発及び保全に関する方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::facilityAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	道路、公園その他の政令で定める施設（都市計画施設及び沿道地区施設を除く。）の配置及び規模。 沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合に作成する（幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 4 項）。
urf::landUsePolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	土地利用に関する基本方針。 沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合に作成する（幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 4 項）。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::districtDevelopmentPlan	urf::DistrictDevelopmentPlan [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 2 項第 1 号に定める当該沿道地区計画に定められた沿道地区整備計画。
urf::promotionDistrict	urf::PromotionDistrict [0..*]	沿道再開発等促進区。沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合にのみ作成する。

3) urf::RuralDistrictPlan

型の定義	集落地域整備法（昭和六十二年法律第六十三号）第五条第一項の規定による集落地区計画。	
上位の型	urf::_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項で定める名称（地区計画を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区計画の種類。コードリスト（Common_districtPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。

urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法施行令第 7 条の 3 に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::objectives	gml::StringOrRefType [0..1]	集落整備法第 5 条第 4 項に定める集落地区計画の目標。
urf::policy	gml::StringOrRefType [0..1]	集落整備法第 5 条第 4 項に定める区域の整備、開発及び保全に関する方針。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::districtDevelopmentPlan	urf::DistrictDevelopmentPlan [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 2 項第 1 号に定める当該沿道地区計画に定められた沿道地区整備計画。
urf::promotionDistrict	urf::PromotionDistrict [0..*]	沿道再開発等促進区。 沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画の場合にのみ作成する。

4) urf::HistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrictPlan

型の定義	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（平成二十年法律第四十号）第三十一条第一項の規定による歴史的風致維持向上地区計画。	
上位の型	urf::_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項で定める名称（地区計画を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。

(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区計画の種類。コードリスト（Common_districtPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。コードリスト（Common_urbanPlanType.xml）より選択する。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法施行令第 7 条の 3 に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::objectives	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 2 項第 2 号に定める当該地区計画の目標。

urf::policy	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 2 項第 4 号に定める当該地区計画の方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::landUsePolicy	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 2 項第 3 号に定める土地利用に関する基本方針。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::districtDevelopmentPlan	urf::DistrictDevelopmentPlan [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 2 項第 1 号に示される「歴史的風致維持向上地区整備計画」。
(urf::promotionDistrict)	urf::PromotionDistrict [0..*]	

5) urf::DisasterPreventionBlockImprovementZonePlan

型の定義	密集市街地整備法第 32 条第 1 項の規定による防災街区整備地区計画。	
上位の型	urf::_AbstractDistrictPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項で定める名称（地区計画を識別する名前）。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区計画の種類。コードリスト（Common_districtPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
urf::validFrom	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。

urf::validFromType	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::enactmentFiscalYear	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
urf::validTo	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
urf::validToType	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。コードリスト（Common_validType.xml）より選択する。
urf::expirationFiscalYear	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
urf::legalGrounds	xs::string [0..1]	法的背景。
urf::custodian	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::notificationNumber	xs::string [0..1]	告示番号。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::urbanPlanType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
urf::areaClassificationType	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。コードリスト（Common_areaClassificationType.xml）より選択する。
urf::nominalArea	gml::MeasureType [0..1]	都市計画法施行令第 7 条の 3 に定める面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
urf::prefecture	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
urf::city	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める位置。町丁目又は字まで記載する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::objectives	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 2 項第 3 号に定める当該地区計画の目標。
urf::policy	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 2 項第 3 号に定める当該地区計画の方針。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::zonalDisasterPreventionFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	地区防災施設の区域。
urf::specifiedZonalDisasterPreventionFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	特定地区防災施設の区域。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。

urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::districtDevelopmentPlan	urf::DistrictDevelopmentPlan [0..1]	防災街区整備地区計画に定められた特定建築物地区整備計画及び防災街区整備地区整備計画。
(urf::promotionDistrict)	urf::PromotionDistrict [0..*]	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::zonalDisasterPreventionFacilities	urf::ZonalDisasterPreventionFacility [0..*]	防災街区整備地区計画に計画された地区防災施設及び特定地区防災施設。

6) urf::DistrictDevelopmentPlan

型の定義	主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（地区施設）及び建築物等の整備並びに土地の利用に関する計画。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区整備計画を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区整備計画の種類。コードリスト（Common_districtDevelopmentPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。

(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区整備計画の位置。町丁目又は字まで記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::districtFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 1 号に定める地区施設の配置及び規模。関連役割「urf::districtFacility」により地区施設の区域を示さない場合は、この属性により地区施設を記述する。
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 2 号に定める建築物等の制限。
urf::urbanGreenSpaceConservation	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 3 号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf::activityRestrictionsInFarmland	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 4 号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項
urf::landuseRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 5 号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::districtFacility	urf::DistrictFacility [0..*]	当該地区整備計画に設定された都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 1 号に定める地区施設。
urf::district	urf::District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。

7) urf::SpecifiedBuildingZoneImprovementPlan

型の定義	当該区域における特定防災機能を確保するための防災公共施設（都市計画施設を除く。以下「地区防災施設」という。）の区域（地区防災施設のうち建築物等と一体となって当該特定防災機能を確保するために整備されるべきもの（特定地区防災施設）にあっては、当該特定地区防災施設の区域及び当該建築物等の整備に関する計画。	
上位の型	urf::DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区整備計画を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区整備計画の種類。コードリスト（Common_districtDevelopmentPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。

urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区整備計画の位置。町丁目又は字まで記載する。
(urf::districtFacilitiesAllocation)	gml::StringOrRefType [0..1]	
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 4 項第 2 号に定める建築物等の制限。
(urf::urbanGreenSpaceConservation)	gml::StringOrRefType [0..1]	
(urf::activityRestrictionsInFarmland)	gml::StringOrRefType [0..1]	
(urf::landuseRestrictions)	gml::StringOrRefType [0..1]	
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::districtFacility)	urf::DistrictFacility [0..*]	
urf::district	urf::District [0..*]	当該地区整備計画に定められた防災地区。

8) urf::DistrictImprovementPlanForDisasterPreventionBlockImprovementZonePlan

型の定義	防災街区整備地区整備計画。主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（地区施設）及び建築物等（特定建築物地区整備計画の区域内の建築物等を除く。）の整備並びに土地の利用に関して、地区防災施設の区域以外の防災街区整備地区計画の区域について定める計画。	
上位の型	urf::DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区整備計画を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。

urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区整備計画の種類。コードリスト（Common_districtDevelopmentPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区整備計画の位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::districtFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 4 項第 1 号に定める地区施設の配置及び規模。
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 4 項第 2 号に定める建築物等の制限。
urf::urbanGreenSpaceConservation	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 4 項第 3 号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
urf::activityRestrictionInFarmland	gml::StringOrRefType [0..1]	都市計画法第 12 条の 5 第 7 項第 4 号に定める現に存する農地（耕作の目的に供される土地）で農業の利便の増進と調和した良好な居住環境を確保するため必要なものにおける土地の形質の変更その他の行為の制限に関する事項。
urf::landuseRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	密集市街地整備法第 32 条第 4 項第 4 号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。

urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::districtFacility)	urf::DistrictFacility [0..*]	
urf::district	urf::District [0..*]	当該地区整備計画に定められた防災地区。

9) urf::RoadsideDistrictImprovementPlan

型の定義	沿道地区整備計画。 緑地その他の緩衝空地及び主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路その他政令で定める施設（都市計画施設を除く。「沿道地区施設」）並びに建築物その他の工作物の整備並びに土地の利用その他の沿道の整備に関する計画。	
上位の型	urf::DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区整備計画を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区整備計画の種類。コードリスト（Common_districtDevelopmentPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。

(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区整備計画の位置。町丁目又は字まで記載する。
(urf::districtFacilitiesAllocation)	gml::StringOrRefType [0..1]	
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 6 号第 2 号に定める建築物等の制限。
urf::urbanGreenSpaceConservation	gml::StringOrRefType [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 6 号第 3 号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
(urf::activityRestrictionInFarmland)	gml::StringOrRefType [0..1]	
urf::landuseRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 6 号第 4 号に定める土地の利用に関する事項その他沿道の整備に関する事項。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::rodsideDistrictFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 6 項第 1 号に定める沿道地区施設の配置及び規模。関連役割「urf::districtFacilities」により沿道地区施設の区域を示さない場合は、この属性により沿道地区施設を記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::districtFacility	urf::DistrictFacility [0..*]	幹線道路の沿道の整備に関する法律第 9 条第 6 号第 1 号に定められた当該地区整備計画に定められた沿道地区施設。
urf::district	urf::District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。

10) urf::RuralDistrictImprovementPlan

型の定義	集落地区整備計画。主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（集落地区施設）及び建築物その他の工作物（建築物等）の整備並びに土地の利用に関する計画。	
上位の型	urf::DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区整備計画を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区整備計画の種類。コードリスト（Common_districtDevelopmentPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。

(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区整備計画の位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::districtFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	集落地域整備法第 5 条第 5 項第 2 号に定める建築物等の制限。
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	集落地域整備法第 5 条第 5 項第 3 号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。
(urf::urbanGreenSpaceConservation)	gml::StringOrRefType [0..1]	
urf::activityRestrictionInFarmland	gml::StringOrRefType [0..1]	集落地域整備法第 5 条第 5 項第 4 号に定める土地の利用に関する事項。
urf::landuseRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	集落地域整備法第 5 条第 5 項第 1 号に定める集落地区施設の配置及び規模。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::ruralDistrictFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	集落地域整備法第 5 条第 5 項第 1 号に定める集落地区施設の配置及び規模。 関連役割「urf::districtFacilities」により集落地区施設の区域を示さない場合は、この属性により集落地区施設を記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
urf::districtFacility	urf::DistrictFacility [0..*]	集落地域整備法第 5 条第 5 項第 1 号に定められた当該地区整備計画に定められた集落地区施設。
urf::district	urf::District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。

11) urf::DistrictImprovementPlanForHistoricSceneryMaintenanceAndImprovementDistrict

型の定義	歴史的風致維持向上地区整備計画。 主として街区内の居住者、滞在者その他の者の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設（都市計画施設を除く。地区施設）及び建築物等の整備並びに土地の利用に関する計画。	
上位の型	urf::DistrictDevelopmentPlan	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区整備計画を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める地区整備計画の種類。コードリスト（Common_districtDevelopmentPlanType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	区域が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区整備計画の位置。町丁目又は字まで記載する。
urf::districtFacilitiesAllocation	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 4 項第 1 号に定める地区施設の配置及び規模。
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 4 項第 2 号に定める建築物等の制限。
urf::urbanGreenSpaceConservation	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 4 項第 3 号に定める現に存する樹林地、草地等で良好な居住環境を確保するため必要なものの保全に関する事項。

(urf::activityRestrictionInFarmland)	gml::StringOrRefType [0..1]	
urf::landuseRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 31 条第 4 項第 4 号に定める土地の利用に関する事項。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	都市計画法第 12 条の 4 第 2 項に定める区域。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。
(urf::districtFacility)	urf::DistrictFacility [0..*]	
urf::district	urf::District [0..*]	当該地区整備計画に定められた地区。

12) urf::PromotionDistrict

型の定義	地区計画に定められる促進区。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	促進区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	促進区を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	促進区の種類。コードリスト（PromotionArea_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。

(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	促進区が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	促進区の位置。町丁目又は字まで記載する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	促進区の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	促進の区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

13) urf::District

型の定義	地区整備計画に定められる地区。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地区の概要。
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区を識別する名前。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	地区の種類。コードリスト（District_function.xml）より選択する。 多重度は任意となっているが、運用上必須とする。沿道地区整備計画

		の場合は沿道地区、防災街区整備地区整備計画の場合はの防災地区となる。
(urf::usage)	gml::CodeType [0..*]	区域の用途。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
urf::reason	xs::string [0..1]	地区が指定された理由。
urf::note	xs::string [0..1]	その他区域に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区の位置。町丁目又は字まで記載する。
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::buildingRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物に関する制限事項。
urf::useRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物等の用途の制限。
urf::maximumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumFloorAreaRate	xs::double [0..1]	延べ面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::maximumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	建築基準法第 53 条で定められる建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumBuildingCoverageRate	xs::double [0..1]	建築基準法第 53 条で定められる建築面積の敷地面積に対する割合の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::minimumSiteArea	gml::MeasureType [0..1]	建築物の敷地面積の最低限度。単位は m2（uom=”m2”）とする。
urf::minimumBuildingArea	gml::MeasureType [0..1]	建築物の建築面積の最低限度。単位は m2（uom=”m2”）とする。

minimumGroundHeight	gml::LengthType[0..1]	建築物の敷地の地盤面の高さの最低限度。高さは m（uom=”m”）とする。
urf::setbackSize	gml::StringOrRefType [0..1]	外壁の後退距離。
urf::strucuturePlacementRestrictions	gml::StringOrRefType [0..1]	壁面後退区域における工作物の設置の制限。
urf::maximumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	建築物の高さの最高限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumBuildingHeight	gml::LengthType [0..1]	建築物の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::minimumFloorHeight	gml::LengthType [0..1]	床面の高さの最低限度。単位は m（uom=”m”）とする。
urf::buildingDesignRestriction	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物の形態及び意匠にかかる制限。
urf::minimumGreeningRate	xs::double [0..1]	都市緑地法第 34 条第 3 項で定められる最低限度の緑化率。全体を「1」とする割合で記述する。
urf::fenceGuideline	gml::StringOrRefType [0..1]	垣及びさくの構造にかかる制限。
urf::restrictionsForFireProtection	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物の構造に関する防火上必要な制限。
urf::restrictionsForNoiseProtection	gml::StringOrRefType [0..1]	建築物の構造に関する防音上又は遮音上必要な制限。
urf::minimumFrontageRate	xs::double [0..1]	建築物の特定地区防災施設に係る間口率の最低限度。全体を「1」とする割合で記述する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	地区の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	地区の区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

14) urf::DistrictFacility

型の定義	地区計画において定められる、主として街区内の居住者等の利用に供される道路、公園その他政令で定める施設。 道路、公園、避難路、避難施設、雨水貯留浸透施設、緑地及び広場その他公共空地。	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地区施設の内容
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区施設を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。

core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	地区施設の種類。コードリスト（Common_districtFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	地区施設の用途。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	地区施設が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区施設の位置。町丁目又は字まで記載する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	地区施設の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	地区施設の区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

15) urf::RuralDistrictFacility

型の定義	集落地区計画において定められる、主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路、公園その他の政令で定める施設。	
上位の型	urf::DistrictFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地区施設の内容
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区施設を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	地区施設の種類。コードリスト（Common_districtFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	地区施設の用途。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	地区施設が指定された理由。

(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区施設の位置。町丁目又は字まで記載する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	地区施設の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	地区施設の区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

16) urf::RoadsideDistrictFacility

型の定義	沿道地区計画において定められる、緑地その他の緩衝空地及び主として当該区域内の居住者等の利用に供される道路その他政令で定める施設。（都市計画施設は除く）	
上位の型	urf::DistrictFacility	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地区施設の内容
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区施設を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	地区施設の種類。コードリスト（Common_districtFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	地区施設の用途。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。

(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	地区施設が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区施設の位置。町丁目又は字まで記載する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	地区施設の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	地区施設の区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

17) urf::ZonalDisasterPreventionFacility

型の定義	防災街区整備地区計画において定められる、当該区域における特定防災機能を確保するための防災公共施設。（都市計画施設は除く）	
上位の型	urf::_Zone	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	地区防災施設の内容
gml::name	gml::CodeType [0..1]	地区防災施設を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	地区防災施設の種類。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	地区防災施設の用途。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。

(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom=”ha”）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	地区施設が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear[0..1]	調査が実施された年（西暦）。
urf::location	xs::string [0..1]	地区防災施設の位置。町丁目又は字まで記載する。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::facilityType	gml::CodeType [1]	地区防災施設の区分。コードリスト（ZonalDisasterPreventionFacility_facilityType.xml）より選択する。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	地区防災施設の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す区域の境界線に囲まれた平面的な範囲を指す。
urf::boundary	urf::Boundary [0..*]	地区防災施設の区域を構成する境界。区域の外周及び内周となる境界線。

(11) 立体的な範囲

1) urf::ThreeDimensionalExtent

型の定義	都市計画法第 11 条第 3 項に定められる, 都市施設について, 適正かつ合理的な土地利用を図るため必要があるときに当該都市施設の区域の地下又は空間設けられる当該都市施設を整備する立体的な範囲。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
gml::description	gml::StringOrRefType [0..1]	区域の概要。

(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	区域を識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	区域の分類。
(urf::function)	gml::CodeType [0..*]	区域の種類。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	対象となる都市施設の種類。コードリスト（Common_urbanFacilityType.xml）より選択する。
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する都市計画区域の区分。
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	指定された区域が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	公式な面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	区域が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	地区施設が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::minimumDistance	gml::LengthType [0..1]	立体的な範囲からの離隔距離の最小限度。単位は、m（uom="m"）とする。
urf::maximumLoad	gml::MeasureType [0..1]	立体的な範囲からの 1m2 当たりの載荷重の最大限度。単位は、kN（uom=" kN"）とする。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義

urf::lod1MultiSurface	gml::MultiSurface [0..1]	区域の範囲。高さを 0 とする。 計画図に示す立体的な範囲が指定された平面的な範囲を指す。

(12) 区域の境界

1) urf::Boundary

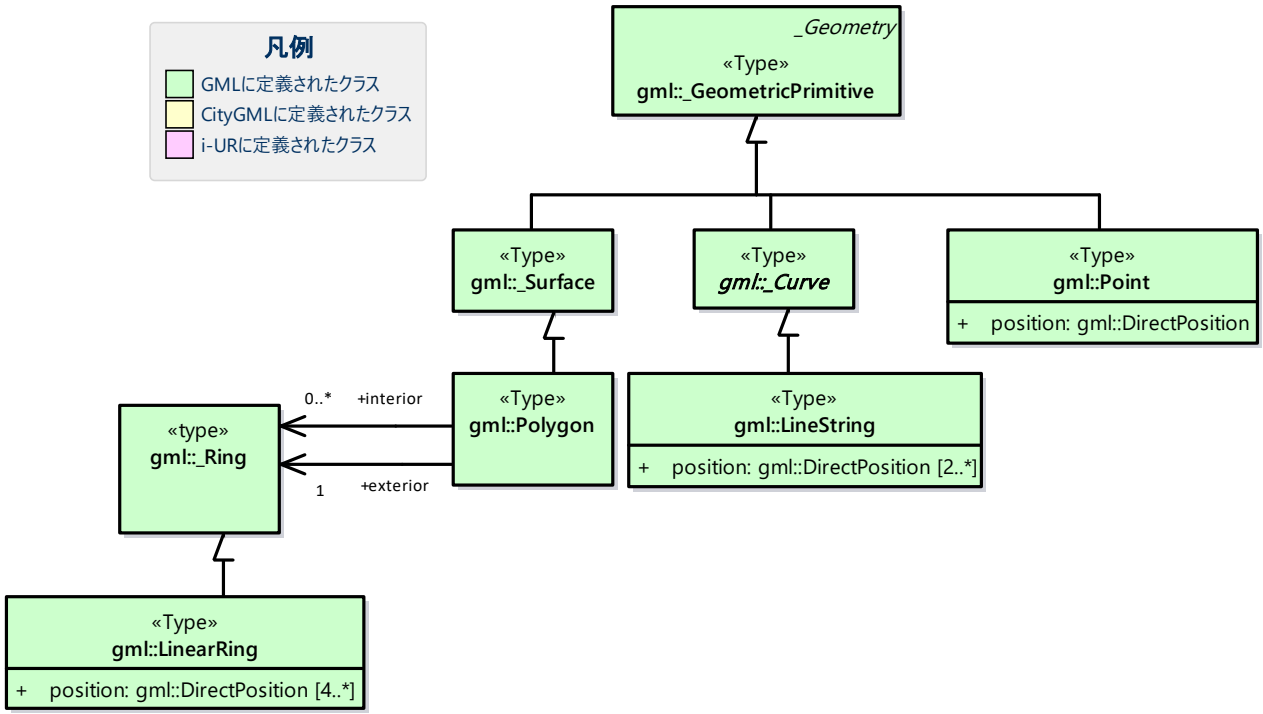
型の定義	以下に示す区域の境界線。 ・都市計画決定された区域を区分する境界線。都市計画決定された区域区域の境界に確定根拠等の情報を付与したい場合に作成する。 ・基本図における境界等（都府県界、北海道の支庁界等）の記述に使用する。	
上位の型	urf::_UrbanFunction	
ステレオタイプ	<<FeatureType>>	
継承する属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
(gml::description)	gml::StringOrRefType [0..1]	概要。
(gml::name)	gml::CodeType [0..1]	識別する名前。
(gml::boundedBy)	gml::Envelope [0..1]	オブジェクトの範囲と空間参照系。
core::creationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが作成された日。
core::terminationDate	xs::date [0..1]	オブジェクトが削除された日。
(core::relativeToTerrain)	core::RelativeToTerrainType [0..1]	地表面との相対的な位置関係。
(core::relativeToWater)	core::RelativeToWaterType [0..1]	水面との相対的な位置関係。
(urf::class)	gml::CodeType [0..1]	分類。
urf::function	gml::CodeType [0..*]	境界線の種類。コードリスト（Boundary_function.xml）より選択する。多重度は任意となっているが、運用上必須とする。
urf::usage	gml::CodeType [0..*]	区域界が区切る区域の種類。コードリスト（Common_featureType.xml）より選択する。 都市計画の区域を区分する境界の場合に、区域の種類を特定する
(urf::validFrom)	xs::date [0..1]	有効となる期間の開始年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validFromType)	gml::CodeType [0..1]	有効となる期間の開始日の種類。
(urf::enactmentFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	決定された年度（西暦）。
(urf::validTo)	xs::date [0..1]	有効となる期間の終了年月日を西暦（YYYY-MM-DD）で記述する。
(urf::validToType)	gml::CodeType [0..1]	無効となる期間の終了日の種類。
(urf::expirationFiscalYear)	xs::gYear[0..1]	廃止された年度（西暦）。
(urf::legalGrounds)	xs::string [0..1]	法的背景。
(urf::custodian)	xs::string [0..1]	都市計画法第 15 条第 1 項で定められる都市計画を定める者の名称。
(urf::notificationNumber)	xs::string [0..1]	告示番号。
(urf::urbanPlanType)	gml::CodeType [0..1]	境界線が属する都市計画区域の区分。

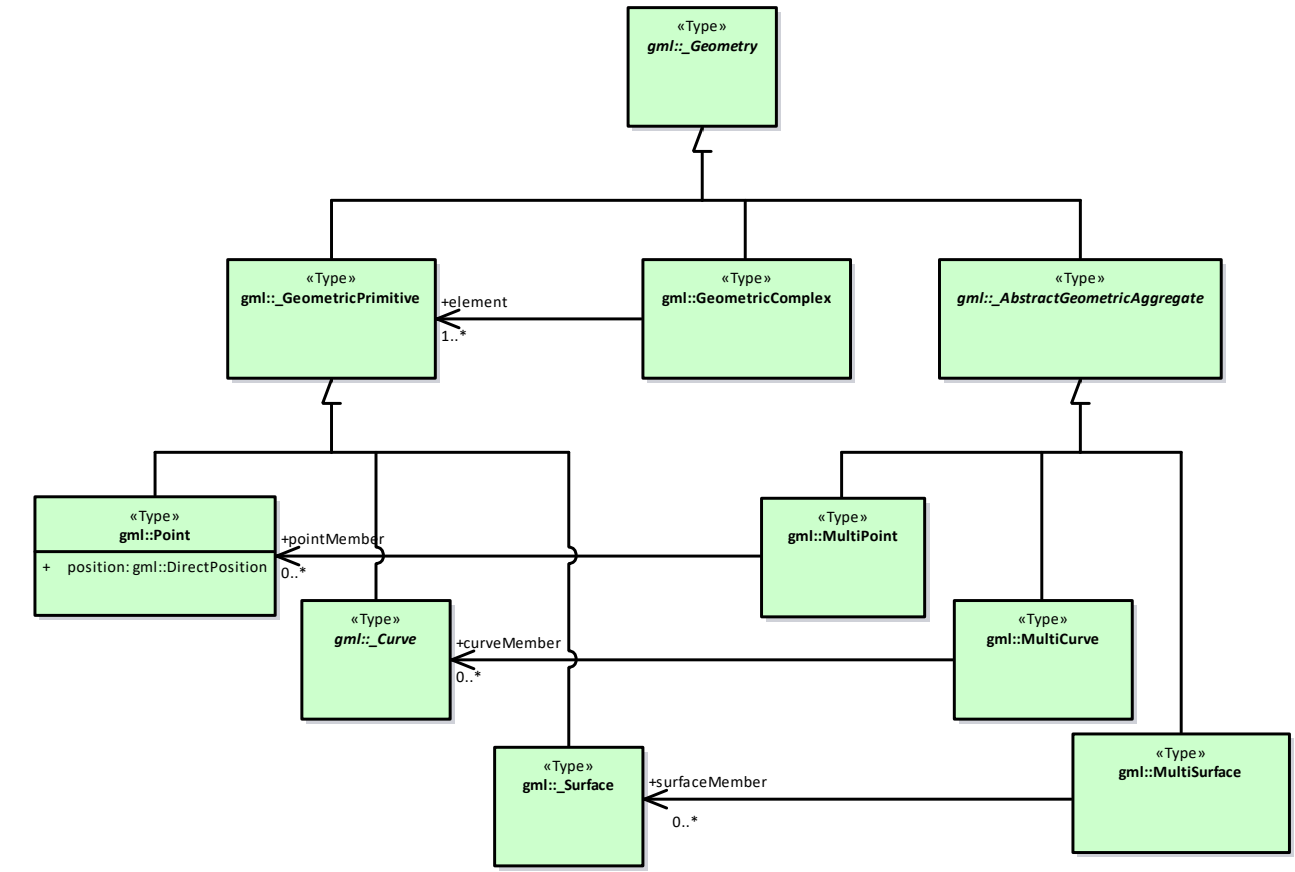
(urf::areaClassificationType)	gml::CodeType [0..1]	境界線が属する区域区分。
(urf::nominalArea)	gml::MeasureType [0..1]	面積。単位は ha（uom="ha"）とする。
(urf::prefecture)	gml::CodeType [0..1]	境界線が所在する都道府県の都道府県コード。
(urf::city)	gml::CodeType [0..1]	境界線が所在する市区町村の市区町村コード。
urf::reference	xs::anyURI [0..1]	外部の参照情報。
(urf::reason)	xs::string [0..1]	境界線が指定された理由。
(urf::note)	xs::string [0..1]	その他地区施設に関して特筆すべき事項。
(urf::surveyYear)	xs::gYear [0..1]	調査が実施された年（西暦）。
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::offset	gml::LengthType [0..1]	オフセットされている場合の量。単位は m（uom="m"）とする。
urf::offsetDirection	xs::string [0..1]	基準となる線に対するオフセットの方向。
継承する関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
urf::lod0MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	境界線の位置。高さを 0 とする。 行政界及び所属界の場合は、lod0MultiCurve を使用してその位置を記述する。
urf::lod1MultiCurve	gml::MultiCurve [0..1]	境界線の位置。高さを 0 とする。 都市計画の各区域の境界線の場合は、lod1MultiCurve を使用してその位置を記述する。
uro::dmAttribute	uro::DmAttribute [0..*]	数値地形図を構成するための情報への参照。 基本図における行政界及び所属界の記述に使用する。

4.5 空間スキーマプロファイル

4.5.1 応用スキーマクラス図

空間スキーマプロファイルは、地物の空間属性（位置や形状）の記述に使用する型を定義する。





4.5.2 応用スキーマ文書

(1) gml::Point

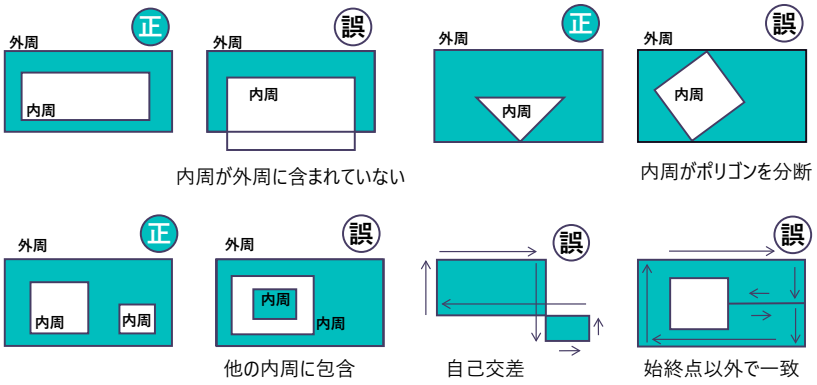
クラスの定義	点。	
上位の型	gml::_GeometricPrimitive	
ステレオタイプ	<<Type>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
position	gml::DirectPosition [1]	座標値。 座標値の記述は空間参照系（日本測地系 2011 における平面直角座標系）に従う。X 及び Y の座標値は、小数点第 2 位（センチメートル）とする。

(2) gml::LineString

クラスの定義	線。 2 点以上の点から構成され、それらの点の順序は始点から終点までの順列になっていなければならない。始点と終点以外の点の座標が、他の点の座標と一致していてはならず、また、一つの折れ線に自己交差や重なりがあってはならない。 データ製品に含まれる曲線の記述には、*gml:_Curve* の下位型である gml:LineString を使用しなければならない。	
上位の型	gml::_Curve	
ステレオタイプ	<<Type>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
position	gml::DirectPosition [2..*]	線を構成する座標値の列。 座標値の列は、gml::posList を用いて記述する。この時、gml::posList には 2 点以上の座標値が含まれてなければならず、すべての座標値には同じ空間参照系が適用されなければならない。 座標値の記述は空間参照系（日本測地系 2011 における平面直角座標系）に従う。X 及び Y の座標値は、小数点第 2 位（センチメートル）とする。

(3) gml::Polygon

クラスの定義	多角形。 gml::Polygon は 1 個の外周（exterior）を必ずもち、また、0 個以上複数個の内周（interior）をもってもよい。内周がある場合は、外周と内周とは同じ平面上に存在しなければなければならない。 外周の頂点の順列が gml::Polygon の向き（法線）を決める。頂点の順列が左回りの gml::Polygon は正の向きとなる。データ集合に含まれる gml::Polygon の向きは必ず正でなければならない。

	gm::Polygon は、以下を満たさなければならない。 1)　内周が、外周に完全に含まれている。 2)　内周が他の内周と重なっておらず、他の内周に包含されてもいない。 3)　内周が外周に接していてもよいが、gml::Polygon の内部を分断しない。 4)　内周と外周が線分で重ならない。 5)　外周及び内周に自己交差がなく、始終点以外の点で一致する点がない。  データ製品に含まれる曲面の記述には、gml:_Surface の下位型である gml:Polygon を使用しなければならない。
上位の型	gml::_Surface
ステレオタイプ	<<Type>>
自身に定義された関連役割	
関連役割名	関連役割の型及び多重度　　定義
exterior	gml::_Ring [1]　　多角形の外周。 外周を構成する座標列は、常に多角形の内部を左に見る順序（左回り）となる。
interior	gml::Ring [0..*]　　多角形の内周。 内周を構成する座標列は、常に多角形の内部を左に見る順序（右回り）となる。

(4)　gml::LinearRing

クラスの定義	線形から構成する輪。多角形の境界として使用される。 3 点以上の順列から構成され、始点と終点が一致する。gml::LinearRing を構成する全ての点は、始点と終点を除き、一致しない。自己交差してはならない。
上位の型	gml::_Ring
ステレオタイプ	<<Type>>
自身に定義された関連役割	
関連役割名	関連役割の型及び多重度　　定義
position	gml::DirectPosition [2..*]　　輪を構成する座標値の列。

		座標値の記述は空間参照系（日本測地系 2011 における平面直角座標系）に従う。X 及び Y の座標値は、小数点第 2 位（センチメートル）とする。

(5) gml::MultiPoint

クラスの定義	点の集まり。	
上位の型	gml::_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<<Type>>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
pointMember	gml::Point [1..*]	構成要素となる点。

(6) gml::MultiCurve

クラスの定義	線の集まり。	
上位の型	gml::_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<<Type>>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
curveMember	gml::_Curve[1..*]	構成要素となる線。

(7) gml::MultiSurface

クラスの定義	面の集まり。	
上位の型	gml::_AbstractGeometricAggregate	
ステレオタイプ	<<Type>>	
自身に定義された関連役割		
関連役割名	関連役割の型及び多重度	定義
surfaceMember	gml::_Surface [1..*]	構成要素となる面。

4.6 コードリスト及び列挙型（Enumeration）

コードリスト及び列挙型は、属性の型として使用されるクラスである。ここで指定されたコード又は値から選択し、属性の値とする。本項で示すコードリスト及び列挙型は標準製品仕様書で使用するもののみである。拡張製品仕様書においてコードリストを追加又は変更した場合には、それぞれの拡張製品仕様書においてそのリストを示さなければならない。また、列挙型は変更することができない。

4.6.1 都市計画基本図で使用するコードリスト及び列挙型

ファイル名	Common_dmCode.xml
コード	説明
1101	都府県界
1102	北海道の支庁界
1103	郡市・東京都の区界
1104	町村・指定都市の区界
1106	大字・町（丁）界
1110	所属界
2101	真幅道路
2103	徒歩道
2106	庭園路
2109	建設中の道路
2203	道路橋
2205	徒橋
2211	横断歩道橋
2213	歩道
2214	石段
2215	地下街・地下鉄等出入口
2219	道路のトンネル
2226	分離帯
2228	道路の雪覆い等
2238	並木
2301	普通鉄道
2303	路面電車
2305	特殊鉄道
2306	索道
2309	建設中の鉄道
2401	鉄道橋
2411	跨線橋
2419	鉄道のトンネル
2421	停留所
2424	プラットホーム
2428	鉄道の雪覆い等
3000	分類しない建物

ファイル名	Common_dmCode.xml
コード	説明
3001	普通建物
3002	堅ろう建物
3003	普通無壁舎
3004	堅ろう無壁舎
3401	門
3402	屋門
4201	墓碑
4202	記念碑
4203	立像
4204	路傍祠
4205	灯ろう
4207	鳥居
4208	自然災害伝承碑
4219	坑口
4221	独立樹　（広葉樹）
4222	独立樹　（針葉樹）
4225	油井・ガス井
4228	起重機
4231	タンク
4234	煙突
4235	高塔
4236	電波塔
4241	灯台
4243	灯標
4251	水位観測所
4261	輸送管　（地上）
4262	輸送管　（空間）
4265	送電線
5101	水がい線（河川）(湖池等)（海岸線）
5102	一条河川
5299	桟橋（鉄、ｺﾝｸﾘｰﾄ）
5203	桟橋（木製・浮桟橋）
5221	渡船発着所
5226	滝
5227	せき
5228	水門
5232	透過水制
5239	敷石斜坂
5241	流水方向
6101	人工斜面

ファイル名	Common_dmCode.xml
コード	説明
6102	土堤等
6110	被覆
6130	かき
6140	へい
6201	区域界
6212	駐車場
6214	園庭
6215	墓地
6216	材料置場
6217	太陽光発電設備
6221	噴火口・噴気口
6222	温泉・鉱泉
6301	植生界
6302	耕地界
6311	田
6313	畑
6314	さとうきび畑
6315	パイナップル畑
6317	桑畑
6318	茶畑
6319	果樹園
6321	その他の樹木畑
6323	芝地
6331	広葉樹林
6332	針葉樹林
6333	竹林
6334	荒地
6335	はい松地
6336	しの地（笹地）
6337	やし科樹林
6338	湿地
6340	砂れき地
7101	等高線（計曲線）
7102	等高線（主曲線）
7103	等高線（補助曲線）
7105	凹地（計曲線）
7106	凹地（主曲線）
7107	凹地（補助曲線）
7199	凹地（矢印）
7201	土がけ

ファイル名	Common_dmCode.xml
コード	説明
7202	雨裂
7206	洞口
7211	岩がけ
7212	露岩
7213	散岩
7214	さんご礁
7301	三角点
7302	水準点
7303	多角点等
7304	公共基準点（三角点）
7305	公共基準点（水準点）
7308	電子基準点
7311	標石を有しない標高点
7312	図化機測定による標高点
3503	官公署
3504	裁判所
3505	検察庁
3507	税務署
3509	郵便局
3510	森林管理署
3515	交番・駐在所
3516	消防署
3517	職業安定所
3519	役場支所及び出張所
3521	神社
3522	寺院
3523	キリスト教会
3524	学校
3525	幼稚園・保育園
3526	公会堂・公民館
3530	老人ホーム
3531	保健所
3532	病院
3534	銀行
3536	協同組合
3545	倉庫
3546	火薬庫
3548	工場
3550	変電所
3556	揚排水ポンプ場

ファイル名	Common_dmCode.xml
コード	説明
3560	ガソリンスタンド
8100	注記（未分類）
8110	市・東京都の区
8111	町・村・指定都市の区
8112	市町村の飛び地
8113	大区域
8115	大字・町・丁目
8116	小字・丁目
8117	その他の地名（大）
8118	その他の地名（中）
8119	その他の地名（小）
8121	道路の路線名
8122	道路施設、坂、峠、インターチェンジ
8123	鉄道の路線名
8124	鉄道施設、駅、操車場、信号所
8125	橋
8126	トンネル
8131	建物の名称
8134	建物の付属物
8140	マンホール
8141	電柱
8142	その他小物体
8151	水部
8152	水部施設
8153	地下水部
8161	法面、構囲
8162	諸地、場地
8163	植生
8171	山地
8173	標高注記
8181	説明注記
8199	指示点

出典：作業規程の準則（付録７　公共測量標準図式）

ファイル名	Common_shapeType.xml
コード	説明
0	非区分（下記に該当しない全データ）
11	射影部の上端

12	射影部の下端
21	高欄
22	橋脚
23	親柱
26	ガードレール
27	ガードパイプ
31	中庭線
32	棟割線
33	階層線
34	外付階段
35	ポーチ・ひさし
46	両側敷地のへい
47	輸送管（空間）

出典：作業規程の準則（付録７　公共測量標準図式）

ファイル名	Common_MapLevel.xml
値	説明
500	地図情報レベル 500
1000	地図情報レベル 1000
2500	地図情報レベル 2500
5000	地図情報レベル 5000
10000	地図情報レベル 10000
25000	地図情報レベル 25000

ファイル名	Common_geometryType.xml
コード	説明
E1	面
E2	線
E5	点
E6	方向
E7	注記

出典：作業規程の準則（付録７　公共測量標準図式）

4.6.2　都市計画基礎調査で使用するコードリスト及び列挙型

ファイル名	UrbanPlanningBasicSurvey_class.xml
コード	説明
1	人口
2	産業

ファイル名	UrbanPlanningBasicSurvey_class.xml
コード	説明
3	土地利用
4	建物
5	都市施設
6	交通
7	地価
8	自然環境等
9	災害
10	その他（景観・歴史資源等）

ファイル名	UrbanPlanningBasicSurveyTable _dataItemNumber.xml
コード	説明
C0101	人口規模
C0102	DID
C0103	将来人口
C0104	人口増減
C0105	通勤・通学移動
C0106	昼間人口
C0201	産業・職業分類別就業者数
C0202	事業所数・従業者数・売上金額
C0301	区域区分の状況
C0302	土地利用現況
C0303	国公有地の状況
C0304	宅地開発状況
C0305	農地転用状況
C0306	林地転用状況
C0307	新築動向
C0308	条例・協定
C0309	農林漁業関係施策適用状況
C0401	建物利用現況
C0402	大規模小売店舗等の立地状況
C0403	住宅の所有関係別・建て方別世帯数
C0501	都市施設の位置・内容等
C0502	道路の状況
C0601	主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度
C0602	自動車流動量
C0603	鉄道・路面電車等の状況

ファイル名	UrbanPlanningBasicSurveyTable _dataItemNumber.xml
コード	説明
C0604	バスの状況
C0701	地価の状況
C0801	地形・水系・地質条件
C0802	気象状況
C0803	緑の状況
C0804	動植物調査
C0901	災害の発生状況
C0902	防災施設の位置及び整備の状況
C1001	観光の状況
C1002	景観・歴史資源等の状況
C1003	レクリエーション施設の状況
C1004	公害の発生状況

function	Common_ageAndSex.xml
コード	説明
0101	総数、年齢「不詳」を含む
0102	総数 0-4 歳
0103	総数 5-9 歳
0104	総数 10-14 歳
0105	総数 15-19 歳
0106	総数 20-24 歳
0107	総数 25-29 歳
0108	総数 30-34 歳
0109	総数 35-39 歳
0110	総数 40-44 歳
0111	総数 45-49 歳
0112	総数 50-54 歳
0113	総数 55-59 歳
0114	総数 60-64 歳
0115	総数 65-69 歳
0116	総数 70-74 歳
0117	総数 15 歳未満
0118	総数 15～64 歳
0119	総数 65 歳以上
0120	総数 75 歳以上

2101	男性総数、年齢「不詳」を含む
2102	男性 0-4 歳
2103	男性 5-9 歳
2104	男性 10-14 歳
2105	男性 15-19 歳
2106	男性 20-24 歳
2107	男性 25-29 歳
2108	男性 30-34 歳
2109	男性 35-39 歳
2110	男性 40-44 歳
2111	男性 45-49 歳
2112	男性 50-54 歳
2113	男性 55-59 歳
2114	男性 60-64 歳
2115	男性 65-69 歳
2116	男性 70-74 歳
2117	男性 15 歳未満
2118	男性 15～64 歳
2119	男性 65 歳以上
2120	男性 75 歳以上
3101	女性総数、年齢「不詳」を含む
3102	女性 0-4 歳
3103	女性 5-9 歳
3104	女性 10-14 歳
3105	女性 15-19 歳
3106	女性 20-24 歳
3107	女性 25-29 歳
3108	女性 30-34 歳
3109	女性 35-39 歳
3110	女性 40-44 歳
3111	女性 45-49 歳
3112	女性 50-54 歳
3113	女性 55-59 歳
3114	女性 60-64 歳
3115	女性 65-69 歳
3116	女性 70-74 歳
3117	女性 15 歳未満
3118	女性 15～64 歳

3119	女性 65 歳以上
3120	女性 75 歳以上

列挙型名	UrbanAreaClassValue
値	
行政区域	
都市計画区域	
市街化区域	
市街化調整区域	
非線引き用途地域	
非線引き用途白地	
準都市計画区域	
都市計画区域外	
居住誘導区域	
都市機能誘導区域	

列挙型名	PopulationChangeClassValue
値	
自然増減	
出生数	
死亡者数	
社会増減	
転入者数	
転出者数	
その他増減	
人口増減計	

列挙型名	AgeGroupClassValue
値	
総数	
0-4 歳	
5-9 歳	
10-14 歳	
15-19 歳	
20-24 歳	
25-29 歳	
30-34 歳	
35-39 歳	

列挙型名	AgeGroupClassValue
値	
40-44 歳	
45-49 歳	
50-54 歳	
55-59 歳	
60-64 歳	
65-69 歳	
70-74 歳	
15 歳未満	
15～64 歳	
65 歳以上	
75 歳以上	

ファイル名	C0106_class.xml
コード	説明
1	昼間従業者数
2	昼間通学者数
3	昼間に就業も通学もしないもの（15 歳未満）
4	昼間に就業も通学もしないもの（15 歳以上）
5	昼間に就業も通学もしないもの（農業従事者）
6	昼間に就業も通学もしないもの（合計）
7	総数（昼間人口）
8	人口密度（昼間人口）

ファイル名	Common_industoryType.xml
コード	説明
A	A 農業，林業
B	B 漁業
C	C 鉱業，採石業，砂利採取業
D	D 建設業
E	E 製造業
F	F 電気・ガス・熱供給・水道業
G	G 情報通信業
H	H 運輸業，郵便業
I	I 卸売業，小売業
J	J 金融業，保険業
K	K 不動産業，物品賃貸業

ファイル名	Common_industoryType.xml
コード	説明
L	L 学術研究，専門・技術サービス業
M	M 宿泊業，飲食サービス業
N	N 生活関連サービス業，娯楽業
O	O 教育，学習支援業
P	P 医療，福祉
Q	Q 複合サービス事業
R	R サービス業（他に分類されないもの）
S	S 公務（他に分類されるものを除く）
T	T 分類不能の産業

出典：日本標準産業分類

ファイル名	Common_occupationType.xml
コード	説明
A	A 管理的職業従事者
B	B 専門的・技術的職業従事者
C	C 事務従事者
D	D 販売従事者
E	E サービス職業従事者
F	F 保安職業従事者
G	G 農林漁業従事者
H	H 生産工程従事者
I	I 輸送・機械運転従事者
J	J 建設・採掘従事者
K	K 運搬・清掃・包装等従事者
L	L 分類不能の職業

出典：日本標準職業分類

列挙型名	LocationClassValue
値	
常住地	
従業地・通学地	

ファイル名	C0202_class.xml
コード	説明
1	事業所数
2	従業者数

3	小売販売額
4	製造品出荷額

ファイル名	LandUse_usage.xml
コード	説明
1	低未利用地
0	低未利用地以外

ファイル名	LandUseDataQualityAttribute_GeometrySrcDesc.xml
コード	説明
1	現地測量
5	空中写真測量
6	既成図数値化
7	修正測量
8	航空レーザ測量
9	現地調査
10	建築確認申請資料
11	地番図
12	14 条地図

ファイル名	LandUseDataQualityAttribute_srcScale.xml
コード	説明
1	地図情報レベル 2500
2	地図情報レベル 1000
3	地図情報レベル 500
4	地図情報レベル 250

ファイル名	LandUseDataQualityAttribute_thematicSrcDesc.xml
コード	説明
6	写真判読
7	現地調査
8	GIS データ演算
9	建築確認申請資料
10	地番図
11	14 条地図

ファイル名	Common_ownerType.xml
コード	説明
1010	国
1020	都道府県
1030	市区町村
1040	公社等
9000	未調査
9010	調査対象外
9020	不明

ファイル名	Building_class.xml
コード	説明
3001	普通建物
3002	堅ろう建物
3003	普通無壁舎
3004	堅ろう無壁舎
3000	分類しない建物

出典：地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）

ファイル名	Building_usage.xml
コード	説明
401	業務施設
402	商業施設
403	宿泊施設
404	商業系複合施設
411	住宅
412	共同住宅
413	店舗等併用住宅
414	店舗等併用共同住宅
415	作業所併用住宅
421	官公庁施設
422	文教厚生施設
431	運輸倉庫施設
441	工場

451	農林漁業用施設
452	供給処理施設
453	防衛施設
454	その他
461	不明

ファイル名	LargeCustomerFacilityAttribute_class.xml
コード	説明
1	大規模小売店舗（食品スーパー）
2	大規模小売店舗（百貨店・スーパー・ショッピングセンター・寄合百貨店・小売市場）
3	大規模小売店舗（ホームセンター・専門店（家具・家電・書籍等））
4	大規模小売店舗（その他）
5	大規模集客施設（床面積１万㎡超の店舗、映画館、アミューズメント施設、展示場等）

ファイル名	PublicTransitFacility_companyType.xml
コード	説明
01	新幹線
02	JR 在来線
03	公営鉄道
04	民営鉄道
05	第三セクター
11	路線バス（民営）
12	路線バス（公営）
13	コミュニティバス
14	デマンドバス
15	その他

ファイル名	PublicTransitFacility_railwayType.xml
コード	説明
11	普通鉄道 JR
12	普通鉄道
13	鋼索鉄道
14	懸垂式鉄道
15	跨座式鉄道
16	案内軌条式鉄道
17	無軌条鉄道
21	軌道
22	懸垂式モノレール

23	跨子規モノレール
24	案内軌条式
25	浮上式

ファイル名	C0401_use.xml
コード	説明
401	業務施設
402	商業施設
403	宿泊施設
404	商業系複合施設
411	住宅
412	共同住宅
413	店舗等併用住宅
414	店舗等併用共同住宅
415	作業所併用住宅
421	官公庁施設
422	文教厚生施設
431	運輸倉庫施設
441	工場
451	農林漁業用施設
452	供給処理施設
453	防衛施設
454	その他
461	不明
471	空家

ファイル名	C0401_total.xml
コード	説明
1	棟数
2	建築面積
3	延床面積

ファイル名	C0401_floor.xml
コード	説明
501	地下階なし_地上 1 階
502	地下階なし_地上 2 階
503	地下階なし_地上 3 階

504	地下階なし_地上 4-5 階
505	地下階なし_地上 6-7 階
506	地下階なし_地上 8-10 階
507	地下階なし_地上 11-15 階
508	地下階なし_地上 16 階以上
511	地下階あり_地上 1 階
512	地下階あり_地上 2 階
513	地下階あり_地上 3 階
514	地下階あり_地上 4-5 階
515	地下階あり_地上 6-7 階
516	地下階あり_地上 8-10 階
517	地下階あり_地上 11-15 階
518	地下階あり_地上 16 階以上
521	不明

ファイル名	C0401_structure.xml
コード	説明
601	木造・土蔵造
602	鉄骨鉄筋コンクリート造
603	鉄筋コンクリート造
604	鉄骨造
605	軽量鉄骨造
606	レンガ造・コンクリートブロック造・石造
610	非木造
611	不明

ファイル名	C0401_buildingArea.xml
コード	説明
701	50m2 以下
702	75 m2 以下
703	150 m2 以下
704	500 m2 以下
705	1500 m2 以下
706	1500 m2 超
711	不明
721	合計面積
722	平均面積

ファイル名	C0401_floorArea.xml
コード	説明
801	50m2 以下
802	75 m2 以下
803	150 m2 以下
804	500 m2 以下
805	1500 m2 以下
806	3000m2 以下
807	3000 m2 超
811	不明
821	合計面積
822	平均面積

ファイル名	C0401_constructionYear.xml
コード	説明
901	昭和 46 年以前
902	昭和 47～昭和 56 年
903	昭和 57 年～平成元年
904	平成 2 年～平成 11 年
905	平成 12 年～平成 22 年
906	平成 22 年～平成 31 年（令和元年）
907	令和 2 年～
911	不明

ファイル名	C0401_fireproof.xml
コード	説明
1001	耐火
1002	準耐火造
1003	その他
1011	不明

ファイル名	C0401_height.xml
コード	説明
1101	5m 以下
1102	10m 以下
1103	12m 以下
1104	15m 以下
1105	20 m 以下

1106	25 m 以下
1107	30 m 以下
1108	35 m 以下
1109	40 m 以下
1110	45 m 以下
1111	45m 超
1112	不明

ファイル名	C0401_sumTarget.xml
コード	説明
1	棟数
2	建築面積
3	延床面積
4	合計面積
5	平均面積

ファイル名	C0402_type.xml
コード	説明
1	大規模小売店舗（食品スーパー）
2	大規模小売店舗（百貨店・スーパー・ショッピングセンター・寄合百貨店・小売市場）
3	大規模小売店舗（ホームセンター・専門店（家具・家電・書籍等））
4	大規模小売店舗（その他）
5	大規模集客施設（ 店舗以外）

ファイル名	C0403_ownership.xml
コード	説明
04019	住宅に居住する一般世帯数
04020	持ち家世帯数
04021	公営・都市機構・公社の借家
04022	民営の借家
04023	給与住宅
04017	間借り
04018	その他

ファイル名	C0403_structure.xml
コード	説明
04019	主世帯数
04020	一戸建

ファイル名	C0403_structure.xml
コード	説明
04021	長屋建
04022	共同住宅（1～2 階建）
04023	共同住宅（3～5 階建）
04024	共同住宅（6～10 階建）
04025	共同住宅（11 階建以上）
04026	その他

ファイル名	RoadStructureAttribute_widthType.xml
コード	説明
1	15m 以上
2	6m 以上 15m 未満
3	4m 以上 6m 未満
4	4m 未満

列挙型	LegalRestrictionValue
コード	説明
1 低専	第 1 種低層住居専用地域
2 低専	第 2 種低層住居専用地域
1 中専	第 1 種中高層住居専用地域
2 中専	第 2 種中高層住居専用地域
1 住居	第 1 種住居地域
2 住居	第 2 種住居地域
準住居	準住居地域
田園住	田園住居地域
近商	近隣商業地域
商業	商業地域
準工	準工業地域
工業	工業地域
工専	工業専用地域
防火	防火地域
準防	準防火地域
調区	市街化調整区域
都市	市街化区域及び市街化調整区域以外の都市計画区域
都計外	都市計画区域外
準都計	準都市計画区域
地森計	地域森林計画対象区域

列挙型	LegalRestrictionValue
コード	説明
国立公（普通）	国立公園
国立公（2 種）	国立公園第二種特別地域
国立公（3 種）	国立公園第三種特別地域
国定公（2 種）	国定公園第二種特別地域
国定公（3 種）	国定公園第三種特別地域
国定公（普通）	国定公園
1 住専	第一種住居専用地域
2 住専	第二種住居専用地域
住居	住居地域
住専	住居専用地域

都市ごとにコードリストを作成する。

ファイル名	C0801_function.xml
コード	説明
1	山地・丘陵地
2	台地
3	自然堤防
4	旧川微高地
	・・・

ファイル名	C0803_greenSpaceType.xml
コード	説明
1	樹林地
2	草地
3	農地
4	水面

都市ごとにコードリストを作成する。

ファイル名	C0804_function.xml
コード	説明
1	アカマツ植林
	・・・

ファイル名	C0901_function.xml
コード	説明
1	水害（外水（洪水、高潮、津波））
2	水害（内水）
3	土砂災害（土石流、がけ崩れ等）

ファイル名	C0902_function.xml
コード	説明
1	一時避難地
2	広域避難地
3	避難所
4	防災拠点
5	消防水利

ファイル名	C1001_accomodation.xml
コード	説明
1	ホテル
2	旅館
3	公共宿泊施設
4	民宿
5	ペンション
6	宿坊
7	コテージ・貸別荘・山荘
8	ユースホステル
9	カプセルホテル
10	研修センター

ファイル名	C1001_consumption.xml
コード	説明
1	入込客数/ 県内居住/宿泊
2	入込客数/ 県内居住/日帰り
3	入込客数/ 県外居住/宿泊
4	入込客数/ 県外居住/日帰り
5	観光消費額/ 県内居住/宿泊
6	観光消費額/ 県内居住/日帰り
7	観光消費額/ 県外居住/宿泊
8	観光消費額/ 県外居住/日帰り

ファイル名	C1002_function.xml
コード	説明
1	自然系
2	歴史・文化系
3	生活・産業系
4	眺望系

ファイル名	C1003_function.xml
コード	説明
1	野球所湯
2	陸上競技場
3	テニスコート
4	ゴルフ場
5	水泳プール
6	その他スポーツ施設
7	ボート場
8	ヨットハーバー
9	海水浴場、潮干狩り
10	遊園地
11	動物園
12	植物園
13	競輪、競馬場
14	観光有料道路
15	サイクリングコース
16	ハイキング、登山コース
17	自然歩道
18	キャンプ場
19	その他

ファイル名	C1004_function.xml
コード	説明
1	大気汚染
2	水質汚濁
3	騒音
4	振動
5	地盤沈下
6	悪臭
7	土壌汚染

ファイル名	C1004_function.xml
コード	説明
8	その他

4.6.3 都市計画決定情報で使用するコードリスト

ファイル名	Common_districtsAndZonesType.xml
コード	説明
0	用途地域の指定をしない区域
1	第 1 種低層住居専用地域
2	第 2 種低層住居専用地域
3	第 1 種中高層住居専用地域
4	第 2 種中高層住居専用地域
5	第 1 種住居地域
6	第 2 種住居地域
7	準住居地域
8	田園住居地域
9	近隣商業地域
10	商業地域
11	準工業地域
12	工業地域
13	工業専用地域
14	特別用途地区
15	特定用途制限地域
16	特例容積率適用地区
17	高層住居誘導地区
18	高度地区
19	高度利用地区
20	特定街区
21	都市再生特別地区
22	居住調整地域
23	特定用途誘導地区
24	防火地域
25	準防火地域
26	特定防災街区整備地区
27	景観地区
28	風致地区
29	駐車場整備地区
30	臨港地区

ファイル名	Common_districtsAndZonesType.xml
コード	説明
31	歴史的風土特別保存地区
32	第 1 種歴史的風土保存地区
33	第 2 種歴史的風土保存地区
34	緑地保全地域
35	特別緑地保存地区
36	緑化地域
37	流通業務地区
38	生産緑地地区
39	伝統的建造物群保存地区
40	航空機騒音障害防止地区
41	航空機騒音障害防止特別地区
42	居住環境向上用途誘導地区

ファイル名	Common_landUseType.xml
コード	説明
201	田（水田）
202	畑（畑、樹園地、採草地、養鶏（牛・豚）場）
203	山林（樹林地）
204	水面（河川水面、湖沼、ため池、用水路、濠、運河水面）
205	その他自然地（原野・牧野、荒れ地、低湿地、河川敷・河原、海浜、湖岸）
211	住宅用地（住宅、共同住宅、店舗等併用住宅、店舗等併用共同住宅、作業所併用住宅）
212	商業用地
213	工業用地
219	農林漁業施設用地
214	公益施設用地
215	道路用地（道路、駅前広場）
216	交通施設用地
217	公共空地（公園・緑地、広場、運動場、墓園）
218	その他公的施設用地（防衛施設用地）
220	その他の空地①（ゴルフ場）
221	その他空地②（太陽光発電のシステムを直接整備している土地）
222	その他の空地③（平面駐車場）
223	その他の空地④（その他の空地①～③以外の都市的土地利用：建物跡地、資材置場、改変工事中の土地、法面（道路、造成地等の主利用に含まれない法面））
231	不明
251	可住地

ファイル名	Common_landUseType.xml
コード	説明
252	非可住地
260	農地（田、畑の区分がない）
261	宅地（住宅用地、商業用地等の区分が無い）
262	道路・鉄軌道敷（道路と交通施設用地が混在）
263	空地（その他の空地①～④の区分が無い）

ファイル名	Common_urbanPlanType.xml
コード	説明
21	都市計画区域
26	準都市計画区域
27	都市計画区域外

ファイル名	Common_areaClassificationType.xml
コード	説明
22	市街化区域
23	市街化調整区域

ファイル名	Common_areaClassificationStatusType.xml
コード	説明
22	市街化区域
23	市街化調整区域
24	非線引き用途地域
25	非線引き用途白地
31	居住誘導区域
32	都市機能誘導区域

ファイル名	RoadStructureAttribute_widthType.xml
コード	説明
1	15m 以上
2	6m 以上 15m 未満
3	4m 以上 6m 未満
4	4m 未満

ファイル名	Common_validType.xml
コード	説明
1	決定
2	廃止
3	変更

ファイル名	Common_availabilityType.xml
コード	説明
1	有り
2	無し
3	不明

ファイル名	SpecialUseDistrict_usage.xml
コード	説明
1	特別工業地区
2	文教地区
3	小売店舗地区
4	事務所地区
5	厚生地区
6	娯楽レクリエーション地区
7	観光地区
8	特別業務地区
9	中高層階住居専用地区
10	商業専用地区
11	研究開発地区
12	その他

ファイル名	HeightControlDistrict_usage.xml
コード	説明
1	最高限高度地区
2	最低限高度地区

ファイル名	FirePreventionDistrict_usage.xml
コード	説明
1	防火地域（地域）
2	防火地域（路線）

3	準防火地域（地域）
4	準防火地域（路線）

ファイル名	ScenicDistrict_usage.xml
コード	説明
1	第一種風致地区
2	第二種風致地区
3	第三種風致地区
4	第四種風致地区

ファイル名	PortZone_usage.xml
コード	説明
1	商港区
2	特殊物資港区
3	工業港区
4	鉄道連絡港区
5	漁港区
6	バンカー港区
7	保安港区
8	マリーナ港区
9	修景厚生港区

ファイル名	SpecialGreenSpaceConservationDistrict_requirement.xml
コード	説明
1	無秩序な市街地化の防止、公害又は災害の防止等の為必要な遮断地帯、緩衝地帯又は非難地帯として適切な位置、規模及び形態を有するもの
2	神社、寺院等の建造物、遺跡等と一体となって、又は伝承若しくは風俗慣習と結びついて当該地域において伝統的又は文化的意義を有するもの
3	風致又は景観が優れていて、かつ当該地域の住民の健全な生活環境を確保するため必要なもの
4	動植物の生息地又は生育地として適正に保全する必要があり、かつ当該地域の住民の健全な生活環境を確保するため必要なもの
5	雨水の貯留浸透等のグリーンインフラとしての機能を有する緑地

ファイル名	ProjectPromotionArea_function.xml
コード	説明
1	市街地再開発促進区域
2	土地区画整理促進区域
3	住宅街区整備促進区域

4	拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域

ファイル名	UrbanRoadAttribute_routeTypeNumber.xml
コード	説明
1	自動車専用道路
3	幹線街路
7	区画街路
8	特殊街路（歩行者、自転車道）
9	特殊街路（都市モノレール）
10	特殊街路（路面電車）

ファイル名	UrbanRoadAttribute_routeSizeNumber.xml
コード	説明
1	幅員 40m 以上
2	幅員 30m 以上 40m 未満
3	幅員 22m 以上 30m 未満
4	幅員 16m 以上 22m 未満
5	幅員 12m 以上 16m 未満
6	幅員 8m 以上 12m 未満
7	幅員 8m 未満

ファイル名	UrbanRoadAttribute_roadType.xml
コード	説明
1	自動車専用道路
2	幹線街路
3	区画街路
4	特殊街路

ファイル名	Common_trafficFacilityStructureType.xml
コード	説明
1	嵩上式
2	地下式
3	掘割式
4	地表式

ファイル名	Common_trafficFacilityCrossingType.xml
コード	説明

1	立体交差
2	平面交差

ファイル名	VehicleTerminalAttribute_terminalType.xml
コード	説明
1	トラックターミナル
2	バスターミナル

ファイル名	ParkAttribute_parkTypeNumber.xml
コード	説明
2	街区公園
3	近隣公園
4	地区公園
5	総合公園
6	運動公園
7	特殊公園（風致の享受に供する）
8	特殊公園（動物、植物、歴史公園等）
9	広域公園

ファイル名	ParkAttribute_parkSizeNumber.xml
コード	説明
2	面積 1ha 未満
3	面積 1ha 以上 4ha 未満
4	面積 4ha 以上 10ha 未満
5	面積 10ha 以上 50ha 未満
6	面積 50ha 以上 300ha 未満
7	面積 300ha 以上

ファイル名	Waterway_structure.xml
コード	説明
1	単断面式
2	複断面式
3	築堤式単断面
4	堤防式単断面
5	堤防式複断面
6	堀込式単断面
7	堀込式複断面
8	地下トンネル式単断面

9	地下式単断面
10	堀込式
11	暗渠式
12	ブロック単断面
13	ブロック堤防式

ファイル名	SewerSystemAttribute_systemType.xml
コード	説明
1	公共下水道
2	流域下水道
3	都市下水路

ファイル名	UrbanRedevelopmentProject_usage.xml
コード	説明
1	第一種
2	第二種

ファイル名	Common_urbanDevelopmentProjectType.xml
コード	説明
1	土地区画整理事業
2	新住宅市街地開発事業
3	工業団地造成事業
4	市街地再開発事業
5	新都市基盤整備事業
6	住宅街区整備事業

ファイル名	Common_scheduledAreaType.xml
コード	説明
1	新住宅市街地開発事業の予定区域
2	工業団地造成事業の予定区域
3	新都市基盤整備事業の予定区域
4	区域の面積が二十ヘクタール以上の一団地の住宅施設の予定区域
5	一団地の官公庁施設の予定区域
6	流通業務団地の予定区域

ファイル名	Common_districtPlanType.xml
コード	説明
1	地区計画

2	再開発等促進区を定める地区計画
3	開発整備促進区を定める地区計画
4	地区計画（誘導容積型）
5	地区計画（容積適正配分型）
6	地区計画（高度利用型）
7	地区計画（用途別容積型）
8	地区計画（街並み誘導型）
9	地区計画（立体道路制度）
10	防災街区整備地区計画
11	歴史的風致維持向上地区計画
12	沿道地区計画
13	沿道再開発等促進区を定める沿道地区計画
14	集落地区計画

ファイル名	Common_districtDevelopmentPlanType.xml
コード	説明
1	地区整備計画
2	特定建築物地区整備計画
3	防災街区整備地区整備計画
4	沿道地区整備計画
5	集落地区整備計画
6	歴史的風致維持向上地区整備計画

ファイル名	ZonalDisasterPreventionFacility_facilityType.xml
コード	説明
1	地区防災施設
2	特定地区防災施設

ファイル名	Common_districtFacilityType.xml
コード	説明
1	地区施設
2	沿道地区施設
3	集落地区施設

ファイル名	District_function.xml
コード	説明
1	地区
2	沿道地区

3	集落地区

ファイル名	PromotionArea_function.xml
コード	説明
1	再開発促進区
2	開発整備促進区
3	沿道再開発等促進区

ファイル名	Boundary_function.xml
コード	説明
11	行政界
21	地番界
22	現地杭界
23	見通し界
24	境界未確定
31	道路区域（道路法により定められる）
32	道路区域（現況）
33	河川区域（河川法により定められる）
34	河川区域（現況）
35	水路界
36	鉄道界
37	護岸界、河川界、埋立界
38	都市公園法に定める公園界
41	道路中心線

ファイル名	Common_zonalFeatureType.xml
コード	説明
1001	都市計画区域
1002	準都市計画区域
1100	区域区分
2000	地域地区
2100	用途地域
2200	特別用途地区
2201	特定用途制限地域
2202	特例容積率適用地区
2203	高層住居誘導地区
2204	高度地区
2205	高度利用地区

ファイル名	Common_zonalFeatureType.xml
コード	説明
2206	特定街区
2207	都市再生特別地区
2208	居住調整地域
2209	特定用途誘導地区
2210	防火地域又は準防火地域
2211	特定防災街区整備地区
2212	景観地区
2213	風致地区
2214	駐車場整備地区
2215	臨港地区
2216	歴史的風土特別保存地区
2217	第１種・第２種歴史的風土保存地区
2218	緑地保全地域
2219	特別緑地保存地区
2220	緑化地域
2221	流通業務地区
2222	生産緑地地区
2223	伝統的建造物群保存地区
2224	航空機騒音障害防止地区
2225	航空機騒音障害防止特別地区
2226	居住環境向上用途誘導地区
2300	促進区域
2301	市街地再開発促進区域
2302	土地区画整理促進区域
2303	住宅街区整備促進区域
2304	拠点業務市街地整備土地区画整理促進区域
2400	遊休土地転換利用促進地区
2500	被災市街地復興推進地域
3000	都市施設
3010	交通施設
3011	道路
3012	都市高速鉄道
3013	駐車場
3014	自動車ターミナル
3015	空港
3016	港湾

ファイル名	Common_zonalFeatureType.xml
コード	説明
3017	軌道
3020	公共空地
3021	公園
3022	緑地
3023	広場
3024	墓園
3030	供給施設
3031	水道
3032	電気供給施設
3033	ガス供給施設
3040	処理施設
3041	下水道
3042	汚物処理場
3043	ごみ焼却場
3044	ごみ処理場
3050	水路
3051	河川
3052	運河
3060	教育文化施設
3061	学校
3062	図書館
3063	研究施設
3070	医療施設
3071	病院
3080	社会福祉施設
3081	保育所
3090	市場、と畜場、火葬場
3091	市場
3092	と畜場
3093	火葬場
3100	一団地の住宅施設
3110	一団地の官公庁施設
3120	一団地の都市安全確保拠点施設
3130	流通業務団地
3140	一団地の津波防災拠点市街地形成施設
3150	一団地の復興再生拠点市街地形成施設

ファイル名	Common_zonalFeatureType.xml
コード	説明
3160	一団地の復興拠点市街地形成施設
3170	政令で定める都市施設
3180	電気通信施設
3190	防風施設
3200	防火施設
3210	防水施設
3220	防雪施設
3230	防潮施設
3240	防砂施設
4000	市街地開発事業
4001	土地区画整理事業
4002	新住宅市街地開発事業
4003	工業団地造成事業
4004	市街地再開発事業
4005	新都市基盤整備事業
4006	住宅街区整備事業
4100	市街地開発事業等予定地域
4102	新住宅市街地開発事業の予定区域
4103	工業団地造成事業の予定区域
4105	新都市基盤整備事業の予定区域
4107	一団地の住宅施設の予定区域
4108	一団地の官公庁施設の予定区域
4109	流通業務団地の予定区域
5000	地区計画
5010	防災街区整備地区計画
5020	歴史的風致維持向上地区計画
5030	沿道地区計画
5040	集落地区計画
5100	地区整備計画
5110	特定建築物地区整備計画
5111	防災街区整備地区整備計画
5130	沿道地区整備計画
5140	集落地区整備計画
5120	歴史的風致維持向上地区整備計画
5200	地区
5210	地区施設

ファイル名	Common_zonalFeatureType.xml
コード	説明
5220	地区防災施設
5221	特定地区防災施設

ファイル名	Common_urbanFacilityType.xml
コード	説明
3000	都市施設
3010	交通施設
3011	道路
3012	都市高速鉄道
3013	駐車場
3014	自動車ターミナル
3015	空港
3016	港湾
3017	軌道
3020	公共空地
3021	公園
3022	緑地
3023	広場
3024	墓園
3025	運動場
3030	供給施設
3031	水道
3032	電気供給施設
3033	ガス供給施設
3034	地域冷暖房施設
3035	石油パイプライン
3040	処理施設
3041	下水道
3042	汚物処理場
3043	ごみ焼却場
3044	ごみ処理場
3050	水路
3051	河川
3052	運河
3060	教育文化施設
3061	学校

ファイル名	Common_urbanFacilityType.xml
コード	説明
3062	図書館
3063	研究施設
3064	博物館
3065	美術館
3070	医療施設
3071	病院
3072	診療所
3073	保健所
3074	助産所
3080	社会福祉施設
3081	保育所
3082	乳児院
3083	母子寮
3084	養護老人ホーム
3090	市場、と畜場、火葬場
3091	市場
3092	と畜場
3093	火葬場
3100	一団地の住宅施設
3110	一団地の官公庁施設
3120	一団地の都市安全確保拠点施設
3130	流通業務団地
3140	一団地の津波防災拠点市街地形成施設
3150	一団地の復興再生拠点市街地形成施設
3160	一団地の復興拠点市街地形成施設
3170	政令で定める都市施設
3180	電気通信施設
3190	防風施設
3200	防火施設
3201	防火水槽
3210	防水施設
3211	河岸堤防
3220	防雪施設
3230	防潮施設
3231	防潮堤
3240	防砂施設

ファイル名	Common_urbanFacilityType.xml
コード	説明
3241	地滑り防止施設

5　参照系

5.1 空間参照系

データ製品には、以下の空間参照系を適用する。

空間参照系の名称
日本測地系 2011 における平面直角座標系

なお、等高線等に付与する属性は、東京湾平均海面を基準とする標高に基づく高さとする。

5.2 時間参照系

データ製品に適用する時間参照系は、「グレゴリオ暦及び日本標準時」とする。

6　データ品質

データ製品が保証すべき品質の基準（品質要求）及び品質評価の手法（品質評価手順）を示す。

6.1 標準製品仕様の品質要求

都市計画データは、国土交通省省公共測量作業規程に準ずる位置精度を有し、概ね 1/2,500 精度を満足するものとする。

なお、CityGML では、時間オブジェクトを定義する時間スキーマ（ISO19108）を使用していないことから、標準製品仕様書でも時間スキーマは使用していない。そのため、時間正確度は本標準仕様書では対象外とする。

ただし、年や日付の値が設定された地物属性は主題正確度による品質要求を行い、参照データとの比較による品質評価手法を示す。

6.2 品質評価手順に関する共通事項

標準製品仕様では、品質評価手法を以下の 5 種類に大別する。

- 全数・自動検査
- 全数・目視検査
- 抜取・目視検査
- 抜き取り検査（目視検査か自動検査かを規定しない）
- 特定のアルゴリズムで算出された値による検査

このうち、抜取検査を実施する場合、標準製品仕様書では、抜取方法と合否判定を「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）」[1]を参考に、以下の通り設定する。

検査ロット	整備対象となる全域
検査量	総面積の 2%
検査単位の抽出方法	整備地区を 2500 国土基本図図郭単位で分割し、さらにこれを東西 500m、南北 500m の距離方眼（0.25ｋ㎡）で区切り、検査単位とする。検査量 2%のうち、半分の 1%は監督員の任意抽出、1%は無作為抽出で複数の検査単位を抽出することにより、全体の検査量を確保する。 検査単位の抽出方法は、地区の左上隅より順次一連番号を付し、監督員が危険度の高い地域から任意に 1%になるまで検査単位を抽出し、別に乱数表により無作為に 1%を抽出する。 無作為抽出の結果、監督員が既に抽出した検査単位や、市町村境界の外側、海などの白部が一部含まれる地区が抽出されたときは、その次の番号を採用する。また、整備地域が狭いために、白部が含まれない検査単位を抽出することが困難な場合は、出来る限り白部の比率が小さい検査単位を選択する。 最小検査単位数は 4 とする。すなわち、総面積が 50ｋ㎡未満の場合にも 4 検査単位で実施する。 なお、同一の測量成果では、異なる品質評価項目に対しても原則として同一の検査単位を使用する。

アイテム（品質評価の対象）の定義	個別に規定する。
抜取率（母集団からサンプルを抽出する割合）	検査単位内の全数を対象とする。 各検査単位を 10×10 サブメッシュ（品質評価手順によっては 2×2）に分割し、サブメッシュ毎に全数を点検する。
検査方法	個別に規定する。
合否判定	次式により検査単位ごとに誤率を求める。 誤率（%）＝　エラーが一つでも含まれるサブメッシュ数／検査単位ごとの全サブメッシュ数×100 検査単位ごとの全サブメッシュ数は 100 に等しく、検査単位の一部に白部が含まれる場合にも 100 として誤率を計算する。 一つ以上の検査単位で誤率が適合品質水準を超えたら「不合格」とする。不合格となった場合、全般について再点検を行う。再点検が終了したら、3%の面積に相当する検査単位の抽出を行うものとし、その結果不適合が認められた場合には、さらに 4%の追加実施を行うか、再作業を行う。

6.3 品質要求及び品質評価手順

データ製品に対する品質要求及び品質評価手順を示す。

6.3.1　都市計画基本図データに対する品質要求及び品質評価手順

都市計画基本図データの品質要求及び評価手順は、「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）」[1]に準じる。

(1)　完全性

完全性とは、データ集合内の過剰なデータの存在（過剰）とデータ集合内のデータの欠落（漏れ）である。

No	C01
品質要求	データ製品内に、gml:id が同一となるインスタンスがない。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	データ製品内の全ての gml:id をもつインスタンス。
品質評価尺度	インスタンスに与えられた gml:id と同じ gml:id をもつ他のインスタンスがデータ製品内に存在しない。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．データ製品に含まれる全てのインスタンスについて、gml:id の値が同じインスタンスの数をエラーとして数える。

No	C02
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。

品質要素	完全性・過剰・漏れ
品質適用範囲	分類コードが 7301～7311 となるインスタンス（基準点）
品質評価尺度	データセットのインスタンス数と参照データのインスタンス数の差。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 １．参照データに含まれるデータ数を分類コード毎に数える。 ２．データセットのインスタンス数を分類コード毎に数える。 ３．１．と２．の結果より，分類コード毎に差を計算し，その絶対値の和をエラー数とする

No	C03
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	境界等、道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建築物のインスタンス。
品質評価尺度	参照データに存在しないのにデータセットに存在する箇所，参照データに存在するのにデータセットに存在しない箇所をエラーとする。エラーが１つ以上存在するサブメッシュをエラーサブメッシュとする。 （例外）接続編集，接合編集時に追加した図形は過剰としない。 誤率（%）＝エラーサブメッシュ数／100×100
適合品質水準	全ての検査単位の誤率が 5%以下なら合格，5%を超える検査単位が１つでもあれば不合格
品質評価手法	抜取・目視検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 10×10 のサブメッシュに分割する。 ３．検査単位の範囲について，データセットより対象クラスの全インスタンスを出力する。 ４．検査単位毎に全サブメッシュについて，参照データ（空中写真，現地調査資料，既成図原図等の元資料）と３．とを目視で比較して，どちらかと対応がとれない地物インスタンスがあった場合，そのサブメッシュをエラーとして，エラーサブメッシュ数を数える。 ５．４．の結果より，検査単位毎に誤率を算出する。

No	C04
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。
品質要素	完全性・過剰
品質適用範囲	C02 及び C03 で対象としない全ての地物のインスタンス。
品質評価尺度	参照データに存在しないのにデータセットに存在する箇所，参照データに存在するのにデータセットに存在しない箇所をエラーとする。エラーが１つ以上存在するサブメッシュをエラーサブメッシュとする。 （例外）接続編集，接合編集時に追加した図形は過剰としない。 誤率（%）＝エラーサブメッシュ数／100×100
適合品質水準	全ての検査単位の誤率が 10%以下なら合格，10%を超える検査単位が１つでもあれば不合格
品質評価手法	抜取・目視検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 10×10 のサブメッシュに分割する。 ３．検査単位の範囲について，データセットより対象クラスの全インスタンスを出力する。 ４．検査単位毎に全サブメッシュについて，参照データ（空中写真，現地調査資料，既成図原図等の元資料）と３．とを目視で比較して，どちらかと対応がとれない地物インスタンスがあった場合，そのサブメッシュをエラーとして，エラーサブメッシュ数を数える。 ５．４．の結果より，検査単位毎に誤率を算出する。

(2) 論理一貫性

論理一貫性とは、データの構造、属性及び関係に関する論理的規則の遵守の度合いであり、以下の 4 つから構成される。

- 概念一貫性：応用スキーマに一致しているか否か
- 定義域一貫性：定義域に含まれているか否か
- 書式一貫性：XML のフォーマットに従っているか否か
- 位相一貫性：応用スキーマに定義した位相的な特性が正しいか否か

No	L01
品質要素	論理一貫性・書式一貫性
品質適用範囲	データ製品に含まれる全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。
品質評価尺度	整形式（Well-Formed XML)になっていない箇所数。
適合品質水準	エラーの箇所数が 0 の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラム（XML パーサなど）によって、都市モデルの書式が、XML 文書の構文として正しくない箇所を数える。

No	L02
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	データ製品に含まれる全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。
品質評価尺度	妥当（Valid）な XML 文書になっていない箇所数。
適合品質水準	エラーの箇所数が 0 の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラム（XML パーサなど）によって、都市モデルに含まれる地物型の構造が、7.1 に符号化仕様として示す i-UR 及び CityGML の XMLSchema が規定する構造と合致しない箇所を数える。

No	L03
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	データ製品に含まれる全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。
品質評価尺度	応用スキーマに定義していない地物型の出現箇所数。
適合品質水準	エラーの箇所が 0 個の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラムによって、各都市の拡張製品仕様書の 4 章に示す応用スキーマ（応用スキーマクラス図及び応用スキーマ文書）に定義されている地物以外の地物インスタンスが、都市モデルの子要素として出現する箇所を数える。 なお、応用スキーマは以下より取得する。 ・http://schemas.opengis.net/citygml/ ・https://www.geospatial.jp/iur/schemas/

No	L04
品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
品質適用範囲	gml:CodeType を型としてもつ地物属性のうち、コードリストを参照している地物属性。
品質評価尺度	指定されたコードリストに定義されていない値となっている箇所数。
適合品質水準	エラーの箇所数が 0 の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。

品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1. gml:CodeType に含まれるコードリストへの相対パスを取得する。 2. 相対パスで指定されたコードリストに定義された全てのコード値（gml:name により記述）を取得する。 3. 検査プログラムにより、地物属性の値と取得したすべてのコード値との比較を行い、地物属性の値が、コード値と合致しない箇所を数える。 補足：コードリストへの相対パスは、gml:CodeType の属性である codeSpace の値として記述されている。

No	L05
品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
品質適用範囲	全ての都市モデル（core:CityModel）のインスタンス。
品質評価尺度	都市モデルに指定された空間参照系の識別子が、製品仕様書で指定された識別子ではない。
適合品質水準	エラーの箇所数が 0 の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1. 都市モデルに含まれる gml:Envelope に記述された空間参照系の URI が、製品仕様書に示された URI に合致しない箇所を数える。 補足：空間参照系の URI は、gml:Envelope の属性である srsName の値として記述されている。

No	L06
品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
品質適用範囲	全ての幾何オブジェクトのインスタンス。
品質評価尺度	幾何オブジェクトインスタンスの座標値に含まれる、緯度、経度、標高が、この幾何オブジェクトインスタンスを含む都市モデル（core:CityModel）の空間範囲に含まれる。
適合品質水準	エラーとなる幾何オブジェクトが 0 個の場合に合格。エラーとなる幾何オブジェクトが 1 個以上の場合は不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1. 都市モデルに含まれる gml:Envelope の属性 boundedBy に記述された、緯度、経度及び標高の下限値及び上限値を超える座標値を有する幾何オブジェクトをエラーとする。

No	L07
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全ての gml:LineString 及び gml:LinearRing のインスタンス
品質評価尺度	同一座標又は頂点間での距離が近接閾値（0.01m）未満の頂点が連続する、又は gml:LineString 及び gml:LinearRing のインスタンスを構成する点が 2 点未満のインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

No	L08
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全ての gml:LineString のインスタンス
品質評価尺度	単一インスタンスに始終点以外の「自己交差」又は「自己接触」が存在する場合にエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1. 検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

No	L09
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全ての gml:LinearRing のインスタンス

品質評価尺度	全ての gml: LineaRing のインスタンスの始終点の座標が一致していない、「自己交差」、「自己接触」、又は、始終点以外に重複する座標値が存在するインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

No	L10
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全ての gml:Polygon 及び gml:_SurfacePatch の下位クラスのインスタンス。
品質評価尺度	座標列の向きが不正なインスタンスをエラーとする。外周は反時計回り、内周は時計回りが正しい。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

No	L11
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	内周が存在する gml:Polygon のインスタンス。
品質評価尺度	gml:Polygon を構成する点が 3 点未満のインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

No	L12
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	内周が存在する gml:LineString のインスタンス。
品質評価尺度	gml::LineString を構成する点が 2 点未満のインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

No	L13
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	全ての gml:Polygon のインスタンス。
品質評価尺度	gml:Polygon に内周が存在する場合に、以下に示す条件に 1 つ以上に合致する場合にエラーとする。 1．内周が外周と交差している。 2．内周と外周が接することにより、gml:Polygon が 2 つ以上に分割されている。 3．内周同士が重なったり、包含関係にあったりする。
適合品質水準	エラーの数が 0 個の場合に合格。1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 1．検査プログラムによって、対象となる幾何オブジェクトインスタンスごとに、エラーの数を数える。

(3) 位置正確度

位置正確度とは、空間参照系内の地物の位置の正確さのことである。標準製品仕様書では、位置正確度として、報告された座標値と採択された値又は真とみなす値との近さを示す絶対正確度（外部正確度とも呼ぶ）を採用する。

No	P01
品質要求	測量成果と等しい座標をもつ
品質要素	位置正確度・絶対位置正確度
品質適用範囲	分類コードが 7301～7311 となるインスタンス（基準点）
品質評価尺度	座標成果と平面座標が異なるインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 １．データセット内のデータの平面座標と，座標成果の平面座標を比較して，値が異なるインスタンスをエラーとする。

No	P02
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	空中写真測量又は現地実測により取得した、データ集合内の全ての地物型のインスタンス。（分類コード 7301～7311 を除く）
品質評価尺度	データ集合内の水平位置の座標と、より正確度の高い参照データである点検測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は 0 とする。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、水平位置の標準偏差が、水平距離 1.75m 以内であれば、”合格”、1.75m を超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 ３．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ４．250m サブメッシュごとに明瞭な地物から 21 辺以上（2 点以上／辺）を抽出する。 ５．抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ６．抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の点検測量成果を取得する。 ７．５．及び６．より、誤差の標準偏差を計算する。

No	P03
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	分類コードが 7312 となるインスタンス
品質評価尺度	データ集合内の標高と、より正確度の高い参照データである水準測量成果の標高との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は 0 とする。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、図化機測定標高点の標高の標準偏差が、0.66m 以内であれば、”合格”、0.66m を超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 ３．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ４．250m サブメッシュごとにサブメッシュに含まれる全ての図化機測定による標高点を抽出する。 ５．抽出した点について，データセット上のインスタンスの標高値主題属性の値を取得する。 ６．抽出した点に対応する現地の水準測量成果（又は現地とみなす資料）の標高値を取得する。 ７．５．６．より，250m サブメッシュ毎に誤差の標準偏差を計算する。

No	P04
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	分類コードが 7101～7108 となるインスタンス（等高線）
品質評価尺度	データ集合内の標高と、より正確度の高い参照データである水準測量成果の標高との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は 0 とする。

適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、等高線の標高の標準偏差が、1.00m 以内であれば、”合格”、1.00m を超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 ３．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ４．250m サブメッシュごとに他の地物との関係から位置が明確な点を 10 点以上抽出する。 ５．抽出した点について，データセット上のインスタンスの標高値主題属性の値を取得する。 ６．抽出した点に対応する現地の水準測量成果（又は現地とみなす資料）の標高値を取得する。 ７．５．６．より，250m サブメッシュ毎に誤差の標準偏差を計算する。

(4) 主題正確度

主題正確度は、定量的属性の正確度、非定量的属性、地物分類及び地物間関係の正しさである。

なお、定量的属性とは、長さや大きさなど、値が大小関係のある数値となる属性である。また、非定量的属性とは文字列やコードのような値の大小関係がない属性である。

No	T01
品質要素	主題正確度・分類の正しさ
品質適用範囲	分類コードが 7301～7311 となるインスタンス（基準点）
品質評価尺度	インスタンスに設定された主題属性のうち，uro::dmCode、uro::geometryType，uro::visibility が正しく設定されていないインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格，1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・目視検査を実施する。 １．対象クラスのインスタンスの uro::dmCode、uro::geometryType，uro::visibility が識別できるように検査単位の範囲に含まれるインスタンスを出力する。 ２．１．を参照データ（行政区域の元資料，座標成果等）に含まれるデータと比較して，正しいことを確認する。 ３．確認の結果，正しくないインスタンスをエラーとする。

No	T02
品質要素	主題正確度・分類の正しさ
品質適用範囲	境界等、道路、道路施設、鉄道、鉄道施設、建築物
品質評価尺度	インスタンスに設定された主題属性のうち，uro::dmCode、uro::geometryType，uro::visibility が正しく設定されていないインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	全ての検査単位の誤率が 5%以下なら合格，5%を超える検査単位が１つでもあれば不合格
品質評価手法	抜取・目視検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位を 10×10 のサブメッシュに分割する。 ３．uro::dmCode、uro::geometryType，uro::visibility が識別できるように検査単位の範囲に含まれるインスタンスを出力する。 ４．検査単位毎に全サブメッシュについて，参照データ（空中写真，現地調査資料，既成図原図等の元資料）と３．とを目視で比較して，サブメッシュに含まれる全てのインスタンスの DM 分類コード，DM 図形区分，可視フラグの値が妥当であるかどうかを確認する。 ５．確認の結果，妥当でないエラーインスタンスが一つでも存在するサブメッシュをエラーサブメッシュとして数を数える。 ６．５．の結果より，検査単位毎に誤率を算出する。

No	T03

品質要素	主題正確度・分類の正しさ
品質適用範囲	T01 及び T02 に示された以外の全ての地物のインスタンス
品質評価尺度	インスタンスに設定された主題属性のうち，uro::dmCode、uro::geometryType，uro::visibility が正しく設定されていないインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	全ての検査単位の誤率が 5%以下なら合格，5%を超える検査単位が１つでもあれば不合格
品質評価手法	抜取・目視検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位を 10×10 のサブメッシュに分割する。 ３．uro::dmCode、uro::geometryType，uro::visibility が識別できるように検査単位の範囲に含まれるインスタンスを出力する。 ４．検査単位毎に全サブメッシュについて，参照データ（空中写真，現地調査資料，既成図原図等の元資料）と３．とを目視で比較して，サブメッシュに含まれる全てのインスタンスの DM 分類コード，DM 図形区分，可視フラグの値が妥当であるかどうかを確認する。 ５．確認の結果，妥当でないエラーインスタンスが一つでも存在するサブメッシュをエラーサブメッシュとして数を数える。 ６．５．の結果より，検査単位毎に誤率を算出する。

6.3.2 都市計画基礎調査データに対する品質要求及び品質評価手順

(1) 完全性

C01 に加え、以下を対象とする。

No	C05
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。
品質要素	完全性・過剰・漏れ
品質適用範囲	全てのインスタンス
品質評価尺度	データセットのインスタンス数と参照データのインスタンス数の差。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 １．参照データに含まれるデータ数をクラス毎に数える。 ２．データセットのインスタンス数をクラス毎に数える。 ３．１．と２．の結果より，クラス毎に差を計算し，その絶対値の和をエラー数とする

(2) 論理一貫性

L01～L13 と同様する。

(3) 位置正確度

No	P05
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	建物利用現況（bldg::Building）のインスタンス。
品質評価尺度	データ集合内の水平位置の座標と、より正確度の高い参照データである点検測量成果の座標との誤差の標準偏差を計算する。また、誤差の母平均は 0 とする。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、水平位置の標準偏差が、水平距離 1.75m 以内であれば、”合格”、1.75m を超えれば不合格。

品質評価手法	抜取検査を実施する。 1．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 2．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 3．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 4．250m サブメッシュごとに明瞭な地物から 21 辺以上（2 点以上／辺）を抽出する。 5．抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 6．抽出した地物の点に対応する現地（又は現地とみなす資料）の点検測量成果を取得する。 7．5．及び 6．より、誤差の標準偏差を計算する。

No	P05
品質要素	位置正確度・相対正確度
品質適用範囲	土地利用現況（luse::LandUse）のインスタンス。
品質評価尺度	標準偏差 1.75m の地形図に表された基準の地物（道路縁、区域界、植生界、耕地界）との相対距離。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、標準偏差が 0m であれば“合格、0m を超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 1．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 2．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 3．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 4．250m サブメッシュごとに明瞭な地物から 21 辺以上（2 点以上／辺）を抽出する。 5．抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 6．抽出した地物の点に対応する地形図上の座標値を取得する。 7．5．及び 6．より、誤差の標準偏差を計算する。

No	P06
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	都市計画基礎調査データのうち、GIS データからの変換により取得した、データ集合内の全て（ただし、bldg:Bulding と luse:LandUse を除く）の幾何オブジェクトのインスタンス。
品質評価尺度	「データ集合内の座標」と「原典資料の座標」との誤差の標準偏差を計算する。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュ別に、標準偏差が 0m であれば“合格、0m を超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 1．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 2．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 3．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 4．250m サブメッシュごとに他の地物との関係から位置が明確な点を 10 点以上抽出する。 5．抽出した点について、データ集合上のインスタンスの座標値を取得する。 6．原典資料を用いて、5．で抽出した地物の点の座標値を取得する。 7．5．及び 6．より、250m サブメッシュ毎に誤差の標準偏差を計算する。

No	P07
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	都市計画基礎調査データのうち、既成図数値化により取得した、データ集合内の全ての幾何オブジェクトのインスタンス。
品質評価尺度	「データ集合内の水平位置の座標」と「データ取得時に使用した原典資料を用いて図化したデータ集合内の水平位置の座標」との誤差の標準偏差を計算する。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、図上の水平位置の標準偏差が 0.3mm 以内であれば“合格、0.3mm を超えれば不合格。

品質評価手法	既成図の図郭四隅の残存誤差を計測し、図郭四隅の残存誤差が 0.2mm 以内であれば、以降の手順に従い、地物の空間属性の誤差の標準偏差を計測する。 抜取検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 ３．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ４．250m サブメッシュごとに明瞭な地物から 21 辺以上（2 点以上／辺）を抽出する。 ５．抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ６．抽出した地物の点に対応する既成図上の座標を測定する。 ７．５．及び６．より、250m サブメッシュ毎に誤差の標準偏差を計算する。

(4) 主題正確度

No	T04
品質要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
品質適用範囲	非定量的主題属性をもつ全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	インスタンスに設定された地物属性のうち、型が xs:string、gml:CodeType、xs:boolean、xs:date、xs:gYear、gml:MeasureOrNullListType 又は、gml:StringOrRefType となる主題属性について、設定された値が参照データの属性値と一致しないインスタンスをエラーインスタンスとする。
適合品質水準	エラーの箇所が 0 個の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 1．抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 2．検査単位の各メッシュを 10×10 のサブメッシュに分割する。 3．検査単位の範囲について、属性値が識別できるようにインスタンスを表示又は出力する。 4．検査単位ごとに全サブメッシュについて、参照データと 3．とを比較し、サブメッシュに含まれるすべてのインスタンスの値が妥当であるかを確認する。

No	T05
品質要素	主題正確度・定量的主題属性の正しさ
品質適用範囲	定量的主題属性をもつ全ての地物型のインスタンス。
品質評価尺度	インスタンスに設定された地物属性のうち、型が xs:integer、xs:nonNegativeInteger、xs:double、gml:MeasureType、gml:LengthType 又は gml:MeasureOrNullListType となる主題属性について、設定された値が参照データの属性値と一致しないインスタンスをエラーとする。
適合品質水準	エラーの箇所が 0 個の場合に合格。エラーの箇所数が 1 以上の場合は不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 1．抜取検査手法に従い、検査単位を抽出する。 2．検査単位の各メッシュを 10×10 のサブメッシュに分割する。 3．検査単位の範囲について、属性値が識別できるようにインスタンスを表示又は出力する。 4．検査単位ごとに全サブメッシュについて、参照データと 3．とを比較し、サブメッシュに含まれるすべてのインスタンスの値が妥当であるかを確認する。

6.3.3 都市計画決定データに対する品質要求及び品質評価手順

(1) 完全性

C01 に加え、以下を対象とする。

No	C05
品質要求	参照データとインスタンス数が等しい。
品質要素	完全性・過剰・漏れ
品質適用範囲	全てのインスタンス
品質評価尺度	データセットのインスタンス数と参照データのインスタンス数の差。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 １．参照データに含まれるデータ数をクラス毎に数える。 ２．データセットのインスタンス数をクラス毎に数える。 ３．１．と２．の結果より，クラス毎に差を計算し，その絶対値の和をエラー数とする

(2) 論理一貫性

L01～L13 に加え、以下を対象とする。

No	L14
品質要求	法令による包含関係を満たす。
品質要素	論理一貫性・概念一貫性
品質適用範囲	都市計画決定情報のインスタンス
品質評価尺度	応用スキーマに適合しない（親要素と子要素との入れ子関係が成立していないインスタンスの出現箇所数。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 １．検査プログラムによって、応用スキーマ（応用スキーマクラス図及び応用スキーマ文書）に定義されている集成関係をもつ地物インスタンスについて、全体となる地物インスタンスと部品となる地物インスタンスとの関係が正しくない場合にエラーとする。対象となる地物型及びエラーとして数える対象は以下の通り： ・地区計画と地区整備計画 　地区整備計画が地区計画のインスタンスの内部に記述されていない場合にエラーとする。 ・地区計画と促進区 　促進区が地区計画のインスタンスの内部に記述されていない場合にエラーとする。 ・地区整備計画と地区 　地区が地区整備計画のインスタンスの内部に記述されていない場合にエラーとする。 ・地区整備計画と地区施設 　地区施設が地区整備計画のインスタンスの内部に記述されていない場合にエラーとする。 ・都市施設と立体的な範囲 　立体的な範囲が都市施設のインスタンスの内部に記述されていない場合にエラーとする。

No	L15
品質要求	区域と境界との関係
品質要素	論理一貫性・位相一貫性
品質適用範囲	都市計画決定情報のインスタンス
品質評価尺度	応用スキーマに適合しないインスタンスの出現箇所数。
適合品質水準	エラー数が 0 なら合格、1 以上なら不合格。
品質評価手法	全数・自動検査を実施する。 １．検査プログラムによって、区域（urf::_Zone を継承する地物）のインスタンスと、urf::boundary 関連によって保持する境界（urf::Boundary）のインスタンスを抽出する。 2．区域の幾何オブジェクト（gml:MultiSurface）に含まれる gml::LinearRing と、境界の幾何オブジェクト（gml::MultiCurve）に含まれる gml:LineString の座標値が一致しない場合にエラーとする。

(3) 位置正確度

No	P08
品質要素	位置正確度・絶対正確度
品質適用範囲	全ての都市計画決定情報のインスタンス。
品質評価尺度	標準偏差 1.75m の地形図に表された基準の地物（行政界、道路縁）との相対距離。
適合品質水準	全ての 250m サブメッシュについて、標準偏差が 0m であれば“合格、0m を超えれば不合格。
品質評価手法	抜取検査を実施する。 １．抜取検査手法に従い検査単位を抽出する。 ２．検査単位の各メッシュを 2×2 の 250m サブメッシュに分割する。 ３．検査単位に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ４．250m サブメッシュごとに明瞭な地物から 21 辺以上（2 点以上／辺）を抽出する。 ５．抽出した地物の点について、データ集合上の位置座標を測定する。 ６．抽出した地物の点に対応する地形図上の座標値を取得する。 ７．５．及び６．より、誤差の標準偏差を計算する。 なお、道路中心線を境界としている場合は、6．において道路縁より道路中心線を作成し、道路中心線との相対距離を計測すること。

(4) 主題正確度

T04 及び T05 と同様する。

7　データ製品配布

データ製品配布とは、配布書式情報と配布媒体情報から構成される。配布書式情報は、どのようなデータフォーマットで都市計画データが記録されているかを示す情報である。配布媒体情報は、どのような媒体に記録されているかを示す情報である。

7.1 配布書式情報

7.1.1　書式名称

都市計画データの書式（データフォーマット）には、GML（i-UR 2.0 及び CityGML 2.0）及び CSV を採用する。

幾何オブジェクトを含むデータの書式には、GML を採用し、幾何オブジェクトを含まないデータの書式には CSV を採用する。

なお、CSV を適用する対象は、都市計画基礎調査の調書及び集計表に対応するデータ型である。

7.1.2　GML による符号化仕様

(1)　符号化要件

【符号化の対象とする応用スキーマとスキーマ言語】

符号化の対象とする応用スキーマは、標準製品仕様書の第 4 章において、UML クラス図（ISO/IEC 19505-2:2012, Information technology — Object Management Group Unified Modeling Language (OMG UML) — Part 2:Superstructure）を用いて示す。

【使用する文字レパートリ】

使用する文字レパートリ（符号化の対象となる識別された文字の集合）は i-UR 2.0 及び CityGML 2.0 が採用している UTF-8 とし、W3C XML Schema 及びそれに従って作成されるインスタンス文書のヘッダに以下の文を記述する。

<?xml version=”1.0” encoding=”UTF-8” ?>

【データ集合とオブジェクトの識別】

データ集合とオブジェクトの識別は CityGML2.0 に従う。

すなわち、基本となるオブジェクト単位は、CityGML2.0 又は i-UR2.0 に定義された core::_CityObject を継承する地物型及び GML に定義された幾何オブジェクトとする。また、データ集合は、core::CityModel とする。

さらに、データ集合とオブジェクトの識別には、gml::id を用いる。

(2)　入力データ構造

入力データ構造は、応用スキーマクラス図と実装される個々のインスタンスとの関係を示すものである。入力データ構造は、CityGML が参照する GML[4]において定義される Annex F GML-to-UML Application Schema Encoding Rules に従う。

(3)　出力データ構造

出力データ構造には、i-UR2.0 及び CityGML2.0 を使用する。拡張子は、「.gml」とする。

(4)　変換規則

1) スキーマ変換規則

スキーマ変換規則は、i-UR 2.0 及び CityGML 2.0 に従う。

なお、標準製品仕様書は、応用スキーマクラス図及びこれに対応する XMLSchema を新規に作成するのではなく、i-UR 2.0 及び CityGML 2.0 から必要な部分のみを選択し、使用している。

応用スキーマクラス図に示す、クラス名、属性名及び関連役割名は、i-UR 2.0 及び CityGML 2.0 において定義されたタグに一致させている。

また、複数の名前空間から選択しているため、全てのクラス名に、i-UR 2.0 又は CityGML 2.0 名前空間の接頭辞を付ける。

2) インスタンス変換規則

GML に準拠する。

- オブジェクト識別子（gml::id）

  データ製品に含まれるすべての地物及び幾何オブジェクトには、*gml::id* による識別可能な値を与えることとする。地物の *gml::id* の値には[接頭辞]_[UUID]を使用する。

  [接頭辞]は、半角英字 4 文字以内の任意の文字列とする。

  [UUID]は、Universally Unique Identifier（UUID）[3]とする。UUID とは、ソフトウェア上でオブジェクトを一意に識別するための識別子であり、128 ビット（16 バイト）の値で表す。先頭から 4 ビットごとに 16 進数の値（0～F）に変換し、8 桁-4 桁-4 桁-4 桁-12 桁に区切って表現する。

- 集成の実装

  応用スキーマに示された地物間の集成は、部品となるオブジェクトを、全体となるオブジェクトの子要素として記述する。この時、部品となるオブジェクトの識別子（*gml::id*）を、全体となるオブジェクト以外のオブジェクトが参照してもよい。

- 空間参照系の識別

  幾何オブジェクトに適用される空間参照系は、都市モデル（*core::CityModel*）に挿入される *Envelop*要素の属性 *snsName* において、以下の EPSG コードを挿入することにより識別する。

オブジェクトに適用される空間参照系	srsName に挿入する値
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅰ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6669
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅱ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6670
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅲ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6671
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅳ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6672
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅴ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6673
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅵ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6674
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅶ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6675
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅷ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6676
日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅸ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6677

日本測地系 2011 における平面直角座標系第Ⅹ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6678
日本測地系 2011 における平面直角座標系第XI系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6679
日本測地系 2011 における平面直角座標系第XII系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6680
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩIII系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6681
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩIV系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6682
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩⅤ系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6683
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩVI系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6684
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩVII系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6685
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩVIII系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6686
日本測地系 2011 における平面直角座標系第ⅩIX系	http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6687

- schemaLocation の指定
  i-UR の符号化仕様は、都市計画データ内の schemas フォルダ（0）に格納した XMLSchema ファイルへの相対パスにより schemaLocation を指定する。

- 仮想的な「高さ」の座標値の挿入別
  高さ方向の座標値として 0.0 を入れる。

7.1.3 CSV による符号化仕様

(1) 符号化要件

【符号化の対象とする応用スキーマとスキーマ言語】

符号化の対象とする応用スキーマは、標準製品仕様書の第 4 章において、UML クラス図（ISO/IEC 19505-2:2012, Information technology — Object Management Group Unified Modeling Language (OMG UML) — Part 2:Superstructure）を用いて示す。

データ型（ステレオタイプが<<DataType>>）のみを対象とする。

【使用する文字レパートリ】

使用する文字レパートリは i-UR 2.0 及び CityGML 2.0 が採用している UTF-8 とする。

【データ集合とオブジェクトの識別】

データ集合は、*urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable* とする。

オブジェクトは、*urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecourd* を継承する型とする。

urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecourd を継承する型は、データ型でありオブジェクトの識別子を持たない。ただし、各々に定義された属性値又はこの組合せにより識別可能となる。

(2) 入力データ構造

入力データ構造は、応用スキーマクラス図と実装される個々のインスタンスとの関係を示すものである。

- 都市計画基礎調査テーブルクラス（*urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable*）のインスタンスは、都市計画基礎調査の各データ項目で定義される、1 つの調書及び集計表となる。
- 都市計画基礎調査テーブルクラスのインスタンスが 1 つのファイルとなり、この中に含まれる都市計画基礎調査レコードクラス（*urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord*）のインスタンスは、個々のレコードとなる。
- 1 つの都市計画基礎調査テーブルクラスのインスタンスに含まれる都市計画基礎調査レコードクラスのインスタンスは、同じクラスのインスタンスでなければならない。

(3) 出力データ構造

出力データ構造には、CSV を使用する。拡張子は、「.csv」とする。

CSV の基本構造を以下に示す。

文字コード	UTF-8（BOM 付）
改行コード	CRLF
区切り文字	カンマ（,）
ヘッダ行の有無	あり
ヘッダ行の行数	3
ヘッダ行の内容	1 行目：都道府県コード、市区町村コード、データ項目、表名称、基準日 2 行目：項目名（日本語） 3 行目：応用スキーマクラス図の属性名（CityGML のタグ名）
文字列でのダブルクォートの有無	あり
null 値の指定方法	,,（区切り文字の連続）
1 項目内で、複数の値を列挙する場合に使用する区切り文字	;（セミコロン）
禁則文字	区切り文字として使用する;（セミコロン）は使用してはならない。

(4) 変換規則

- 都市計画基礎調査テーブルクラスのマッピングルール
  - ✧ 属性値を、CSV ファイルの 1 行目に記述する。（属性名は符号化しない）
  - ✧ 全ての属性値を、区切り文字で区切り、列挙する。
- 都市計画基礎調査レコードクラスの下位クラスのマッピングルール
  - ✧ 属性の属性名の日本語表記を 2 行目に、応用スキーマクラス図の属性名（接頭辞は除く）を 3 行目に記述する。
    - 日本語表記は、Annex A に示すテンプレートに従う。
    - 標準製品仕様書において定める属性は、応用スキーマに示す順序に従う。この時、属性の多重度が[0..1]となる属性を採用しない場合も、属性名は出力する。
    - 拡張製品仕様書において拡張する属性は、標準製品仕様書が定める属性の後ろに列挙する。

- ✧ 各行の属性名は、区切り文字で区切る。
- ✧ 4 行目以降には、全ての属性の属性値を 1 行に記述し、インスタンスごとに改行する。
- ✧ 属性値は、区切り文字で区切る。
- ✧ 属性値の出力順序は、属性名の出力順序に従う。
- ✧ 属性の多重度が[0..1]となる属性を採用しない場合は、null 値の指定方法に従う。

- ➢ 属性の繰り返し
  - ✧ 属性の多重度[1..*] 及び[0..*]は、その属性を複数繰り返し記述できることを意味する。
  - ✧ 繰り返し記述可能な属性の型はデータ型（ステレオタイプが、DataType）で定義され、項目名を示す属性（class）と、項目ごとの値を示す属性（value）の組となる。
  - ✧ 多重度をもつ属性を CSV に出力する際に、2 行目及び 3 行目に記述する項目名は、属性 class の値を使用する。
  - ✧ 属性 class の値が複数存在する場合は、区切り文字（;）で区切る。

7.1.4 文字集合

符号化したデータ集合を記述する文字集合には、「UTF-8」を使用する。

7.1.5 言語

属性値を記述する言語は、日本語とする。

7.1.6 CSV 形式テンプレート

CSV 形式により符号化する調書及び集計表のテンプレートを、Annex B に示す。

7.2 配布媒体情報

7.2.1　ファイル単位

(1)　GML ファイルのファイル単位

ファイル単位を表 7-1 に示す。ファイル単位は、含むべき地物の種類と、空間範囲との組合せにより決定し、都市計画データの種類ごとに指定する。

表 7-1　ファイル単位

都市計画データ	ファイル単位	
	地物の種類	空間範囲
都市計画基本図データ	i-UR 及び CityGML に定義されたモジュール	地図情報レベル 2500 の国土基本図の図郭
都市計画基礎調査データ	都市計画基礎調査のデータ項目	
都市計画決定データ	都市計画の種類 （都市計画区域及び準都市計画区域、区域区分、地域地区、促進区域、遊休土地転換利用促進地区、被災市街地復興推進地域、都市施設、市街地開発事業、市街地開発事業等の予定区域、地区計画等）	

(2)　CSV ファイルのファイル単位

ファイル単位は、調書又は集計表となる *urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable* のインスタンスとする。

(3)　ファイルサイズとファイル分割

1 ファイルのデータ量の上限は最大 50MB とする。

1 ファイルのデータ量が 50MB を超える場合は、ファイルを分割する。

CityGML 形式ファイルの場合は、地図情報レベル 1000 の国土基本図の図郭に分割する。分割してもファイルサイズが上限を超える場合は、ファイル名称の[オプション]を使用し、ファイルを分割する。

CSV 形式ファイルの場合は、ファイル名称の[分割番号]を使用し、ファイルを分割する。このとき、レコードの重複や順序の変更がないように分割することとし、最初のレコードが含まれるファイルにのみヘッダを付ける。

7.2.2　境界線上の地物の取り扱い

国土基本図の図郭の境界線上に存在する地物は分割を行わない。

図郭の境界線上に存在する地物は、空間属性の第 1 点が含まれる図郭に含めることとする。

7.2.3　ファイル名称

(1)　GML ファイルのファイル名称

ファイル名称（拡張子を除いた部分）は、[図郭番号]_[地物型] _[オプション]とする。

表 7-2　ファイル名の構成要素

ファイル名称の構成要素	説明	使用可能な文字
[図郭番号]	ファイル単位となる国土基本図郭の番号	半角英数字
[地物型]	格納された地物の種類を示す接頭辞	半角英字
[オプション]	必要に応じてファイルを細分したい場合の識別子（オプション）	半角英数字。区切り文字を使用したい場合は半角のハイフンのみ。
_	ファイル名称の構成要素同士の区切り文字	ファイル名称の構成要素同士を区切る場合には、アンダースコア（_）のみを用いる。ファイル名称の構成要素の中を区切る場合は、ハイフン（-）を用いる。いずれも半角とする。

[地物型]にはファイルに含まれる地物を識別する接頭辞（表 7-3）を付与する。

表 7-3　接頭辞

地物型	接頭辞
bldg::Building	bldg
brid::Bridge	brid
tran::Road, tran::Track, tran::Railway	tran
tun::Tunnel	tun
urf::_Zone を継承する全ての都市計画の区域	urf
luse::LandUse	luse
wtr::WaterBody	wtr
frn::CityFurniture	frn
veg::Vegetation	veg
dem::ReliefFeature	dem
その他都市計画基本図（描画情報）	upm
その他都市計画基礎調査（接頭辞 uro 又は urf が付与される地物）	ups

[オプション]は、ファイルをさらに分割する場合に使用する。使用しない場合は区切り文字と共に省略する。

標準製品仕様書では表 7-4 に示す文字を使用し、ファイルをさらに分割する。

表 7-4　オプションに使用する文字

	オプション文字列
都市計画基礎調査	半角英数字 5 桁から構成される都市計画基礎調査のデータ項目の番号。
都市計画決定情報	以下に示す半角数字とハイフンの組み合わせ。 都市計画区域及び準都市計画区域　05、区域区分　07、地域地区 08、促進区域 10-2、遊休土地転換利用促進地区 10-3 、被災市街地復興推進地域 10-4、都市施設 11、市街地開発事業 12、市街地開発事業等の予定区域 12-2、地区計画等 12-4

(2)　CSV ファイルのファイル名称

urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable のインスタンスのファイル名称は、以下とする。

[データ項目番号]_[調書・集計表の別]_[番号]_[オプション]_[分割番号]

表 7-5　ファイル名の構成要素

ファイル名称の構成要素	説明	使用可能な文字
[データ項目番号]	都市計画基礎調査実施要領に示された、調査の区分（データ項目）を示す識別子。	半角小文字の“c”と半角数字 4 桁の組み合わせ。（例：c0101）
[調書・集計表の別]	当該ファイルが調書か集計表かの区分。	調書の場合は“report”、集計表の場合は“sum”とする。いずれも半角小文字。
[番号]	一つのデータ項目に対して、調書又は集計表を複数種類作成する場合に、それぞれを識別するための番号。	半角数字とする。一つのデータ項目に対して作成する調書又は集計表が 1 種類のみの場合は、“1”とする。
[オプション]	必要に応じてファイルを細分したい場合の識別子（オプション）	半角英数字。区切り文字を使用したい場合は半角のハイフンのみ。
[分割番号]	ファイルサイズが上限を超え分割した場合に、それぞれを識別し、順序を明らかにするための番号。	1 から始まる半角数字とする。 分割しない場合は省略する。
_	ファイル名称の構成要素同士の区切り文字	ファイル名称の構成要素同士を区切る場合には、アンダースコア（_）のみを用いる。ファイル名称の構成要素の中を区切る場合は、ハイフン（-）を用いる。いずれも半角とする。

7.2.4　フォルダ構成とフォルダ名称

データ製品のフォルダ構成を示す。

表 7-6　フォルダ構成

フォルダ構成	フォルダ名	フォルダの説明
	[市区町村コード]_[市区町村名英名]_[整備年度]_citygml2d_[更新回数]_[オプション]	成果品を格納するフォルダのルート。 このフォルダの直下に格納するファイルは索引図のみであり、その他のファイルはこのフォルダに設けたサブフォルダに格納する。 フォルダ名の[市区町村コード]は、都市計画データを作成する範囲となる都道府県コード（2 桁）と市区町村コード（3 桁）の組み合わせからなる 5 桁の数字とする。 [市区町村名英名]は、デジタル庁が定める「行政基本情報データ連携モデル_住所」に従う。 [整備年度]は、都市計画データを整備した年度（半角数字 4 桁の西暦）とする。 [更新回数]は、履歴管理用に半角数字を付す。初回に作成した成果物は 1 とする。以降、修正等を行った場合はバージョンアップごとに数字を加算していく。 [更新回数]は[整備年度]ごとに加算する。[整備年度]が変わった場合は、1 から開始する。 [オプション]は、成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別する任意の文字列とする。半角英数字のみ使用可とする。成果品が 1 種類の場合は、_[オプション]は省略する。
	codelists	ルートフォルダ直下に作成された、コードリストを格納するフォルダ。 都市計画データが参照する全てのコードリストを格納する。
	metadata	ルートフォルダ直下に作成された、メタデータを格納するフォルダ。
	schemas	都市計画データの GMLSchema を格納するフォルダ。GMLSchema は指定された版の i-UR を G 空間情報センターより入手する。 以下に示す構造でサブフォルダを設け、都市計画データが参照する GMLSchema ファイルを格納する。 /iur/uro/2.1/urbanObject.xsd /iur/urf/2.1/urbanFunction.xsd /iur/urf/2.1/statisticalGrid.xsd
	specification	ルートフォルダ直下に作成された、拡張製品仕様書（PDF 形式、ワード形式）を格納するフォルダ。
	upd	ルートフォルダ直下に作成された、都市計画データを格納するフォルダ。 このフォルダの直下に、接頭辞ごとのサブフォルダ（例：bldg）を作成し、そのサブフォルダの中に指定されたファイル単位で区切られた全ての都市計画データのファイルを格納する。
	bldg	建築物を格納するフォルダ。
	brid	橋梁を格納するフォルダ
	csv	CSV 形式の都市計画基礎調査データを格納するフォルダ。
	dem	地形を格納するフォルダ。
	frn	都市設備を格納するフォルダ。
	luse	土地利用を格納するフォルダ。
	tran	道路、徒歩道、鉄道を格納するフォルダ。
	tun	トンネルを格納するフォルダ。
	urf	都市計画決定情報を格納するフォルダ。
	upm	他のフォルダに該当しない都市計画基本図データを格納するフォルダ。
	ups	他のフォルダに該当しない CityGML 形式の都市計画基礎調査データを格納するフォルダ。
	veg	植生を格納するフォルダ。

7.2.5　媒体名

DVD、HDD 又はウェブサイトからのダウンロード

ルートフォルダを ZIP 形式（拡張子 zip）又は 7Z 形式（拡張子 7z）に圧縮する。

圧縮後のファイル名称は、以下とする。

[市区町村コード] _[市区町村名英名]_[整備年度]_citygml2d_[更新回数]

（オープンデータの場合は、[市区町村コード]_[市区町村名英名]_citygml2d_[更新回数]_op）

[市区町村コード]、[市区町村名英名]_及び[更新回数]の表記は、「7.2.4」に従う。

圧縮後のファイルサイズが 1GB を越えた場合は分割する。

分割は、成果品と同じフォルダ構成を複数作成し、成果品のファイルを作成したフォルダに振り分けることにより行う。この時、それぞれの成果品フォルダ内に、同じファイルが重複して存在してはならない。ファイルを振り分けたのち、成果品のフォルダごとに圧縮する。

圧縮後のファイル名称は、 [市区町村コード] _[市区町村名英名]_[整備年度]_citygml2d_[更新回数]_[オプション]_[分割番号]とする。

[分割番号]は、1 から始まる連番とする。

表　分割したファイルの概要

分割後ファイル名称	格納したフォルダ又はファイルの種類

7.2.6　オープンデータのための配布媒体情報

作成したデータ製品から、オープンデータを作成する場合には、以下に従う。

- 「ファイル単位」は「7.2.1」に従う。
- 「境界線上の地物の取り扱い」は、「7.2.2」に従う。
- 都市計画データの「ファイル命名規則」は[図郭番号]_[地物型]_[CRS] _[オプション]_op とする。[図郭番号]、 [地物型]、[CRS] [オプション]の表記は「7.2.3」に従う。また、オープンデータであることを明らかにするため、末尾に「_op」を付する。
- ファイル構成は「7.2.4」に従う。ただし、ルートフォルダの名称の末尾に「_op」を付与する。
- 媒体名は「7.2.5」に従う。

8　メタデータ

データ製品に関するメタデータは、次のとおり作成する。

データ製品にはかならずメタデータを作成しなければならない。

8.1 メタデータの形式

メタデータの形式は、JMP2.0 とする。

なお、都市計画基礎調査に使用する原典資料は、別途リスト化する。この原典資料リストの仕様は、8.5 に示す。

8.2 メタデータの記載項目

メタデータの記載項目を表 8-1 に示す。

表 8-1　メタデータに含めるべき項目

メタデータ項目	記述する内容	記述例
メタデータ>ファイル識別子	upd_[市区町村コード]_[整備年度]_[地物型]_[オプション]とする。 [市区町村コード]は、2 桁の都道府県コードと 3 桁の市区町村コードからなる 5 桁のコードとする。 [整備年度]は作成した西暦年度（4 桁）を記述する。 [市区町村コード]及び[整備年度]は、いずれも半角数字とする。 [地物型]は、地物型又はモジュールを示す接頭辞（3 文字又は 4 文字のアルファベット）とする。 なお、_[地物型]は、メタデータを地物型又はモジュールごとに作成せず、まとめて作成した場合は省略する。 [オプション]は、成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別するために使用する任意の文字列とする。半角英数字のみを使用可とする。成果品を格納するルートフォルダに使用する[オプション]の文字列に一致させること。成果品が 1 種類の場合は省略する。	upd_27100_2022 upd_27100_2022_update
メタデータ>言語	メタデータの記述に使用する言語。日本語とする。	jpn　（固定値）
メタデータ>文字集合	メタデータに使用する文字コード。UTF-8 とする。	004　（固定値）
メタデータ>階層レベル	メタデータの作成対象。データ集合とする。	005　（固定値）
メタデータ>問い合わせ先	発注者の問合せ先を記述する。組織名、電話番号、オンライン情報源を記述する。 役割は「010（刊行者）」とする。	
メタデータ>日付	メタデータの作成日付を YYYY-MM-DD により記述する。	2021-02-25
メタデータ>規格の名称	メタデータの仕様。	JMP　（固定値）
メタデータ>規格の版	メタデータの版。	2.0　（固定値）
参照系情報	データ集合に適用される座標参照系の識別子。製品仕様書で指定された空間参照系の識別子を記述する。識別子は、JMP2.0 を参照する。	
識別情報>題名	都市計画データ_[市区町村コード]_[整備年度] [市区町村コード]は、2 桁の都道府県コードと 3 桁の市区町村コードからなる 5 桁のコードとする。 [整備年度]は都市計画データを整備した時点であり、作成した西暦年度（4 桁）を記述する。	都市計画データ_27100_2020
識別情報>日付及び日付型	データの作成日付を YYYY-MM-DD により記述する。 日付型は以下より選択する。 001：作成日、002：刊行日、003：改訂日	2021-02-25, 003
識別情報 > 要約	都市計画データの概要を記載する。	

メタデータ項目	記述する内容	記述例
	都市計画基本図データ、都市計画基礎調査データ、都市計画決定データそれぞれについて記載する。 都市計画基本図データ ・作成に使用した航空写真の撮影時点。 都市計画基礎調査データ ・調査実施年度及び調査の基準年度、データ項目 都市計画決定データ ・都市計画図書の反映時点、含まれる都市計画の種類。 また、空間範囲が行政区域に一致していない場合はその範囲を記載する。 なお、以下に示すデータの利用上の注意事項を入れること。 「ただし、原典資料の位置の正しさの違いや、作成された時期の違いにより、現状を正確に反映していない場合があることにご注意ください。」	
識別情報 >目的	都市計画データのユースケースを記述する。	都市計画行政の高度化
識別情報>状態	「完成」を示す固定値とする。	001　(固定値)
識別情報>問い合わせ先	発注者の問合せ先を記述する。組織名、電話番号、オンライン情報源等を記述する。 役割は「010（刊行者）」とする。	
	作成者の問合せ情報を記述する。 役割名は「060（創作者）」とする。	
識別情報 > 記述的キーワード	キーワードを、複数グループ化して記述する。 ➢ 「type=002」として、データ製品に含まれる都市の名称を入れる。 ➢ 「type=005」として、データ製品に含まれる地物型の名称を入れる。 ➢ 「type=005」として、データ製品に含まれる LOD のレベルを入れる。 ➢ 「type=005」として、データ製品に想定されるユースケースを入れる。 ➢ 「type=005」として、データ製品の作成に使用した原典資料の名称を入れる。 ➢ 「type=005」として、データ製品に含まれる都市の名称を入れる。	
識別情報>利用制限	固定値とし、Licensed under CC BY 4.0 を記述する。	Licensed under CC BY 4.0
識別情報>空間表現型	ベクトルを意味する「001」を入力する。	001　(固定値)
識別情報>空間解像度	等価縮尺の分母にデータ集合に適用する地図情報レベルを入力する。 複数のレベルが混在する場合は、それぞれ記述する。	2500
識別情報>言語	メタデータの記述に使用する言語。日本語とする。	jpn　(固定値)
識別情報>文字集合	メタデータに使用する文字コード。UTF-8 とする。	004　(固定値)
識別情報>主題分類	構造物を意味する「017」を入力する。	017　(固定値)
識別情報> 範囲	➢ 作成範囲を包含する最小の矩形を、東西の経度、南北の緯度により記述する。 ➢ 地理記述には、都道府県及び市区町村名を記述する。	
配布情報>配布書式	CityGML2.0、i-UR 2.0 をそれぞれ書式情報として入れる。	
配布情報>オンライン	G 空間情報センターの URL を記述する。	
データ品質情報>データ品質	製品仕様書に示す品質要求の各項目について品質評価結果を記述する。	

8.3 メタデータの作成単位

メタデータは、都市計画データ全体について、一つのメタデータを作成することを原則とする。

ただし、都市計画データの一部のみ作成又は更新する場合は、作成又は更新した都市計画データに限定したメタデータを別途作成する。

8.4 メタデータのファイル名称

メタデータのファイル名称は、メタデータの記載項目である「ファイル識別子」に一致させる。

メタデータの拡張子は、.xml とする。

8.5 原典資料リストの仕様

JMP2.0 では、データ製品を作成する際に使用した原典資料の諸元を詳細に記述できないことから、標準製品仕様書では、原典資料リストのための仕様を定める。都市計画基礎調査データを作成する際には、必ずこの原典資料リストを作成しなければならない。

(1) 原典資料リストの記載項目

原典資料リスト項目	記述する内容	記述例
クラス名	都市計画基礎調査のデータ項目	C0603
属性又は関連役割名	調書・集計表の属性名 都市計画基礎調査のデータ項目全てで同じ原典資料が使用されている場合は省略してよい。	companyName
原典資料名	使用した原典資料の名称。	国土数値情報　鉄道データ
作成日	原典資料が作成された日付。 YYYY-MM-DD で記載することを基本とする。 年月しか分からない場合は、YYYY-MM とする。 年しか分からない場合は、YYYY とする。	2020-12-31 2020-12 2020
URL	原典資料の諸元やデータを入手可能な URL があれば記載する。	https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N02-v2_3.html

(2) 原典資料リストの作成単位

データ製品に対して 1 つの原典資料リストを作成する。

(3) 原典資料リストのファイル仕様

出力データ構造には、CSV を使用する。拡張子は、「.csv」とする。

(1)に示す記載項目の組を 1 レコードとし、以下に示す規則に従い出力する。

文字コード	UTF-8（BOM 付）
改行コード	CRLF
区切り文字	カンマ（,）
ヘッダ行の有無	あり
ヘッダ行の行数	1
ヘッダ行の内容	原典資料リスト項目を使用する。

文字列でのダブルクォートの有無	あり
null 値の指定方法	,,（区切り文字の連続）
1 項目内で、複数の値を列挙する場合に使用する区切り文字	;（セミコロン）
禁則文字	指定しない

(4) 原典資料リストのファイル名称

upd_[市区町村コード]_[整備年度]_resource

9 その他

9.1 製品仕様のプロファイル

標準製品仕様を拡張（標準製品仕様に地物や地物属性・地物関連役割を追加）や制限（標準製品仕様を制限し、その一部を使用）することができる。

標準製品仕様の拡張又は制限においては、以下に示す規則に従う。

9.1.1 拡張規則

標準製品仕様に定義されていない地物等を用いたい場合は、以下に示す拡張規則に従う。

なお、地物等の追加を行った場合には、都市ごとに作成する拡張製品仕様書に記載すること。

製品仕様の作成は、地理空間データ製品仕様書作成マニュアル[2]に従うこと。

(1) 都市計画基本図に独自の分類コードを追加したい場合

本標準製品仕様書を参考に CityGML または i-UR に定義された地物を使用し、*uro::DmGeographicAttribute* の属性 *uro::dmCode* に該当する分類コードを追加する。

(2) 都市計画基礎調査の調書又は集計表に、独自の項目を追加したい場合

調書に独自の項目を追加したい場合は、*urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord* から継承する属性 *urf:orgItem* を使用し、項目を追加する。この時、追加する項目の名称及び値の内容及び値の種類（整数、実数、単位付き計測値、文字列から選択）を指定すること。

集計表に独自の項目を追加したい場合は、集計項目の型として使用する urf::ValueByCodes を使用し、項目を追加する。この時、追加する項目の名称及び値の内容及び値の種類（整数、実数、単位付き計測値、文字列から選択）を指定すること。

(3) 独自の都市計画基礎調査の調書又は集計表を作成したい場合

独自の調書や集計表を追加したい場合は、*urf::OrgSurveyRecord* を使用する。この時、追加する調書や集計表のデータ項目番号（*urf::dataItemNumber*）、名称（*urf::tableName*）を決定するとともに、これに含まれるレコードの定義（追加する項目の名称及び値の内容及び値の種類（整数、実数、単位付き計測値、文字列から選択））を指定すること。

(4) 都市計画基礎調査の位置図に独自の地物を追加したい場合

標準製品仕様に定義されておらず、i-UR に定義されている地物または地物属性・地物関連を使用したい場合は、i-U から必要な要素を抽出し、i-UR の定義と矛盾なく使用する。

標準製品仕様に定義されておらず、CityGML に定義されている地物または地物属性・地物関連を使用したい場合は、CityGML から必要な要素を抽出し、CityGML の定義と矛盾なく使用する。

標準製品仕様に定義されておらず、i-UR 及び CityGML のいずれにも定義されていない地物を使用したい場合には、CityGML に定義された *gen:GenericCityObject* を使用して、地物を追加する。

9.1.2 制限規則

標準製品仕様に定められた地物、属性または関連を使用しない場合には、応用スキーマクラス図及び応用スキーマ文書修正は行わず、拡張製品仕様書に使用する地物、属性及び関連の一覧を付し、制限の内容を示すこと。

9.2 データ取得

都市計画データのうち、都市計画基本図データの取得にあたっては、各都市において定められた公共測量作業規程に従うこと。

また、都市計画基礎調査データの取得にあたっては、各都市において定められた都市計画基礎調査実施要領に従うこと。

Annex A
都市計画データのための
拡張製品仕様書テンプレート

A.1　概要

本付属書は、「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）の拡張規則及び制限規則に従い、各自治体において拡張製品仕様書を作成する際に使用するテンプレートを示す。

A.2　拡張製品仕様書テンプレート

＃ワード形式での拡張製品仕様書テンプレートを付ける。

＃エクセル形式で地物・属性・関連一覧を付ける。地物・属性・関連には、日本語名を付ける。

Annex B
都市計画基礎調査調書及び集計表のための CSV 形式テンプレート

B.1 概要

本付属書は、「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）に示された CSV による符号化仕様に従い、都市計画基礎調査調書及び集計表を CSV 形式で出力する場合のテンプレートを示す。

B.2 都市計画基礎調査調書及び集計表のための CSV 形式テンプレート

標準製品仕様書に示す都市計画基礎調査の各調書及び集計表について、CSV 形式で出力した場合のヘッダとサンプルレコードを提供する。

テンプレートは ZIP 形式で圧縮している。各テンプレートと都市計画基礎調査のデータ項目との対応を下表に示す。

#テンプレートは、ZIP 形式でまとめてダウンロードできるようにする。

データ項目 (dataItemNumber)	調書・集計表名称 (tableName)		表単位 (unit)	テンプレート（ファイル名）
C0101	調書	小地域別人口規模調書	小地域	c0101_report_1.csv
C0101	調書	メッシュ単位人口規模調書	メッシュ	c0101_report_2.csv
C0101	集計表	人口規模集計表	―	c0101_sum_1.csv
C0102	調書	DID 調書	―	c0102_report_1.csv
C0103	集計表	将来人口調書	―	c0103_sum_1.csv
C0104	集計表	人口増減集計表	―	c0104_sum_1.csv
C0105	集計表	通勤・通学移動集計表	―	c0105_sum_1.csv
C0106	調書	小地域別昼間人口調書	小地域	c0106_report_1.csv
C0106	調書	メッシュ単位昼間人口調書	メッシュ	c0106_report_2.csv
C0201	集計表	常住地別産業分類別従業者数集計表	常住地・産業分類	c0201_sum_1.csv
C0201	集計表	従業地別産業分類別従業者数集計表	従業地・産業分類	c0201_sum_2.csv
C0201	集計表	常住地別職業分類別従業者数集計表	常住地・職業分類	c0201_sum_3.csv
C0201	集計表	従業地別職業分類別従業者数集計表	従業地・職業分類	c0201_sum_4.csv
C0202	調書	小地域別産業別事業所数・従業者数・売上金額調書	小地域	c0202_report_1.csv
C0202	調書	メッシュ単位産業別事業所数・従業者数・売上金額調書	メッシュ	c0202_report_2.csv
C0202	集計表	産業分類別事業所数集計表	事業所	c0202_sum_1.csv
C0202	集計表	産業分類別従業者数集計表	従業者数	c0202_sum_2.csv
C0202	集計表	産業分類別売上金額集計表	売上金額	c0202_sum_3.csv
C0301	調書	区域区分の状況調書	―	c0301_report_1.csv
C0302	調書	土地利用現況調書	―	c0302_report_1.csv
C0302	集計表	小地域別土地利用現況集計表	小地域	c0302_sum_1.csv
C0302	集計表	区域別土地利用現況集計表	区域	c0302_sum_2.csv
C0303	調書	国有地の状況調書	―	c0303_report_1.csv
C0304	調書	市街地開発事業等による宅地開発状況調書	市街地開発事業等	c0304_report_1.csv
C0304	調書	開発許可による宅地開発状況調書	開発許可による開発	c0304_report_2.csv
C0304	集計表	宅地開発状況集計表	―	c0304_sum_1.csv
C0305	調書	農地転用状況調書	―	c0305_report_1.csv
C0305	集計表	農地転用状況集計表	―	c0305_sum_1.csv
C0306	調書	林地転用状況調書	―	c0306_report_1.csv
C0306	集計表	林地転用状況集計表	―	c0306_sum_1.csv
C0307	調書	新築動向調書	―	c0307_report_1.csv
C0307	調書	新築動向集計表	―	c0307_sum_1.csv

データ項目 (dataItemNumber)	調書・集計表名称 (tableName)		表単位 (unit)	テンプレート （ファイル名）
C0308	調書	条例・協定	―	c0308_report_1.csv
C0309	調書	農林漁業関係施策適用状況	―	c0309_report_1.csv
C0401	調書	建物利用現況調書	―	c0401_report_1.csv
C0401	集計表	小地域別用途別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_1.csv
C0401	集計表	区域別用途別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_2.csv
C0401	集計表	小地域別階数別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_3.csv
C0401	集計表	区域別階数別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_4.csv
C0401	集計表	小地域別構造別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_5.csv
C0401	集計表	区域別構造別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_6.csv
C0401	集計表	小地域別建築面積別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_7.csv
C0401	集計表	区域別建築面積別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_8.csv
C0401	集計表	小地域別延床面積別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_9.csv
C0401	集計表	区域別延床面積別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_10.csv
C0401	集計表	小地域別建築年別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_11.csv
C0401	集計表	区域別建築年別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_12.csv
C0401	集計表	小地域別耐火構造別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_13.csv
C0401	集計表	区域別耐火構造別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_14.csv
C0401	集計表	小地域別高さ積別建物利用現況集計表	小地域	c0401_sum_15.csv
C0401	集計表	区域別高さ別建物利用現況集計表	区域	c0401_sum_16.csv
C0402	調書	大規模小売店舗等の立地状況調書	―	c0402_report_1.csv
C0403	集計表	住宅の所有関係別世帯数集計表	住宅の所有関係	c0403_sum_1.csv
C0403	集計表	住宅の建て方別世帯数集計表	住宅の建て方	c0403_sum_2.csv
C0501	調書	都市施設の位置・内容等調書	―	c0501_report_1.csv
C0502	調書	道路の状況調書	―	c0502_report_1.csv
C0502	集計表	道路の状況集計表	―	c0502_sum_1.csv
C0601	調書	主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度	―	c0601_report_1.csv
C0602	集計表	自動車流動量集計表	―	c0602_sum_1.csv
C0603	調書	鉄道・路面電車等の状況調書	―	c0603_sum_1.csv
C0604	調書	乗降客調書	―	c0604_report_1.csv
C0604	調書	運行状況調書	―	c0604_report_2.csv
C0701	調書	地価の状況調書	―	c0701_report_1.csv
C0701	集計表	地価の状況集計表	―	c0701_sum_1.csv
C0802	調書	気象状況況調書	―	c0802_report_1.csv
C0803	集計表	緑の状況集計表	―	c0803_sum_1.csv
C0901	調書	災害の発生状況水害（外水）調書	―	c0901_report_1.csv
C0901	調書	災害の発生状況水害（内水）調書	―	c0901_report_2.csv
C0901	調書	災害の発生状況土砂災害調書	―	c0901_report_3.csv
C0902	調書	防災拠点・避難場所調書	―	c0902_report_1.csv
C1001	調書	宿泊容量メッシュ調書	―	c1001_report_1.csv
C1001	集計表	観光目的入込客数・消費額	観光目的	c1001_sum_1.csv
C1001	集計表	ビジネス目的入込客数・消費額	ビジネス目的	c1001_sum_2.csv
C1001	集計表	宿泊施設の状況		c1001_sum_3.csv
C1002	調書	景観・歴史資源等の状況調書		c1002_report_1.csv
C1003	調書	レクリエーション施設の状況調書		c1003_report_1.csv
C1004	調書	公害の発生状況調書		c1004_report_1.csv

Annex C
原典資料一覧
CSV 形式テンプレート

C.1　概要

本付属書は、「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）に示されたメタデータ仕様のうち、原典資料をCSV 形式により作成するためのテンプレートを示す。

C.2　原典資料一覧テンプレート

＃CSV 形式のヘッダとサンプルデータを入れたテンプレートを作成し、ダウンロードできるようにする。

参考文献

[1] 地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）第 1.1 版, 国土交通省国土地理院, 2014 年 4 月, https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/public/seihinsiyou/seihinsiyou_index.html

[2] 地理空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS 2014 版, 国土交通省国土地理院, 令和 2 年 11 月, (https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/public/seihinsiyou/seihinsiyou_index.html)

[3] RFC 4122 A Universally Unique IDentifier (UUID) URN Namespace, IETF, 2005 年 7 月, https://datatracker.ietf.org/doc/html/rfc4122

[4] OpenGIS® Geography Markup Language (GML) Implementation Specification version : 3.1.1, Open Geospatial Consortium, 2004 年 2 月, https://www.ogc.org/standards/gml

改訂履歴

日付	版	説明
2022-10-14	0.5	素案作成
2023-01-24	0.7	WG3
2023-01-27		PDF 文字化け修正

都市計画データ標準製品仕様書　解説書

内容

1.　はじめに 1
1.1.　本書の目的 1
1.2.　本書の構成 1
1.3.　引用文献 2
2.　都市計画データ標準製品仕様書の概要 3
2.1.　製品仕様書とは 3
2.2.　都市計画データ標準製品仕様書とは 3
2.2.1.　標準製品仕様書の特徴 4
2.2.2.　標準製品仕様書と拡張製品仕様書 6
2.2.3.　標準製品仕様書の運用 6
3.　都市計画データ標準製品仕様書の解説 7
3.1.　応用スキーマ 7
3.1.1.　都市計画データの全体像 7
3.1.2.　対象とする LOD 8
3.1.3.　都市計画基本図データ 9
3.1.4.　都市計画基礎調査データ 13
3.1.5.　都市計画決定データ 17
3.1.6.　空間スキーマ 23
3.2.　参照系 29
3.2.1.　空間参照系 30
3.2.2.　時間参照系 31
3.2.3.　地理空間データにおける参照系の指定 32
3.3.　品質要求及び評価手順 32
3.3.1.　標準製品仕様書の品質要求 32
3.3.2.　標準製品仕様書の品質評価手順 34
3.3.3.　部分更新を行う場合の品質評価 34
3.4.　データ製品配布 35
3.4.1.　CityGML による符号化 35
3.4.2.　CSV による符号化 36
3.4.3.　成果品の構成 37
3.5.　メタデータ 41
3.5.1.　JMP2.0 に基づくメタデータ 41
3.5.2.　原典資料一覧 41

4. 都市計画データ拡張製品仕様書の作成 42
4.1. 概要 42
4.2. 応用スキーマの作成 42
4.2.1. 基本的なルール 42
4.2.2. 都市計画基本図データのための拡張 42
4.2.3. 都市計画基礎調査データのための拡張 43
4.2.4. 都市計画決定データのための拡張 44
4.3. 品質要求及び品質評価手順の決定 45
4.4. 拡張製品仕様書の作成 45
付属資料 1 用語及び略語 47
付属資料 2 CityGML/i-UR 解説 48
付属資料 3 秘匿処理方法 59
参考文献 63

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、各自治体で整備される都市計画データが国際標準に適合したデータとなるよう、「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）の内容を解説する技術資料である。都市計画データの製品仕様を解説するとともに、標準製品仕様書に従い、各自治体の都市計画データの製品仕様書（以下、「拡張製品仕様書」と呼ぶ）を作成する手順を示す。

なお、本書はデータ作成方法を規定するものではない。データ作成方法については、各自治体の公共測量作業規程や都市計画基礎調査実施要領、個人情報保護法及び著作権法、その他関係する法令・規則・マニュアルを確認・遵守すること。

1.2. 本書の構成

本書の構成を表 1-1 に示す。

第 1 章では、本書の目的や構成を示す。

第 2 章では、標準製品仕様書の概要を説明する。主として自治体職員を対象としている。

第 3 章では、標準製品仕様書を解説する。各自治体において、都市計画データの作成に従事する技術者を対象とする。

第 4 章は、拡張製品仕様書を作成する手順を示す。各自治体において、都市計画データの作成にあたり、その製品仕様を検討する技術者を対象とする。

また、付属資料には、標準製品仕様書や都市計画データへの理解を深めるための補助的な資料を示す。

表 1-1　本書の構成

章	タイトル	内容
1 章	はじめに	本書の目的及び構成。
2 章	都市計画データ標準製品仕様書の概要	標準製品仕様書の考え方や特徴などの概要。
3 章	都市計画データ標準製品仕様書の解説	標準製品仕様書に定義されたデータ構造、品質、符号化仕様等、主たる内容の技術解説。
4 章	都市計画データ拡張製品仕様書の作成	自治体ごとの拡張製品仕様書の作成方法の解説。
付属資料 1	用語及び略語	標準製品仕様書で使用する用語及び略語の説明。
付属資料 2	CityGML 解説	標準製品仕様書が引用する CityGML 及び i-UR の解説。
付属資料 3	秘匿化処理	都市計画基礎調査データを秘匿化する場合の処理方法の解説。

1.3. 引用文献

本書が引用する規格・仕様・マニュアルを以下に示す。

表 1-2　引用文献

文書名	URL
都市計画データ標準製品仕様書	
Data Encoding Specification of i-Urban Revitalization -Urban Planning ADE- ver.2.1　（内閣府地方創生推進事務局）	https://www.chisou.go.jp/tiiki/toshisaisei/itoshisaisei/iur/index.html
OpenGIS® OGC City Geography Markup Language (CityGML) Encoding Standard, Version 2.0, OGC document 12-019 （Open Geospatial Consortium）	https://www.ogc.org/standards/citygml
地理情報標準プロファイル (JPGIS) 2014　（国土交通省国土地理院）	https://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis-downloads.html
JMP2.0 仕様書（国土交通省国土地理院）	
品質の要求，評価及び報告のための規則（国土交通省国土地理院）	
作業規程の準則（国土交通省国土地理院）	https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/jyunsoku/
都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）第 5 版	https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/kisotyousa001.html

引用文献のうちで、版の記載があるものは、その版を適用し、その後の改正版（追補を含む）は適用しない。版の記載がないものは、その最新版（追補を含む）を適用する。

また本書において、「i-UR」は、特段の指定がない限り、Data Encoding Specification of i-Urban Revitalization -Urban Planning ADE- ver.2.1 を指す。また、「CityGML」についても同様に OpenGIS® OGC City Geography Markup Language (CityGML) Encoding Standard, Version 2.0, OGC document 12-019 を指す。

2. 都市計画データ標準製品仕様書の概要

2.1. 製品仕様書とは

製品仕様書とは、地理空間データを作成する際に、作成すべき地理空間データの使用目的、内容及び品質など、作成されるべき地理空間データに対する要求事項をまとめた文書である。製品仕様書は、地理空間データへの要求事項を明確にするため、作成者は要求事項に見合った効率的な作成手法を選定でき、作成された地理空間データは本来の利用目的に適したものとなる。

また、作成された地理空間データを使用する際には、地理空間データだけではその内容や品質などを詳細に把握することが困難であり、再利用の支障になる場合がある。そこで、地理空間データと製品仕様書を対として利用者に提供することで、利用者は地理空間データの内容、構造、データ形式及び品質などを、製品仕様書により知ることができ、地理空間データをより有効に活用できるようになる。

つまり製品仕様書は、地理空間データが作成される場面では、設計書として使用され、地理空間データが流通・交換される場面では、詳細な取扱説明書として使用される。

地理空間データの製品仕様書の構成を表 2-1 に示す。

表 2-1 地理空間データの製品仕様書の構成

	構成	概要
1	概覧	製品仕様書の作成に関する情報、製品（地理空間データ）の目的、引用規格等。
2	適用範囲	この製品仕様書が適用される範囲。
3	データ製品識別	製品の名称、日付、問合せ先等。
4	データ内容及び構造	データ構造（UML クラス図）と定義。
5	参照系	製品に適用される座標参照系及び時間参照系。
6	データ品質	製品に対する品質要求、また、任意で品質評価手順。
7	データ製品配布	製品の符号化仕様と媒体情報。
8	メタデータ	製品のメタデータに適用される仕様
9	その他（任意記載項目）	1～8 以外の項目で示したい事項。例えば、データ取得やメンテナンスに関する事項。

製品仕様書の詳細：地理空間データ製品仕様書作成マニュアル[1]

2.2. 都市計画データ標準製品仕様書とは

「都市計画データ標準製品仕様書」は、「都市計画データ」への要求事項をまとめた製品仕様書である。ここで、「都市計画データ」とは、都市計画情報（都市計画行政に必要となる都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画図書に含まれる情報）の 2 次元のデジタルデータである。

標準製品仕様書は、都市計画情報に関する製品仕様書である「都市計画 GIS データの共通仕様（案）」（国土交通省都市局, 2005 年 3 月）及び「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書」（国土交通省国土地理院, 2014 年 4 月）の内容を統合している。統合により、これまで独立して存在していた都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画図書の各データを一体的に取り扱えるようにすることを目的としている。さらに、3D 都市モデルとの整合を図ることにより、3D 都市モデルと一体的な整備によるコストの削減・省力化、都市計画の高度化、民間での活用を同時に目指している。

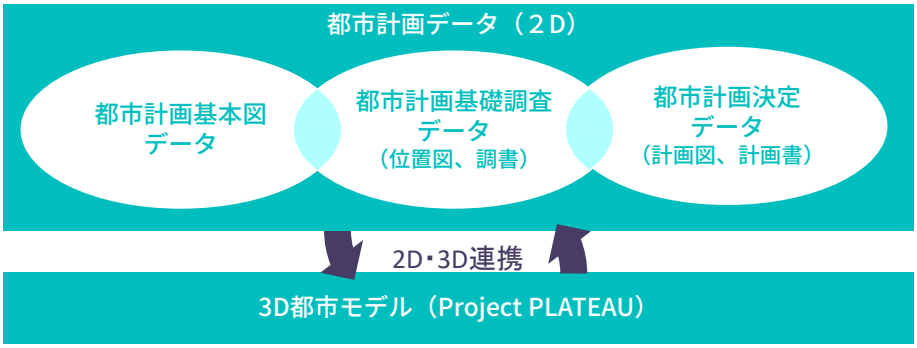


図 2-1　都市計画データと 3D 都市モデルとの一体的整備

3D 都市モデルの詳細：3D 都市モデルの導入ガイダンス[2]

2.2.1. 標準製品仕様書の特徴

標準製品仕様書の特徴を示す。標準製品仕様書の詳細は、2 章に示す。

(1) データの内容及び構造

標準製品仕様書が定義するデータの内容は、都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画図書を網羅し、データ構造は CityGML 及びその拡張である i-UR のデータ構造に準拠している。

CityGML は、地理空間データに関する国際標準化団体である Open Geospatial Consortium（OGC）が策定した、都市空間を記述することを目的としたデータ構造とフォーマットの国際標準である。また、i-UR は CityGML の拡張ルールに準拠し内閣府地方創生推進事務局が策定した技術仕様であり、都市計画や都市再生に必要となる情報のデータ構造とフォーマットを定めている。CityGML 及び i-UR については、付属資料 2　CityGML/i-UR 解説に示す。

3D 都市モデルではデータの相互流通性を高めるために CityGML 及び i-UR が採用されていることから、都市計画データにおいてもこれを採用することで、データの相互流通性と 3D 都市モデルとの整合性を高めている。

(2) 参照系

標準製品仕様書が採用する参照系のうち、空間参照系は、「日本測地系 2011 における平面直角座標系」

を採用する。平面直角座標系は、都市計画基本図にも採用されている空間参照系であり、地球を平面に投影した面上における原点からの距離で位置を示すことから、距離や面積の計算が容易になるという特徴がある。

なお、3D 都市モデルでは、「日本測地系 2011 における経緯度座標系と東京湾平均海面を基準とする標高の複合座標参照系」を採用している。これは 3D 都市モデルが全国を対象としているからである。一方、都市計画データは都市単位での利用を想定しているため、平面直角座標系を採用している。

また、時間参照系は、「グレゴリオ暦及び日本標準時」とする。グレゴリオ暦とは西暦である。日本では、日付の記述として西暦と和暦が併用されているが、混在がデータ利用上の支障となるため、標準製品仕様書では日付の表記を西暦に統一する。

(3) 品質要求及び評価手順

標準製品仕様書の品質要求のうち、位置正確度（位置の正しさ）は、都市計画の計画図に要求される縮尺 1/2500 に対応する地図情報レベル 2500（水平の標準偏差 1.75m、高さの標準偏差 0.66m）を基本とする。標準製品仕様書では、位置正確度以外に、データに漏れや過剰が無いかを示す「完全性」、データ構造やデータフォーマット、属性の定義域等の適合度を示す「論理一貫性」、属性の値の正しさ等を示す「主題正確度」の観点から品質要求を行っている。また、データが品質要求を満たしているか否かを評価する手法（品質評価手順）を併せて提示している。

(4) フォーマット（符号化仕様）

製品仕様書では、「データの内容及び構造」に従い、データを記述するフォーマットを指定する。標準製品仕様書が採用するフォーマットは、CityGML 形式を基本とする。CityGML は、タグによりデータを意味づけする XML の一種である。ただし、都市計画基礎調査の調書及び集計表に該当するデータは、図形（幾何オブジェクト）を含まないデータであることから、調書及び集計表のデータにはフォーマットとして CSV 形式を採用する。CSV 形式とはカンマ区切りのテキストファイル形式である。その他、ファイル命名規則やフォルダ構成等も定めている。

(5) メタデータ

メタデータは、地理空間データの説明情報である。メタデータにはデータの作成日、データ作成者等の情報や、品質評価結果が記述され、データを再利用する際にデータの概要を把握する有益な情報となる。

製品仕様書では、メタデータの仕様を指定している。標準製品仕様書が採用するメタデータの仕様は、JMP2.0 を基本とする。JMP2.0 は、地理情報標準である ISO19115 Metadata に従い、国土地理院において定めた日本における地理空間データのメタデータの実装仕様である。ただし、JMP2.0 では、データ作成に使用した資料（原典資料）の詳細を記述できない。そこで標準製品仕様書では、JMP2.0 により記述するメタデータとは別に、原典資料の諸元を示す一覧を CSV 形式で作成することを定めている。

(6) その他

「その他」には、製品仕様書を構成する前述の各項目に含まれていないものの、製品仕様書に基づき地理空間データ製品を作成する際や、作成された地理空間データ製品を使用する際に、製品仕様書に記載

しておいたほうがよいと思われる追加情報を記述する。標準製品仕様書では、以下を示す。

- 標準製品仕様書の拡張規則及び制限規則
  - 標準製品仕様書に基づき、自治体ごとの都市計画データ製品仕様書（「拡張製品仕様書」と呼ぶ）を作成するために、標準製品仕様書に定義する地物や属性を取捨選択、又は追加するための規則である。
- 取得方法
  - 都市計画データを作成する際に従うべき、データ取得方法に関する指定である。各自治体の公共測量作業規程や都市計画基礎調査実施要領がこれに該当する。

2.2.2. 標準製品仕様書と拡張製品仕様書

都市計画データに含むべき情報は、自治体の規模や環境によって差異がある。ただし、自治体ごとに独自に製品仕様書を作成すると、それに従った都市計画データも各自治体で様々なものとなってしまい、データとしての再利用性が低くなってしまう。

そこで、標準製品仕様書は、都市計画データの標準的な製品仕様を定め、これを各自治体の都市計画データの製品仕様書のベースとして利用することで、自治体ごとの製品仕様書作成の利便性を向上しつつ、全体として標準化された都市計画データとすることを目的とした、標準文書の役割をもつ。標準製品仕様書はいわばカタログであり、各自治体はここに定義された地物や属性を必要に応じて取捨選択又は追加し、それぞれの製品仕様書（拡張製品仕様書）を作成できる。この時、標準製品仕様書の拡張規則及び制限規則に準拠することで、拡張製品仕様書も国際標準に準拠した製品仕様書となり、各都市の都市計画データの再利用性を高めることができる。拡張製品仕様書の作成方法は、本書の第 4 章にて解説する。

なお、製品仕様書には、作成する都市計画データの空間範囲等を記述する必要がある。これらの情報は各自治体によって異なることから、地物の取捨選択・追加の有無によらず、自治体ごとに拡張製品仕様書を作成する必要がある。

2.2.3. 標準製品仕様書の運用

都市計画情報のデジタル化推進には、①データの標準化と②データ整備・更新の推進策の両軸が必要である。しかしながら、自治体のデジタル化の現状により異なることから、自治体によっては一気に標準製品仕様書に基づくデータ整備・更新を行うことが困難な場合がある。

よって、都市計画データの整備・更新では、自治体のデジタル化の現状に応じた段階を設定できる。既にデジタル化を進めており 3D 都市モデルとの一体的な整備・更新を行う場合は「都市計画データ標準製品仕様書」への準拠を求める一方、標準製品仕様書準拠のハードルが高い場合は段階的な準拠により、将来的に「都市計画データ標準製品仕様書」への完全準拠を目指すことを求める。

段階的な準拠の詳細：都市計画情報のデジタル化・オープン化ガイダンス [3]

---

3. 都市計画データ標準製品仕様書の解説

3.1. 応用スキーマ

本項では、標準製品仕様書第 4 章に示す都市計画データの応用スキーマを解説する。

応用スキーマは、「一つ又は複数の応用システムによって要求されるデータのための概念スキーマ。」であり、標準製品仕様書では、都市計画データとして必要となるデータ構造とその内容を記述したものとなる。データ構造の記述には、UML クラス図を使用する。UML クラス図の記法は、付属資料 2 に解説する。

3.1.1. 都市計画データの全体像

都市計画データの応用スキーマ（「都市計画データ応用スキーマ」と呼ぶ）は、CityGML 及び i-UR から、都市計画データに必要な地物等を抽出している。都市計画データ応用スキーマと、CityGML 及び i-UR の関係を示した図が、図 3-1 に示すパッケージ図である。

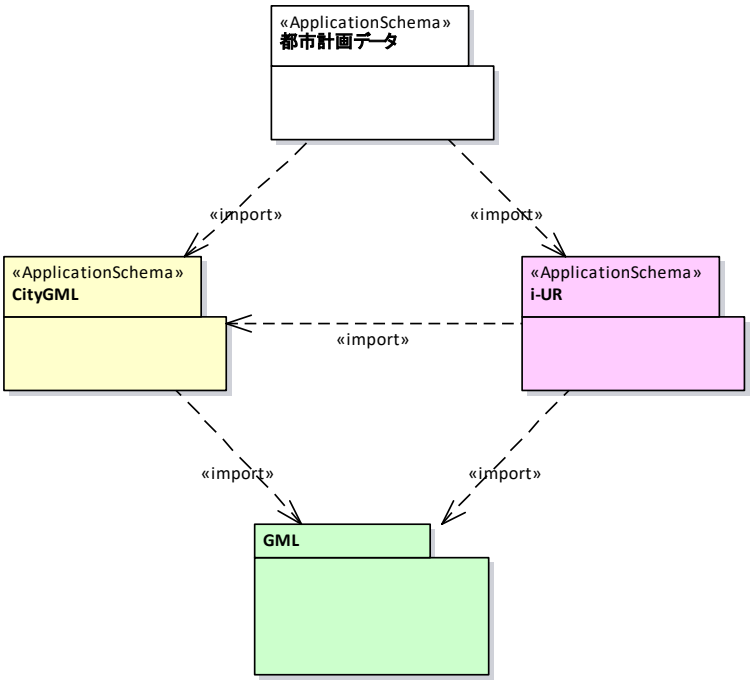


図 3-1　都市計画データ応用スキーマの構成

都市計画データ応用スキーマは、CityGML と i-UR を引用している。また、CityGML や i-UR は、応用スキーマに共通して利用可能な基本的な要素（例：点、線、面）を定義する GML を引用している。

都市計画データ応用スキーマは、都市計画基本図データ、都市計画基礎調査データ、都市計画決定データのそれぞれを構成する地物等を格納した 3 つのパッケージから構成する（図 3-2）。

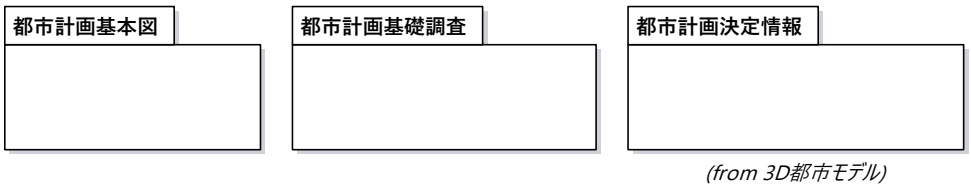


図 3-2　都市計画データ応用スキーマのパッケージ

都市計画基本図パッケージは、都市計画基本図データに必要となる地物等を CityGML 及び i-UR から引用する。同様にして、都市計画基礎調査パッケージには、都市計画基礎調査データに必要となる地物等、都市計画決定パッケージには、都市計画決定データに必要な地物等が CityGML 及び i-UR から引用されている。

なお、都市計画決定データは、既に 3D 都市モデルの応用スキーマでパッケージが定義されているため、都市計画データ応用スキーマではこれを利用している。

3 つのパッケージが引用する CityGML 及び i-UR の地物等を表 3-1 に示す。

表 3-1　都市計画データが引用する CityGML 及び i-UR のパッケージ

	GML	CityGML													i-UR		
		Core	Appearance	Bridge	Building	CityFurniture	CityObjectGrou	Generic	LandUse	Relief	Transportation	Tunnel	Vegetation	WaterBody	Urban Object	Urban Function	Statistical Grid
都市計画基本図	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓ ※	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
都市計画基礎調査	✓	✓			✓		✓	✓ ※	✓						✓	✓	✓
都市計画決定	✓	✓					✓	✓ ※								✓	

※各自治体において、CityGML 及び i-UR に無い地物等を拡張したい場合に使用する。

3.1.2. 対象とする LOD

LOD（Level Of Detail）は、「詳細さの度合い（詳細度）」であり、一つのオブジェクトの幾何をその利用や可視化の目的に応じて、複数の段階に抽象化することを可能とする、マルチスケールなモデリングの仕組みである。LOD には、LOD0 から LOD4 までの 5 段階があり、LOD0 が最も粗く、LOD4 が最も細かいデータとなる。

LOD0 は、地物を 2 次元平面に投影した形状であり、点、線又は面として表現する。

LOD1 は、LOD0 の形状を加工した形状であり、3 次元空間で立体又は面として表現する。LOD0 で

点又は線として表現された地物は、LOD1 では面又は立体として表現される。また、LOD0 で面として表現された地物は、LOD1 では高さをもつ面又は立体として表現される。LOD1 で面として表現される地物や道路や水面あるいは土地利用や都市計画区域のように、厚みをもたず、2 次元的な広がりをもつ地物である。

都市計画データでは、LOD0 を 2 次元の数値地形図データと位置付ける。また、数値地形図データを加工し、構造化（線を閉じて面とする等）したデータを LOD1 と位置づける。表 3-2 に都市計画データ応用スキーマが対象とする LOD を示す。

表 3-2　都市計画データ応用スキーマが対象とする LOD

	LOD0	LOD1	LOD2	LOD3	LOD4
都市計画基本図	○				
都市計画基礎調査	○	○※1			
都市計画決定情報		○※2			

土地利用は、数値地形図では記号と区域界等で表現される。一方、都市計画基礎調査の土地利用現況で使用する土地利用は面として必要となる。そこで、都市計画基礎調査の土地利用現況は LOD1 としている（※1）。また、都市計画決定情報は、道路縁や行政界等の線を利用し、区域を作成するため LOD1 としている（※２）。

3.1.3. 都市計画基本図データ

(1) 都市計画基本図データの概要

都市計画基本図データは、都市計画基本図に含まれる情報をデジタル化したデータである。都市計画基本図は、国土地理院が定める「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）」に基づき、地図情報レベル 2500 の数値地形図（DM）データとして作成されている。

DM は地図として地物の形状を記述する観点からは効率的なデータ構造となっている。一方で、記述可能なデータ項目が固定されているため、地物に都市計画基礎調査等で得た情報を属性として追加することが困難である。

そこで、都市計画基本図データでは CityGML 及びこれを拡張した i-UR をデータ構造として採用している。この時、DM との対応付けを明確にするため、「公共測量標準図式 数値地形図データ取得分類基準表」（以下、「標準図式」と呼ぶ）を CityGML 及び i-UR のクラスに対応付けている。対応付けは、標準図式の分類コード（レイヤとデータ項目を識別する 4 桁の半角数字）ごとに行っている。表 3-3 に対応付けの概要を示す。分類コードごとの対応は、標準製品仕様書 4.2.1 に示す。各自治体において、独自の分類コードを追加している場合は、表 3-3 及び標準製品仕様書 4.2.1 を参考にして、対応付ける CityGML 又は i-UR のクラスを選定するとよい。CityGML は建物や道路、トンネルといった都市を構成する様々な地物をクラスとして定義しているため、分類コードの多くは CityGML のクラスに対応づく。一方、CityGML では行政界のような概念的な地物のクラスは定義されていないが、これらは i-UR に定義されているため、i-UR のクラスに対応付く。

表 3-3　都市計画基本図データの対応付け

DM のレイヤ	対応付ける CityGML/ i-UR のクラス※	説明
境界	urf::Boundary	
所属界	urf::Boundary、urf::Administration	行政界等の境界線は urf::Boundary に対応付け、行政区域の代表位置は行政区域を示す urf::Administration に対応付ける。
道路	tran::Road、tran::Track	道路は tran::Road に対応付け、徒歩道及び庭園路は、tran::Track に対応付ける。
道路施設	brid::Bridge、tun::Tunnel、 frn::CityFurniture、tran::TrafficArea tran::AuxiliaryTrafficArea veg::SolitaryVegetationObject	施設の種類に応じて、対応付ける。 brid::Bridge（橋梁、横断歩道橋）、tun::Tunnel（トンネル）の他、その他の道路付属物は frn::CityFurniture、道路面を構成する地物は、tran::TrafficArea（歩道等）又は tran::AuxiliaryTrafficArea（分離帯）、並木は veg::SolitaryVegetationObject とする。
鉄道	tran::Railway	
鉄道施設	brid::Bridge、tun::Tunnel、 frn::CityFurniture	施設の種類に応じて、対応付ける地物を選定。
建物	bldg::Building	
建物に付属する構造物	frn::CityFurniture、 bldg::BuildingInstallation	建物と一体的な構造物は、bldg::BuildingInstallation とし、それ以外は frn::CityFurniture とする。
建物記号	uro::DmGeometryAttribute	
その他小物体	frn::CityFurniture	
水部	wtr::WaterBody	
水部に関する構造物	brid::Bridge、frn::CityFurniture、 wtr::WaterBody 、 uro::OtherConstruction uro::DmGeometryAttribute	施設の種類に応じて、対応付ける。 wtr::WaterBody（水涯線、湖沼等）、brid::Bridge（桟橋）の他、渡船発着所は、frn::CityFurniture 、その他の水部に関する構造物は uro::OtherConstruction とする。流水方向は、uro::DmGeometryAttribute とする。
法面	uro::OtherConstruction	
構囲	frn::CityFurniture	
諸地、場地	urf::Boundary、luse::LandUse	区域界は urf::Boundary とし、その他の諸地・場地は luse::LandUse とする。
植生	veg::PlantCover	
等高線	dem::BreaklineRelief、 uro::DmGeometryAttribute	等高線は、dem::BreaklineRelief とし、矢印は、uro::DmGeometryAttribute とする。
変形地	dem::BreaklineRelief、 dem::MassPointRelief	線での表現は、dem::BreaklineRelief とし、点での表現は dem::MassPointRelief とする。
基準点	frn::CityFurniture、 dem::MassPointRelief	標石がある基準点は、frn::CityFurniture に対応付け、図化による標高点は、dem::MassPointRelief に対応付ける。
指示点	urf::DmIndicationMark	
注記	urf::Annotation	

※接頭辞に urf 又は uro が付くクラスは i-UR、それ以外は CityGML で定義されたクラスである。

(2) データ構造

都市計画基本図のデータ構造は、CityGML 又は i-UR に定義されているクラスに、DM データとして必要な情報（例：分類コード）を属性として付与する構造となっている。

図 3-3 は、DM データの「建物」の UML クラス図である。「建物」は、CityGML の *bldg::Building* に対応付けている。この *bldg::Building* に数値地形図データとして必要な情報として追加しているのが、*uro::DmGeometricAttribute* と *uro::DmElementAttribute* である。

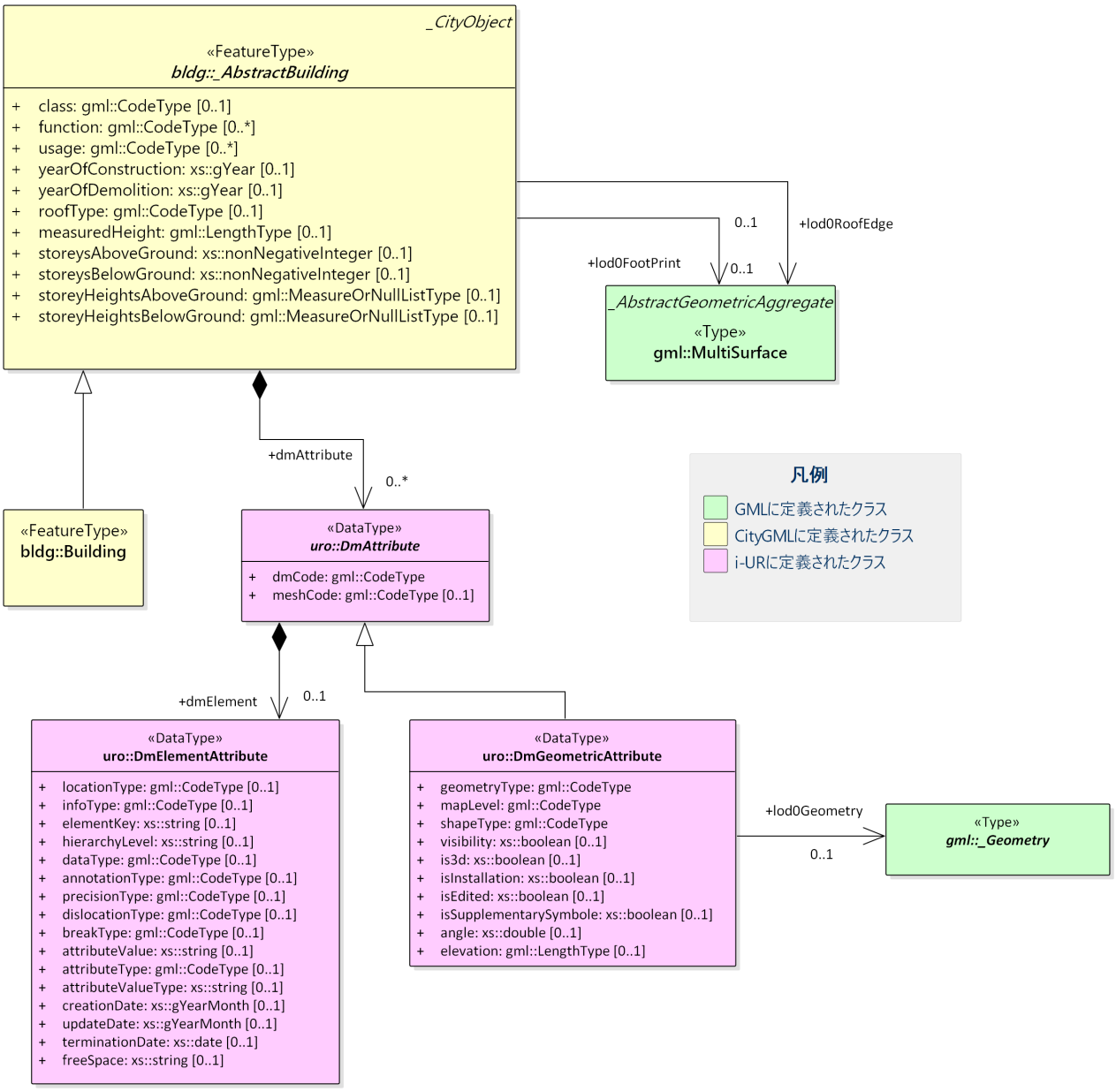


図 3-3　Building の UML クラス図

uro::DmGeometricAttribute は、数値地形図データの図式表現に係る情報を属性としてもつ（表 3-4）。

表 3-4 uro::DmGeometricAttribute の属性

属性名	属性の内容
dmCode（uro::DmAttribute から継承）	DM 分類コード。
meshCode(uro::DmAttribute から継承)	当該図形が含まれる図郭番号。
geometryType	線や面などの図形の種類（DM のレコードタイプ)。
mapLevel	地図情報レベル（都市計画基本図の場合は 2500 となる)。
shapeType	中庭線や棟割線などの図形の区分（DM の図形タイプ)。
visibility	上空から見えているかの区分。
is3d	地物の座標値が 3 次元か否か（2 次元の場合は false)。
isInstallation	当該図形が付属図形か否かの区分。
isEditd	編集処理が行われたか否かの区分。
angle	当該図形が方向をもつ場合の角度。
elevation	当該図形に標高値が与えられている場合の標高。

また、*uro::DmGeometricAttribute* は関連役割 *lod0Geometry* により図形（*gml::_Geometry*）をもつ。*gml::_Geometry* は、点、線、面などを汎化した抽象クラスであり、点、線、又は面のいずれでも記述できる。

1 つの *bldg::Building* は、複数の *uro::DmGeometricAttribute* をもつことができる。(関連役割 *dmAttribute* の多重度が[0..*])。これは、DM では、1 棟の建物を表現する際に、複数の図形を組み合わせることがあるためである（図 3-4)。

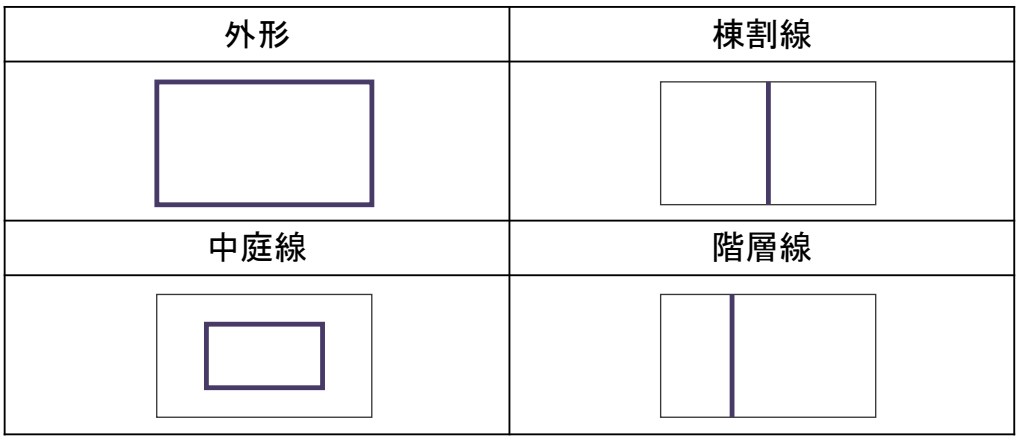


図 3-4　堅ろう建物に使用する図式（太線）

例えば、ある 1 棟の建物の DM データが、外形と中庭線から構成されていた場合、当該建物を表す *bldg::Building* のインスタンス（データ）には、外形の図形をもつ *uro::GmGeometricAttribute* のインスタンスと中庭線の図形をもつ *uro::GmGeometricAttribute* のインスタンスとが含まれる。前者は *shapeType*（図形タイプ）の値が 0（非区分）となり、後者は 31（中庭線）となる。

なお、1 棟の建物を表現する複数の図形を構造化（例：外形と中庭線を組合せ、内空有のポリゴンを作

成する）し、面として表現する場合は、*bldg::Building* の *lod0RoofEdge*（屋根外形）及び *lod0FootPrint*(接地外形)を使用し、その構造化した面を記述できる。

図形表示に必要な情報以外の DM データの情報を保持したい場合は、*uro::DmElementAttribute* に格納できる（表 3-5)。DM データの情報を保持する必要が無い場合、これらの属性は省略してよい。

表 3-5 uro::DmElementAttribute の属性

属性名	属性の内容	属性名	属性の内容
locationType	地域分類。	breakType	間断区分。
infoType	情報分類。	attributeValue	属性区分。
elementKey	要素識別番号。	attributeType	属性数値。
hierarchyLevel	階層レベル。	attributeValue	属性データ書式。
dataType	実データ区分。	cretionDate	取得年月。
annotationType	精度区分。	updateDate	更新の取得年月。
precisionType	注記区分。	terminationDate	消去年月。
dislocationType	転位区分。	freeSpace	空き領域。

このように、都市計画基本図データは DM 分類コードごとに CityGML 又は i-UR に定義されているクラスに対応付け、DM データとして必要な情報を、取得した図形と共に属性として付与する構造となっている。

3.1.4. 都市計画基礎調査データ

(1) 都市計画基礎調査データの概要

都市計画基礎調査データは、「都市計画基礎調査実施要領」に基づき作成する位置図、調書及び集計表のデジタルデータである。

位置図に記載する内容を地物とし、CityGML 及び i-UR のクラスと対応付けている。また、調書は地物がもつ属性として定義している。集計表についても、小地域や行政区域など、集計する単位となる地物の属性として定義している。

都市計画基礎調査の地物と CityGML 及び i-UR のクラスとの対応は、標準製品仕様書 4.3.1 に示す。

(2) データ構造

都市計画基礎調査実施要領では、各データ項目について、作成すべき位置図、調書及び集計表を指定している。データ項目によって使用するクラスは異なるが、データ構造の考え方は同じであるため、ここでは「土地利用現況」及び「人口規模」を用いて解説する。

1) 位置図

位置図に表現する地物は、CityGML 又は i-UR に定義する地物を示すクラスに対応付ける。そのクラスがもつ幾何オブジェクトや属性を用いて、位置図に地物の位置を表示したり、属性値で色分けしたり

できる。例えば、土地利用現況では、位置図として用途別分布図を作成する。土地利用は *luse::LandUse* に対応付ける（図 3-5）。

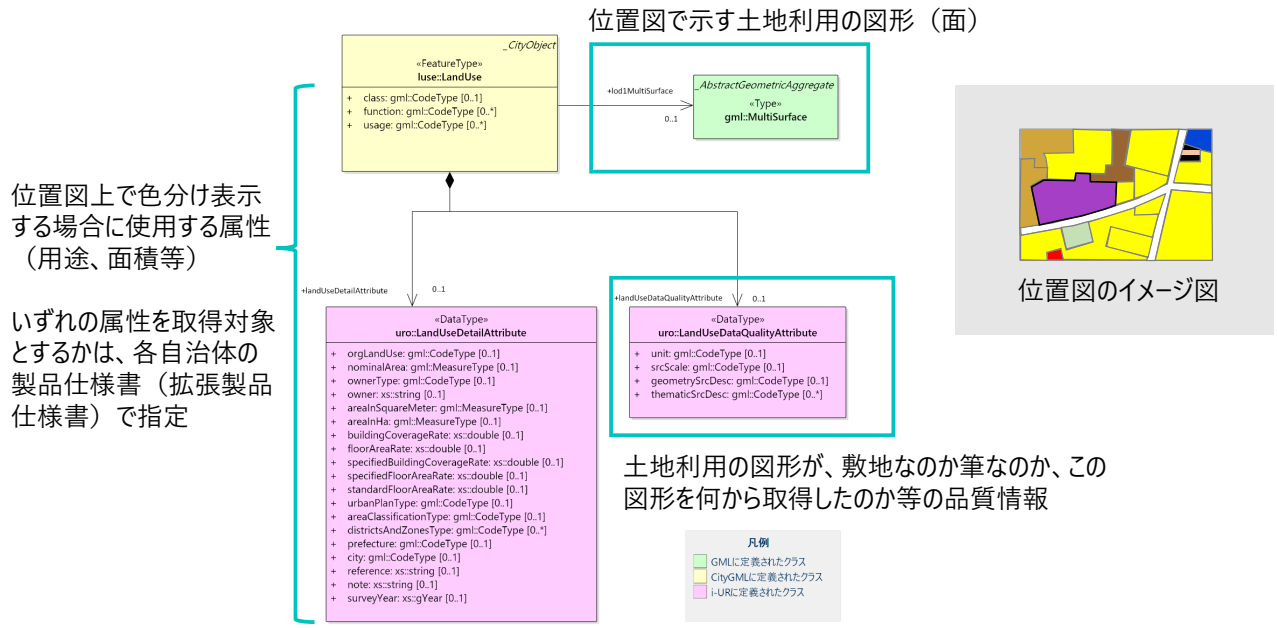


図 3-5　土地利用現況の UML クラス図と位置図との対応

luse::LandUse は LOD1 の幾何オブジェクトとして面（*lod1MultiSurface*）をもち、これが位置図に示す図形となる。また、*luse::LandUse* の属性 usage（用途）の値を用いて色分けができる。

uro::LanduseDetailAttribute は、土地利用現況で収集・整理する様々な情報を土地利用の属性として格納するための箱として用意されたデータ型のクラスである。*uro::LanduseDetailAttribute* に定義された各属性は任意であり、土地利用現況で収集・整理する場合に使用する。いずれの属性を採用するかは、拡張製品仕様書において指定する（4.2.3）。また、土地利用現況で作成する土地利用の単位は、敷地や筆など自治体によって様々であり、使用する原典資料も建築確認の申請データや地番図、あるいは航空写真による判読など様々である。*uro::LandUseDataQualityAttribute* は、取得の単位や原典資料を記録するためのデータ型である。属性 *unit* は、敷地なのか筆なのかを区分するための属性である。また、属性 *geomertySrcDesc* は、その敷地又は筆の形状を取得した原典資料を記録するための属性である。

また、位置図には、地物の外形線や代表的な位置を示したものだけではなく、メッシュにより表現する場合がある。メッシュは、あるエリアを隙間なく網の目に分けた区画である。各メッシュはほぼ同一の大きさ・形状となることから、各メッシュに統計データを属性として与えてそのエリアを表現することで、地域事象を計量的に比較することが容易になる。このメッシュの表現には、i-UR で定義された *urg::_StatisticalGrid* を用いる。*urg::_StatisticalGrid* は抽象クラスであり、インスタンス化されるのはこれを継承する具象クラスとなる。

例えば、図 3-6 は、人口分布図を表す場合の UML クラス図である。人口分布図では、メッシュ単位（4 分の 1 地域メッシュ）で表現する。この人口分布図のメッシュを表すクラスは、*urg::_StatisticalGrid* を継承した *urg::Population* である。*urg::Population* は、性別・年齢別人口（*urg::populationByAgeAndSex*）

や昼間人口（*urg::daytimePopulation*）などの属性をもつ。属性の値を用いて色分けすることで、人口分布図を表現できる。

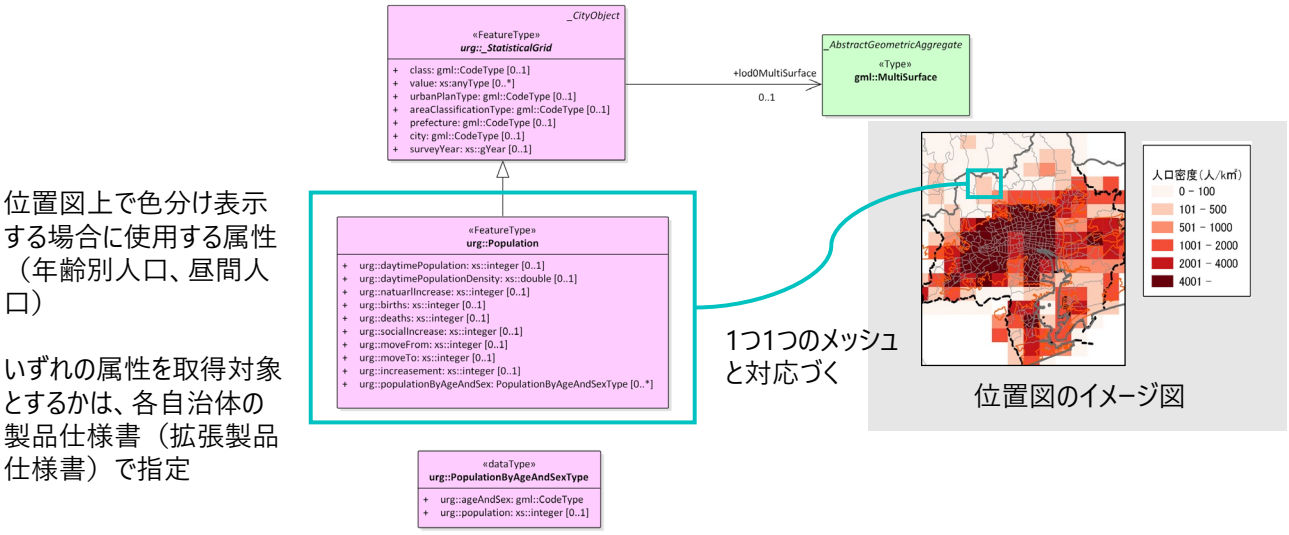


図 3-6　人口規模　位置図（人口分布図）の UML クラス図

2)　調書

調書は、図形と属性とが一体化した GIS データから、属性を出力した表である。そこで、調書は地物の一部（属性の集まり）として、i-UR に定義されたデータ型のクラスに対応づけている。

図 3-7 に土地利用現況調査の調書の UML クラス図を示す。

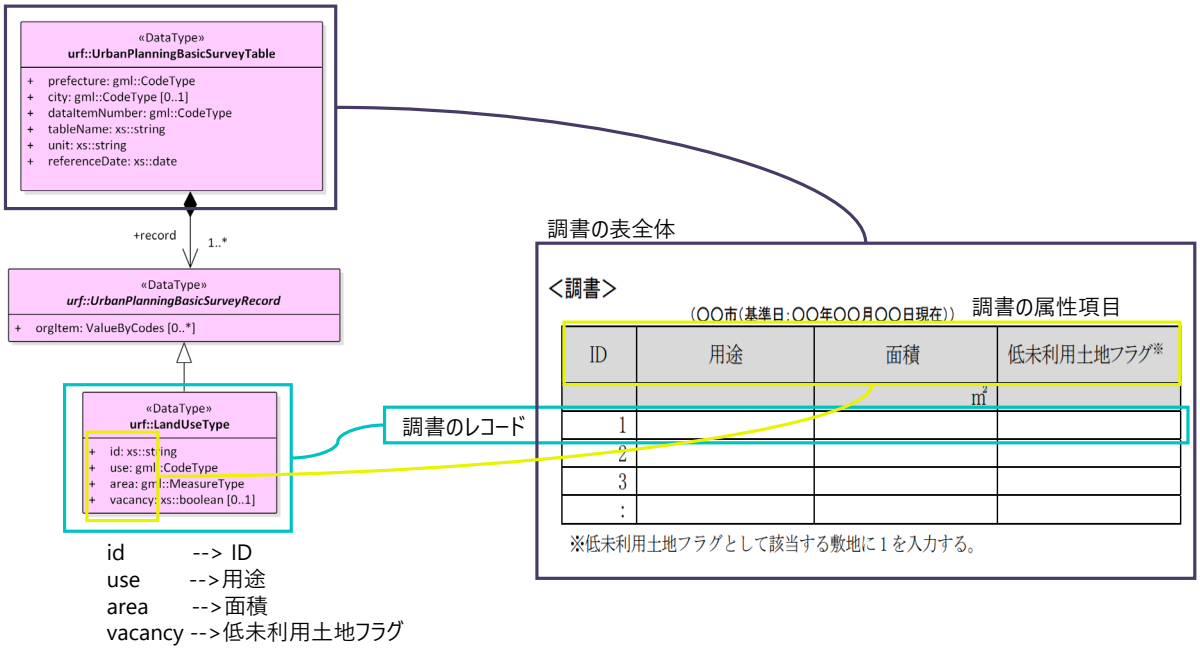


図 3-7　土地利用現況　UML クラス図と調書との対応

調書は、*urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable* と、*urf::UrbanPlanningSurveyRecord* により構成する。*urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable* は、調書の表全体を指し、*urf::UrbanPlanningSurveyRecord* は、表に含まれる個々のレコードを指す。*urf::UrbanPlanningSurveyRecord* は抽象クラスであり、インスタンス化されるのはこれを継承する具象クラスである。土地利用現況の調書の場合は、*urf::LandUseType* がこれに該当する。

urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable には調書を管理するために必要な情報が属性として定義されている。例えば、調書の名称（*tableName*）や基準日（*referenceDate*）である。また、*urf::LandUseType* には、土地利用現況の調書に必要となる情報が属性として定義され、これは都市計画基礎調査実施要領に示される調査の項目に一致する。

なお、*urf::UrbanPlanningSurveyRecord* に定義された属性 *orgItem* は、自治体が独自に調査項目を追加する場合の拡張用の属性である。追加の調査項目が無い場合は使用しなくてよい。

属性 *orgItem* の型である *urf::ValueByCodes* は、追加する属性の名称（*class*）と、これに対応する属性の値を、整数型（*intValue*）、実数型（*doubleValue*）、単位付き計測値型（*measureValue*）、文字列型（*stringValue*）のいずれかから 1 つ選び、属性の名称と値とをセットで記述するためのデータ型である。例えば、独自の調査項目として、土地利用の形状の外周長（単位は m）を追加したい場合は、class の値は、“外周長”となり、これに対応する属性の値は、単位付き計測値型を用いて記述する。

3) 集計表

集計表は、調書に含まれる情報を、集計した結果である。集計表も調書と同様に表形式であるため、調書と同じく i-UR に定義されたデータ型のクラスを使用する。

図 3-8 に土地利用現況の集計表の UML クラス図と集計表との対応を示す。

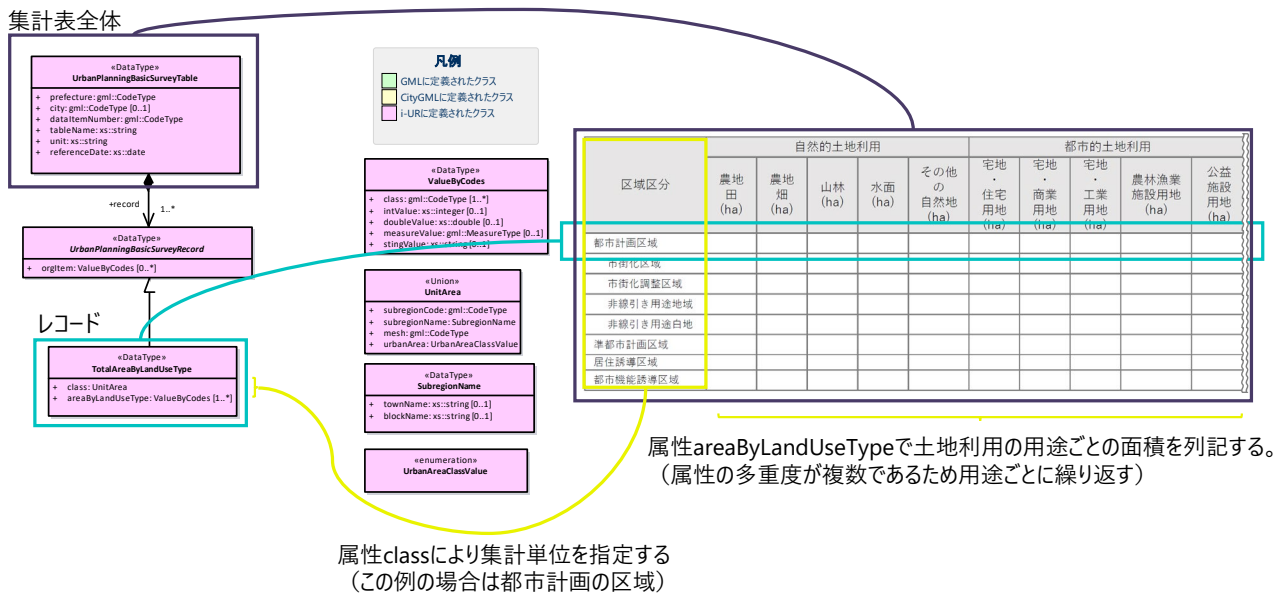


図 3-8　土地利用現況　集計表の UML クラス図と集計表との対応

urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable は、集計表の表全体を指し、*urf::UrbanPlanningSurveyRecord* は、集計表に含まれる個々のレコードを指す。*urf::UrbanPlanningSurveyRecord* は抽象クラスであり、インスタンス化されるのはこれを継承する具象クラスである。土地利用現況の集計表の場合は、*urf::TotalAreaByLandUseType* がこれに該当する。

urf::TotalAreaByLandUseType の属性 *class* は、集計の単位を指す。*class* の型は *urf::UnitArea* である。*urf::UnitArea* は、4 つの集計単位：小地域コード（*subregionCode*）、小地域名（*subregionName*）、メッシュコード（*mesh*）、都市計画区域（*urbanArea*）のいずれかから 1 つを選択できる。土地利用現況の場合は、集計の単位が「小地域名」となる集計表と、「都市計画区域」となる集計表をそれぞれ作成する。

urf::TotalAreaByLandUseType の属性 *areaByLandUseType* は、用途別の土地利用面積である。この属性の型は *urf::ValueByCodes* であり、属性 *class* に土地利用の用途（例：田、畑）を格納し、単位付き計測値型となる *measureValue* を使って合計面積を格納する。*areaByLandUseType* の多重度は、[1..*]であり複数回記述できるようになっている。つまり、土地利用の用途ごとに合計面積を列挙できる。

このように、都市計画基礎調査データはデータ項目ごとに、位置図に記載するものは地物として、調書及び集計表は、表全体とこれを構成するレコードとを分け、それぞれ CityGML 又は i-UR のクラスと対応付けている。

3.1.5. 都市計画決定データ

(1) 都市計画決定データの考え方

都市計画決定データは、都市計画図書である計画図及び計画書のデジタルデータである。

計画図は、都市計画法施行規則第 9 条第 2 項において縮尺 2500 分の 1 以上の平面図と定められており、縮尺 2500 分の 1 で整備される都市計画基本図を基に作成される。すなわち、計画図の位置正確度も都市計画基本図と同等の位置正確度となる。紙地図では都市計画区域のような 1 図郭に収まらない広範な区域を都市計画基本図に図示ができなかったが、デジタルデータとして記述することで図郭の境界を考慮する必要がなくなる。

なお、都市計画の総括図は、都市計画を可能な限り 1 葉の図面に表示することを目的として作成されていることから、都市計画決定データの対象外とする。

標準製品仕様書では、法令に基づき都市計画で決定される各区域（表 3-6）を地物として定義している。また、都市計画において定めるべき事項や定めるよう努める事項、また、都市計画を告示する際に必要となる事項を、区域の属性とし、i-UR のクラスと対応付けている。

都市計画の各区域と、i-UR のクラスとの対応は、標準製品仕様書の 4.4.3 に示す。

表 3-6　都市計画決定データ

都市計画の種類	都市計画法
都市計画区域、準都市計画区域	法六条の二
区域区分	七条
地域地区及び用途地域	八条
促進区域	十条の二

遊休土地転換利用促進地区		十条の三
被災市街地復興推進地域		十条の四
都市施設　（以下で細分していない都市施設）		十一条第 1 項 八号～十五号
	交通施設	一号
	公共空地	二号
	供給施設及び処理施設	三号
	水路	四号
	教育文化施設	五号
	医療施設及び社会福祉施設	六号
	市場、と畜場、火葬場	七号
市街地開発事業		十二条
市街地開発事業等予定区域		十二条の二
地区計画等		十二条の四

(2) データ構造

標準製品仕様書では、表 3-6 に示す都市計画の種類ごとに UML クラス図を示している。ここでは全体像と特徴的な点を解説する。

1) 全体像

都市計画決定データに含まれる各種区域は、i-UR の *urf::_UrbanFunction* を継承する（図 3-10)。*urf::_UrbanFunction* は、CityGML には定義されていない、目には見えない概念的な地物のクラスである。さらに、*urf::_UrbanFunction* を特化し、区切られた一定の範囲を意味する区域（*urf::_Zone*）を継承し、都市計画区域（*urf::UrbanPlanningArea*）、地域地区（*urf::DistrictsAndZones*）、都市施設（urf::UrbanFacility）などの各種区域がクラスとして定義されている。都市計画の各種区域は、面（lod1MultiSurface）により表現する。また、区域の境界は、線（lod1MultiCurve）により表現する。都市計画決定データの LOD や形状は、2)で説明する。

また、都市計画決定データには、*urf::_Zone* を継承する都市計画の区域以外に、*urf::Boundary* と *urf::ThreeDimensionalExtent* の 2 つのクラスが定義されている。*urf::Boundary* は、区域の境界である。*urf::Boundary* は、区域の境界に属性を付与したい場合に使用する。詳細は 6)で説明する。*urf::ThreeDimensionalExtent* は、道路、都市高速鉄道、河川その他の政令で定める都市施設について定めることができる立体的な範囲である。

なお、地域地区を特化して用途地域、都市施設を特化して交通施設というように、さらに特化して詳細なクラスが定義されている場合がある。また、図 3-10 は全体像のみを示しており属性の表示を省略しているが、標準製品仕様書では個々の区域の UML クラス図の中で、都市計画において定めるべき事項や定めるよう努める事項が属性として定義されている。

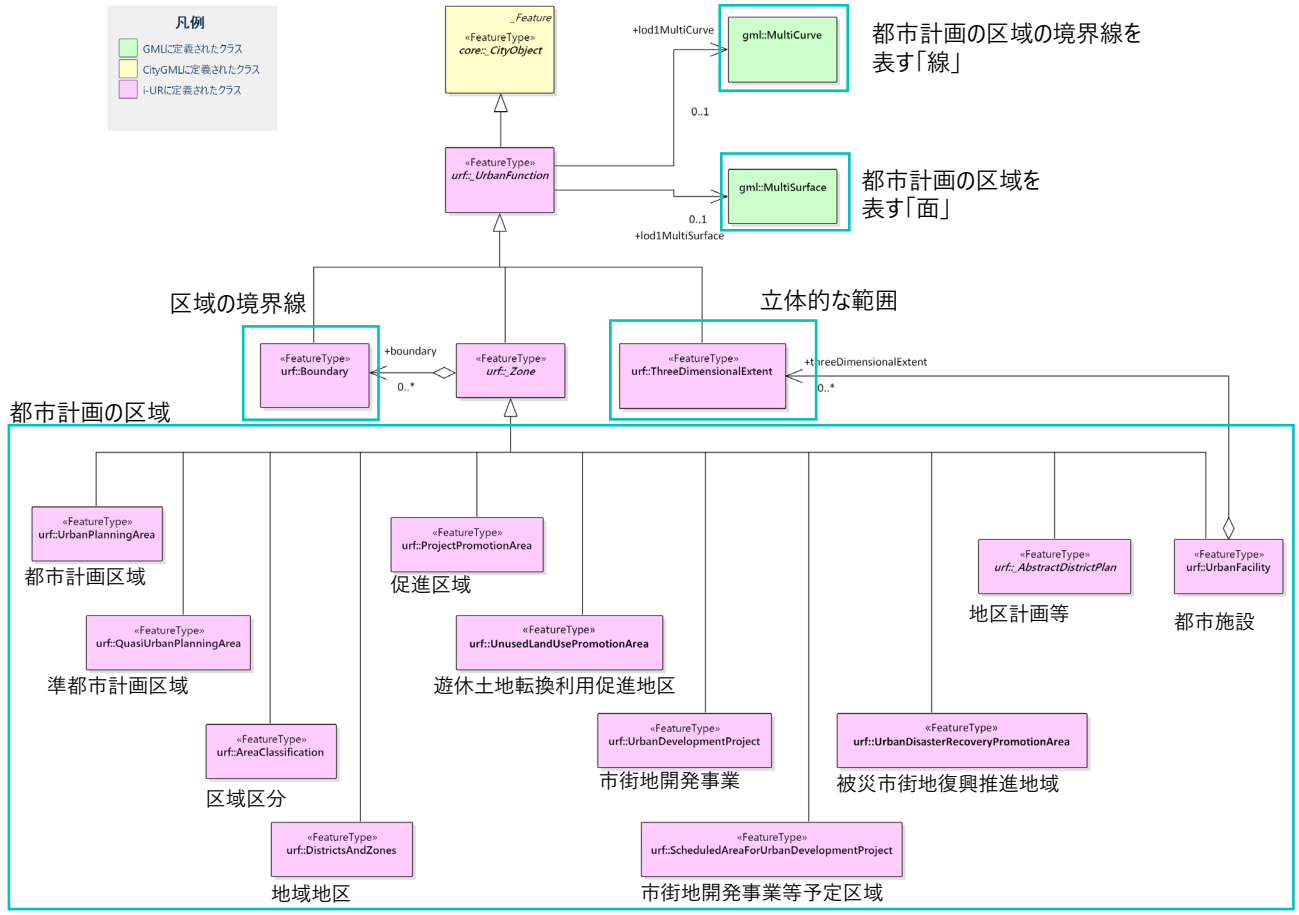


図 3-9　都市計画決定データの UML クラス図（全体像）

2)　都市計画決定データの LOD

標準製品仕様書において、都市計画決定データに適用する LOD は LOD1 である。

都市計画決定データとして定義される、全ての都市計画の区域は、「面」で表現する。

3.1.2 で述べたように、LOD1 では、土地利用や道路、そして都市計画の区域のような面的な広がりをもつ都市オブジェクトは、高さをもたない面として表現される。これらの面は、3 次元の地形に重畳することで 3 次元的に可視化できる。

都市計画の各区域の形状は、上位の抽象クラスである *urf::_UrbanFunction* から継承する *lod1MultiSurface*（面）を使用して記述する。この *lod1MultiSurface* により記述された区域は、計画図の平面図に示す区域の範囲と一致する。都市施設の立体的な範囲である *urf::ThreeDimensionalExtent* も *urf::_UrbanFunction* を継承しており、その形状は *lod1MultiSurface*（面）を使用して記述する。この時、*lod1MultiSurface* により記述する幾何オブジェクトは、計画図の平面図で示される範囲（平面）となる。

なお、区域の境界となる *urf::Boundary* は、*urf::_UrbanFunction* から継承する *lod1MultiCurve*（線）を使用して線として記述する。

3)　運用上必須とする属性

都市計画の各区域を表すクラスは、i-UR の *urf::_UrbanFunction*（図 3-11）を継承する。

urf::_UrbanFunction は i-UR の Urban Function モジュールの最上位の汎用的なクラスであり、これを継承するクラスで使用可能な様々な属性が定義されているが、全てオプション（多重度が[0..1]又は[0..*]）となっている。一方、これを継承する都市計画の各区域では、例えば、いつ決定されたのか、また、都道府県で決定されたのか、市町村で決定されたのか等の情報を必須としたい場合がある。

しかしながら、応用スキーマの UML クラス図の記法には、上位のクラスで指定された多重度を変更する仕組みがない。そこで、オプションとなっている属性を必須としたい場合には、応用スキーマ文書において、属性の定義に「運用上必須とする」という記載をしている。応用スキーマクラス図において属性の多重度がオプションとなっている場合においても、応用スキーマ文書において運用上必須とする旨が記載されている場合には、必ず属性を作成しなければならない。

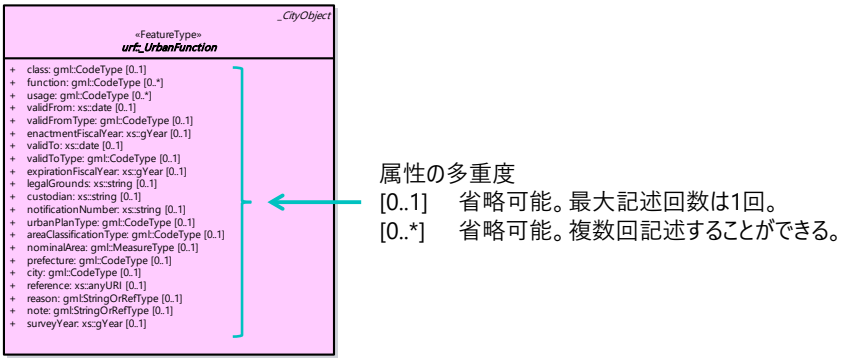


図 3-10 _UrbanFunction の UML クラス図

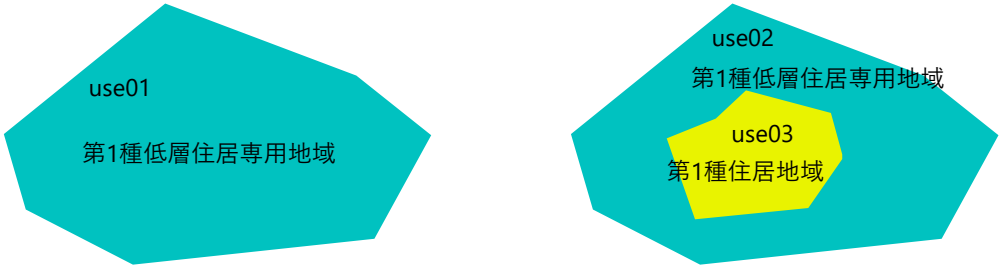
4) 時系列管理

都市計画決定には、新規に決定される場合や、決定された都市計画が変更される場合、また、廃止される場合がある。このような時系列の変遷を、*urf::_UrbanFunction* から継承する属性 *validFrom* と *validTo* により記述できる。

属性 *validFrom* は、都市計画が効力を生じる日付（*xs:date*）である。属性 *validTo* は、都市計画が効力を失う日付（xs:date）である。属性 *validFrom* の日付から *validTo* の日付までが、その都市計画が有効となる期間である。属性 *validFrom* 及び属性 *validTo* には、その種類（属性 *validFromType* 及び属性 *validToType*）を記述できる。これは、それぞれの日付が「決定」、「変更」又は「廃止」のいずれであるかを区別するために用いる。

例えば、用途地域が新規に決定され、その後、変更されたとする（図 3-12）。この場合、当初の都市計画では、用途地域のインスタンスが 1 つ（use01）が作成され、この時 *validFrom* には決定された日付（2012-04-01）が入り、*validFromType* は「決定」となる。そして、都市計画が変更されると、*validTo* には、変更により効力を失った日付（2018-03-31）が入る。この時の *validToType* は「変更」となる。また、都市計画の変更により、新たに 2 つの用途地域のインスタンス（use02、use03）が作成され、これらの *validFrom* には決定された日付（2018-04-01）が入り、*validFromType* は「変更」となる。変更により追加された用途地域のインスタンスは、現在有効であるため、*validTo* 及び *validToType* の値は NULL となる。将来これらの用途地域が廃止されたり、あるいは変更されたりした場合には *validTo* 及び

validToType の値を追加する必要がある。



2012年4月1日　　2018年4月1日

用途地域	validFrom	validFromType	validTo	validToType	種類
use01	2012-04-01	決定	2018-03-31	変更	第 1 種低層住居専用地域
use02	2018-04-01	変更			第 1 種低層住居専用地域
use03	2018-04-01	変更			第 1 種住居地域

図 3-11　都市計画の変遷

このようにして、*validFrom*、*validFromType*、v*alidTo*、*validToType* の 4 つの属性を使用すると、都市計画の各区域が決定されてから廃止されるまでの変遷をデータとして管理・利用できるようになる。

5)　外部ファイルの参照

都市計画において定めるべき項目あるいは定めることができる項目には、定型化されていないものや図表が含まれるものがある。このような情報に対応する属性には、型として *gml:StringOrRefType* を設定している。

gml:StringOrRefType は、文字列（*xs:string*）又は参照（*xlink:href*）のいずれかを選択可能な型である。文字列で記述することが難しい場合は、*xlink:href* を用いて外部ファイルを参照することができる。外部ファイルとは、自治体のウェブサイト等から公開されている都市計画決定に関わる計画書や計画図の HTML や PDF 等であり、*xlink:href* の値としてその URL を記載する。

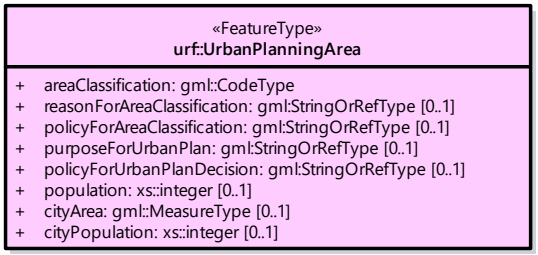


図 3-12　都市計画区域（urf::UrbanPlanningArea）の UML クラス図

例えば、都市計画区域（*urf::UrbanPlanningArea*）の場合は、区域区分を定めるときの方針（*policyForAreaClassification*）や都市計画の目標（*purposeForUrbanPlan*）などの属性がこれに該当する（図 3-13）。これらの情報は長文であったり、図表が入っていたりする場合もあり、構造化したデータとして記述することが難しい場合がある。この場合、各自治体のウェブサイトから PDF 等の文書として公開されている「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の URL を値として記述する。

6） 境界

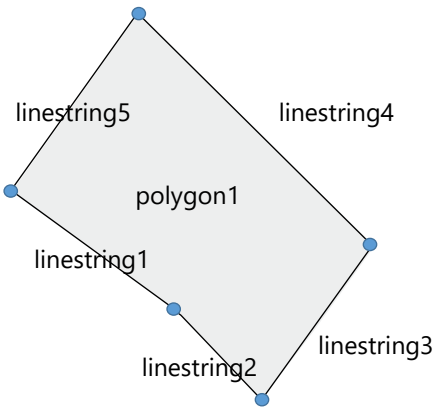
都市計画区域や用途区域等の区域は、境界線により区切られる。区域の形状は *gml::MultiSurface*（面）により表現され、面の境界は、*gml::LineString*（折れ線）で表現される。

都市計画では、区域の境界を「地番界」や「道路中心線」などの地物を用いて指定したり、あるいは「道路中心線から 2m のセットバック」のように地物からの距離で指定したりする場合がある。しかしながら、幾何オブジェクトである *gml::LineString* にはこのような情報を属性として付加できない。

そこで、区域の境界が何であるのかを属性としてもたせるために定義された地物が、*urf::Boundary* である。*urf::Boundary* は、区域（urf::_Zone）を区切る境界である（図 3-10）。*urf::Boundary* は、*urf::_UrbanFunction* から継承する属性 *function* により、その境界線が行政界なのか、道路中心線なのか等の種類を指定できる。

ただし、*urf::Boundary* の幾何オブジェクトは、これにより区切られる都市計画区域や用途地域等の区域を示す面の境界と一致しなければならない。例えば、ある地区計画の境界が地番界と道路区域界により指定されていたとする（図 3-14）。この時、地区計画の区域は、この地区計画の境界の線（linestring1～linestring5）を外周とする面となる。





地物	lod1MultiSurface
地区計画A	polygon1

地物	lod1MultiCurve
境界線a	linestring1
境界線b	linestring2, linstring3, linestring4, linestring5

Polygon	exterior（外周）
polygon1	linestring1, linestring2, linstring3, linestring4, linestring5

図 3-13　urf::Boundary と urf::_Zone の応用スキーマクラス図

なお、区域の境界線に属性をもたせる必要が無い場合は、*urf::Boundary* を作成しなくてよい。

3.1.6. 空間スキーマ

空間スキーマとは、点、線及び面などの座標をもつ幾何的な要素（幾何オブジェクト）を定義するスキーマであり、地理情報標準の一つである。

地理情報標準では、地物の位置や形状も地物の特性として捉えており、これを空間属性と呼ぶ。空間スキーマでは、この地物の空間属性を記述するための幾何オブジェクトやその構造を定義している。

空間スキーマには様々な幾何オブジェクトが定義されているが、都市計画データでは 2 次元で位置や形状を記述するために必要となる幾何オブジェクトのみを抽出している。これを空間スキーマプロファイルと呼ぶ。

本項では、空間スキーマプロファイルに含まれる幾何オブジェクトについて、GML により符号化した場合のインスタンスと合わせて解説する。

(1) 基本的な幾何オブジェクト

空間スキーマプロファイルは、基本的な幾何オブジェクトとこれらの集まりで構成する。

図 3-15 は基本的な幾何オブジェクトである。

基本的な幾何オブジェクトとは、点、線及び面である。基本的な要素の上位クラスである *gml::_GeometricPrimitive* を継承し、点（*gml::Point*）、線（*gml::_Curve*）、面（*gml::_Surface*）が定義される。*gml::_Curve* は、さらにこれを継承し折れ線（*gml::LineString*）が、また、*gml::_Surface* は、これを継承し多角形（*gml::Polygon*）がそれぞれ定義される。

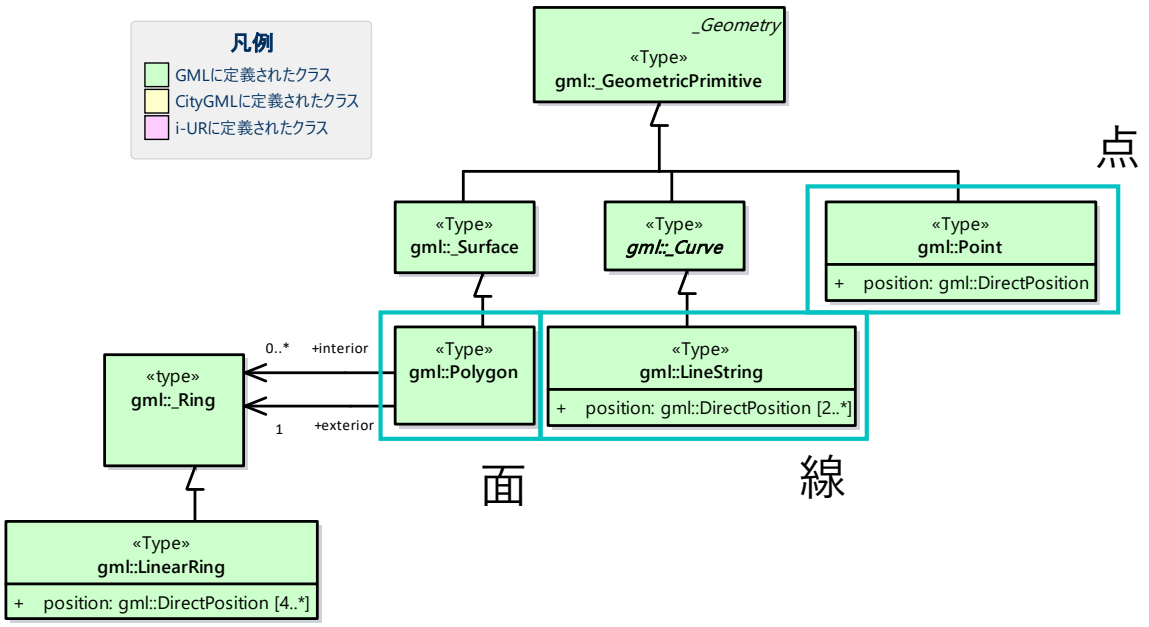


図 3-14　空間スキーマプロファイル（1）

gml::Point は、座標（*gml::DirectPosition*）をもつ。*gml::LineString* は、始点及び終点を含む 2 点以上の座標から構成される。さらに、*gml::Polygon* は、1 つの外周（*exterior*）をもち、また、内周（*interior*）をもつこともできる。内周や外周は、輪（*gml::_Ring*）により定義される。輪を継承する *gml::LinearRing* は、平面の輪である。*gml::Polygon* の外周及び内周には、この *gml::LinearRing* を使用する。*gml::LinearRing* の輪は、4 点以上の座標の列により記述する。この時、始点と終点は一致し、これは輪が「閉じている」ことを意味する。

(2) 点（gml::Point）

gml::Point は、点を記述するための幾何オブジェクトであり、その位置を示す座標値をもつ。

座標値の記述には、<gml:pos>を使用する。

記述例：

```
<gml:Point gml:id="pos001">
        <gml:pos>-17833.33 -40388.62 0.0</gml:pos>
</gml:Point>
```

座標値は X、Y、Z の順列とし、それぞれを半角スペースで区切る。この時、X 及び Y は、「日本測地系 2011 における平面直角座標系」に従う。X 及び Y の座標値は、小数点第 2 位（センチメートル）とする。また、都市計画データの場合は、2 次元データであるため、高さを示す座標値は 0.0 とする。

平面直角座標系では、X は真北に向かう値を正し、Y は真東に向かう値を正とすることに注意すること。また、3D 都市モデルでは経緯度座標系が採用されていることにも注意すること。

(3) 線（gml::_Curve, gml::LineString）

gml::_Curve は線を記述するために使用される幾何オブジェクトである。*gml::_Curve* は抽象クラスであり、インスタンスはこれを継承する具象クラスを用いて作成する。*gml::_Curve* を継承する具象クラスは複数あるが、都市計画データでは、*gml::LineString* のみを使用する。*gml::LineString* は、折れ線である。

gml::LineString は、以下の事項を守らなければならない。

1) *gml::LineString* を構成する点を、以下の方法により記述する。

- *gml:posList* を用いて記述する。この時、*gml:posList* には 2 点以上の座標値が含まれてなければならず、すべての座標値には同じ空間参照系が適用されなければならない。

2) *gml::LineString* を構成する点の座標値は、始点と終点が一致する場合を除き、一意とする。

3) *gml::LineString* は交差したり、重なったりしてはならない。

gml::LineString は、2 点以上の点から構成され、それらの点の順序は始点から終点までの順列になっていなければならない。始点と終点以外の点の座標が、他の点の座標と一致していてはならず、また、一つ

の折れ線に自己交差や重なりがあってはならない（図 3-16）。

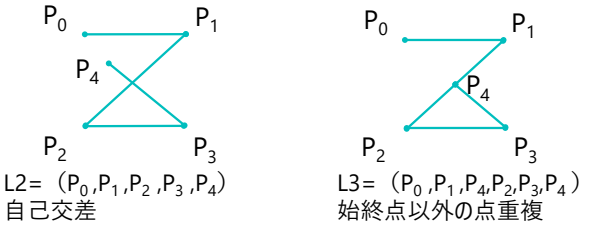


図 3-15　エラーとなる gml:LineString の例

gml::LinearString を CityGML で記述する場合、複数の記述方法があるが、標準製品仕様書では、<gml:posList>を使用する方法を採用する。これは、*gml::LineString* を構成する座標値を 1 つの要素の値として列挙する方法である。

```
<gml:posList>-178333.3 -40388.62 0.0 -17832.25 -40389.91 0.0</gml:posList>
```

(4) 面（gml::_Surface, gml::Polygon）

gml::_Surface は面を記述するために使用される幾何オブジェクトである。*gml::_Surface* は抽象クラスであり、インスタンスはこれを継承する具象クラスを用いて作成する。*gml::_Surface* を継承する具象クラスは複数あるが、都市計画データでは、*gml::Polygon* のみを使用する。*gml::Polygon* は、多角形である。

gml::Polygon は 1 個の外周（*exterior*）を必ずもち、また、0 個以上複数個の内周（*interior*）をもってもよい。内周がある場合は、外周と内周とは同じ平面上に存在しなければならない。つまり、*gml::Polygon* を構成する全ての点は同じ平面上に存在しなければならない。ただし、都市計画データの場合は、2 次元（高さを示す座標値が 0）のデータとなるため、全ての点は高さ=0 の平面上に存在するため、内周は必ず外周と同じ平面上に存在する。*gml::Polygon* の外周及び内周は *gml::LinearRing*（輪）を使って記述する。

また、*gml::Polygon* の外周の頂点の順列が *gml::Polygon* の向き（法線）を決める。都市計画データの場合、*gml::Polygon* の向きは全て「正」となる。また、向きが「正」となる *gml:Polygon* は、頂点の順列が面の内部を左側に見る順序でなければならない。よって、外周は、常に左回り（反時計回り）となり、内周が存在する場合は、内周の頂点の順列は、右回り（時計まわり）となる（図 3-17）。

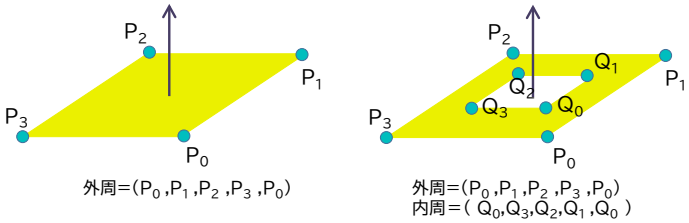


図 3-16　gml::Polygon の向きと外周及び内周の頂点の順列

妥当な *gml::Polygon* は、以下を満たさなければならない。

1）内周が、外周に完全に含まれている。
2）内周が他の内周と重なっておらず、他の内周に包含されてもいない。
3）内周が外周に接していてもよいが、*gml::Polygon* の内部を分断しない。
4）内周と外周が線分で重ならない。
5）外周及び内周に自己交差がなく、始終点以外の点で一致する点がない。

gml::Polygon は、1 個の外周をもたなければならず、また、0 個以上の内周をもつことができる。

一つの *gml::Polygon* の内周は必ず外周に含まれていなければならない（図 3-18①）。内周が外周に含まれていない *gml::Polygon*（図 3-18 ②）は誤りである。

gml::Polygon の内周が外周に接していてもよい(図 3-17 ③)が外周の 2 ヵ所以上に接し、*gml::Polygon* の内部を分断してしまう（図 3-18 ④）場合は、誤りである。

一つの *gml::Polygon* に二つ以上の内周が存在していてもよい（図 3-18 ⑤）が、一つの内周が、他の内周と重なっていたり、包含されていたりしてはならない（図 3-18 ⑥）。

内周及び外周は、自己交差してはならない（図 3-18 ⑦）。また、始終点以外で一致する頂点が存在してはならない（図 3-18 ⑧）。内空が存在するドーナツ状の幾何オブジェクトを作成したい場合は内周により内空を表現する（図 3-18①）ことが正しく、一筆書きで内空を表現する（図 3-18 ⑧）ことは誤りである。

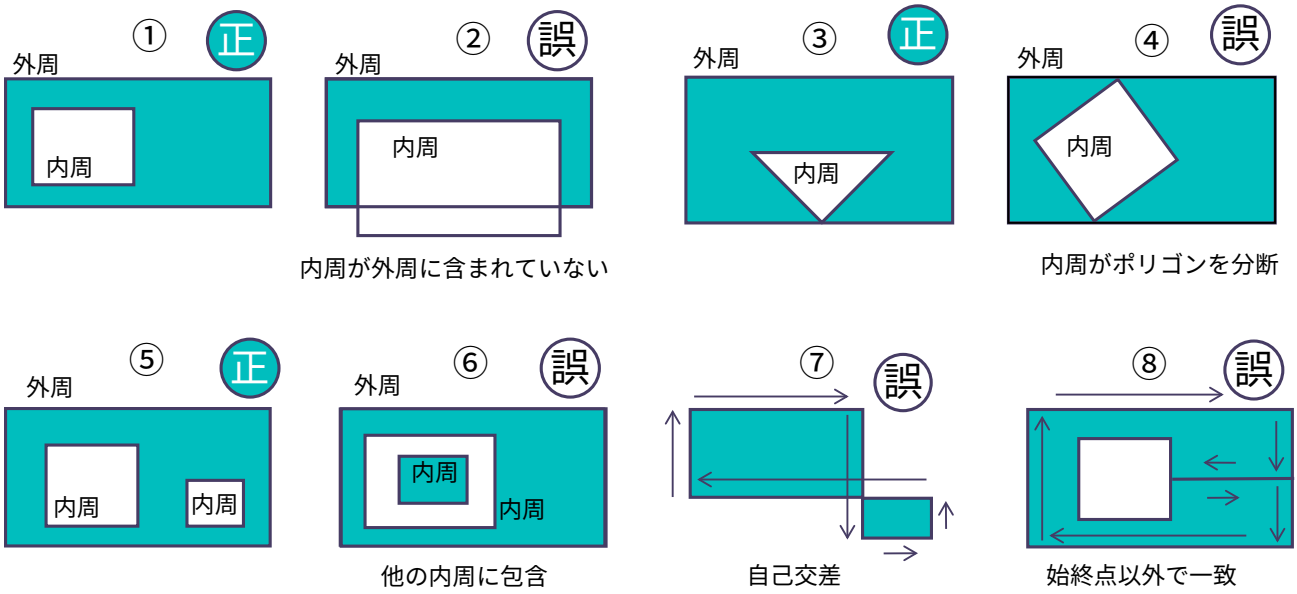


図 3-17　正しい gml:Polygon と誤った gml:Polygon の例

図 3-17 ④⑥⑦⑧のような事例は、1 つの *gml::Polygon* として記述するとエラーとなる。一方で、このような幾何形状を表現したい場合には、それぞれを *gml::Polygon* に分割し、これらの集まりである

gml::MultiSurface を使用することで 1 つの幾何オブジェクトとして扱うことができる。

(5) 輪（gml::_Ring, gml::LinearRing）

gml::_Ring は輪を記述するために使用される幾何オブジェクトである。*gml::_Ring* は抽象クラスであり、インスタンスはこれを継承する具象クラスを用いて作成する。*gml::_Ring* を継承する具象クラスは複数あるが、都市計画データでは、*gml::LinearRing* のみを使用する。*gml::LinearRing* は、平面の輪である。*gml::LinearRing* は、*gml::Polygon* の外周及び内周を記述するために使用する。

gml::LinearRing は、以下の事項を守らなければならない。

1) 4 点以上の順列から構成され、始点と終点が一致する。
2) *gml::LinearRing* を構成する全ての点は、始点と終点を除き、一致しない。
3) 自己交差しない。

gml::LinearRing は、閉じた「輪」、すなわち、始終点が一致していなければならず、また、自己交差や始終点以外での一致は許さない（図 3-19）。

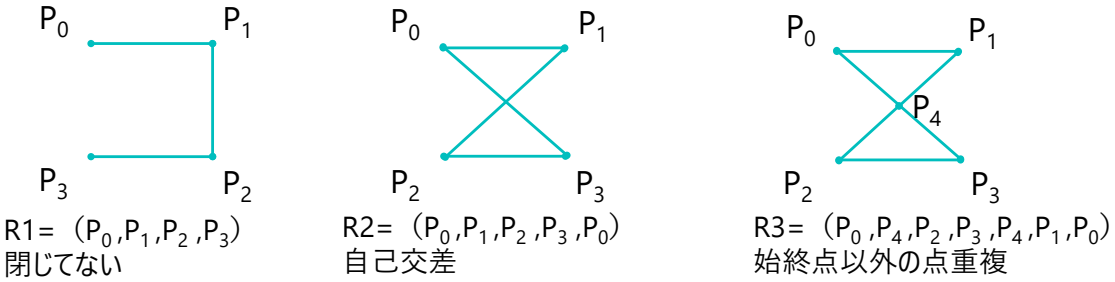


図 3-18　エラーとなる gml:LinearRing の例

gml::LinearRing の座標列の記述には、<gml:posList>を使用する。UML クラス図では、*gml::LinearRing* の属性 *position* の多重度が 4 以上（[4..*]）となっている。これは、面を構成するには始点と終点以外に 2 点以上の中間点が必要であることを意味する。よって、<gml:posList>にも 4 点以上の座標列が記述され、始点と終点の座標値は必ず一致する。4 点で記述される場合は、三角形となる。

```
<gml:posList>0.0 0.0 0.0 -1.0 0.0 0.0 -1.0 -1.0 0.0 0.0 -1.0 0.0 0.0 0.0 0.0</gml:posList>
```

(6) 集まりとなる幾何オブジェクト

幾何オブジェクトには、基本的な幾何オブジェクトの集まりとして記述されるものがある（図 3-20）。

gml::_AbstractGeometricAggregate は、幾何オブジェクトの集まりであり、これを継承するクラスは、集める幾何オブジェクトの種類が異なる。点（*gml::Point*）の集まりは *gml::MultiPoint*、線の集まりは

gml::MultiCurve、面の集まりは *gml::MultiSurface* である。集まりに含まれる幾何オブジェクト同士が、重なっていたり、離れていたりしてもよい。

gml::GeometricComplex も基本的な幾何オブジェクトの集まりである。この時、個々の幾何オブジェクト同士は離れていてもよいが、重なったり、交差したりしてはならない。

なお、基本的な幾何オブジェクト（点、線、面）は、集まりとなる幾何オブジェクトの構成要素になってもよいし、ならなくてもよい。また、同じの基本的な幾何オブジェクトが、複数の幾何オブジェクトの集まりの構成要素となってもよい。

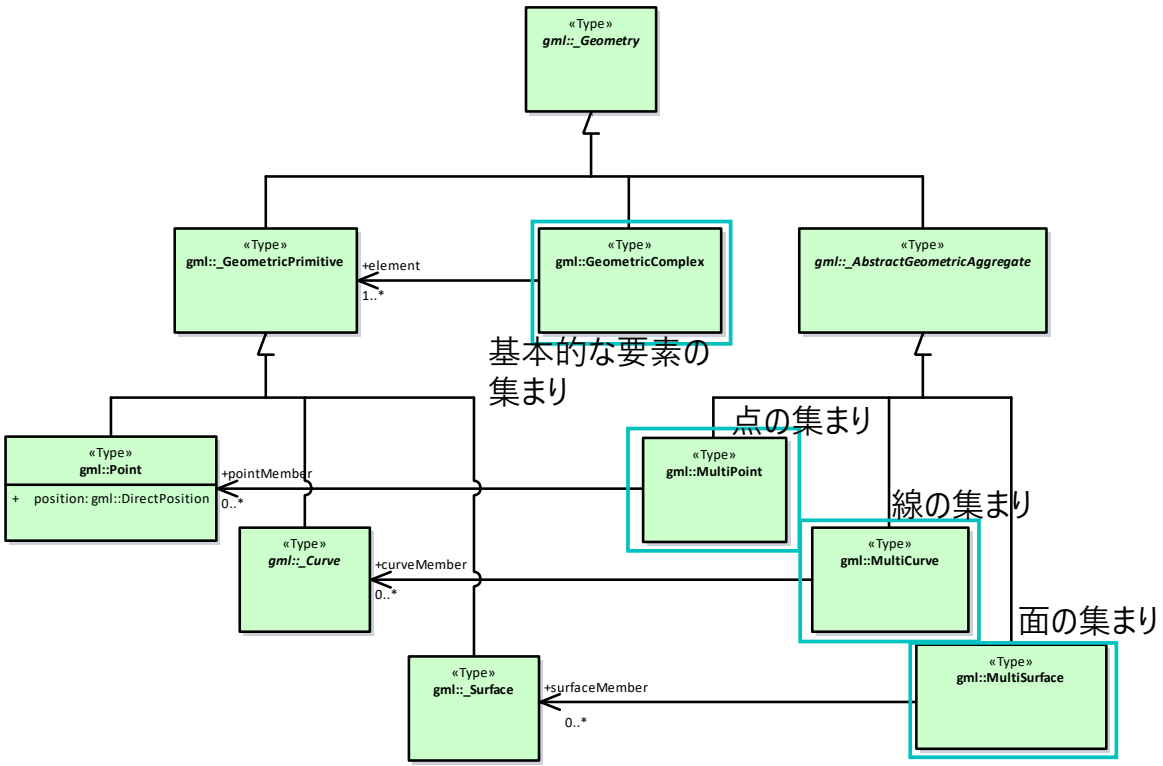


図 3-19　空間スキーマプロファイル（2）

(7) 点の集まり（gml::MultiPoint）

点の集まりは、*gml::MultiPoint* を用いて記述する。関連役割 *pointMember* により構成する点（*gml::Point*）を直接記述又は参照する。*gml::MultiPoint* には、1 つ以上の点が含まれていなくてはならない。

直接記述とは、*gml::Point* のインスタンスを記述することである。一方、参照とは、*gml::Point* のインスタンスの識別子を参照することである。この場合、別の場所に、その識別子が付与された *gml::Point* のインスタンスが存在していなければならない。以下に示す記述例は、2 点からなる gml::MultiPoint のインスタンスである。1 点目は直接記述されており、2 点目は参照されている。この時、“gml:id=pos01”となるような *gml::Point* が、存在しなければならない。

記述例：

```
<gml:MultiPoint>
        <gml:pointMember>
                <gml:Point>
                        <gml:pos>-17833.33 -40388.62 0.0</gml:pos>
                </gml:Point>
        </gml:pointMember>
        <gml:pointMember xlink:idref=”#pos01”/>
</gml:MultiPoint>
```

(8) 線の集まり（gml::MultiCurve）

線の集まりは、*gml::MultiCurve* を用いて記述する。関連役割 *curveMember* により構成する線（*gml::_Curve*）を直接記述又は参照する。*gml:MultiCurve* には、1 つ以上の *gml::_Curve* が含まれていなくてはならない。CityGML では、線として *gml::LineString* のみが使用可能であるため、*gml::MultiCurve* は *gml::LineString*（折れ線）の集まりとなる。構成要素となる *gml::LineString* は、重なっていたり、離れていたりしてもよい。また、構成要素となる線の向きに制約はない。

(9) 面の集まり（gml::MultiSurface）

面の集まりは、*gml::MultiSurface* を用いて記述する。関連役割 *surfaceMember* により構成する面（*gml::_Surface*）を直接記述又は参照する。*gml:MultiSurface* には、1 つ以上の *gml::_Surface* が含まれていなくてはならない。CityGML では、面として *gml::Polygon* のみが使用可能であるため、*gml::MultiSurface* は *gml::Polygon*（多角形）の集まりとなる。構成要素となる *gml::Polygon* は、重なっていたり、離れていたりしてもよい。また、構成要素となる曲面の向きに制約はない。

(10)ネットワーク（gml::GeometricComplex）

gml::GeometricComplex は基本的な幾何オブジェクトの集まりである。このとき、構成要素同士の交差が許されない。

CityGML では、線形ネットワークを記述する場合に、*gml::GeometricComplex* を使用する。この時、*gml::GeometricComplex* は *gml::LineString* の集まりとなる。

gml::GeometricComplex の構成要素となる線は、互いに離れていてもよいが、交わってはならない。すなわち、道路の中心線を *gml::GeometricComplex* で表現する場合、道路同士の交差点では必ず *gml::LineString* を区切り、*gml::LineString* 同士の端点が同じ座標を共有しなければならない。この交わってはならない点が、*gml::MultiCurve* とは異なる。

3.2. 参照系

参照系とは、空間及び時間の位置を定める基準である。

3.2.1. 空間参照系

都市計画データの水平方向の空間参照系は、平成 14 年国土交通省告示第 9 号で定義される平面直角座標系とする。平面直角座標系とは、座標値が次の条件に従ってガウス・クリューゲルの等角投影法によって表示されるように、全国を 19 の座標系に区分する座標参照系である（表 3-7)。

- 座標系の X 軸は、座標系原点において子午線に一致する軸とし、真北に向かう値を正とする。
- 座標系の Y 軸は、座標系原点において座標系の X 軸に直交する軸とし、真東に向かう値を正とする。
- 座標系の X 軸上における縮尺係数は、0.9999 とする。
- 座標系原点の座標値は、次のとおりとする。
  - X=0.000 メートル　Y＝0.000 メートル

表 3-7　平面直角座標系

系	座標系原点の経緯度		適用区域	EPSG コード
	東経	北緯		
I	129° 30’0”	33° 0’0”	長崎県 鹿児島県のうち北方北緯 32 度南方北緯 27 度西方東経 128 度 18 分東方東経 130 度を境界線とする区域内（奄美群島は東経 130 度 13 分までを含む。)にあるすべての島、小島、環礁及び岩礁	6669
II	131° 0’0”	33° 0’0”	福岡県　佐賀県　熊本県　大分県　宮崎県　鹿児島県（I 系に規定する区域を除く。）	6670
III	132° 10’0”	36° 0’0”	山口県　島根県　広島県	6671
IV	133° 30’0”	33° 0’0”	香川県　愛媛県　徳島県　高知県	6672
V	134° 20’0”	36° 0’0”	兵庫県　鳥取県　岡山県	6673
VI	136° 0’0”	36° 0’0”	京都府　大阪府　福井県　滋賀県　三重県　奈良県 和歌山県	6674
VII	137° 10’0”	36° 0’0”	石川県　富山県　岐阜県　愛知県	6675
VIII	138° 30’0”	36° 0’0”	新潟県　長野県　山梨県　静岡県	6676
IX	139° 50’0”	36° 0’0”	東京都（XIV 系、XVIII 系及び XIX 系に規定する区域を除く。） 福島県　栃木県　茨城県　埼玉県 千葉県　群馬県 神奈川県	6677
X	140° 50’0”	40° 0’0”	青森県　秋田県　山形県　岩手県　宮城県	6678
XI	140° 15’0”	44° 0’0”	小樽市　函館市　伊達市　北斗市　北海道後志総合振興局の所管区域　北海道胆振総合振興局の所管区域のうち豊浦町、壮瞥町及び洞爺湖町　北海道渡島総合振興局の所管区域　北海道檜山振興局の所管区域	6679
XII	142° 15’0”	44° 0’0”	北海道（XI 系及び XIII 系に規定する区域を除く。）	6680
XIII	144° 15’0”	44° 0’0”	北見市　帯広市　釧路市　網走市　根室市　北海道オホーツク総合振興局の所管区域のうち美幌町、津別町、斜里	6681

			町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町及び大空町　北海道十勝総合振興局の所管区域　北海道釧路総合振興局の所管区域　北海道根室振興局の所管区域	
XIV	142° 0’0”	26° 0’0”	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 140 度 30 分から東であり東経 143 度から西である区域	6682
XV	127° 30’0”	26° 0’0”	沖縄県のうち東経 126 度から東であり、かつ東経 130 度から西である区域	6683
XVI	124° 0’0”	26° 0’0”	沖縄県のうち東経 126 度から西である区域	6684
XVII	131° 0’0”	26° 0’0”	沖縄県のうち東経 130 度から東である区域	6685
XVIII	136° 0’0”	20° 0’0”	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 140 度 30 分から西である区域	6686
XIX	154° 0’0”	26° 0’0”	東京都のうち北緯 28 度から南であり、かつ東経 143 度から東である区域	6687

ガウス・クリューゲルの等角投影法により、座標原点を通る子午線は等長に、図形は等角の相似形に投影される。しかし、原点から東西に離れるに従って平面距離が増大する。そこで、平面直角座標系では、投影距離の誤差を相対的に 1/10000 以内に収めるよう座標原点を通る子午線上の縮尺係数を 0.9999 に設定し、かつ、座標原点から東西約 130km 以内を適用範囲としている（図 3-21)。平面直角座標系を用いて、地物を平面上に投影し、位置・方向・距離等を計算することは、曲面上の処理に比べ非常に簡単になり便利である。また、都市計画基本図のように、測量範囲が狭い場合には、十分正確に表すことが可能である。

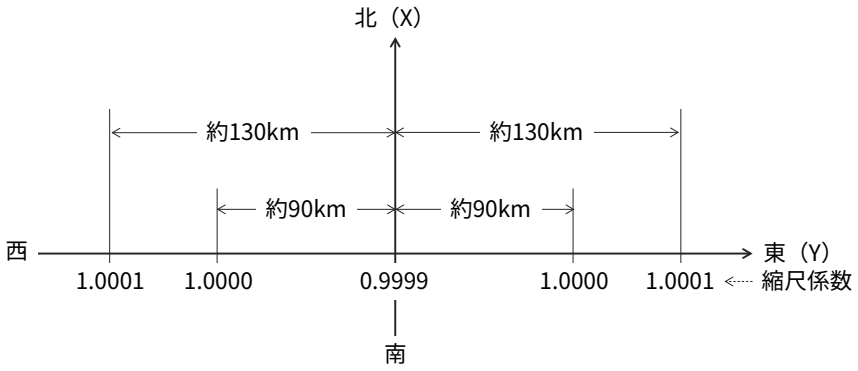


図 3-20　平面直角座標系の軸の方向と縮尺係数

なお、都市計画データは、高さをもたない 2 次元のデータである。ただし、等高線のように、属性として高さをもたせる場合がある。この場合には、測量法施行令（昭和２４年政令第 322 号）第２条第２項に規定する日本水準原点を基準とする高さ（以下「標高」という。）を採用する。

3.2.2. 時間参照系

都市計画データの時間参照系は、「グレゴリオ暦及び日本標準時」とする。標準製品仕様書において、

日付型（xs:date）や年型（xs:gYear）で指定された属性の値は、グレゴリオ暦（西暦）で記述する。

3.2.3. 地理空間データにおける参照系の指定

都市計画データに適用する参照系のうち、時間参照系は「グレゴリオ暦及び日本標準時」により一律固定されているため、地理空間データに含まれる座標に適用する参照系は、空間参照系のみを指定する。

空間参照系の指定は、データ集合の範囲を示す *gml::Envelope* の *srsName* 属性に記述する。

データ集合に記述する空間参照系は、これの定義を取得可能な URI により指定する。URI は OGC による座標参照系の定義を使用することを原則とし、以下のように記載する。

http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/[epsg]

ここで、[epsg]は、空間参照系ごとに割り当てられた識別子（EPSG コード）であり、平面直角座標系の場合には系ごと表 3-7 に示す 4 桁の半角数字が該当する。例えば、平面直角座標系第 9 系の場合は、以下となる。

URI の例：http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6677

記述例：

```
<gml:boundedBy>
  <gml:Envelope srsName="http://www.opengis.net/def/crs/EPSG/0/6677"  srsDimension="3">
                <gml:lowerCorner>-38089.22 -16905.43 0.0</gml:lowerCorner>
                <gml:upperCorner>-33148.56 -10185.34 0.0</gml:upperCorner>
  </gml:Envelope>
</gml:boundedBy>
```

gml:Envelope の属性 *srsName* に空間参照系の URI を記述する。属性 *srsDimension* には次元数を入れる。*gml:lowerCorner* には、X 座標、Y 座標及び標高の最小値を記載し、*gml:upperCorner* には最大値を記載する。ただし、標高は最大値、最小値ともに 0.0 となる。

3.3. 品質要求及び評価手順

3.3.1. 標準製品仕様書の品質要求

地理空間データの品質とは、製品仕様（地理空間データへの要求事項）と、作成された地理空間データとの差異である。地理情報標準では、地理空間データの定量的な品質として、表 3-8 に示す 5 つの区分を行い、15 の品質要素を定義している。

表 3-8　定量的な品質の区分

品質の区分	内容	品質要素
完全性	地理空間データに含まれるべき地物、地物属性、地物関連のインスタンスの過不足。	過剰、漏れ
論理一貫性	データの論理的な規則に対する適合度。	書式一貫性、論理一貫性、定義域一貫性、位相一貫性
位置正確度	地物の位置の正確さ。	絶対位置正確度、相対位置正確度、グリッド位置正確度
主題正確度	地物の分類や定量・非定量的属性の正確さ。	分類の正しさ、非定量的属性の正しさ、定量的属性の正確度
時間品質	地物の時間属性の正確さ。	時間測定正確度、時間一貫性、時間妥当性

標準製品仕様書では、都市計画基本図データ、都市計画基礎調査データ、都市計画決定データのそれぞれの特徴を踏まえ、それぞれに品質要求を設定している。

なお、標準製品仕様書では、位置正確度は、絶対位置正確度のみを使用し、相対位置正確度及びグリッド位置正確度は使用していない。また、時間に係る属性への品質要求は、時間品質ではなく、主題正確度を用いている。これは、CityGML 及び i-UR が時間品質の対象である時間スキーマを採用していないためである。

品質要求では、表 3-8 に示す品質要素に対して、その品質要素を適用する範囲（データ品質適用範囲）、評価に使う尺度（データ品質評価尺度）、合否の判定基準（適合品質水準）を指定する。

データ品質適用範囲は、データ集合全体を指定してもよいし、特定の地物型や地物属性・地物関連を指定してもよい。また、いくつかの地物型のようにグループでもよい。通常は、同じ品質要求を適用する対象をまとめて指定する。データ品質評価尺度は、測定できる（数値で表される）品質の意味である。エラーの数や割合、あるいは誤差の量などが該当する。良否の判定が必要な場合は、誤りの基準を記述する。適合品質水準は品質評価尺度に基づき計測された値の合否の判定基準である。例えば、エラーの数の場合は、エラーが 0 個の場合には合格、1 個以上の場合は不合格というように、合否を分けるエラーの数を記述する。

(1) 都市計画基本図データの品質要求

都市計画基本図データの品質要求は、「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案）」に準じている。

完全性については、地物の重要度に応じたエラーの数又は割合を許容している。

論理一貫性については、エラーを許容しない。

位置正確度は、作業規程の準則に示された「地図情報レベル 2500」における標準偏差（水平位置の標準偏差 1.75m 以内、標高点の標準偏差 0.66m 以内、等高線の標準偏差 1.0m 以内）を適合品質水準として採用している。

主題正確度は、地物の重要度に応じたエラーの数又は割合を許容している。

(2) 都市計画基礎調査データの品質要求

都市計画基礎調査データの品質要求は、「都市計画 GIS データの共通仕様（案)」を参考に設定している。都市計画基礎調査データには、自治体自らが調査をするデータ項目だけではなく、他機関で整備されている GIS データ等を収集・加工し作成するデータが存在する。

前者の場合は、「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案)」に準じた品質要求とし、後者については参照データとなる原典資料との一致を品質要求として設定している。

(3) 都市計画決定データの品質要求

都市計画決定データの品質要求は、「都市計画 GIS データの共通仕様（案)」を参考に設定している。都市計画データは、都市計画図書をベースに作成されるデータであり、都市計画図書との差異は許容されない。そこで、完全性や主題正確度は、参照データ（都市計画図書）との一致を品質要求として設定している。

なお、位置正確度は、都市計画の各区域が、都市計画基本図を背景に作成されることから、都市計画基本図上で区域の境界線として使用している地物（道路縁、行政界等）との相対的な距離が 0、すなわち、一致していることを品質要求として設定している。

3.3.2. 標準製品仕様書の品質評価手順

品質評価手順は、品質情報を求める過程の記述である。地理情報標準では、品質評価手順は製品仕様書の必須の記載項目ではなく、品質要求に応じてデータ作成者が品質評価手順を設定できるとされている。一方で、様々な事業者がデータ作成に関わる可能性がある場合、事業者ごとに品質評価手順を検討することも、発注者が事業者ごとに品質評価手順の妥当性を評価することも作業の重複となる。そこで、標準製品仕様書では、品質評価手順も定めている。

品質評価手順は、具体的な品質評価手法とその手順を示す。標準製品仕様書で示す品質評価手法は、「地図情報レベル 2500 数値地形図データ作成のための標準製品仕様書（案)」に準じている。標準製品仕様書では、品質評価手法として「全数・自動検査」と「全数・目視検査」、「抜取・目視検査」「抜取検査（目視又は自動を規定しない)」を設定している。また、抜取検査については、抜取方法を設定している。特に、都市計画基礎調査データと都市計画決定データについては、参照データとなる原典資料がデジタルデータであるか否か等の形態により採用可能な検査手法が異なることから、「抜取検査」を採用している。

3.3.3. 部分更新を行う場合の品質評価

都市計画データのデータ集合は、「都市計画基本図データ」「都市計画基礎調査データ」「都市計画決定データ」の 3 つから構成し、これら 3 つのデータを一体的に整備・管理・利用していくことを目指している。一方で、都市計画データの整備又は更新では、全てのデータを同時に整備・更新することよりも、例えば、都市計画基本図の一部の図郭を更新する、都市計画基礎調査をエリアやデータ項目を分けて複

数年にかけて実施する等、一部の地物や一部のエリアを対象とすることが多い。

このような部分的に整備・更新する場合の品質評価は、基本的には、更新又は追加した地物等のみが対象となる。ただし、完全性のうち、以下についてはデータ集合全体を品質評価する必要がある。

- gml:id の一意性（更新していないファイル、更新後のファイルをを含めデータ集合全体での一意性の確認）
- データの漏れ・過剰（更新をしていないファイルの統合漏れや重複が無いかの確認。この場合、比較対象とする参照データは、更新前のデータ集合となる。）

なお、一部の図郭を対象とした整備・更新を行う場合、当該図郭だけではなく、隣接する図郭についても品質評価の対象とし、図郭境界線上の地物の漏れや過剰が無いことを確認する必要がある。

3.4. データ製品配布

データ製品配布では、都市計画データのフォーマットや、成果品のフォルダ構成や命名規則を定めている。

3.4.1. CityGML による符号化

都市計画基本図データ、調書及び集計表を除く都市計画基礎調査データ、都市計画決定データの符号化仕様として、標準製品仕様書では CityGML を採用している。

CityGML では、使用可能なタグやタグの出現順序及び出現回数が、XMLSchema で指定されている。GIS や CAD の内部形式で作成されたデータを CityGML 形式に変換する際には、XMLSchema に従わなければならない。以下では、CityGML 形式への変換時に留意すべき事項を解説する。XMLSchema の構造は、付属資料 2 に解説する。

(1) 接頭辞

CityGML 及び i-UR には、複数の XMLSchema が存在し、標準製品仕様書ではこれらを引用している。どの XMLSchema から引用している要素であるのかを明確にするため、全ての要素には接頭辞を付与しなければならない。

(2) schemaLocation の指定

CityGML 形式に出力したファイルの *schemaLocation* の指定は、i-UR の符号化仕様（urbanObject.xsd 及び urbanFunction.xsd）は、成果物に含める符号化仕様のファイルへの相対パスとすること。

地物型又はモジュールごとに分けられた成果物を格納するフォルダ（例：bldg, tran）の直下に CityGML データを格納した場合、schemaLocation として記述すべき符号化仕様への相対パスは以下となる。

urbanObject.xsd への相対パス：../../schemas/iur/uro/2.1/urbanObject.xsd
urbanFunction.xsd への相対パス：../../schemas/iur/urf/2.1/urbanFunction.xsd

statostocalGrid.xsd への相対パス：：../../schemas/iur/urg/2.1/statisticalGrid.xsd

(3) gml:id

標準製品仕様書では、データ集合内で都市オブジェクトを識別するための ID である *gml:id* の付与ルールを定めている。データ集合内に含まれる全ての都市オブジェクトには、標準製品仕様書の付与ルールに従い、*gml:id* を付与する必要がある。

gml:id はデータ集合内で重複があってはならない。また、*gml:id* の開始文字は数字であってはならない。

(4) タグの出現順序

CityGML データに出現するタグは、あらかじめ XMLSchema によりその順序が決まっている。具体的には以下の順序で出現する。これらの順序を守らない場合、論理一貫性に不適合となる。

1. gml:*
2. core:*
3. gen:*
4. bldg:*、tran:*等 CityGML クラスで定義された属性・関連役割
5. uro:*、urf:*、urg:*の i-UR で定義された属性・関連役割

なお、データを作成しない属性は、空タグ（値を入れないタグ）を作成しない。

(5) 単位付き計測値型（gml:MeasureType）

単位付き計測値型の属性には、かならず *uom* 属性により、単位を指定しなければならない。

標準製品仕様書では原則として、長さの単位は“メートル”、面積の単位は“平方メートル” 又は“ヘクタール”、時間の単位は“時間”を採用している。この場合、*uom* 属性にはそれぞれ"m"、"m2"、"ha"、"hour" を記述する。これら以外の単位については、それぞれの応用スキーマ文書の属性の定義に従うこと。

(6) コード型（gml:CodeType）

コード型の属性には、あらかじめ用意されたコードリストに列記されたコードから一つを選択し、値として記述する。この時、用意されたコードリストの所在を *codeSpace* 属性に記述する。コードリストは、成果物フォルダに格納するため、*codeSpace* 属性は CityGML ファイルからコードリストファイルへの相対パスにより記述する。

なお、*codeSpace* 属性によりコードリストが指定されていない場合、値は文字列として扱われる。

(7) 部分更新した場合の漏れや重複

都市計画データ等の一部を更新する場合は、成果物は更新した都市計画データと更新していない都市計画データとを統合し、一式とする必要がある。そのため、統合した際にデータの漏れや重複が無いことを確認する必要がある。

3.4.2. CSV による符号化

都市計画基礎調査データの調書及び集計表の符号化仕様として、標準製品仕様書では CSV を採用している。以下では、GIS や表計算ツールで作成されたデータを CSV 形式に変換する際に留意すべき事項を解説する。

なお、標準製品仕様書の Annex B には、CSV 形式で出力した場合のサンプルデータを示す。ヘッダーやレコードの記述はこれを参考にするとよい。

(1) ヘッダーの作成

CSV には必ずヘッダーを設ける。ヘッダーは 3 行で構成する。1 行目には都道府県コード、市区町村コード、データ項目、表名称及び基準日を記述する。2 行目は、出力する応用スキーマの UML クラス図の各属性の日本語名を記述する。3 行目には UML クラス図の各属性名を記述する。

また、標準製品仕様書に定義する属性は、UML クラス図に記載された順序で記述し、拡張製品仕様書で追加する属性は、標準製品仕様書で定義された属性の後とする。

(2) 区切り文字

属性値と属性値との区切り文字には、“,”（カンマ）を使用する。使用しない属性もしくは出力しない属性がある場合には、区切り文字の連続により省略する。

なお、属性値の中で区切り文字を使用したい場合は、“;”（セミコロン）を使用する。

(3) 属性値の記述方法

属性値の表記は、標準製品仕様書に示す属性の型に従うこと。

なお、属性値が文字列（xs::string）の場合は、ダブルクォーテーションで囲む。メッシュコードのように開始文字が“0”となる場合は、この 0 も値に含めなければならない。

属性値の順序は、ヘッダーの 2 行目に出力する属性名の順序に従う。

3.4.3. 成果品の構成

成果品には、都市計画データだけではなく、拡張製品仕様書やメタデータなどが含まれる（表 3-9）。

表 3-9　成果品

成果品	数量	単位	備考
都市計画データ　成果品			
都市計画データ	1	式	CityGML 形式と CSV 形式が存在する。
コードリスト	1	式	データ製品より参照されるコードリスト。
メタデータ	1	式	JMP2.0 に基づく XML 形式のメタデータと、CSV 形式の原典資料リストが存在する。
XMLSchema	1	式	i-UR2.1 の XMLSchema ファイル。都市計画データは相対パスによりこの XMLSchema を参照する。
拡張製品仕様	1	式	各都市で作成された拡張製品仕様書。

(1) ファイル単位

CityGML 形式の都市計画データのファイル単位を表 3-10 に示す。

表 3-10　ファイル単位

都市計画データ	ファイル単位	
	地物の種類	空間範囲
都市計画基本図データ	i-UR 及び CityGML に定義されたモジュール	地図情報レベル 2500 の国土基本図の図郭単位
都市計画基礎調査データ	都市計画基礎調査のデータ項目	
都市計画決定データ	都市計画の種類 （都市計画区域及び準都市計画区域、区域区分、地域地区、促進区域、遊休土地転換利用促進地区、被災市街地復興推進地域、都市施設、市街地開発事業、市街地開発事業等の予定区域、地区計画等）	

ただし、図郭の境界線で地物を分割することは行わず、図郭に跨って存在する地物は、それぞれの図郭に含まれる面積の割合を算出し、この割合が最も大きい図郭のファイルに含む。面積は、小数点 2 桁（3 桁目で四捨五入、単位は m2）で比較する。面積が同じ場合は図郭番号の小さい方（北側を優先する。次に西側を優先する）とする。

CSV 形式の都市計画データ（調書及び集計表）のファイル単位は、調書又は集計表とする。

(2) ファイルサイズ

ファイルサイズの上限は、50MB とする。

ファイルサイズが 50Mb を越える場合は、ファイルを分割する。

CityGML 形式ファイルの場合は、地図情報レベル 1000 の国土基本図の図郭に分割する（図 3-21）。この時、図郭番号の上 6 桁が等しい周辺図郭（地図情報レベル 5000 の図郭に該当）も同様に地図情報レベル 1000 の図郭に分割する必要がある。

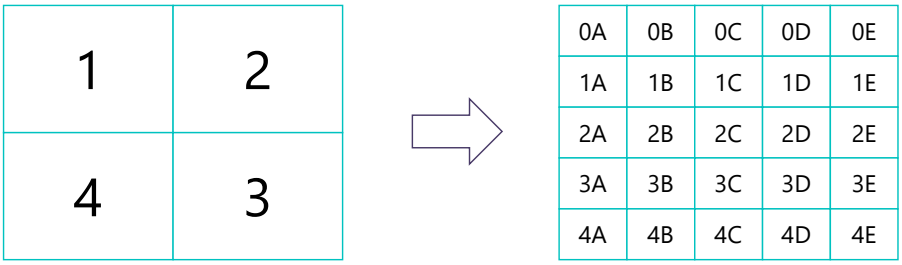


図 3-21　CityGML 形式ファイルの分割

CSV 形式ファイルを分割する場合は、ヘッダーを含むファイルは 1 つのみとし、残りのファイルにはヘッダーは含まず、レコードのみを含める。

(3) ファイル名称

CityGML 形式ファイル及び CSV 形式ファイルのファイル名称は、標準製品仕様書 7.2.3 に示す。これらのファイル以外の成果品のファイル名を以下に示す。

表 3-11　ファイル名称

成果品	ファイル名称	
	命名規則	拡張子
コードリスト	標準製品仕様書に定義されたコードリストの名称は変更しない。 標準製品仕様書の対象としていないコード型の属性を追加した場合は、以下とする。 [クラス名]_[属性名]	.xml
メタデータ	JMP 形式のメタデータの名称は以下とする。 udx2d_[市区町村コード]_[整備年度]_[オプション] CSV 形式のメタデータの名称は、以下とする。 udx2d_[市区町村コード]_[整備年度]_sorceList-[オプション] [市区町村コード]は、2 桁の都道府県コードと 3 桁の市区町村コードからなる 5 桁のコードとする。 [整備年度]は作成した西暦年度（4 桁）を記述する。 [市区町村コード]及び[整備年度]は、いずれも半角数字とする。 [オプション]は、成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別するために使用する任意の文字列とする。半角英数字のみを使用可とする。成果品を格納するルートフォルダに使用する[オプション]の文字列に一致させること。成果品が 1 種類の場合は省略する。	JMP2.0 形式 .xml CSV 形式 .csv
XMLSchema	成果品に格納する XMLSchema ファイルの名称は変更せず、i-UR2.1 の XMLSchema をダウンロードし、格納する。 urbanObject urbanFunction statisticalGrid	.xsd
拡張製品仕様書	拡張製品仕様書のファイル名称は、以下とする。 [市区町村コード]_[整備年度]_specification2d また、拡張製品仕様書に付する表を含む様式（Annex A）のファイル名称は以下とする。 [市区町村コード]_[整備年度]_objectlist2d [市区町村コード]は、2 桁の都道府県コードと 3 桁の市区町村コードからなる 5 桁のコードとする。 [整備年度]は作成した西暦年度（4 桁）を記述する。 [市区町村コード]及び[整備年度]は、いずれも半角数字とする。	拡張製品仕様書 .pdf 様式 .xlsx

(4) フォルダ構成とフォルダ名称

成果品のフォルダ構成及びフォルダの名称は、標準製品仕様書 7.2.4 に示す。

成果品のフォルダ（サブフォルダを含む）の名称には半角英数字及び半角記号（アンダースコア及びハイフン）のみを使用すること。

(5) データの圧縮

都市計画データの成果品フォルダは、各々を ZIP 形式（拡張子 zip）に圧縮する。

ファイルの圧縮は、成果品フォルダのルートフォルダを圧縮することとし、その内部のいかなるサブフォルダにも圧縮形式のファイルを含んではならない。

圧縮後のファイル名称は、それぞれのルートフォルダの名称に一致させ、以下とする。

[市区町村コード]_[市区町村名英名]_[整備年度]_citygml2d_[更新回数]_[オプション]

フォルダ名の[市区町村コード]は、都市計画データを作成する範囲となる都道府県コード（2 桁）と市区町村コード（3 桁）の組み合わせからなる 5 桁の数字とする。

[市区町村名英名]は、デジタル庁が定める「行政基本情報データ連携モデル_住所」に従う。すなわち、市区町村名称を国土地理院が定める「地名等の英語表記規程」（平成 28 年国地達第 10 号）に準拠しつつ、市区町村の種別は city や ward ではなく-shi や-ku で表す。

[整備年度]は、都市計画データを整備した年度（半角数字 4 桁の西暦）とする。

[更新回数]は、履歴管理用に半角数字を付す。初回に作成した成果物は 1 とする。以降、修正等を行った場合はバージョンアップごとに数字を加算していく。

[更新回数]は[整備年度]ごとに加算する。[整備年度]が変わった場合は、1 から開始する。

[オプション]は、成果品が複数種類作成される場合に、これらを識別する任意の文字列とする。半角英数字のみ使用可とする。成果品が 1 種類の場合は、_[オプション]は省略する。

なお、圧縮後の成果品フォルダのファイルサイズは、上限を 2GB とする。

2GB を超える場合は分割する。分割は、成果品と同じフォルダ構成を複数作成し、成果品のファイルを作成したフォルダに振り分けることにより行う。この時、それぞれの成果品フォルダ内に、同じファイルが重複して存在してはならない。

ファイルを振り分けたのち、成果品のフォルダごとに圧縮する。

圧縮後のファイル名称は、［市区町村コード］_[市区町村名英名]_[整備年度]_citygml2d_[更新回数]_[オプション]_[分割番号]とする。

3.5. メタデータ

3.5.1. JMP2.0 に基づくメタデータ

都市計画データ全体として 1 つのメタデータを作成することを基本とする。ただし、以下の場合には統合したメタデータとは別に、メタデータファイルを分けて作成する。

- 都市計画データの一部を整備・更新する場合
  - 整備・更新したデータについてのメタデータを作成する。
- データ作成事業者が異なる場合
  - 事業者ごとに作成したデータについてのメタデータを作成する。

メタデータの作成には、国土地理院が提供するメタデータエディタを使用できる。

メタデータエディタの詳細：メタデータの作成について[4]

3.5.2. 原典資料一覧

原典資料一覧は、都市計画基本図データと都市計画基礎調査データについて、それぞれ標準製品仕様書に基づき CSV 形式で作成する。

都市計画基本図データと都市計画基礎調査データは、国土基本図郭ごとに記述することを基本とするが、自治体全域で同じ原典資料が使用されている場合には、まとめて記載してもよい。例えば、都市計画基本図データについて、一部の図郭で新たに撮影した航空写真を用いて更新された場合など、複数の原典資料が使用される場合には、図郭ごとに記載する。

原典資料一覧の CSV ファイルを作成する場合は、標準製品仕様書 Annex C のテンプレートに従うこと。

4. 都市計画データ拡張製品仕様書の作成

4.1. 概要

拡張製品仕様書は、標準製品仕様書に基づき作成された、各自治体の都市計画データ製品仕様書である。拡張製品仕様書は、自治体ごとに作成する必要がある。また、拡張製品仕様書では、標準製品仕様書に定義された地物や属性を必要に応じて取捨選択、あるいは追加してもよい。

本章では、拡張製品仕様書を作成する手順を示す。

4.2. 応用スキーマの作成

本項では、標準製品仕様書の応用スキーマを拡張し、作成対象とする地物や属性を限定したり、あるいは、不足する地物や属性を追加したりする方法を示す。

標準製品仕様書の拡張が必要な場面を表 4-1 に示す。

表 4-1　標準製品仕様書の拡張が必要となる場面

都市計画データ	拡張が必要となる主な場面
都市計画基本図データ	・　DM 分類コードの追加 ・　図形タイプの変更 ・　独自属性の追加
都市計画基礎調査データ	・　実施しない調査の設定 ・　自治体独自の属性追加又は作成しない属性の設定 ・　自治体独自の調査の追加
都市計画決定データ	・　当該自治体に存在する都市計画の区域の抽出 ・　標準製品仕様書にはない都市計画の区域の追加 ・　自治体独自の属性の追加又は作成しない属性の設定

4.2.1. 基本的なルール

作成対象とする地物及び属性・関連役割を明確にするため、拡張製品仕様書には、標準製品仕様書 Annex A の地物一覧を用いて、作成対象とするものに○（必須で作成するものには●）を付けた一覧を付ける。作成対象としない地物等の応用スキーマを削除する必要はない。

4.2.2. 都市計画基本図データのための拡張

(1) DM 分類コードの追加

自治体独自の DM 分類コードを設定している場合は、コードリストを以下の方法により拡張する。

- 拡張製品仕様書 4.6.1 に示すコードリスト（Common_dmCode.xml）のコード一覧に、追加したいコードとその説明を追加する。
- 拡張製品仕様書 4.2.1 に、追加したいコード及びこれに対応する CityGML 又は i-UR のクラスを記載する。
  - CityGML 又は i-UR に定義されたいずれの地物に対応させるかは、3.1.3 を参考にする。
- コードリストファイル（Common_dmCode.xml）に追加したいコードと説明を追加する。

なお、追加するコードは、標準製品仕様書で使用しているコードと重複してはならない。

(2) 図形タイプの変更

標準図式と自治体の公共測量作業規程とで、図形タイプが異なる場合がある。そこで、標準製品仕様書に示された図形タイプとは異なる図形タイプを使用する場合は、以下を実施する。

- 拡張製品仕様書 9.1.1 において、図形タイプを変更したい DM 分類コードに、変更したい内容（*geometryType* 及び *lod0Geometry*）を反映する。

(3) 独自属性の追加

自治体独自の属性を付与したい場合は、汎用属性（*gen::genericAttribute*）を用いて、以下の方法により追加する。

- 追加したい汎用属性の型を選択する。汎用属性の型は文字列型（*gen::stringAttribute*）、整数型（*gen::intAttribute*）、実数型（*gen::doubleAttribute*）、日付型（*gen::dateAttribute*）、URI 型（*gen::uriAttribute*）、単位付き計測値型（*gen::measureAttribute*）から選択できる。
- 属性を追加したい地物の地物定義文書の汎用属性の定義に、追加したい属性の名称及び定義を記載する。
  - 標準製品仕様書は汎用属性を対象外としているため、括弧書きを外すなどの編集を行うこと。
  - 汎用属性の型として単位付き計測値型を選択した場合は、単位も指定すること。

4.2.3. 都市計画基礎調査データのための拡張

(1) 実施しない調査の設定

実施しない調査がある場合、4.2.1 に示す通り、当該調査に対応する地物に○又は●を付けず、対象外であることを示せばよい。

(2) 自治体独自の属性追加又は収集しない属性の設定

収集しない属性がある場合、4.2.1 に示す通り、当該属性に○又は●を付けず、対象外であることを示せばよい。

各地物には様々な属性が箱として用意され、多くの属性は任意である。これらは必要に応じて拡張製品

仕様書で取捨選択してよい。例えば、他の地物との空間演算により算出可能な情報は利用頻度が高ければ属性として格納し、利用頻度が低ければ属性として格納せず、GIS 上で必要に応じて演算することでもよい。

ただし、必須又は運用上必須となる属性は必ず作成する必要がある。例えば、調査年（*surveyYear*）が該当する。都市計画基礎調査が複数年に分けて実施される場合なども想定され、地物ごとに情報の鮮度を把握することを可能とするため、標準製品仕様書では必須としている。

自治体独自の属性追加がある場合、前項で示した方法と同様に、汎用属性を用いて追加する。また、追加した属性を調書や集計表として出力する場合、各データ型の *orgItem* 属性を使用して追加する。この属性は、汎用属性と同様に、任意の属性を追加するための仕組みである。*orgItem* の使用方法は以下の通りである。

- 属性を追加したい地物の応用スキーマ文書の *orgItem* の定義に、追加したい属性の名称（*class*）及び属性の型を記述する。属性の型は、整数型（*intValue*）、実数型（*doubleValue*）、単位付き計測値型（*measureValue*）、属性の型は文字列型（*stringValue*）から選択できる。また、追加したい属性の定義も記載すること。
  - 標準製品仕様書は *orgItem* 属性を対象外としているため、括弧書きを外すなどの編集を行うこと。
  - 属性の型として単位付き計測値型を選択した場合は、単位も指定すること。

(3) 自治体独自の調査の追加

標準製品仕様書に定義されていない調査がある場合は、以下の手順で拡張できる。

- 位置図を作成する場合は、汎用都市オブジェクト（*gen::GenericCityObject*）を使用して記述する。
  - *gen::GenericCityObject* を使用する場合は、使用したい名称や追加したい属性をそれぞれ応用スキーマ文書に記載しなければならない。
  - 調書及び集計表を作成する場合は、*urf::OrgSurveyRecord* を使用する。class 属性は各レコードを識別する識別子（調書の場合）又は集計の単位（集計表の場合）を記述するために使用する。各レコードの属性は、*orgItem* 属性を用いる。また、*urf::UrbanPlanningBasicSurveyTable* を用いて追加する調書や集計表の名称等を記述する。

4.2.4. 都市計画決定データのための拡張

(1) 当該自治体に存在する都市計画の区域の抽出

当該自治体に存在する都市計画の区域を抽出する場合は、4.2.1 に示す通り、作成対象とする都市計画の区域に該当する地物に○又は●を付け、作成対象であることを示せばよい。

(2) 標準製品仕様書にはない都市計画の区域の追加

標準製品仕様書に定義されていない都市計画の区域がある場合は、以下の手順で拡張できる。

- 「都市施設」、「市街地開発事業」、「地区計画」等には含まれるが、これを継承するクラスとしては存在しない場合、「市街地開発事業（*urf::UrbanDevelopmentProject*）」、「都市施設（*urf::UrbanFacility*）」、「地区計画（*urf::DistrictPlan*）」などの上位の概念を示すクラスを使用して記述することができる。
- 上位の概念を示すクラスが存在しない場合は、汎用都市オブジェクト（*gen::GenericCityObject*）を使用して記述する。
  - *gen::GenericCityObject* を使用する場合は、使用したい名称や追加したい属性をそれぞれ応用スキーマ文書に記載しなければならない。

(3) 自治体独自の属性の追加又は作成しない属性の設定

作成しない属性がある場合、4.2.1 に示す通り、当該属性に○又は●を付けず、対象外であることを示せばよい。

自治体独自の属性追加がある場合、都市計画基本図データや都市計画基礎調査データと同様、汎用属性を用いて追加する。

4.3. 品質要求及び品質評価手順の決定

新たに追加したすべての地物型等についても、品質要求を追加する必要がある。

基本的には、追加した地物型等の内容に応じて、標準製品仕様書で定める品質要求の「データ品質適用範囲」に、追加した地物型等を追加すればよい。

標準製品仕様書で定める品質要求以外の品質要求が必要な場合には、品質評価手順と合わせて追加すること。品質評価手法の決定に当たっては、「品質の要求、評価及び報告のための規則」6. 品質評価のための規則に従い、データ品質評価尺度を適用するための手順（規定された方法）を記述、又はその記述を含む文書（例えば，認定済の日本産業規格など）を引用する。また、参照データの名称も示すこと。

4.4. 拡張製品仕様書の作成

自治体ごとの都市計画データの製品仕様をとりまとめ、拡張製品仕様書を作成する。拡張製品仕様書を作成する際のテンプレートとして、標準製品仕様書 Annex B に示すテンプレートを用いる。

拡張製品仕様書には、作成すべき地物等の一覧や、追加した地物等がある場合にはその製品仕様や品質要求等が含まれなければならない。また、製品仕様書が対象とする範囲や作成した都市計画データの問合せ先等、自治体ごとに異なる内容をそれぞれ反映する必要がある。

表 4-2 に、拡張製品仕様書に反映すべき内容を示す。

なお、拡張製品仕様書の作成においては、国土交通省国土地理院が作成した「地理空間データ製品仕様書作成マニュアル」が参考となる。

表 4-2　拡張製品仕様書に反映すべき内容

	構成	拡張製品仕様書に反映すべき内容
1	概覧	拡張製品仕様書の題名、版、日付、作成者を各自治体において記

		載する。 また、拡張製品仕様書が適用される空間範囲（基本的には各自治体の行政区域となる）を指定する。また、必要に応じて時間範囲を指定する。 引用規格等には、各自治体の公共測量作業規程や都市計画基礎調査実施要領を記載する。
2	適用範囲	適用範囲の名称を記載する。
3	データ製品識別	製品の名称、日付、問合せ先を記載する。
4	データ内容及び構造	作成対象とする地物等の一覧を付する。 追加する地物や属性がある場合にはその内容が地物定義文書に反映されていなければならない。 数値型の属性について、原典資料との一致が必要な場合には、拡張製品仕様書の応用スキーマ文書において、属性の定義にその旨記載すること
5	参照系	標準製品仕様書に従うこととし、拡張製品仕様書で変更しない。
6	データ品質	追加する地物や属性がある場合には、品質要求に反映する。 必要に応じて、新たな品質要求及び評価手順を追加してもよい。
7	データ製品配布	標準製品仕様書に従うこととし、拡張製品仕様書で変更しない。
8	メタデータ	標準製品仕様書に従うこととし、拡張製品仕様書で変更しない。
9	その他（任意記載項目）	データ取得において従うべき各都市の公共測量作業規程及び都市計画基礎調査実施要領の名称を記載する。

製品仕様書作成の詳細：地理空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS 2014 版[5]

付属資料１　用語及び略語

3D 都市モデル	都市空間の地物及び属性を都市スケールで 3 次元的に再現した CityGML 形式のデータ。
ADE	Application Domain Extensions。 CityGML の拡張規則に則り拡張されたモジュール。
CityGML	City Geography Markup Language。 都市空間を記述することを目的に作成されたデータ構造とフォーマットの標準仕様。
GML	Geography Markup Language。 地理空間データを記述するための XML ベースのマークアップ言語。
i-UR	CityGML に都市計画及び都市再生に必要な地物や属性を追加した ADE。
JMP2.0	Japan Metadata Profile 2.0。 国土地理院により策定された、ISO19115 メタデータのプロファイル。
LOD	Level Of Detail。詳細さの度合い（詳細度）であり、CityGML において定義されている、一つのオブジェクトの幾何をその利用や可視化の目的に応じて、複数の段階に抽象化することを可能とする、マルチスケールなモデリングの仕組みである。
UML	Unified Modeling Language。 オブジェクト指向モデリング言語の一つ。
インスタンス	「クラス」に含まれる「もの（オブジェクト）」の実体。
応用スキーマ	一つ又は複数の応用システムによって要求されるデータのための概念スキーマ。
幾何オブジェクト	点、線、面、立体などの幾何形状。
クラス	共通の性質をもつ「もの（オブジェクト）」を抽象化した概念（型）。
スキーマ	モデルを一定の書式に基づき記述したもの。
地物	現実世界の現象の抽象概念。
地物属性	地物の特性。
地物関連	地物間の関係。
地理情報標準	地理空間データを異なるシステム間で相互利用する際の互換性の確保を主な目的に、データの設計、品質、記述方法、仕様の書き方等のルールを定めたもの。ISO19100 シリーズ（JIS X7100 シリーズ）。
都市計画情報	都市計画行政に必要となる都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画図書に含まれる情報。
都市計画データ	都市計画情報の 2 次元のデジタルデータ。
概念スキーマ	必要な情報をデータモデルによって抽象化し、その抽象化した概念と概念間の関係を定義した記述。

付属資料２　CityGML/i-UR 解説

1　概要

本付属資料は、「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）の応用スキーマ及び符号化仕様として採用する CityGML 及び i-UR を解説する。また、CityGML 及び i-UR への理解を助けるため、UML クラス図及び XMLSchema の読み方についても併せて解説する。

なお、本付属資料は標準製品仕様書の応用スキーマ及び符号化仕様を理解する一助となることを目的としており、解説の内容も基本的な範囲に留まることに留意されたい。

2　CityGML

CityGML（City Geography Markup Language）は、地理空間情報に関する国際的な標準化団体である OGC（ Open Geospatial Consortium）によって策定された、3 次元で都市空間を記述することを目的に、基本的な地物と属性を定義したデータ標準仕様である。データの概念構造を示す UML クラス図と、UML クラス図に基づき XML 形式で符号化するための仕様である XMLSchema から構成される。CityGML は、地理情報標準（ISO19100 シリーズ）に従って作成された応用スキーマの一つである。

(1) CityGML の特徴

CityGML の特徴として、「LOD（Level Of Detail)」と「拡張性」がある。

LOD は、詳細さの度合い（詳細度）であり、一つのオブジェクトの幾何をその利用や可視化の目的に応じて、複数の段階に抽象化することを可能とする、マルチスケールなモデリングの仕組みである。LOD には、LOD0 から LOD4 までの 5 段階があり、LOD0 が最も粗く、LOD4 が最も細かいデータとなる。従来、地理空間データは地図の縮尺ごとに整備・利用され、縮尺を超えたデータ管理は困難であった。LOD は、一つのオブジェクトについて複数の異なる形状表現を統合的に管理することを可能とする仕組みである。

CityGML では、様々な用途に利用できる汎用的な応用スキーマとするため、基本的な地物・属性しか定義されていない。ただし、応用分野や目的に応じて地物や属性を追加（拡張）する仕組みが用意されている。拡張方法には 3 つある：

① コードリストによる拡張：分類（class）や機能（function）等のコード型属性について、コードリストを拡張できる。例えば、標準製品仕様書には DM 分類コードをコードリストとして用意しているが、これに自治体独自の分類コードを追加することができる。

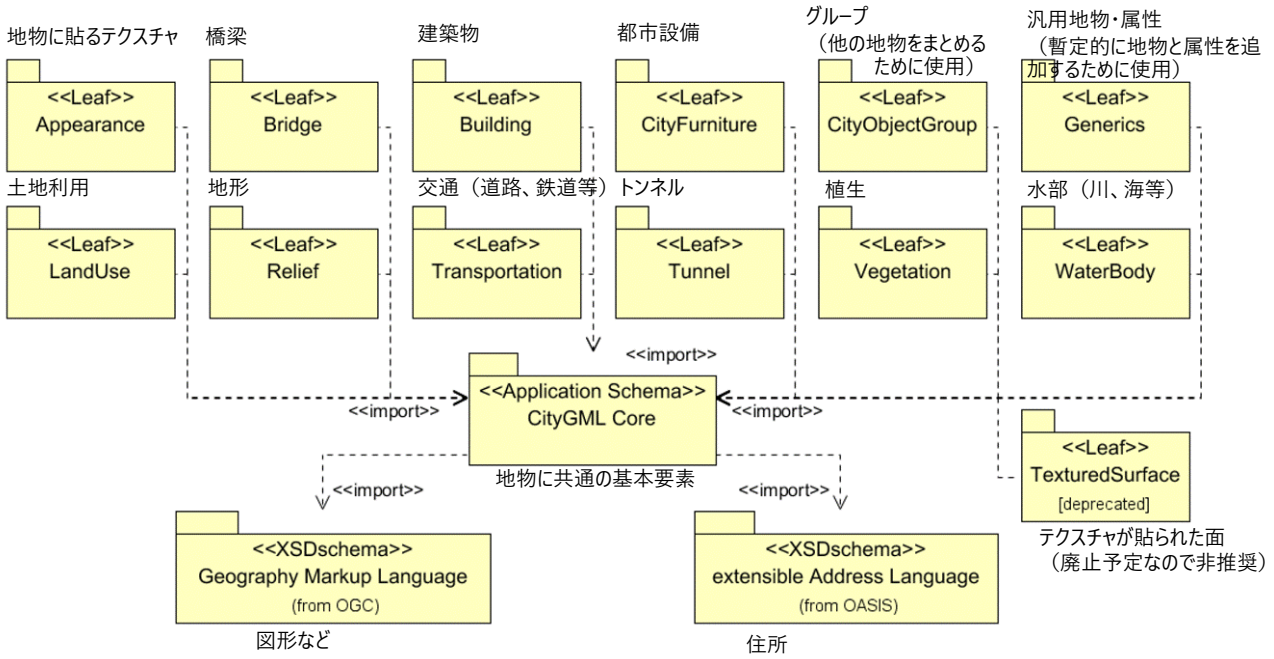
② Generic モジュールによる拡張：汎用的な Generic オブジェクトや Generic 属性を使用して、CityGML に定義されていない地物や属性を追加できる。都市計画基礎調査において、自治体独自の位置図を作成しており、CityGML に対応する地物が存在しない場合に使用できる。

③ ADE（Application Domain Extensions）による拡張：CityGML のルールに従い、応用スキーマとして新たに地物や属性を追加定義する方法である。UML クラス図と XMLSchema を作成するため、データ構造の厳密性を担保できる。次項で説明する i-UR は、CityGML の ADE の一つである。

(2) CityGML のモジュール

CityGML には地物の内容に応じた 13 のモジュールが用意されている。例えば、Building モジュールには、建築物（bldg::Building）や、この構成要素となる壁面（bldg::WallSurface）や窓（bldg::Window）などが地物として定義されている。また、Bridge には、橋梁（brid::Bridge）が地物として定義されている。標準製品仕様書では、これらのモジュールから、都市計画基本図等に必要となる地物を引用している。

なお、CityGML は様々な分野での利用を想定していることから、分野や用途別に地物を定義するのではなく、「もの」に着目して定義している。例えば、鉄道施設や道路施設というように、分野や用途別に地物を定義すると、鉄道施設にも橋梁（鉄道橋）、道路施設にも橋梁（鉄道橋）を定義しなければならない。CityGML ではこのような分野や用途に着目した地物定義ではなく、地物として「橋梁」を定義し、属性で用途（道路橋や鉄道橋等）を区分するという設計方針となっている。



付 2-図 1　CityGML のモジュール構成

3　UR

「i-UR」は、内閣府地方創生推進事務局において作成された技術仕様であり、CityGML の ADE として開発された。

(1) UR の背景

まちづくりの現場における関係者の合意形成と、都市再生の生産性と投資の質の向上の促進を図るためには、都市再生における空間的・数値的理解を得るためのデータの一体的活用を容易とする基盤整備と、作成したデータが都市のストックとして蓄積されていく枠組みの構築が重要である。そのためには、仕様の異なるデータを統合し、各機関が基準として適用する標準データ交換フォーマット

が必要であることから、内閣府地方創生推進事務局において、平成 30 年度より、「都市再生の見える化情報基盤」として「i-都市再生」を推進しており、その中で標準データの技術仕様案の「i-UR」が策定された。

「i-UR」は、既に国際的に利用されている実績があり、データの意味を交換できる厳密性と不足する情報を拡張可能な柔軟性を兼ね備えた国際標準である CityGML をベースとし、ADE の仕組みを使って策定された。

なお、「i-都市再生」は社会状況の変化を踏まえ、令和 2 年度よりその範囲を「社会の最適化を図る都市情報基盤」として拡大し、「社会活動の高度化や日常生活における質の向上を実現させるため、都市を構成する情報と都市活動に関連する静的・動的な情報を連携させることで様々な課題の分析、検討、解決を図る取組」としてその定義を改めている。

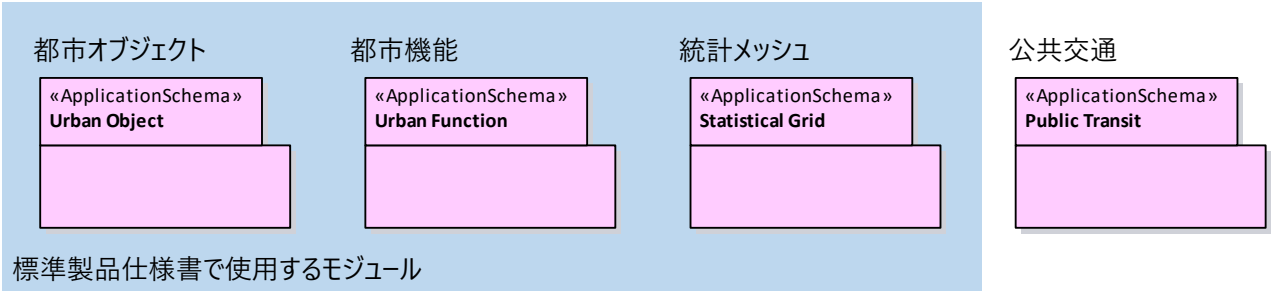
---

i-都市再生の詳細：i-都市再生ガイダンス[6]

---

(2) i-UR のモジュール

i-UR は、データの特性に応じた 4 つのモジュールから構成されている（付 2-図 2）。



付 2-図 2　i-UR のモジュール構成と標準製品仕様書との関係

Urban Object モジュールは、CityGML に定義済みの地物（例：bldg::Building）に詳細な属性を追加したり、これを拡張して新たな地物を定義（例：bldg::Building を拡張し、地下街として UndergroundBuilding を定義する）したりするためのモジュールである。標準製品仕様書では、数値地形図を表現するために必要となる属性や都市計画基礎調査の建物利用現況として建物に付加する属性に使用するデータ型として、Urban Object モジュールで拡張されたデータ型を使用している。

Urban Function モジュールは、CityGML には定義されていない、概念的な地物を定義するモジュールである。CityGML には、橋梁（brid::Bridge）や地形（dem::ReliefFeature）のような物理的な地物は定義されているが、行政区域や行政界といった目には見えない制約条件のような地物は定義されていない。しかしながら、都市計画では都市計画区域や用途地域といったゾーニングの情報は非常に重要な地物となる。そこで、都市計画の各区域等は Urban Function モジュールで定義された地物型を使用している。

Statistical Grid モジュールは、統計メッシュを定義するモジュールである。地域メッシュのような

統計メッシュは、各メッシュが等面積かつスケーラビリティをもって設計されており、位置も固定されていることから、比較や統合、時系列変化の把握が容易となり、地域の傾向分析等に有用である。標準製品仕様書では、都市計画基礎調査の分布図に必要な地物を Statistical Grid モジュールから引用している。

Public Transit は公共交通の運行情報を定義するモジュールであり、公共交通機関の時刻表とその地理的情報に使用される共通形式を定義した GTFS(General Transit Feed Specification)を CityGML にマッピングしたものである。

なお、標準製品仕様書ではこのモジュールは使用していない。

---

i-都市再生の詳細：i-都市再生技術仕様案[7]

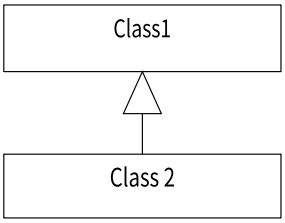
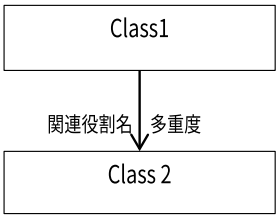
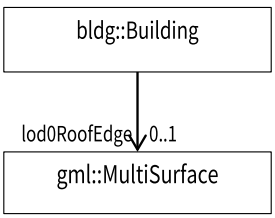
4　UML クラス図の概要

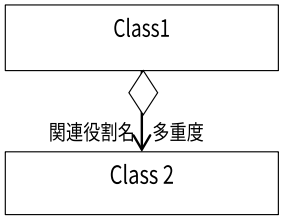
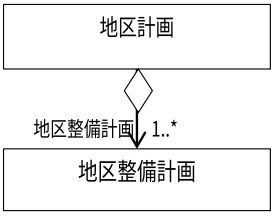
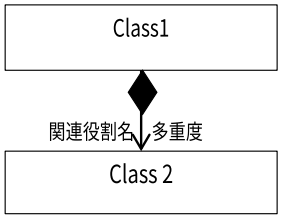
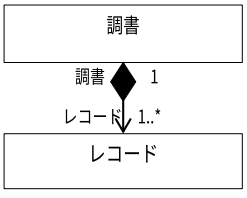
UML クラス図とは、Unified Modeling Language（統一モデル化言語）の記法の 1 つであり、「もの（オブジェクト）」の静的な構造を表現することができる。地理情報標準では、地理空間データの概念的な構造（どのような地物があり、どのような属性をもち、地物間がどのような関係性にあるかの記述。データフォーマットには依存しない。）を記述する記法として採用されている。

以下で UML クラス図の記法を解説する。

付 2-表 1　UML クラス図の記法

表記	意味
	クラス。クラスは 3 段の箱により記述する。 1 段目の箱には、ステレオタイプ（クラスの種類。付 2-表 2 参照）とクラスの名前を記述する。クラスの名前には、それぞれのクラスがどのモジュールで定義されているかを明示するため、接頭辞を付ける。 2 段目の箱には、クラスの属性を記述する。 3 段目の箱はクラスの操作であり、地理空間データの応用スキーマでは使用しない。 クラスの属性は、属性の名前、属性の型、属性の多重度から構成する。 属性の型は、属性が取る値の種類を指定する。xs::string（文字列型）のような基本的な型や gml::MultiSurface のような幾何形状を示すクラス、あるいは、応用スキーマで定義した別のクラスを指定できる。 属性の多重度は、その属性が繰り返し出現可能な回数を指定する。 [a..b]のように指定し、a 及び b は、a<=j<=b となる任意の整数 j を意味する。[a..a]は、[a]と同じとみなす。以下のような記載方法がある。 [0..1] ：0 又は 1 [0..*] ：0 以上 [1..*] ：1 以上 [m] ：m [m..n] ：m 以上 n

表記	意味
	[m,n] ：m 又は n なお、属性の多重度を省略することもできる。省略された場合は、1 となる。
	継承。 元となるクラス（上位クラス）の特性を受け継ぐ新しいクラス（下位クラス）との関係である。 クラス図では三角（△）と線とで表現し、△が付く側（Class1）が元となるクラスである。 継承する下位クラスのインスタンスは、自分自身に定義された属性や関連役割だけではなく、上位クラスに定義された属性や関連役割もつ。 すなわち、Class1 に属性「名称」が定義されていた場合、Class2 も属性として「名称」をもつ。
 	関連。 二つのクラス間に関係性があることを意味する。 関連役割名は、この関連における役割を示す。 関連には多重度を指定できる。多重度は、相手クラスのインスタンスが 1 つ存在した場合に、関連しうる自身のインスタンスの数を記載する。 多重度の記法は、属性の多重度と同じである。また、多重度が省略された場合は 1 となる。 関連には向きをつけることができる。向きは矢印により記述する。関連に向きが付けられた場合、関連は片方向となる。 標準製品仕様書では、関連は地物と幾何オブジェクトとの関係に使用される。この関連は、地物から幾何オブジェクトへの片方向となる。例えば、bldg::Building と LOD0 の幾何形状となる gml::MultiSurface との間には片方向の関連が定義されている。  インスタンスにする場合、bldg::Building のインスタンスの中には gml::MultiSurface のインスタンスそのもの又は gml::MultiSurface のインスタンスへの参照が含まれる。一方、gml::MultiSurface のインスタンスの中には、bldg::Building のインスタンスへの参照が含まれることはない。

表記	意味
	集成関連。 二つのクラス間に全体と部分という関係がある関連である。全体となるクラス側に白いひし形を記述する。 関連役割名は、この集成関連における役割を示す。また、集成関連には多重度を指定できる。多重度や向きの記法は関連と同様である。 標準製品仕様書では、地物間に全体と部品の関係が成り立つ場合に、集成が使用され、かつ、全体から部品への片方向の向きとなっている。例えば、地区計画と地区計画において定められる地区整備計画との間に集成が定義されている。  インスタンスにする場合は関連と同様となり、地区計画のインスタンスの中には地区整備計画のインスタンスそのもの又は地区整備計画のインスタンスへの参照が含まれる。一方、地区整備計画のインスタンスの中に、地区計画のインスタンスへの参照が含まれることはない。
	合成。 二つのクラス間に全体と部分という関係がさらに強固な関連である。全体となるクラス側に黒いひし形を記述する。合成は、全体となるクラスが無くなった場合に、部分となるクラスも無くなる関係に用いる。 関連役割名や多重度の表記は、集成と同様である。 標準製品仕様書では、地物とデータ型あるいはデータ型とデータ型との間に合成が使用され、かつ、全体から部品への片方向の向きとなっている。例えば、調書と調書のレコードとの間に、合成が定義されている。  インスタンスにする場合、部品となるクラスのインスタンスを、全体となるクラスのインスタンスの内部に記述する。つまり、調書のインスタンスの中にレコードのインスタンスが直接記述される。

クラスの 1 段目に記載されるステレオタイプの解説を付 2-表 2 に示す。

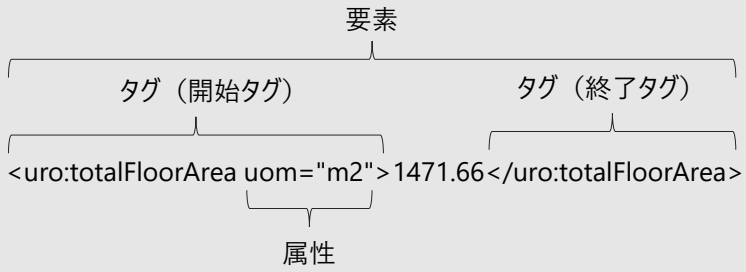
付 2-表 2　ステレオタイプ

ステレオタイプ	説明
<<FeatureType>>	地物に適用するステレオタイプ。地物型と呼ぶ。
<<DataType>>	地物の属性の型に適用するステレオタイプであり、複数の属性をまとめたい場合に使用する。データ型と呼ぶ。
<<Type>>	GML や CityGML で定義された地物以外の型のうち、gml::MultiSurface のような幾何オブジェクトなど、識別子をもつ型に適用するステレオタイプ。
<<Enumeration>>	地物属性の定義域が固定となる場合に、定義域に含まれる値を列挙した型に<<Enumeration>>を使用する。列挙型と呼ぶ。属性の型として使用される。なお、列挙型は定義域が固定されるため、拡張製品仕様書において定義域が拡張される可能性のある場合には、属性の型にはコードリスト（gml::CodeType）を使用する。
<<Union>>	地物の属性の型に適用するステレオタイプであり、複数の属性のうち、いずれか一つを選択して値を記述させたい場合に使用する。 標準製品仕様書では、都市計画基礎調査の集計表を作成する際に、集計の単位を選択するための型に適用している。

5　XMLSchema の概要

XML（eXtensible Markup Language：拡張可能なマーク付け言語）は、テキスト形式のデータフォーマットである。タグで値を囲むことにより、その値に意味づけをする。XML は、開始タグと終了タグとそれに囲まれた値の組が基本の単位（「要素」と呼ぶ）となり、

タグで囲われた「要素」と、「要素」とタグの内部に記載される「属性」から構成される。



XML で記述された文書を XML 文書と呼ぶ。一方、XMLSchema は、XML 文書の書式を規定する文書であり、XML 文書に出現する要素や属性、またそれらの値の型、さらに、要素の出現順序や出現回数などを規定する。つまり、XMLSchema は、XML 文書の設計図に該当する。

この XML は任意に拡張することができるが、地理空間データを記述するために拡張されたのが、GML（Geography Markup Language）である。GML は OGC により策定された国際標準であり、

UML クラス図で記述された応用スキーマを、XML 形式に符号化するために UML クラス図と XMLSchema のマッピングルールを定めている。また、点、線、面などの基本的な要素やコード型などの属性のデータ型については XMLSchema を定めており、各応用スキーマを XMLSchema にマッピングする際には、これらを利用できる。

CityGML は、この GML に従い、CityGML の応用スキーマに対応する XMLSchema を定めている。同様にして、i-UR についても、拡張された応用スキーマに対応する XMLSchema が定められている。

以降では、CityGML 及び i-UR の XMLSchema について解説する。

(1) 要素（element）宣言

要素（element）は、XML 文書の中で「タグ」として出現する。要素宣言は、XML 文書で使用可能なタグを宣言するものである。name 属性は要素の名称であり、XML 文書で使用するタグとなる。また、type 属性は要素のデータ型であり、XML 文書でタグ（開始タグ）とタグ（終了タグ）との間に挟まれる値の種類を指定する。

```
<element name="totalFloorArea" type="gml:MeasureAttribute"/>
```

タグ

開始タグと終了タグとの間に記述される値の種類

type 属性で指定する値の種類は、文字列（xs:string）や整数（xs:integer）のような単純な型（「単純型」と呼ぶ）だけではなく、複数の要素のかたまりを指定することもできる。これを「複合型」と呼ぶ。

(2) 複合型（complexType）宣言

複合型（complexType）とは、複数の要素や属性から構成される「要素や属性のかたまり」である。

name 属性は複合型の名称である。複合型の開始タグと終了タグとの間に、かたまりにしたい要素や属性を列挙する。

例えば、以下の例では、要素として要素名が prefecture と city という 2 つの要素をかたまりにしている。

```
<xs:complexType name="locationType">
        <xs:sequence>
                <xs:element name="prefecture" type="xs:string" />
                <xs:element name="city" type="xs:string" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
        </xs:sequence>
</xs:complexType>
```

複合型に含める要素には、多重度（繰り返し出現可能な回数）を指定できる。最小の出現回数を minOccurs 属性で指定し、最大の出現回数を maxOccurs 属性で指定する。多重度は省略でき、省略された場合は 1 となる。また、unbounded は制限がないことを意味する。前述の例では、prefecture 要素

は多重度が省略されているため必ず 1 回出現するが、city 要素は、出現しなくてもよく、また何度でも出現してもよい。さらに出現順序は、宣言された順序と一致する。この例の場合では、最初に prefecture 要素、その次に city 要素が出現する。

複合型は要素の type 属性として指定する。

```
<xs:element name="Location" type="locationType"/>
```

type 属性に複合型が指定された場合、要素宣言されたタグとタグとの間に出現する内容は、複合型で宣言された要素や属性のかたまりとなる。

```
<Location>
        <prefecture>東京都</prefecture>
        <city>文京区</city>
        <city>台東区</city>
</Location>
```

例えば、Location 要素を宣言し、この型として LocationType を指定したとする。この場合、Location タグの間には、LocationType でかたまりにされた prefecture 要素と city 要素としてそれぞれ宣言された、prefecture と city のタグが出現する。これらのタグが出現可能な回数は、LocationType で指定された多重度に従う。

複合型を構成する属性の型には単純型しか指定することはできないが、要素の型に複合型を指定することができる。これにより、XML 文書のツリー構造を表現できる。

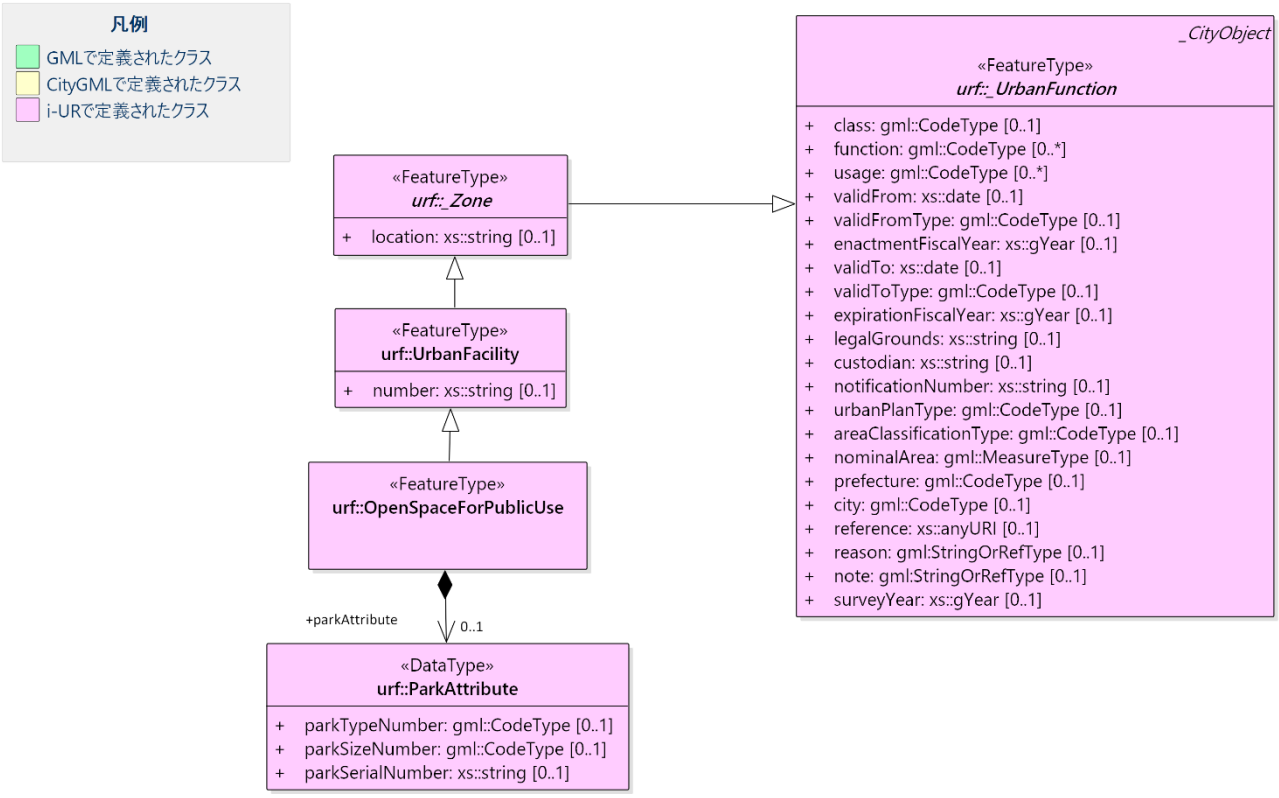
(3) 応用スキーマと XMLSchema

応用スキーマの UML クラス図で記述された概念的なデータ構造を、XML 形式に符号化するため、UML クラス図と XMLSchema のマッピングルールが定められている（付 2-表 3)。

付 2-表 3 UML クラス図と XMLSchema の対応付け

UML クラス図	XMLSchema
パッケージ	原則として 1 つのパッケージに 1 つの XMLSchema を作成する。
クラス	element と complexType となる。列挙型の場合は simpleType（単純型）となる。
属性	complexType の中の element
関連・集成・合成	complexType の中の element
継承	element の substitutionGroup 属性及び complexType の中の extension を使用する。substitutionGroup 属性では、継承するクラスの要素名を指定し、extension では、継承するクラスの複合型名を指定する。

例として、公共空地（*urf::OpenSpaceForPublicUse*）の UML クラス図と XMLSchema を比較してみる。



付 2-図 3　公共空地（urf::OpenSpaceForPublicUse）の UML クラス図

付 2-図 3 は公共空地の UML クラス図である。*urf::OpenSpaceForPublicUse* は、*urf::UrbanFacility*（都市施設）を継承している。また、自身に属性は定義されていないが、データ型である *urf::ParkAttribute* を合成（関連役割 *parkAttribute*）により保持している。

以下に、この *urf::OpenSpaceForPublicUse* の XMLSchema を示す。

```
<xs:element name="OpenSpaceForPublicUse" type="urf:OpenSpaceForPublicUseType" substitutionGroup="urf:UrbanFacility"/>
<xs:complexType name="OpenSpaceForPublicUseType">
        <xs:complexContent>
                <xs:extension base="urf:UrbanFacilityType">
                        <xs:sequence>
                                <xs:element name="parkAttribute" type="urf:ParkAttributePropertyType" minOccurs="0"/>
                        </xs:sequence>
                </xs:extension>
        </xs:complexContent>
</xs:complexType>
```

urf::OpenSpaceForPublicUse は、クラスであるため、要素宣言と複合型宣言が行われる。クラス名は、要素の名称に一致する。*urf::OpenSpaceForPublicUse* は、*urf::UrbanFacility* を継承しているため、要素

の *substitutionGroup* 属性では、継承するクラスに対応する要素（*urf:UrbanFacility*）が指定され、また、複合型宣言では、*xs:extention* の *base* 属性において、継承するクラスに対応する複合型（*urf:UrbanFacilityType*）が指定されている。また、複合型である *OpenSpaceForPublicUseType* では、公共空地の関連役割である *parkAttribute* が要素として宣言されている。UML クラス図では多重度が[0..1]となっているため、XMLSchema でも minOccurs=”0”が指定されている（最大出現回数 maxOccurs=”1”は省略）。

このように、UML クラス図と XMLSchema は 1 対 1 に対応づく。XML 文書は XMLSchema に従った構造で作成されることから、結果として、UML クラス図に従った XML 形式のデータとなる。

【補足 1：PropertyType 複合型について】関連役割 parkAttribute に対応する要素宣言において type 属性で指定されている ParkAttributePropertyType は、UML クラス図でデータ型として定義されている *ParkAttribute* を子要素として呼び出し、記述するための複合型である。

```
<xs:complexType name="ParkAttributePropertyType">
	<xs:sequence>
		<xs:element ref="urf:ParkAttribute"/>
	</xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="ParkAttribute" type="urf:ParkAttributeType”/>
<xs:complexType name="ParkAttributeType">
	<xs:sequence>
		<xs:element name="parkTypeNumber" type="gml:CodeType" minOccurs="0”/>
		<xs:element name="parkSizeNumber" type="gml:CodeType" minOccurs="0”/>
		<xs:element name="parkSerialNumber" type="xs:integer" minOccurs="0"/>
	</xs:sequence>
</xs:complexType>
```

GML では、UML クラス図に記述されたクラス、属性、関連役割の各名称が XML 文書においてタグとして出現されるよう、マッピングルールが定められており、属性の型として他のクラスを指定する場合、あるいは関連・集成・合成でほかのクラスと関連付ける場合には、必ずそのクラスに対応する要素を出現させるための複合型が宣言される。この複合型の名称は、○○PropertyType（○○にはクラスに対応する要素名が入る）と CityGML 及び i-UR では統一されている。

【補足 2：substitutionGroup 及び extension について】UML クラス図の継承に相当する XMLSchema の仕組みとして、要素には substitutionGroup、複合型には extension を使用する。

substitionGroup は代替グループと呼ばれ、指定した要素の代わりに出現することが可能となる。例えば、OpenSpaceForPublicUse は、UrbanFacility の代わりとして出現できる。これは UML クラス図上で他の地物が UrbanFacility と関連している場合、この地物は関連先として UrbanFacility を継承する OpenSpaceForPublicUse も選択できることと同じ意味となる。

extension は、複合型の拡張の仕組みである。extension で指定した複合型に、新たな要素や属性を追加することができる。これは、UML クラス図において、クラス間に継承関係が定義されている場合、上位のクラスの属性及び関連役割を、下位のクラスが受け継ぎ、さらに、自身に独自の属性や関連役割を定義できることと同じ意味となる。

付属資料３　秘匿処理方法

1　概要

本付属資料は、「利用・提供の観点を踏まえた都市計画基礎調査実施要領及び都市計画基礎調査情報の利用・提供ガイドラインに係る技術資料（第２版）」（令和３年５月、国土交通省都市局）の内容に基づき、都市計画基礎調査の「建物利用現況」及び「土地利用現況」の集計データを秘匿化してオープンデータとして公開する場合の、秘匿処理を行った都市計画基礎調査データの製品仕様を示すものである。

本付属資料は、秘匿処理が必要な場合の参考資料であり、「都市計画データ標準製品仕様書」（以下、「標準製品仕様書」と呼ぶ）に示す製品仕様の一部ではない。また、秘匿処理の詳細は、「利用・提供の観点を踏まえた都市計画基礎調査実施要領及び都市計画基礎調査情報の利用・提供ガイドラインに係る技術資料（第２版）」を参照すること。

秘匿処理方法の詳細：利用・提供の観点を踏まえた都市計画基礎調査実施要領及び都市計画基礎調査情報の利用・提供ガイドラインに係る技術資料（第２版）[8]

2　秘匿処理の方法

秘匿処理の方法には、「非表示による方法」、「合算集計による方法」及び「集計区分の集約化による方法」がある。以下でその方法を説明する。

(1) 非表示による方法

秘匿が必要な数値等のみを表示しない方法である。

データを秘匿する箇所（元データが０（ゼロ）の箇所を含む）には”X”（エックス（半角大文字））を入力する。ただし、秘匿しない箇所の元データが０（ゼロ）の場合には“-（ハイフン（半角文字））”を入力する。

合計値を算出している範囲内で非表示を行う場合は、合計値からの差引きによって秘匿している数値を算出できないよう、その範囲内でもう一箇所非表示を行う。非表示とする対象は、秘匿する箇所の次に小さい数値とする。

(2) 合算集計による方法

一定の小地域において区分の該当数が少数で秘匿処理が必要な場合、隣接する小地域や同一区域に属ずる小地域等との合算集計により対応する。その際、合算先の小地域コードを採用し、各集計区分の該当数を合算する。なお、合算元が合算されたことが判読できるよう調査結果として取りまとめる。

例えば、付属３図 １に示す小地域Ａにおいて秘匿処理が必要とする。このとき、小地域Ａの集計値は、隣接する小地域Ｂの集計値と合算する。小地域Ａには、合算先（小地域Ｂ）を識別できるようにしておき、小地域Ｂには、合算元（小地域Ａ）が識別できるようにしておく。



付属 3 図 1　合算集計のイメージ

(3) 集計区分の集約化による方法

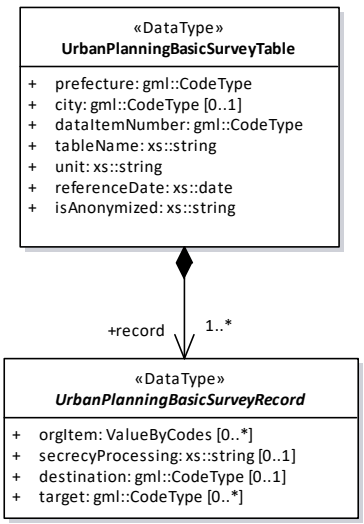
秘匿処理が必要な小地域の集計区分を集約する方法である。 例えば、建物用途区分の集計区分（全 18 区分）について、秘匿処理が必要と判断された場合には、用途が比較的近い複数の区分を集約化する（例：「店舗等併用住宅」、「店舗等併用共同住宅」及び「作業所併用住宅」を集約し「併用住宅」とする）。この場合、集計区分の方法を事前に設定すれば、自動処理が可能となる。

3　秘匿処理された都市計画基礎調査の製品仕様

(1) データの内容及び構造

秘匿処理を行う場合には、秘匿処理に必要な情報を属性として、応用スキーマ UML クラス図に追加する。

都市計画基礎調査の集計表である UrbanPlanningBasicSurveyTable には、秘匿化の有無（isAnonymized）を属性として付与する。また、2(2)で示した「合算集計による方法」では各レコードに秘匿処理又は合算された値が格納されていることを明確にするための属性を、各レコードの上位の地物型である urf::UrbanPlanningBasicSurveyRecord に付与する。これにより、継承する全てのデータ型（集計表の各レコードに相当）は、秘匿処理にかかる属性をもつことができるようになる。



付属 3 図 2　秘匿処理属性を追加したＵＭＬクラス図

属性 *securecyProcessing* は、当該レコードが秘匿処理されたものであるのか、合算されたものであ

るのかを示す。また、属性 *destination* は当該レコードが秘匿処理されている場合に、合算先のレコードを識別する属性である。属性 *destination* は、当該レコードが合算された値となっている場合に、合算元となるレコードを識別する属性である。
また、これらの秘匿処理にかかる属性を、応用スキーマ文書にも追加する。
集計表には属性 *isAnonymized* の定義を追加する（付属 3 表 1）。

付属 3 表 1　集計表に追加すべき属性

型の定義	都市計画基礎調査のデータ項目ごとに定められた調書又は集計表を示すデータ型。	
上位の型	—	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::isAnonymized	xs::boolean	秘匿処理を行ったか否かの別。 true：秘匿処理が行われている false：秘匿処理が行われていない

また、「合算集計による方法」により秘匿処理を行う場合には、属性 *securecyProcessing*、*destination* 及び *destination* の定義を、集計表の各レコードのデータ型に追加する。

付属 3 表 2　レコードのデータ型に追加すべき属性（土地利用現況の例）

型の定義	土地利用の現況。 都市計画基礎調査 C0302 に示される土地利用現況の調書の作成に使用する。	
上位の型	urf::UrbanPlanningSurveyRecord	
ステレオタイプ	<<DataType>>	
自身に定義された属性		
属性名	属性の型及び多重度	定義
urf::secrecyProcessing	xs::string［0..1］	秘匿処理を行う場合に以下を入力する。 秘匿されている他の地域を当該地域に合算する場合は、「合算地域あり」とする。非開示情報に相当する情報の場合は、「秘匿地域」とする。 「合算地域あり」の場合、urf::target には、合算された地域のコードを記載する。また、「秘匿地域」の場合、urf::destination には、合算先の地域のコードを記載する。
urf::destination	gml::CodeType［0..1］	合算先の地域を識別するコード。
urf::target	gml::CodeType［0..*］	合算された地域を識別するコード。

(2) 配布書式情報

符号化仕様には、標準製品仕様書に示す CSV による符号化仕様に従う。

なお、秘匿処理にかかる属性を追加しているため、CSV 形式で符号化されたデータには追加された属性も出力する。

配布媒体情報は、標準製品仕様書に示すオープンデータのための配布媒体情報に従う。

4　秘匿処理が必要な事例

小地域・区域で集計したデータを公開する際には、個人又は事業者等の権利利益を保護するため、集計データの秘匿処理が必要となる場合がある。

都市計画基礎調査において、秘匿処理が必要となる可能性のある状況の例を以下に示す。

【例 1】　建物利用現況　用途別棟数の集計表

・建物が 1 棟のみや 2 棟のみの小地域

小地域コード（9 または 11 桁の数値）	町丁・字等	業務施設	商業施設	宿泊施設	商業系用途複合施設	住宅	共同住宅	店舗等併用住宅	店舗等併用共同住宅	作業所併用住宅	官公庁施設	文教厚生施設	運輸倉庫施設	工場	農林漁業用施設	供給処理施設	防衛施設	その他	不明	合計	空家
○○○○○○○○○○	○○町○丁目	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	2	1
△△△△△△△△△△		－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
××××××××××		－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
⋮																					

【例 2】　建物利用現況　階数別棟数の集計表

・建物が 1 棟のみや 2 棟のみの小地域

小地域コード（9 または 11 桁の数値）	町丁・字等	地下階なし 地上 1 階	地下階なし 地上 2 階	⋮	地下階なし 地上 11～15 階	地下階なし 地上 16 階以上	地下階あり 地上 1 階	地下階あり 地上 2 階	⋮	地下階あり 地上 11～15 階	地下階あり 地上 16 階以上	不明	合計
○○○○○○○○○○	○○町○丁目	－	－		－	1	－	－		－	1	－	2
△△△△△△△△△△		－	－		－	1	－	－		－	－	－	1
××××××××××		－	－		－	－	－	1		－	－	－	1
⋮													

参考文献

1. 国土交通省国土地理院, 地理空間データ製品仕様書作成マニュアル, 2019 年 11 月, https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/download/ps_manual.pdf
2. 国土交通省都市局, 3D 都市モデルの導入ガイダンス, 2022 年 6 月, https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/
3. 国土交通省都市局, 都市計画情報のデジタル化・オープン化ガイダンス, 2023 年 3 月,
4. 国土交通省国土地理院, メタデータの作成について, https://psgsv.gsi.go.jp/koukyou/public/seihinsiyou/seihinsiyou_meta.html
5. 国土交通省国土地理院, 地理空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS 2014 版, 2020 年 1 月, https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/public/seihinsiyou/seihinsiyou_index.html
6. 内閣府地方創生推進事務局, i-都市再生ガイダンス, https://www.chisou.go.jp/tiiki/toshisaisei/itoshisaisei/guidance.html
7. 内閣府地方創生推進事務局, i-都市再生技術仕様案, https://www.chisou.go.jp/tiiki/toshisaisei/itoshisaisei/iur/index.html
8. 国土交通省都市局,利用・提供の観点を踏まえた都市計画基礎調査実施要領及び都市計画基礎調査情報の利用・提供ガイドラインに係る技術資料（第 2 版）, 2021 年 5 月, https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000049.html

都市計画データ標準製品仕様書　素案